

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コリツカガクカホウジシマネカク 国立大学法人島根大学								
フリガナ大学の名称	シマネカクカク 島根大学大学院 (Graduate School of Shimane University)								
大学本部の位置	島根県松江市西川津町1060番地								
大学の目的	豊かな人間性と倫理性を備え、広い知識と高度な専門性を有して、地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成する教育・研究を行う。								
新設学部等の目的	<p>【人間社会科学研究科の目的】 各領域の専門的知識・学術的理論・研究方法・専門的技能に基づき、地域および現代社会の諸問題に対して、人間と社会の両面からアプローチし、人文科学・社会科学に自然科学をも加えた幅広い学際的な視点に立って、問題解決に取り組める人を養成する。 また、多様性を持った人間がその多様性を尊重されて共生し、一人一人がその人らしく生きることができる未来社会の創成を先導していける高度専門職業人および知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人を養成する。</p> <p>【社会創成専攻の目的】 地域および現代社会の諸問題に対して、社会と人間の両面からアプローチし、人文科学・社会科学に自然科学をも加えた幅広い学際的な視点に立って、実践的に問題を解決し、多様性を持った人間がその多様性を尊重されて共生し、一人一人がその人らしく生きることができる未来社会の創成を先導していける人を養成する。</p> <p>【臨床心理学専攻の目的】 高いレベルの臨床心理査定能力・臨床心理面接能力・臨床心理地域援助能力を基盤として、医療、福祉、教育、司法、産業領域で、カウンセラー等として活躍できる専門職業人を養成する。また、社会創成専攻と連携して、地域の様々な人々の社会的背景や個々の人々が持つ心身のメカニズムを理解し、臨床心理実践を通して臨床の知を創造する力を持つ人を養成する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	<p>【基礎となる学部等】 法文学部 人間科学部 14条特例の実施</p>
	人間社会科学研究科 (Graduate School of Human and Social Sciences)	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	島根県松江市西川津町1060番地	
	社会創成専攻 (Major in Division of Social Development and Innovation)	2	15	—	30	修士（法学） (Master of Law) 修士（経済学） (Master of Economics) 修士（人文社会科学） (Master of Humanities and Social Sciences) 修士（人間科学） (Master of Human Sciences)	令和3年4月 第1年次		
	臨床心理学専攻 (Major in Division of Clinical Psychology)	2	10	—	20	修士（臨床心理学） (Master of Clinical Psychology)	令和3年4月 第1年次		
計			25	—	50				

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	人文社会科学研究科 (廃止)					卒業要件単位数				
	法経専攻 (△6) 言語・社会文化専攻 (△6) ※令和3年4月学生募集停止 教育学研究科 臨床心理専攻 (廃止) (△8) ※令和3年4月学生募集停止 教育実践開発専攻「定員増」(3)(令和3年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実習	計					
	人間社会科学研究科 社会創成専攻	142科目	140科目	7科目	289科目	30単位				
人間社会科学研究科 臨床心理学専攻	18科目	30科目	11科目	59科目	30単位					
教員 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新	人間社会科学研究科 社会創成専攻	人 25 (26)	人 32 (32)	人 10 (10)	人 3 (3)	人 70 (71)	人 0 (0)	人 29 (29)	
	設	人間社会科学研究科 臨床心理学専攻	人 2 (2)	人 3 (3)	人 4 (4)	人 0 (0)	人 9 (9)	人 0 (0)	人 82 (82)	
	分	計	27 (28)	35 (35)	14 (14)	3 (3)	79 (80)	0 (0)	- (-)	
	組 織	教育学研究科 教育実践開発専攻(専門職学位課程)		12 (12)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	61 (61)
		医学系研究科 医科学専攻(修士課程)		32 (32)	21 (21)	4 (4)	6 (6)	63 (63)	0 (0)	71 (71)
		医学系研究科 看護学専攻(博士前期課程)		7 (7)	4 (4)	5 (5)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	17 (17)
		医学系研究科 医科学専攻(博士課程)		33 (33)	18 (18)	4 (4)	6 (6)	61 (61)	0 (0)	40 (40)
		医学系研究科 看護学専攻(博士後期課程)		13 (13)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
		自然科学研究科 理工学専攻(博士前期課程)		30 (30)	24 (24)	9 (9)	11 (11)	74 (74)	0 (0)	81 (81)
		自然科学研究科 環境システム科学専攻(博士前期課程)		30 (30)	28 (28)	6 (6)	26 (26)	90 (90)	0 (0)	115 (115)
		自然科学研究科 農生命科学専攻(博士前期課程)		25 (25)	24 (24)	1 (1)	12 (12)	62 (62)	0 (0)	114 (114)
自然科学研究科 創成理工学専攻(博士後期課程)		42 (42)	44 (44)	10 (10)	0 (0)	96 (96)	0 (0)	50 (50)		
計		224 (224)	168 (168)	40 (40)	62 (62)	494 (494)	0 (0)	- (-)		
合計		251 (252)	203 (203)	54 (54)	65 (65)	573 (574)	0 (0)	- (-)		
教員 以外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		人 312 (312)		人 242 (242)		人 554 (554)			
	技 術 職 員		1219 (1219)		181 (181)		1400 (1400)			
	図 書 館 専 門 職 員		13 (13)		6 (6)		19 (19)			
	そ の 他 の 職 員		11 (11)		76 (76)		87 (87)			
	計		1,555 (1555)		505 (505)		2,060 (2060)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	261,438㎡	0㎡		0㎡	261,438㎡				
	運 動 場 用 地	90,630㎡	0㎡		0㎡	90,630㎡				
	小 計	352,068㎡	0㎡		0㎡	352,068㎡				
	そ の 他	6,126,623㎡	0㎡		0㎡	6,126,623㎡				
合 計	6,478,691㎡	0㎡		0㎡	6,478,691㎡					

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		大学全体			
		137,228㎡ (137,228㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	137,228㎡ (137,228㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
	71室	176室	438室	8室 (補助職員 4人)	3室 (補助職員 1人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		人間社会科学部			78 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
	人間社会科学部	981,083 [223,359] (981,083 [223,359])	15,232 [4,622] (15,232 [4,622])	7,300 [6,100] (7,300 [6,100])	6,816 (6,816)	30,355 (30,355)	19 (19)			
	計	981,083 [223,359] (981,083 [223,359])	15,232 [4,622] (15,232 [4,622])	7,300 [6,100] (7,300 [6,100])	6,816 (6,816)	30,355 (30,355)	19 (19)			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		8,645㎡		824	911,450					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		3,915㎡		野 球 場 2 面 テ ニ ス コ ー ト 15 面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等		-	-	-	-	-	-	
		共同研究費等		-	-	-	-	-	-	
		図書購入費		-	-	-	-	-	-	
	設備購入費		-	-	-	-	-	-		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		-								
大 学 の 名 称		島根大学								
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
法文学部		年	人	年次 人	人		倍		島根県松江市西川 津町1060	
法経学科		4	80	-	320	学士(法経)	1.05	平成16年度	平成29年度入学定 員減(△10人)	
社会文化学科		4	50	-	200	学士(社会科学)	1.05	平成16年度	平成29年度入学定 員減(△20人)	
言語文化学科		4	55	-	220	学士(文学)	1.08	平成16年度	平成29年度入学定 員減(△10人)	
学部共通				3年次 10	20					
教育学部							1.03		島根県松江市西川 津町1060	
学校教育課程		4	130	-	520	学士(教育学)	1.03	平成16年度	平成29年度入学定 員減(△40人)	
人間科学部							1.03		島根県松江市西川 津町1060	
人間科学科		4	80	-	320	学士(人間科学)	1.03	平成29年度		
医学部							1.00		島根県出雲市塩冶 町89-1	
医学科		6	102	3年次 5 2年次 5	652	学士(医学)	1.00	平成15年度	6年制学科 4年制学科 令和2年度編入学 定員減(3年次△ 5) 令和2年度編入学 定員増(2年次 5)	
看護学科		4	60	-	250	学士(看護学)	1.01	平成15年度	令和2年度編入学 定員減(△10人)	
総合理工学部							1.02		島根県松江市西川 津町1060	
物理・マテリアル工学科		4	73	3年次 2	221	学士(総合理工学)	1.02	平成30年度		
物質化学科		4	73	3年次 2	221	学士(総合理工学)	1.02	平成30年度		
地球科学科		4	50	3年次 1	151	学士(総合理工学)	1.00	平成30年度		

既設大学等の状況	数理科学科	4	50	3年次 1	151	学士 (総合理工学)	1.07	平成30年度		
	知能情報デザイン学科	4	50	3年次 2	152	学士 (総合理工学)	1.05	平成30年度		
	機械・電気電子工学科	4	64	3年次 2	274	学士 (総合理工学)	1.02	平成30年度		
	建築デザイン学科	4	40	3年次 2	122	学士 (総合理工学)	1.00	平成30年度		
	生物資源科学部							1.04		島根県松江市西川津町1060
	生命科学科	4	70	3年次 3	213	学士 (生物資源科学)	1.04	平成30年度		
	農林生産学科	4	60	3年次 9	274	学士 (生物資源科学)	1.04	平成30年度		
	環境共生科学科	4	70	3年次 3	213	学士 (生物資源科学)	1.04	平成30年度		
	人文社会科学研究科 (修士課程)									島根県松江市西川津町1060
	法経専攻	2	—	—	—	修士 (法学) 修士 (経済学)	0.91	平成16年度		※令和3年度より学生募集停止
	言語・社会文化専攻	2	—	—	—	修士 (社会科学) 修士 (言語文化)	0.83	平成16年度		※令和3年度より学生募集停止
	教育学研究科 (修士課程)									島根県松江市西川津町1060
	臨床心理専攻 (専門職学位課程)	2	—	—	—	修士 (教育学)	1.06	平成28年度		※令和3年度より学生募集停止
	教育実践開発専攻	2	17	—	34	教職修士 (専門職)	1.02	平成28年度		
医学系研究科 (修士課程)									島根県出雲市塩冶町89-1	
医科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (医科学)	1.06	平成16年度			
看護学専攻	2	12	—	24	修士 (看護学)	0.83	平成15年度			
医学系研究科 (博士課程)									島根県出雲市塩冶町89-1	
医科学専攻 (博士後期課程)	4	30	—	120	博士 (医学)	1.03	平成20年度			
看護学専攻	3	2	—	6	博士 (看護学)	1.16	平成28年度			
自然科学研究科 (博士前期課程)									島根県松江市西川津町1060	
理工学専攻	2	79	—	158	修士 (理学) 修士 (工学)	1.02	平成30年度			
環境システム科学専攻	2	78	—	156	修士 (理学) 修士 (工学) 修士 (生物資源科学)	0.96	平成30年度			
農生命科学専攻 (博士後期課程)	2	43	—	86	修士 (生物資源科学)	0.85	平成30年度			
創成理工学専攻	3	15	—	15	博士 (理学) 博士 (工学)		令和2年度			
総合理工学研究科 (博士後期課程)									島根県松江市西川津町1060	
総合理工学専攻	3	—	—	—		—	平成26年度		※令和2年度より学生募集停止	
	<p>(附属学校)</p> <p>名 称：教育学部附属幼稚園</p> <p>目 的：教育学部の教育研究計画と密接な連携のもとに、幼児に関する研究を行うこと。 教育学部の計画に従って、学生の教育実習の実施及びその指導に当たること。 教育研究の成果を広く公開し、地域の幼児教育の振興に寄与すること。</p> <p>所 在 地：島根県松江市大輪町4 1 6 - 4</p> <p>設置年月：昭和26年4月</p> <p>規 模 等：建物 912㎡</p>									

名称：教育学部義務教育学校
目的：児童・生徒の心身の発達に応じて初等・中等教育を施す。また、教育学部の教育研究計画と密接な連携のもとに、初等・中等教育の理論及び実践に関する研究並びにその実証を行うとともに、教育学部の計画に従って、学生の教育実習の実施及びその指導に当たる。さらに、教育研究の成果を広く公開し、公立学校の研究や現職教育に協力して、地域の初等・中等教育の進展に寄与する。
所在地：島根県松江市菅田町167-1
設置年月：平成31年4月
規模等：建物 14,356㎡

(学部等の附属施設)

名称：法文学部山陰研究センター
目的：法文学部を中心とした、山陰地域における人文・社会科学の研究拠点として、資料の収集及び研究を積極的に推進し、その研究成果を公表することにより、地域の産業経済及び文化の発展に寄与する。
所在地：島根県松江市西川津町1060
設置年月：平成16年4月
規模等：建物 法文学部棟 7,631㎡の一部

名称：教育学部附属教育支援センター
目的：授業科目の履修指導、生活指導及び教育体験活動にかかる学生指導を通じ、学生の教育実践力を特段に高めるとともに、他の教育機関及び地域社会と連携を図り、学生の教育臨床的態度・技能の指導及び地域社会の教育臨床的問題解決に貢献する。
所在地：島根県松江市西川津町1060
設置年月：平成16年4月
規模等：建物 教育学部実験研究棟 16,554㎡の一部

名称：教育学部附属教師教育研究センター
目的：全学の教職課程を担当し、教職科目の改善を図り、教職課程関連カリキュラムを一元的に管理・運営するとともに、現職教員の資質能力向上に寄与する。
所在地：島根県松江市西川津町1060
設置年月：平成19年4月
規模等：建物 教育学部実験研究棟 16,554㎡の一部

名称：教育学部附属FD戦略センター
目的：教育学部における教員養成教育の改善、充実に資する教育課程の再編、授業の改善及び事業の企画・実施等のFD（ファカルティ・ディベロップメント）の活動を企画・立案、実施することを通して、山陰地域における教員養成基幹学部としての使命を達成する。
所在地：島根県松江市西川津町1060
設置年月：平成19年6月
規模等：建物 教育学部実験研究棟 16,554㎡の一部

名称：医学部附属病院
目的：診療を通じて医学の教育及び研究に資する。
所在地：島根県出雲市塩冶町89-1
設置年月：昭和54年4月
規模等：建物 57,972㎡（附属病院棟）

名称：医学部教育企画開発室
目的：医学・看護学教育の向上に資するための方策を総合的に企画・立案し、その充実を図る。
所在地：島根県出雲市塩冶町89-1
設置年月：平成16年4月
規模等：

名称：生物資源科学部附属生物資源教育研究センター
目的：生物資源科学部の附属教育研究施設として、農学・農業、林学・林業及び日本海における生物・海洋に関する教育・研究並びに森林・耕地・海洋を結ぶ生態系をめぐる物質循環の解明などを学際的に科学する教育・研究を行う。

附属施設の概要

<p>所在地：（本部，農業生産科学部門）島根県松江市上本庄町2059 （森林科学部門）島根県大田市三瓶町多根941-1 （農業生産科学部門）島根県出雲市神西沖町字蛇島2473-1 （海洋生物科学部門）島根県隠岐郡隠岐の島町加茂194</p> <p>設置年月：平成9年4月 規模等：建物 8,374㎡（総計）</p>
<p>名称：地域未来協創本部</p> <p>目的：本学の知（地）の拠点大学による地方創生推進事業並びに地域社会における産業技術の振興及び発展等に関する企画・立案・実施等を行い，もって本学の教育・研究及び産学官地域連携の推進並びに地域の未来に関する教育研究活動の支援及び地域社会に向けた情報発信を行う。</p> <p>所在地：（松江キャンパス）島根県松江市西川津町1060 （出雲キャンパス）島根県出雲市塩冶町89-1</p> <p>設置年月：平成30年4月</p> <p>規模等：（松江キャンパス）建物 総合理工学部2号館の一部 （出雲キャンパス）建物 地域未来協創本部 （地域医学共同研究部門） 2,268㎡の一部</p>
<p>（教育・学生支援機構）</p> <p>名称：大学教育センター</p> <p>目的：全学的な教学マネジメントの確立のもと，高等教育における諸課題を解決するため，本学の教育改革を推進し，教育の質の保証と向上を達成する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060 設置年月：平成31年4月 規模等：建物 学生センター 1,400㎡の一部 建物 学生支援センター 656㎡の一部</p> <p>名称：保健管理センター</p> <p>目的：保健管理に関する専門的業務を一体的に行い，学生及び職員の健康の保持増進を図る。</p> <p>所在地：（松江）松江市西川津町1060 （出雲）出雲市塩冶町89-1</p> <p>設置年月：平成25年4月 規模等：建物（松江） 479㎡ （出雲） 大学会館（出雲） 1,998㎡の一部</p> <p>名称：学生支援センター</p> <p>目的：学生支援業務を統括的に取り扱い，もって学生生活の充実に寄与する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060 設置年月：平成25年4月 規模等：建物 学生支援センター 656㎡の一部</p> <p>名称：障がい学生支援室</p> <p>目的：障がいのある学生の修学に必要な支援を行うとともに，支援の充実を図る。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060 設置年月：平成28年4月 規模等：建物 総合理工学部2号館の一部</p>
<p>（研究・学術情報機構）</p> <p>名称：戦略的研究推進センター</p> <p>目的：本学が有する知的資産と知的創造力を活用し，地域に密着した個性的な研究及び国際水準の独創的な研究を集中的かつ戦略的に推進し，その成果を教育に反映するとともに広く社会に還元する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060 設置年月：平成28年4月 規模等：</p> <p>名称：エスチュアリー研究センター</p> <p>目的：汽水域の自然・人文・社会環境の研究等及び汽水域に関する総合的かつ学際的な研究を推進し，本学の教育研究活動及び学術交流の活性化を図るとともに，その研究成果を公表することにより，地域社会の発展及び国際学術交流の振興に資する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060 設置年月：平成28年4月</p>

規模等：建物 法文学部棟 7,631㎡の一部

名称：総合科学研究支援センター

目的：生命、環境、物質・材料創成及びその融合領域に関する総合的な科学研究の深化を図るとともに、各学部等における研究を支援する。

所在地：（松江キャンパス）島根県松江市西川津町1060
（出雲キャンパス）島根県出雲市塩冶町89-1

設置年月：平成28年4月

規模等：（遺伝子機能解析部門・松江）建物 遺伝子実験施設 1,514㎡の一部
（実験動物部門・出雲）建物 RI・動物実験施設 3,944㎡の一部
（生体情報・RI実験部門・出雲）建物 共同研究棟 2,312㎡
第二研究棟 3,715㎡の一部
RI・動物実験施設 3,944㎡の一部
（物質機能分析部門・松江）建物 総合理工学部1・2・3号館の一部

名称：総合情報処理センター

目的：センターに置かれた情報処理システムを整備運用し、学内外の情報ネットワークとの連携を図り、本学における教育、研究その他の情報処理のための利用に供するとともに、学術情報システム等の開発を行い、あわせて人材の育成を支援し、本学における情報処理の進展に資する。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成28年4月

規模等：建物 683㎡

名称：地域包括ケア教育研究センター

目的：地域住民の健康維持に関する総合的かつ学際的な研究を推進し、大学の教育研究活動及び学術交流の活性化を図るとともに、その研究成果を公表することにより、地域社会の発展及び国際学術交流の振興に資する。

所在地：島根県出雲市塩冶町89-1

設置年月：平成29年4月

規模等：建物 地域未来協創本部（地域医学共同研究部門） 2,268㎡の一部

名称：総合博物館

目的：本学における標本資料類などを大学所有の有形知的財産として位置づけ、それらを収集、整理・保管及び調査研究をしたうえで、展示公開などによる教育、普及啓発、情報発信の促進及び地域貢献を行う。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成30年6月

規模等：建物 155㎡

名称：自然災害軽減教育研究センター

目的：「地球環境災害軽減に関するユネスコチャート」の目的である「地球環境と社会のより良好な関係の構築」に向けた教育と研究を促進し、本学の教育研究活動及び国際的学術交流の活性化を図るとともに、社会の発展に資する。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成30年4月

規模等：総合理工学部3号館の一部

（グローバル化推進機構）

名称：国際交流センター

目的：本学の国際化及び国際交流の推進に向けて、各種事業の企画・立案をするとともに、外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し、積極的な支援等を行うことにより、本学の国際交流の推進に寄与する。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成25年4月

規模等：建物 学生センター 1,400㎡の一部

名称：外国語教育センター

目的：外国語教育の知的拠点として、言語的コミュニケーション能力を培う教育を行うことのほか、外国語教育を通じて総合的な知性・教養・人格を形成し、異文化理解と共生文化の創造に資する教育を行う。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成25年4月

<p>規模等：建物 教育学部実験研究室棟 16,554㎡の一部</p> <p>名称：島根大学・寧夏大学国際共同研究所</p> <p>目的：都市と農村との地域間格差問題，中山間地域（条件不利地域）の活性化，開発と環境問題などを主要なテーマとして共同研究を行い，研究成果をアジアをはじめとする世界に発信するとともに，人材の育成・交流の積極的な展開，国内外の研究者に開かれた中国・西部地域研究の拠点づくりを目指す。</p> <p>所在地：中国，寧夏，銀川市西夏区賀蘭山西路489号 寧夏大学A区</p> <p>設置年月：平成16年4月</p> <p>規模等：建物 2,794㎡</p>
<p>(イノベーション創出機構)</p> <p>名称：次世代たたら協創センター</p> <p>目的：企業等と連携して，金属材料評価技術等の研究及び新たな金属材料や複合材料等の研究・開発を行い，その成果を実用化に結び付けていくと共に，金属材料関連の専門人材を育成することを目的とする。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成30年10月</p> <p>規模等：</p>
<p>名称：附属図書館</p> <p>目的：図書，学術雑誌その他必要な資料を収集，組織，保管し，これを利用者の教育・研究・学習等の要求に対して提供し，併せて学術情報システム活用の場として機能することにより，島根大学における教育研究活動を支援するとともに，地域社会の知的情報拠点としての役割を果たす。</p> <p>所在地：（本館）島根県松江市西川津町1060 （医学図書館）島根県出雲市塩冶町89-1</p> <p>設置年月：（本館）平成28年4月 （医学図書館）平成28年4月</p> <p>規模等：（本館）建物 6,834㎡ （医学図書館）建物 1,819㎡</p>
<p>名称：山陰法実務教育研究センター</p> <p>目的：本学が有する知的資産を有効に活用し山陰地域における法実務教育を行うとともに，そのための教育プログラム及び教育研究体制に関する調査研究を行い，もって山陰地域における法学教育の充実発展に寄与する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成26年2月</p> <p>規模等：建物 法文学部棟 7,631㎡の一部</p>
<p>名称：こころとそだちの相談センター</p> <p>目的：心の健康に関する相談に応じて地域社会に貢献するとともに，心理臨床に関する高度な知識と技能を有する専門家の養成に資する</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成29年4月</p> <p>規模等：建物 教育学部実験研究室棟 16,554㎡の一部</p>
<p>名称：数理・データサイエンス教育研究センター</p> <p>目的：エビデンスに基づく意思決定，価値創造を行うことができるデータ駆動型の人材を幅広く養成するため，数理・データサイエンスに関する研究の推進及び支援を行うとともに，数理・データサイエンス教育を全学的に推進することにより，本学の数理・データサイエンス教育研究活動の充実発展に資する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成30年4月</p> <p>規模等：建物 法文学部棟 7,631㎡の一部</p>

島根大学 設置申請に係わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
島根大学				島根大学				
法文学部				法文学部				
法経学科	80	-	320	法経学科	80	-	320	
社会文化学科	50	-	200	社会文化学科	50	-	200	
言語文化学科	55	-	220	言語文化学科	55	-	220	
学部共通		10	20	学部共通		10	20	
教育学部				教育学部				
学校教育課程	130	-	520	学校教育課程	130	-	520	
人間科学部				人間科学部				
人間科学科	80	-	320	人間科学科	80	-	320	
医学部				医学部				
医学科	102	2年次 5 3年次 5	652	医学科	102	2年次 5 3年次 5	652	
看護学科	60	-	240	看護学科	60	-	240	
総合理工学部				総合理工学部				
物理・マテリアル工学科	73	2	296	物理・マテリアル工学科	73	2	296	
物質化学科	73	2	296	物質化学科	73	2	296	
地球科学科	50	1	202	地球科学科	50	1	202	
数理科学科	50	1	202	数理科学科	50	1	202	
知能情報デザイン学科	50	2	204	知能情報デザイン学科	50	2	204	
機械・電気電子工学科	64	2	260	機械・電気電子工学科	64	2	260	
建築デザイン学科	40	2	164	建築デザイン学科	40	2	164	
生物資源科学部				生物資源科学部				
生命科学科	70	3	286	生命科学科	70	3	286	
農林生産学科	60	9	258	農林生産学科	60	9	258	
環境共生科学科	70	3	286	環境共生科学科	70	3	286	
計	1157	2年次 5 3年次 42	4946	計	1157	2年次 5 3年次 42	4946	
島根大学大学院				島根大学大学院				
人文社会科学研究科				人間社会科学研究科				研究科の設置(意見伺い)
法経専攻(M)	6		12	社会創成専攻(M)	15		30	
言語・社会文化専攻(M)	6		12	臨床心理学専攻(M)	10		20	
教育学研究科				教育学研究科				
教育実践開発専攻(P)	17		34	教育実践開発専攻(P)	20		40	定員変更(3)
臨床心理専攻(M)	8		16					
医学系研究科				医学系研究科				
医科学専攻(M)	15		30	医科学専攻(M)	15		30	
医科学専攻(D)	30		120	医科学専攻(D)	30		120	
看護学専攻(M)	12		24	看護学専攻(M)	12		24	
看護学専攻(D)	2		6	看護学専攻(D)	2		6	
自然科学研究科				自然科学研究科				
理工学専攻(M)	79		158	理工学専攻(M)	79		158	
環境システム科学専攻(M)	78		156	環境システム科学専攻(M)	78		156	
農生命科学専攻(M)	43		86	農生命科学専攻(M)	43		86	
創成理工学専攻(D)	15		45	創成理工学専攻(D)	15		45	
計	311		699	計	319		715	

教育課程等の概要															
人間社会科学部社会創成専攻															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	人間社会科学特論	1前	2			○			7	2	2			兼1	オムニバス
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			7	2	2	0	0	兼1	—
社会実践科目	公共政策実践演習	1・2後		2			○		1						※講義
	経済政策実践演習	1後		2			○			1					
	福祉経済実践演習	1前・後		2		○	○		1						
	地域資料実践演習Ⅰ	1・2前		2			○		1						
	地域資料実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	日本史学実践演習	1後		2			○			1					
	都市問題実践演習	1前		2			○			1					
	英語実践演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	英語実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	フランス語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	フランス語実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	ドイツ語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	ドイツ語実践演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	中国語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	中国語実践演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	東洋史学実践演習Ⅰ	1後		2			○	○	1					隔年 ※実習	
	東洋史学実践演習Ⅱ	1後		2			○	○	1					隔年 ※実習	
	異文化交流Ⅰ	1前		2			○	○		1	2			集中 ※演習 オムニバス・一部共同	
	異文化交流Ⅱ	1前		2			○	○	1					集中 ※演習	
	異文化交流Ⅲ	1後		2			○	○	2					集中 ※演習	
異文化交流Ⅳ	1前		2			○	○		1				集中 ※演習		
対人支援実践演習	1後		2			○		2	3	1	2		兼1 共同		
臨床心理地域援助実践演習Ⅰ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2前		2			○							兼1		
臨床心理地域援助実践演習Ⅱ	2前		2				○						兼10	オムニバス	
社会統計学実践演習	1通		2			○	○	1						※講義・実習	
言語データ分析実践演習	1後		2				○	1							
人間科学データサイエンス実践演習	1・2前		2				○	4	4	3	1				
人間社会科学データサイエンス実践演習	1後		2				○							兼1	
インターンシップ	1通		2				○	26	32	10	3				
小計（29科目）	—		0	58	0	—		26	32	10	3	0	兼11	—	
連携科目	インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅠ	1通	1				○	26	32	10	3			共同	
	インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅡ	2通	1				○	26	32	10	3			共同	
	小計（2科目）	—	2	0	0	—		26	32	10	3	0		—	
研究指導科目	法政演習（法政コース用）	2通	4				○	1	3	2					
	地域経済演習（地域経済コース用）	2通	4				○	4	3						
	人文社会演習（人文社会コース用）	2通	4				○	16	21	5	1				
	健康・行動科学演習（健康・行動科学コース用）	2通	4				○	4	5	3	2				
	小計（4科目）	—	16	0	0	—		25	32	10	3	0		—	

教育課程等の概要															
人間社会科学部研究科社会創成専攻															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース 基盤科目	法政基礎論（法政コース用）	1前	2			○	○		1	3	2			兼1	オムニバス ※演習
	地域政策基礎論（地域経済コース用）	1前	2			○	○		1	1					オムニバス ※演習
	人文社会基礎論（人文社会コース用）	1後	2			○	○		3	4	2				オムニバス ※演習
	健康・行動科学基礎論（健康・行動科学コース用）	1後	2			○	○		4	5	3	2			オムニバス ※演習
	小計（4科目）	—	8	0	0	—	—	—	9	13	7	2	0	兼1	—
コース 専門科目	憲法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○								隔年※演習
	憲法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○								隔年※演習
	憲法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○								隔年※演習
	憲法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○								隔年※演習
	行政法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○								隔年※演習
	行政法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○								隔年※演習
	行政法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○								隔年※演習
	行政法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○								隔年※演習
	民事法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○							兼1	隔年※演習
	民事法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○							兼1	隔年※演習
	民事法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○							兼1	隔年※演習
	民事法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○							兼1	隔年※演習
	政治学特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○							兼1	隔年※演習
	政治学特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○							兼1	隔年※演習
	政治学特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○							兼1	隔年※演習
	政治学特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○							兼1	隔年※演習
	行政学特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○		1						隔年※演習
	行政学特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○		1						隔年※演習
	行政学特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○		1						隔年※演習
	行政学特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○		1						隔年※演習
	社会法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○							兼1	隔年※演習
	社会法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○							兼1	隔年※演習
	社会法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○							兼1	隔年※演習
	社会法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○							兼1	隔年※演習
	企業法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○			1					隔年※演習
	企業法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○			1					隔年※演習
	企業法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○			1					隔年※演習
	企業法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○			1					隔年※演習
	刑事法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○					1			隔年※演習
	刑事法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○					1			隔年※演習
	刑事法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○					1			隔年※演習
	刑事法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○					1			隔年※演習
	刑事訴訟法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○					1			隔年※演習
	刑事訴訟法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○					1			隔年※演習
刑事訴訟法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○					1			隔年※演習	
刑事訴訟法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○					1			隔年※演習	
税財政法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○							兼1	隔年※演習	
税財政法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○							兼1	隔年※演習	
税財政法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○							兼1	隔年※演習	
税財政法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○							兼1	隔年※演習	
国際租税法特殊講義A	1・2前		2		○	○							兼1	隔年※演習	
国際租税法特殊講義B	1・2後		2		○	○							兼1	隔年※演習	
情報法制論	1後		2		○	○		1	2					オムニバス ※演習	

教育課程等の概要																
人間社会科学部社会創成専攻																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
地域経済コース	経済理論特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○		1						※演習	
	国際経済特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○			1					※演習	
	財政学特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○		1						※演習	
	経済政策特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○			1					※演習	
	地域経済特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○			1					※演習	
	情報経済特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○		1						※演習	
	福祉経済特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○		1						※演習	
	経済理論特殊講義Ⅱ	2前・後		2		○	○		1						※演習	
	国際経済特殊講義Ⅱ	2前・後		2		○	○			1					※演習	
	情報経済特殊講義Ⅱ	1後		2		○	○		1						※演習	
	経済理論特別演習	1前・後		2			○	○		1						
	経済政策特別演習	1前・後		2			○	○			1				※講義	
	財政学特別演習	1前・後		2			○	○		1					※講義	
	国際経済特別演習	1前・後		2			○	○			1				※講義	
情報経済特別演習	1前・後		2				○	○	1							
地域経済特別演習	1前・後		2			○	○			1				※講義		
福祉経済特別演習	1前・後		2			○	○		1					※講義		
コース専門科目	日本文学コース	日本文学特殊講義ⅠA	1前	2		○	○			1					※演習	
		日本文学特殊講義ⅠB	1後	2		○	○			1						
		日本文学特殊講義ⅡA	1・2前	2		○	○			1						
		日本文学特殊講義ⅡB	1・2後	2		○	○			1						
		日本文学特殊講義ⅢA	1前	2		○	○			1						
		日本文学特殊講義ⅢB	1後	2		○	○			1						
		日本文学特別演習ⅠA	1前	2			○	○			1					
		日本文学特別演習ⅠB	1後	2			○	○			1					
		日本文学特別演習ⅡA	1・2前	2			○	○			1					
		日本文学特別演習ⅡB	1・2後	2			○	○			1					
		日本文学特別演習ⅢA	1前	2			○	○			1					
		日本文学特別演習ⅢB	1後	2			○	○			1					
		日本語学特殊講義ⅠA	1・2前	2			○	○			1					隔年※演習
		日本語学特殊講義ⅠB	1・2後	2			○	○			1					隔年※演習
		日本語学特殊講義ⅡA	1前	2			○	○				1				隔年※演習
		日本語学特殊講義ⅡB	1後	2			○	○				1				隔年※演習
	日本語学特別演習ⅠA	1・2前	2				○	○			1				隔年	
	日本語学特別演習ⅠB	1・2後	2				○	○			1				隔年	
	日本語学特別演習ⅡA	1前	2				○	○				1			隔年	
	日本語学特別演習ⅡB	1後	2				○	○				1			隔年	
	中国文学特殊講義ⅠA	1・2前	2				○	○			1					
	中国文学特殊講義ⅠB	1・2後	2				○	○			1					
	中国文学特殊講義ⅡA	1前	2				○	○				1				
	中国文学特殊講義ⅡB	1後	2				○	○				1				
	中国文学特別演習A	1前	2					○	○			1				
	中国文学特別演習B	1後	2					○	○			1				
	中国語学特別演習A	1・2前	2					○	○		1					
	中国語学特別演習B	1・2後	2					○	○		1					
	イギリス文学特殊講義A	1前	2				○	○				1				
	イギリス文学特殊講義B	1後	2				○	○				1				
	アメリカ文学特殊講義A	1・2前	2				○	○					1		※演習	
	アメリカ文学特殊講義B	1・2後	2				○	○					1		※演習	
アメリカ文化特殊講義A	1・2前	2				○	○					1		※演習		
アメリカ文化特殊講義B	1・2後	2				○	○					1		※演習		
英語学特殊講義ⅠA	1前	2				○	○					1		※演習		

教育課程等の概要															
人間社会科学部社会創成専攻															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース 人文社会科学部	英語学特殊講義ⅠB	1後		2		○	○			1					※演習
	英語学特殊講義ⅡA	1前		2		○	○			1					※演習
	英語学特殊講義ⅡB	1後		2		○	○			1					※演習
	イギリス文学特別演習A	1前		2		○	○			1					※講義
	イギリス文学特別演習B	1後		2		○	○			1					※講義
	アメリカ文学特別演習A	1・2前		2			○					1			
	アメリカ文学特別演習B	1・2後		2			○					1			
	アメリカ文化特別演習A	1・2前		2			○					1			
	アメリカ文化特別演習B	1・2後		2			○					1			
	英語学特別演習A	1前		2			○	○			1				
	英語学特別演習B	1後		2			○	○			1				
	フランス文化特殊講義A	1前		2		○	○				1				※演習
	フランス文化特殊講義B	1後		2		○	○			1					※演習
	フランス文化特別演習A	1前		2			○	○		1					
	フランス文化特別演習B	1後		2			○	○			1				
	ドイツ文化特殊講義A	1前		2		○	○				1				※演習
	ドイツ文化特殊講義B	1後		2		○	○				1				※演習
	ドイツ文化特別演習A	1前		2			○	○			1				
	ドイツ文化特別演習B	1後		2			○	○			1				
	哲学特殊講義ⅠA	1前		2		○						1			
	哲学特殊講義ⅠB	1後		2		○						1			
	哲学特殊講義ⅡA	1前		2		○					1				
	哲学特殊講義ⅡB	1後		2		○					1				
	哲学特別演習ⅠA	1前		2			○					1			
	哲学特別演習ⅠB	1後		2			○					1			
	哲学特別演習ⅡA	1前		2			○				1				
	哲学特別演習ⅡB	1後		2			○				1				
	芸術学特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○				1				※演習
	芸術学特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○				1				
	芸術学特殊講義ⅡA	1前		2		○	○				1				※演習
	芸術学特殊講義ⅡB	1後		2		○	○				1				※演習
	芸術学特別演習ⅠA	1・2前		2		○	○				1				※講義
	芸術学特別演習ⅠB	1・2後		2		○	○				1				※講義
	芸術学特別演習ⅡA	1前		2			○				1				
	芸術学特別演習ⅡB	1後		2			○				1				
	文化交流論特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○				1				隔年 ※演習
	文化交流論特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○				1				隔年 ※演習
	文化交流論特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○				1				隔年 ※演習
	文化交流論特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○				1				隔年 ※演習
	文化交流論特別演習ⅠA	1前		2			○				1				
	文化交流論特別演習ⅠB	1後		2			○				1				
	文化交流論特別演習ⅡA	1前		2			○				1				
	文化交流論特別演習ⅡB	1後		2			○				1				
	社会学特殊講義A	1前		2		○				1					
	社会学特殊講義B	1後		2		○				1					
社会学特別演習ⅠA	1前		2		○	○			1					※講義	
社会学特別演習ⅠB	1後		2		○	○			1					※講義	
社会学特別演習ⅡA	1前		2		○	○				1				※講義	
社会学特別演習ⅡB	1後		2		○	○				1				※講義	
社会学特別演習ⅢA	1前		2		○	○			1					※講義	
社会学特別演習ⅢB	1後		2		○	○			1					※講義	
地理学特殊講義Ⅰ	1後		2		○	○				1				※演習	

教育課程等の概要															
人間社会科学部社会創成専攻															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース 人文社会 コース 専攻科目	地理学特殊講義ⅡA	1前		2		○	○			1					※演習
	地理学特殊講義ⅡB	1後		2		○	○			1					※演習
	地理学特別演習A	1前		2			○			1					
	地理学特別演習B	1後		2			○			1					
	地理情報システム特別実習	1通		2				○		1					
	文化人類学特殊講義ⅠA	1前		2		○	○		1	1					※演習
	文化人類学特殊講義ⅠB	1後		2		○	○		1	1					※演習
	文化人類学特別演習A	1前		2			○			1					
	文化人類学特別演習B	1後		2			○			1					
	考古学特殊講義Ⅰ	1前		2		○				1					
	考古学特殊講義Ⅱ	1後		2		○			1						
	考古学特殊講義Ⅲ	1前		2		○				1					
	考古学特別実習	1前		2				○	1	2					
	考古学特別演習Ⅰ	1後		2				○		1					
	考古学特別演習Ⅱ	1前		2				○	1						
	考古学特別演習Ⅲ	1後		2				○		1					
	日本史学特殊講義Ⅰ-1	1・2前		2		○			1						
	日本史学特殊講義Ⅰ-2	1・2後		2		○			1						
	日本史学特殊講義Ⅱ-1	1前		2		○			1						
	日本史学特殊講義Ⅱ-2	1後		2		○			1						
	日本史学特殊講義Ⅲ-1	1後		2		○				1					
	日本史学特殊講義Ⅲ-2	1後		2		○				1					
	日本史学特別演習ⅠA-1	1・2前		2				○	1						
	日本史学特別演習ⅠA-2	1・2後		2				○	1						
	日本史学特別演習ⅠB-1	1・2前		2				○	1						
	日本史学特別演習ⅠB-2	1・2後		2				○	1						
	日本史学特別演習ⅡA-1	1前		2				○	1						
	日本史学特別演習ⅡA-2	1後		2				○	1						
	日本史学特別演習ⅡB-1	1後		2				○	1						
	日本史学特別演習ⅡB-2	1後		2				○	1						
	日本史学特別演習ⅢA-1	1前		2				○		1					
	日本史学特別演習ⅢA-2	1前		2				○		1					
	日本史学特別演習ⅢB-1	1前		2				○		1					
	日本史学特別演習ⅢB-2	1後		2				○		1					
	東洋史学特殊講義Ⅰ-1	1前		2		○	○		1						※演習
	東洋史学特殊講義Ⅰ-2	1後		2		○	○		1						※演習
	東洋史学特殊講義Ⅱ-1	1前		2		○	○		1						※演習
	東洋史学特殊講義Ⅱ-2	1後		2		○	○		1						※演習
	東洋史学特別演習ⅠA-1	1前		2			○		1						
	東洋史学特別演習ⅠA-2	1後		2			○		1						
東洋史学特別演習ⅠB-1	2前		2			○		1							
東洋史学特別演習ⅠB-2	2後		2			○		1							
東洋史学特別演習ⅡA-1	1前		2			○		1							
東洋史学特別演習ⅡA-2	1後		2			○		1							
西洋史学特殊講義Ⅰ-1	1・2前		2		○	○		1						※演習	
西洋史学特殊講義Ⅰ-2	1・2後		2		○	○		1						※演習	
西洋史学特別演習ⅠA-1	1・2前		2			○		1							
西洋史学特別演習ⅠA-2	1・2後		2			○		1							
西洋史学特別演習ⅠB-1	1・2前		2			○		1							
西洋史学特別演習ⅠB-2	1・2後		2			○		1							
西洋史学特別演習ⅡA-1	1・2前		2			○		1							
西洋史学特別演習ⅡA-2	1・2後		2			○		1							

教育課程等の概要															
人間社会科学部社会創成専攻															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文社会科学コース	記録史料学特殊講義Ⅰ	1前		2		○			1						
	記録史料学特殊講義Ⅱ	1前		2		○				1					
	アーカイブズ管理論特殊講義Ⅰ	1前		2		○	○			1					※演習
	アーカイブズ管理論特殊講義Ⅱ	1後		2		○	○			1					※演習
	アーカイブズ学理論特殊講義Ⅰ	1前		2		○	○			1					※演習
	アーカイブズ学理論特殊講義Ⅱ	1後		2		○	○			1					※演習
	アーカイブズ学特殊講義	1前		2		○				1					
	アーカイブズ学特別演習A	1後		2		○	○			1				兼2	※講義
	アーカイブズ学特別演習B	1後		2		○	○			1					※講義
	アーカイブズ学特別実習	1通		2				○		1					
	資料保存論	1後		2		○								兼2	
	社会福祉学特殊講義Ⅰ	1前		2		○	○			1					※演習
	社会福祉学特殊講義Ⅱ	1前		2		○	○			1					※演習
	社会福祉学特殊講義Ⅲ	1後		2		○	○				1				※演習
	社会福祉学特殊講義Ⅳ	1後		2		○	○		1						※演習
	社会福祉学特殊講義Ⅴ	1前		2		○	○		1						※演習
	社会福祉学特殊講義Ⅵ	1前		2		○	○					1			※演習
	社会福祉学特別演習ⅠA	1前		2		○	○			1					
	社会福祉学特別演習ⅠB	1後		2		○	○			1					
	社会福祉学特別演習ⅡA	1前		2		○	○			1					
	社会福祉学特別演習ⅡB	1後		2		○	○			1					
	社会福祉学特別演習ⅢA	1前		2		○	○					1			
	社会福祉学特別演習ⅢB	1後		2		○	○					1			
	社会福祉学特別演習ⅣA	1前		2		○	○		1						
社会福祉学特別演習ⅣB	1後		2		○	○		1							
社会福祉学特別演習ⅤA	1前		2		○	○		1							
社会福祉学特別演習ⅤB	1後		2		○	○		1							
社会福祉学特別演習ⅥA	1前		2		○	○						1			
社会福祉学特別演習ⅥB	1後		2		○	○						1			
健康・行動科学コース	健康科学特論Ⅰ	1前		2		○	○			1		1	1		オムニバス ※演習
	健康科学特論Ⅱ	1前		2		○	○		2	2			1		オムニバス ※演習
	食品機能・加工学特論	1・2後		2		○			1					兼3	オムニバス
	臨床・社会・環境医学と高度情報学の接点	1・2通		2		○	○		1	1				兼6	オムニバス ※演習
	心理学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1	1				オムニバス
	心理学特論Ⅱ	1前		2		○			1	1	1				オムニバス
	健康科学特別演習ⅠA	1前		2			○		3	2	1	1			
	健康科学特別演習ⅠB	1後		2			○		3	2	1	1			
	健康科学特別演習ⅡA	2前		2			○		3	2	1	1			
	健康科学特別演習ⅡB	2後		2			○		3	2	1	1			
	精神保健学特別演習ⅠA	1前		2			○			1			1		
	精神保健学特別演習ⅠB	1後		2			○			1			1		
	精神保健学特別演習ⅡA	2前		2			○			1			1		
	精神保健学特別演習ⅡB	2後		2			○			1			1		
	心理学特別演習ⅠA	1前		2			○			1	2	2			
	心理学特別演習ⅠB	1後		2			○			1	2	2			
	心理学特別演習ⅡA	2前		2			○			1	2	2			
心理学特別演習ⅡB	2後		2			○			1	2	2				
小計（246科目）		—	0	492	0				26	32	10	3	0	兼16	—

教 育 課 程 等 の 概 要														
人間社会科学部社会創成専攻														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院 科目 共通	研究力とキャリアデザイン	1・2前		1		○								兼1
	研究と倫理	1・2前		1		○	○							兼1 ※演習
	学際プレゼンテーション入門	1・2前		1		○	○							兼1 ※講義
	小計（3科目）	—	0	3	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼2 —
合計（289科目）		—	28	553	0	—	—	—	26	32	10	3	0	兼29 —
学位又は称号	修士（法学） 修士（経済学） 修士（人文社会科学） 修士（人間科学）	学位又は学科の分野			法学関係 経済学関係 文学関係 社会学・社会福祉学関係 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）									
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
【修了要件】 研究科共通科目：「人間社会科学特論」2単位（必修） 社会実践科目：4単位（選択必修） コース基盤科目：2単位（必修） ※履修するコース用に開設された基盤科目2単位を必修とする。 コース専門科目：10単位（選択必修） コース間連携科目：4単位（「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅠ」1単位、「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅡ」1単位は必修。他コースのコース専門科目から2単位選択必修） 研究指導科目：4単位（必修） ※履修するコース用に開設された研究指導科目4単位を必修とする。 展開科目：大学院共通科目、社会創成専攻コース専門科目・コース基盤科目、社会実践科目の中から4単位（選択必修） 上記を含め30単位以上を修得し、修士論文審査に合格すること。						1学年の学期区分				2期				
						1学期の授業期間				14週				
						1時限の授業時間				100分				

教 育 課 程 等 の 概 要

【参 考】人間社会科学研究科社会創成専攻法政コース

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通研究科	人間社会科学特論	1前	2			○			7	2	2			兼1	オムニバス
	小計（1科目）	—	2	0	0	—	—	—	7	2	2	0	0	兼1	—
社会実践科目	公共政策実践演習	1・2後		2			○		1						
	経済政策実践演習	1後		2			○			1					
	福祉経済実践演習	1前・後		2		○	○		1						※講義
	地域資料実践演習Ⅰ	1・2前		2			○		1						
	地域資料実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	日本史学実践演習	1後		2			○			1					
	都市問題実践演習	1前		2			○			1					
	英語実践演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	英語実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	フランス語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	フランス語実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	ドイツ語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	ドイツ語実践演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	中国語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	中国語実践演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	東洋史学実践演習Ⅰ	1後		2			○	○	1						隔年 ※実習
	東洋史学実践演習Ⅱ	1後		2			○	○	1						隔年 ※実習
	異文化交流Ⅰ	1前		2			○	○		1	2				集中 ※演習 オムニバス・一部共同
	異文化交流Ⅱ	1前		2			○	○	1						集中 ※演習
	異文化交流Ⅲ	1後		2			○	○	2						集中 ※演習
	異文化交流Ⅳ	1前		2			○	○		1					集中 ※演習
	対人支援実践演習	1後		2			○			2	3	1	2		共同
	臨床心理地域援助実践演習Ⅰ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2前		2			○							兼1	
臨床心理地域援助実践演習Ⅱ	2前		2			○							兼10	オムニバス	
社会統計学実践演習	1通		2		○	○	○	1						※講義・実習	
言語データ分析実践演習	1後		2			○		1							
人間科学データサイエンス実践演習	1・2前		2			○		4	4	3	1				
人間社会科学データサイエンス実践演習	1後		2			○							兼1		
インターンシップ	1通		2			○		26	32	10	3				
小計（29科目）	—		0	58	0	—	—	26	32	10	3	0	兼11	—	
連携科目	インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅠ	1通	1				○		26	32	10	3			共同
	インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅡ	2通	1				○		26	32	10	3			共同
小計（2科目）	—		2	0	0	—	—	26	32	10	3	0		—	
科指研究	法政演習	2通	4				○		1	3	2				
	小計（1科目）	—	4	0	0	—	—	1	3	2	0	0		—	
基盤科	法政基礎論	1前	2			○	○		1	3	2			兼1	オムニバス ※演習
	小計（1科目）	—	2	0	0	—	—	1	3	2	0	0	兼1	—	
	憲法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○			1					隔年※演習
	憲法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○			1					隔年※演習
	憲法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○			1					隔年※演習

教 育 課 程 等 の 概 要

【参 考】人間社会科学研究科社会創成専攻法政コース

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
コース専門科目	憲法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○			1						隔年※演習
	行政法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○			1						隔年※演習
	行政法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○			1						隔年※演習
	行政法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○			1						隔年※演習
	行政法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○			1						隔年※演習
	民法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○							兼1		隔年※演習
	民法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○							兼1		隔年※演習
	民法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○							兼1		隔年※演習
	民法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○							兼1		隔年※演習
	政治学特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○							兼1		隔年※演習
	政治学特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○							兼1		隔年※演習
	政治学特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○							兼1		隔年※演習
	政治学特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○							兼1		隔年※演習
	行政学特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○			1						隔年※演習
	行政学特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○			1						隔年※演習
	行政学特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○			1						隔年※演習
	行政学特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○			1						隔年※演習
	社会法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○							兼1		隔年※演習
	社会法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○							兼1		隔年※演習
	社会法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○							兼1		隔年※演習
	社会法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○							兼1		隔年※演習
	企業法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○			1						隔年※演習
	企業法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○			1						隔年※演習
	企業法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○			1						隔年※演習
	企業法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○			1						隔年※演習
	刑事法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○				1					隔年※演習
	刑事法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○				1					隔年※演習
	刑事法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○				1					隔年※演習
	刑事法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○				1					隔年※演習
	刑事訴訟法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○				1					隔年※演習
	刑事訴訟法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○				1					隔年※演習
	刑事訴訟法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○				1					隔年※演習
	刑事訴訟法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○				1					隔年※演習
	税財政法特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○							兼1		隔年※演習
	税財政法特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○							兼1		隔年※演習
	税財政法特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○							兼1		隔年※演習
	税財政法特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○							兼1		隔年※演習
	国際租税法特殊講義A	1・2前		2		○	○							兼1		隔年※演習
	国際租税法特殊講義B	1・2後		2		○	○							兼1		隔年※演習
	情報法制論	1後		2		○	○			1	2					オムニバス※演習
	小計（43科目）		—	0	86	0	—			1	3	2	0	0	兼4	—
	大学院共通	研究力とキャリアデザイン	1・2前		1		○								兼1	
		研究と倫理	1・2前		1		○	○							兼1	※演習
学際プレゼンテーション入門		1・2前		1		○	○							兼1	※講義	
小計（3科目）		—	0	3	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—	
合計（80科目）		—	10	147	0	—			26	32	10	3	0	兼17	—	
学位又は称号	修士（法学）		学位又は学科の分野				法学関係									

教育課程等の概要														
【参考】人間社会科学研究科社会創成専攻法政コース														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
【修了要件】 研究科共通科目：「人間社会科学特論」2単位（必修） 社会実践科目：4単位（選択必修） コース基盤科目：2単位（必修） コース専門科目：10単位（選択必修） コース間連携科目：4単位（「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅠ」1単位、「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅡ」1単位は必修。他コースのコース専門科目から2単位選択必修） 研究指導科目：4単位（必修） 展開科目：大学院共通科目、社会創成専攻コース専門科目・コース基盤科目、社会実践科目の中から4単位（選択必修） 上記を含め30単位以上を修得し、修士論文審査に合格すること。						1学年の学期区分				2期				
						1学期の授業期間				14週				
						1時限の授業時間				100分				

教育課程等の概要															
【参考】人間社会科学研究科社会創成専攻地域経済コース															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共同研究 科目	人間社会科学特論	1前	2			○			7	2	2			兼1	オムニバス
	小計（1科目）	—	2	0	0	—	—	—	7	2	2	0	0	兼1	—
社会 実践 科目	公共政策実践演習	1・2後		2			○		1						
	経済政策実践演習	1後		2			○			1					
	福祉経済実践演習	1前・後		2		○	○		1						※講義
	地域資料実践演習Ⅰ	1・2前		2			○		1						
	地域資料実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	日本史学実践演習	1後		2			○			1					
	都市問題実践演習	1前		2			○			1					
	英語実践演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	英語実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	フランス語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	フランス語実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	ドイツ語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	ドイツ語実践演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	中国語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	中国語実践演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	東洋史学実践演習Ⅰ	1後		2			○	○	1						隔年 ※実習
	東洋史学実践演習Ⅱ	1後		2			○	○	1						隔年 ※実習
	異文化交流Ⅰ	1前		2			○	○		1	2				集中 ※演習 オムニバス・ 一部共同
	異文化交流Ⅱ	1前		2			○	○	1						集中 ※演習
	異文化交流Ⅲ	1後		2			○	○	2						集中 ※演習
	異文化交流Ⅳ	1前		2			○	○		1					集中 ※演習
	対人支援実践演習	1後		2			○		2	3	1	2			共同
	臨床心理地域援助実践演習Ⅰ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2前		2			○							兼1	
	臨床心理地域援助実践演習Ⅱ	2前		2			○							兼10	オムニバス
	社会統計学実践演習	1通		2		○	○	○	1						※講義・実習
	言語データ分析実践演習	1後		2			○		1						
	人間科学データサイエンス実践演習	1・2前		2			○		4	4	3	1			
	人間社会科学データサイエンス実践演習	1後		2			○							兼1	
	インターンシップ	1通		2			○		26	32	10	3			
小計（29科目）	—		0	58	0	—	—	26	32	10	3	0	兼11	—	
連携 科目 間	インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅠ	1通	1				○		26	32	10	3			共同
	インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅡ	2通	1				○		26	32	10	3			共同
小計（2科目）	—		2	0	0	—	—	26	32	10	3	0		—	
科指研 目導	地域経済演習	2通	4				○		4	3					
	小計（1科目）	—	4	0	0	—	—	4	3	0	0	0		—	
基 目 盤 科 ス	地域政策基礎論	1前	2			○	○		1	1					オムニバス ※演習
	小計（1科目）	—	2	0	0	—	—	1	1	0	0	0		—	
	経済理論特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○		1						※演習
	国際経済特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○			1					※演習
	財政学特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○		1						※演習

教育課程等の概要															
【参考】人間社会科学研究科社会創成専攻地域経済コース															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース専門科目	経済政策特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○			1					※演習
	地域経済特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○			1					※演習
	情報経済特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○		1						※演習
	福祉経済特殊講義Ⅰ	1前・後		2		○	○		1						※演習
	経済理論特殊講義Ⅱ	2前・後		2		○	○		1						※演習
	国際経済特殊講義Ⅱ	2前・後		2		○	○			1					※演習
	情報経済特殊講義Ⅱ	1後		2		○	○		1						※演習
	経済理論特別演習	1前・後		2			○		1						
	経済政策特別演習	1前・後		2		○	○			1					※講義
	財政学特別演習	1前・後		2		○	○		1						※講義
	国際経済特別演習	1前・後		2		○	○			1					※講義
	情報経済特別演習	1前・後		2			○		1						
	地域経済特別演習	1前・後		2		○	○			1					※講義
	福祉経済特別演習	1前・後		2		○	○		1						※講義
小計（17科目）		—	0	34	0	—			4	3	0	0	0		—
大学院共通科目	研究力とキャリアデザイン	1・2前		1		○								兼1	
	研究と倫理	1・2前		1		○	○							兼1	※演習
	学際プレゼンテーション入門	1・2前		1		○	○							兼1	※講義
	小計（3科目）		—	0	3	0	—			0	0	0	0	0	兼2
合計（54科目）		—	10	95	0	—			26	32	10	3	0	兼13	—
学位又は称号	修士（経済学）		学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
【修了要件】 研究科共通科目：「人間社会科学特論」2単位（必修） 社会実践科目：4単位（選択必修） コース基盤科目：2単位（必修） コース専門科目：10単位（選択必修） コース関連携科目：4単位（「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅠ」1単位、「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅡ」1単位は必修。他コースのコース専門科目から2単位選択必修） 研究指導科目：4単位（必修） 展開科目：大学院共通科目、社会創成専攻コース専門科目・コース基盤科目、社会実践科目の中から4単位（選択必修） 上記を含め30単位以上を修得し、修士論文審査に合格すること。							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		14週						
							1時限の授業時間		100分						

教 育 課 程 等 の 概 要

【参 考】人間社会科学研究科社会創成専攻人文社会コース

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通研究科	人間社会科学特論	1前	2			○			7	2	2			兼1	オムニバス
	小計（1科目）	—	2	0	0	—	—	—	7	2	2	0	0	兼1	—
社会実践科目	公共政策実践演習	1・2後		2			○		1						
	経済政策実践演習	1後		2			○			1					
	福祉経済実践演習	1前・後		2		○	○		1						※講義
	地域資料実践演習Ⅰ	1・2前		2			○		1						
	地域資料実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	日本史学実践演習	1後		2			○			1					
	都市問題実践演習	1前		2			○			1					
	英語実践演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	英語実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	フランス語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	フランス語実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	ドイツ語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	ドイツ語実践演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	中国語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	中国語実践演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	東洋史学実践演習Ⅰ	1後		2			○	○		1					隔年 ※実習
	東洋史学実践演習Ⅱ	1後		2			○	○		1					隔年 ※実習
	異文化交流Ⅰ	1前		2			○	○		1	2				集中 ※演習 オムニバス・一部共同
	異文化交流Ⅱ	1前		2			○	○		1					集中 ※演習
	異文化交流Ⅲ	1後		2			○	○		2					集中 ※演習
	異文化交流Ⅳ	1前		2			○	○		1					集中 ※演習
	対人支援実践演習	1後		2			○			2	3	1	2		共同
	臨床心理地域援助実践演習Ⅰ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2前		2			○							兼1	
臨床心理地域援助実践演習Ⅱ	2前		2			○							兼10	オムニバス	
社会統計学実践演習	1通		2		○	○	○		1					※講義・実習	
言語データ分析実践演習	1後		2			○			1						
人間科学データサイエンス実践演習	1・2前		2			○			4	4	3	1			
人間社会科学データサイエンス実践演習	1後		2			○							兼1		
インターンシップ	1通		2			○			26	32	10	3			
小計（29科目）	—		0	58	0	—	—	—	26	32	10	3	0	兼11	—
連携科目	インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅠ	1通	1				○		26	32	10	3			共同
	インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅡ	2通	1				○		26	32	10	3			共同
	小計（2科目）	—	2	0	0	—	—	—	26	32	10	3	0		—
科指研目導	人文社会演習	2通	4				○		16	21	5	1			
	小計（1科目）	—	4	0	0	—	—	—	16	21	5	1	0		—
基目盤科	人文社会基礎論	1後	2			○	○		3	4	2				オムニバス ※演習
	小計（1科目）	—	2	0	0	—	—	—	3	4	2	0	0		—
	日本文学特殊講義ⅠA	1前		2		○	○			1					※演習
	日本文学特殊講義ⅠB	1後		2		○	○			1					
	日本文学特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○		1						
	日本文学特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○		1						

教 育 課 程 等 の 概 要

【参 考】人間社会科学研究科社会創成専攻人文社会コース

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
コ ー ス 専 門 科 目	日本文学特殊講義ⅢA	1前		2		○			1						
	日本文学特殊講義ⅢB	1後		2		○			1						
	日本文学特別演習ⅠA	1前		2				○		1					
	日本文学特別演習ⅠB	1後		2				○		1					
	日本文学特別演習ⅡA	1・2前		2				○		1					
	日本文学特別演習ⅡB	1・2後		2				○		1					
	日本文学特別演習ⅢA	1前		2				○		1					
	日本文学特別演習ⅢB	1後		2				○		1					
	日本語学特殊講義ⅠA	1・2前		2			○	○		1					隔年※演習
	日本語学特殊講義ⅠB	1・2後		2			○	○		1					隔年※演習
	日本語学特殊講義ⅡA	1前		2			○	○			1				隔年※演習
	日本語学特殊講義ⅡB	1後		2			○	○			1				隔年※演習
	日本語学特別演習ⅠA	1・2前		2					○	1					隔年
	日本語学特別演習ⅠB	1・2後		2					○	1					隔年
	日本語学特別演習ⅡA	1前		2					○		1				隔年
	日本語学特別演習ⅡB	1後		2					○		1				隔年
	中国文学特殊講義ⅠA	1・2前		2			○			1					
	中国文学特殊講義ⅠB	1・2後		2			○			1					
	中国文学特殊講義ⅡA	1前		2			○				1				
	中国文学特殊講義ⅡB	1後		2			○				1				
	中国文学特別演習A	1前		2					○		1				
	中国文学特別演習B	1後		2					○		1				
	中国語学特別演習A	1・2前		2					○	1					
	中国語学特別演習B	1・2後		2					○	1					
	イギリス文学特殊講義A	1前		2			○				1				
	イギリス文学特殊講義B	1後		2			○				1				
	アメリカ文学特殊講義A	1・2前		2			○	○				1			※演習
	アメリカ文学特殊講義B	1・2後		2			○	○				1			※演習
	アメリカ文化特殊講義A	1・2前		2			○	○				1			※演習
	アメリカ文化特殊講義B	1・2後		2			○	○				1			※演習
	英語学特殊講義ⅠA	1前		2			○	○			1				※演習
	英語学特殊講義ⅠB	1後		2			○	○			1				※演習
	英語学特殊講義ⅡA	1前		2			○	○			1				※演習
	英語学特殊講義ⅡB	1後		2			○	○			1				※演習
	イギリス文学特別演習A	1前		2			○	○			1				※講義
	イギリス文学特別演習B	1後		2			○	○			1				※講義
	アメリカ文学特別演習A	1・2前		2					○			1			
	アメリカ文学特別演習B	1・2後		2					○			1			
	アメリカ文化特別演習A	1・2前		2					○			1			
	アメリカ文化特別演習B	1・2後		2					○			1			
	英語学特別演習A	1前		2					○		1				
	英語学特別演習B	1後		2					○		1				
	フランス文化特殊講義A	1前		2			○	○			1				※演習
	フランス文化特殊講義B	1後		2			○	○		1					※演習
	フランス文化特別演習A	1前		2					○		1				
フランス文化特別演習B	1後		2					○		1					
ドイツ文化特殊講義A	1前		2			○	○			1				※演習	
ドイツ文化特殊講義B	1後		2			○	○			1				※演習	
ドイツ文化特別演習A	1前		2					○		1					
ドイツ文化特別演習B	1後		2					○		1					
哲学特殊講義ⅠA	1前		2			○					1				
哲学特殊講義ⅠB	1後		2			○					1				

教 育 課 程 等 の 概 要

【参 考】人間社会科学研究科社会創成専攻人文社会コース

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース専門科目	哲学特殊講義ⅡA	1前		2		○				1					
	哲学特殊講義ⅡB	1後		2		○				1					
	哲学特別演習ⅠA	1前		2			○				1				
	哲学特別演習ⅠB	1後		2			○				1				
	哲学特別演習ⅡA	1前		2			○			1					
	哲学特別演習ⅡB	1後		2			○			1					
	芸術学特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○			1					※演習
	芸術学特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○			1					
	芸術学特殊講義ⅡA	1前		2		○	○			1					※演習
	芸術学特殊講義ⅡB	1後		2		○	○			1					※演習
	芸術学特別演習ⅠA	1・2前		2		○	○			1					※講義
	芸術学特別演習ⅠB	1・2後		2		○	○			1					※講義
	芸術学特別演習ⅡA	1前		2			○			1					
	芸術学特別演習ⅡB	1後		2			○			1					
	文化交流論特殊講義ⅠA	1・2前		2		○	○			1					隔年 ※演習
	文化交流論特殊講義ⅠB	1・2後		2		○	○			1					隔年 ※演習
	文化交流論特殊講義ⅡA	1・2前		2		○	○			1					隔年 ※演習
	文化交流論特殊講義ⅡB	1・2後		2		○	○			1					隔年 ※演習
	文化交流論特別演習ⅠA	1前		2			○			1					
	文化交流論特別演習ⅠB	1後		2			○			1					
	文化交流論特別演習ⅡA	1前		2			○			1					
	文化交流論特別演習ⅡB	1後		2			○			1					
	社会学特殊講義A	1前		2			○			1					
	社会学特殊講義B	1後		2			○			1					
	社会学特別演習ⅠA	1前		2			○	○		1					※講義
	社会学特別演習ⅠB	1後		2			○	○		1					※講義
	社会学特別演習ⅡA	1前		2			○	○			1				※講義
	社会学特別演習ⅡB	1後		2			○	○			1				※講義
	社会学特別演習ⅢA	1前		2			○	○		1					※講義
	社会学特別演習ⅢB	1後		2			○	○		1					※講義
	地理学特殊講義Ⅰ	1後		2			○	○			1				※演習
	地理学特殊講義ⅡA	1前		2			○	○			1				※演習
	地理学特殊講義ⅡB	1後		2			○	○			1				※演習
	地理学特別演習A	1前		2				○			1				
	地理学特別演習B	1後		2				○			1				
	地理情報システム特別実習	1通		2					○		1				
	文化人類学特殊講義ⅠA	1前		2			○	○		1	1				※演習
	文化人類学特殊講義ⅠB	1後		2			○	○		1	1				※演習
	文化人類学特別演習A	1前		2				○			1				
	文化人類学特別演習B	1後		2				○			1				
	考古学特殊講義Ⅰ	1前		2			○				1				
	考古学特殊講義Ⅱ	1後		2			○			1					
	考古学特殊講義Ⅲ	1前		2			○				1				
	考古学特別実習	1前		2					○	1	2				
	考古学特別演習Ⅰ	1後		2				○			1				
考古学特別演習Ⅱ	1前		2				○		1						
考古学特別演習Ⅲ	1後		2				○			1					
日本史学特殊講義Ⅰ-1	1・2前		2			○			1						
日本史学特殊講義Ⅰ-2	1・2後		2			○			1						
日本史学特殊講義Ⅱ-1	1前		2			○			1						
日本史学特殊講義Ⅱ-2	1後		2			○			1						
日本史学特殊講義Ⅲ-1	1後		2			○				1					

教 育 課 程 等 の 概 要

【参 考】人間社会科学研究科社会創成専攻人文社会コース

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース専門科目	日本史学特殊講義Ⅲ-2	1後		2		○				1					
	日本史学特別演習ⅠA-1	1・2前		2			○		1						
	日本史学特別演習ⅠA-2	1・2後		2			○		1						
	日本史学特別演習ⅠB-1	1・2前		2			○		1						
	日本史学特別演習ⅠB-2	1・2後		2			○		1						
	日本史学特別演習ⅡA-1	1前		2			○		1						
	日本史学特別演習ⅡA-2	1後		2			○		1						
	日本史学特別演習ⅡB-1	1後		2			○		1						
	日本史学特別演習ⅡB-2	1後		2			○		1						
	日本史学特別演習ⅢA-1	1前		2			○			1					
	日本史学特別演習ⅢA-2	1前		2			○			1					
	日本史学特別演習ⅢB-1	1前		2			○			1					
	日本史学特別演習ⅢB-2	1後		2			○			1					
	東洋史学特殊講義Ⅰ-1	1前		2		○	○		1						※演習
	東洋史学特殊講義Ⅰ-2	1後		2		○	○		1						※演習
	東洋史学特殊講義Ⅱ-1	1前		2		○	○		1						※演習
	東洋史学特殊講義Ⅱ-2	1後		2		○	○		1						※演習
	東洋史学特別演習ⅠA-1	1前		2			○		1						
	東洋史学特別演習ⅠA-2	1後		2			○		1						
	東洋史学特別演習ⅠB-1	2前		2			○		1						
	東洋史学特別演習ⅠB-2	2後		2			○		1						
	東洋史学特別演習ⅡA-1	1前		2			○		1						
	東洋史学特別演習ⅡA-2	1後		2			○		1						
	西洋史学特殊講義Ⅰ-1	1・2前		2		○	○		1						※演習
	西洋史学特殊講義Ⅰ-2	1・2後		2		○	○		1						※演習
	西洋史学特別演習ⅠA-1	1・2前		2			○		1						
	西洋史学特別演習ⅠA-2	1・2後		2			○		1						
	西洋史学特別演習ⅠB-1	1・2前		2			○		1						
	西洋史学特別演習ⅠB-2	1・2後		2			○		1						
	西洋史学特別演習ⅡA-1	1・2前		2			○		1						
	西洋史学特別演習ⅡA-2	1・2後		2			○		1						
	記録史料学特殊講義Ⅰ	1前		2		○			1						
	記録史料学特殊講義Ⅱ	1前		2		○				1					
	アーカイブズ管理論特殊講義Ⅰ	1前		2		○	○			1					※演習
	アーカイブズ管理論特殊講義Ⅱ	1後		2		○	○			1					※演習
	アーカイブズ学理論特殊講義Ⅰ	1前		2		○	○			1					※演習
	アーカイブズ学理論特殊講義Ⅱ	1後		2		○	○			1					※演習
	アーカイブズ学特殊講義	1前		2		○				1					
	アーカイブズ学特別演習A	1後		2		○	○			1				兼2	※講義
	アーカイブズ学特別演習B	1後		2		○	○			1					※講義
アーカイブズ学特別実習	1通		2				○		1						
資料保存論	1後		2		○								兼2		
社会福祉学特殊講義Ⅰ	1前		2		○	○			1					※演習	
社会福祉学特殊講義Ⅱ	1前		2		○	○			1					※演習	
社会福祉学特殊講義Ⅲ	1後		2		○	○				1				※演習	
社会福祉学特殊講義Ⅳ	1後		2		○	○		1						※演習	
社会福祉学特殊講義Ⅴ	1前		2		○	○		1						※演習	
社会福祉学特殊講義Ⅵ	1前		2		○	○					1			※演習	
社会福祉学特別演習ⅠA	1前		2			○			1						
社会福祉学特別演習ⅠB	1後		2			○			1						
社会福祉学特別演習ⅡA	1前		2			○			1						
社会福祉学特別演習ⅡB	1後		2			○			1						

教育課程等の概要															
【参考】人間社会科学研究科社会創成専攻人文社会コース															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース 専門科目	社会福祉学特別演習ⅢA	1前		2			○				1				
	社会福祉学特別演習ⅢB	1後		2			○			1					
	社会福祉学特別演習ⅣA	1前		2			○		1						
	社会福祉学特別演習ⅣB	1後		2			○		1						
	社会福祉学特別演習ⅤA	1前		2			○		1						
	社会福祉学特別演習ⅤB	1後		2			○		1						
	社会福祉学特別演習ⅥA	1前		2			○					1			
	社会福祉学特別演習ⅥB	1後		2			○					1			
小計（168科目）		—	0	336	0	—			16	21	5	1	0	兼4	—
大学院 科目 共通	研究力とキャリアデザイン	1・2前		1			○							兼1	
	研究と倫理	1・2前		1			○	○						兼1	※演習
	学際プレゼンテーション入門	1・2前		1			○	○						兼1	※講義
	小計（3科目）		—	0	3	0	—			0	0	0	0	0	兼2
合計（205科目）		—	10	397	0	—			26	32	10	3	0	兼17	—
学位又は称号	修士(人文社会科学)		学位又は学科の分野			文学関係 社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
【修了要件】 研究科共通科目：「人間社会科学特論」2単位（必修） 社会実践科目：4単位（選択必修） コース基盤科目：2単位（必修） コース専門科目：10単位（選択必修） コース間連携科目：4単位（「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅠ」1単位、「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅡ」1単位は必修。他コースのコース専門科目から2単位選択必修） 研究指導科目：4単位（必修） 展開科目：大学院共通科目、社会創成専攻コース専門科目・コース基盤科目、社会実践科目の中から4単位（選択必修） 上記を含め30単位以上を修得し、修士論文審査に合格すること。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			14週					
							1時限の授業時間			100分					

教育課程等の概要															
【参考】人間社会科学研究科社会創成専攻健康・行動科学コース															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	人間社会科学特論	1前	2			○			7	2	2			兼1	オムニバス
	小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	7	2	2	0	0	兼1	—
社会実践科目	公共政策実践演習	1・2後		2			○		1						
	経済政策実践演習	1後		2			○			1					
	福祉経済実践演習	1前・後		2		○	○		1						※講義
	地域資料実践演習Ⅰ	1・2前		2			○		1						
	地域資料実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	日本史学実践演習	1後		2			○			1					
	都市問題実践演習	1前		2			○			1					
	英語実践演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	英語実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	フランス語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	フランス語実践演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	ドイツ語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	ドイツ語実践演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	中国語実践演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	中国語実践演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	東洋史学実践演習Ⅰ	1後		2			○	○	1						隔年 ※実習
	東洋史学実践演習Ⅱ	1後		2			○	○	1						隔年 ※実習
	異文化交流Ⅰ	1前		2			○	○		1	2				集中 ※演習 オムニバス・一部共同
	異文化交流Ⅱ	1前		2			○	○	1						集中 ※演習
	異文化交流Ⅲ	1後		2			○	○	2						集中 ※演習
異文化交流Ⅳ	1前		2			○	○		1					集中 ※演習	
対人支援実践演習	1後		2			○		2	3	1	2			共同	
臨床心理地域援助実践演習Ⅰ(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2前		2			○							兼1		
臨床心理地域援助実践演習Ⅱ	2前		2			○							兼10	オムニバス	
社会統計学実践演習	1通		2			○	○	○	1					※講義・実習	
言語データ分析実践演習	1後		2				○		1						
人間科学データサイエンス実践演習	1・2前		2				○		4	4	3	1			
人間社会科学データサイエンス実践演習	1後		2				○						兼1		
インターンシップ	1通		2				○		26	32	10	3			
小計(29科目)	—		0	58	0	—	—	—	26	32	10	3	0	兼11	—
連携科目間	インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅠ	1通	1				○		26	32	10	3			共同
	インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅡ	2通	1				○		26	32	10	3			共同
	小計(2科目)	—	2	0	0	—	—	—	26	32	10	3	0		—
科指研目導究	健康・行動科学演習	2通	4				○		4	5	3	2			
	小計(1科目)	—	4	0	0	—	—	—	4	5	3	2	0		—
基目盤科ス	健康・行動科学基礎論	1後	2			○	○		4	5	3	2			オムニバス ※演習
	小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	4	5	3	2	0		—

教育課程等の概要															
【参考】人間社会科学研究科社会創成専攻健康・行動科学コース															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース専門科目	健康科学特論Ⅰ	1前		2		○	○			1	1	1			オムニバス ※演習
	健康科学特論Ⅱ	1前		2		○	○		2	2		1			オムニバス ※演習
	食品機能・加工学特論	1・2後		2		○			1						兼3 オムニバス
	臨床・社会・環境医学と高度情報学の接点	1・2通		2		○	○		1	1					兼6 オムニバス
	心理学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1	1				オムニバス
	心理学特論Ⅱ	1前		2		○			1	1	1				オムニバス
	健康科学特別演習ⅠA	1前		2			○		3	2	1	1			
	健康科学特別演習ⅠB	1後		2			○		3	2	1	1			
	健康科学特別演習ⅡA	2前		2			○		3	2	1	1			
	健康科学特別演習ⅡB	2後		2			○		3	2	1	1			
	精神保健学特別演習ⅠA	1前		2			○			1		1			
	精神保健学特別演習ⅠB	1後		2			○			1		1			
	精神保健学特別演習ⅡA	2前		2			○			1		1			
	精神保健学特別演習ⅡB	2後		2			○			1		1			
	心理学特別演習ⅠA	1前		2			○			1	2	2			
	心理学特別演習ⅠB	1後		2			○			1	2	2			
	心理学特別演習ⅡA	2前		2			○			1	2	2			
	心理学特別演習ⅡB	2後		2			○			1	2	2			
小計(18科目)		—	0	36	0				4	5	3	2	0	兼9	—
大学院共通	研究力とキャリアデザイン	1・2前		1		○									兼1
	研究と倫理	1・2前		1		○	○								兼1 ※演習
	学際プレゼンテーション入門	1・2前		1		○	○								兼1 ※講義
小計(3科目)		—	0	3	0				0	0	0	0	0	兼2	—
合計(55科目)			—	10	97	0			26	32	10	3	0	兼22	—
学位又は称号	修士(人間科学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)、文学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
【修了要件】 研究科共通科目:「人間社会科学特論」2単位(必修) 社会実践科目:4単位(選択必修) コース基盤科目:2単位(必修) コース専門科目:10単位(選択必修) コース関連科目:4単位(「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅠ」1単位、「インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅡ」1単位は必修。他コースのコース専門科目から2単位選択必修) 研究指導科目:4単位(必修) 展開科目:大学院共通科目、社会創成専攻コース専門科目・コース基盤科目、社会実践科目の中から4単位(選択必修) 上記を含め30単位以上を修得し、修士論文審査に合格すること。						1学年の学期区分			2期						
						1学期の授業期間			14週						
						1時限の授業時間			100分						

教育課程等の概要																
人間社会科学部臨床心理学専攻																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	人間社会科学特論	1前	2			○				1					兼11 オムニバス	
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	1	0	0	0	兼11	—	
社会実践科目	公共政策実践演習	1・2後		2			○								兼1	※講義
	経済政策実践演習	1後		2			○								兼1	
	福祉経済実践演習	1前・後		2		○	○								兼1	
	地域資料実践演習Ⅰ	1・2前		2			○								兼1	
	地域資料実践演習Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	日本史学実践演習	1後		2			○								兼1	
	都市問題実践演習	1前		2			○								兼1	
	英語実践演習Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	英語実践演習Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	フランス語実践演習Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	フランス語実践演習Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	ドイツ語実践演習Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	ドイツ語実践演習Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	中国語実践演習Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	中国語実践演習Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	東洋史学実践演習Ⅰ	1後		2			○	○							兼1 隔年 ※実習	
	東洋史学実践演習Ⅱ	1後		2			○	○							兼1 隔年 ※実習	
	異文化交流Ⅰ	1前		2			○	○							兼3 集中 ※演習 オムニバス・一部共同	
	異文化交流Ⅱ	1前		2			○	○							兼1 集中 ※演習	
	異文化交流Ⅲ	1後		2			○	○							兼2 集中 ※演習	
	異文化交流Ⅳ	1前		2			○	○							兼1 集中 ※演習	
	対人支援実践演習	1後		2			○	○							兼8 共同	
	臨床心理地域援助実践演習Ⅰ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2前		2			○				1					
	臨床心理地域援助実践演習Ⅱ	2前		2				○		2	3	4			兼1 オムニバス	
	社会統計学実践演習	1通		2			○	○	○						兼1 ※講義・実習	
	言語データ分析実践演習	1後		2				○							兼1	
	人間科学データサイエンス実践演習	1・2前		2				○							兼12	
	人間社会科学データサイエンス実践演習	1後		2				○							兼1	
	インターンシップ	1通		2				○							兼71	
小計（29科目）	—		0	58	0	—			2	3	4	0	0	兼73	—	
導研究目	臨床心理学課題研究Ⅰ	2前	2				○		2	3	4			兼1		
	臨床心理学課題研究Ⅱ	2後	2				○		2	3	4			兼1		
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			2	3	4	0	0	兼1	—	
盤専攻基	臨床心理学特論Ⅰ	1前	2			○	○			1					※演習	
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	1	0	0	0		—	

教 育 課 程 等 の 概 要

人間社会科学部臨床心理学専攻

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床心理学の理論と実践科目群	臨床心理学特論Ⅱ	1後		2		○	○		1						※演習
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1前	2			○	○		1						※演習
	臨床心理面接特論Ⅱ	1後		2		○	○		1						※演習
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1前	2				○		1						
	臨床心理査定演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1前	1					○		1					兼1 共同（一部）
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1後		1				○		2	1	1			兼1
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	2前	1					○		2	2	4			
	臨床心理実習Ⅱ	2後		1				○			2	3			
	投影法特論	1後		2		○									兼1 集中
	心理療法特論	1後		2		○	○								兼1 集中
	臨床心理学研究法特論	1前		2		○	○			1					※演習
	心理統計法特論	1後		2		○	○								兼1 集中
小計（13科目）	—	—	6	16	0				2	3	4	0	0	兼4	—
臨床心理地域援助の理論と実践科目群	発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1前		2		○	○				1				※演習
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1前		2		○	○								兼1 ※演習
	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1前		2		○	○								兼1 ※演習
	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1前		2		○	○			1					※演習
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1後		2		○									兼1 集中
	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1前		2		○	○								兼1 集中
	心の健康教育に関する理論と実践	1前		2		○	○								兼1 集中
	臨床心理地域実践実習Ⅰ（心理実践実習）	1前	1					○	2	3	4				
	臨床心理地域実践実習Ⅱ（心理実践実習）	1後	1					○	2	3	4				
	臨床心理地域実践実習Ⅲ（心理実践実習）	2後		1				○	2	3	4				
小計（10科目）	—	—	2	15	0				2	3	4	0	0	兼5	—
大学院共通科目	研究力とキャリアデザイン	1・2前		1		○									兼1
	研究と倫理	1・2前		1		○	○								兼1 ※演習
	学際プレゼンテーション入門	1・2前		1		○	○								兼1 ※講義
	小計（3科目）	—	—	0	3	0			0	0	0	0	0	0	兼2
合計（59科目）			—	16	92	0			2	3	4	0	0	兼82	—
学位又は称号		修士（臨床心理学）			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
【了了要件】 研究科共通科目：「人間社会科学特論」2単位（必修） 社会実践科目：4単位（選択必修） 専攻基盤科目：2単位（必修） 専攻専門科目：18単位（臨床心理学の理論と実践科目群から必修6単位（「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）」2単位、「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）」2単位、「臨床心理基礎実習Ⅰ」1単位、「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）」1単位）と選択必修4単位、臨床心理地域援助の理論と実践科目群から必修2単位（「臨床心理地域実践実習Ⅰ（心理実践実習）」1単位、「臨床心理地域実践実習Ⅱ（心理実践実習）」1単位）と選択必修6単位） 研究指導科目：4単位（必修） 上記を含め30単位以上を修得し、修士論文審査に合格すること。							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		14週						
							1時限の授業時間		100分						

基礎となる学部の教育課程等の概要

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要																
法文学部法経学科																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	外国語（英語）	英語ⅠA	1前	1			○								兼7	クラス別
		英語ⅠB	1後	1			○								兼6	クラス別
		英語ⅡA	1後	1			○								兼8	クラス別
		英語ⅡB	2前	1			○								兼7	クラス別
		英語ⅢA	1・2・3・4前		1		○								兼1	
		英語ⅢB	1・2・3・4後		1		○								兼1	
		英語Ⅳ	1・2・3・4前後		1		○								兼2	クラス別
	小計（7科目）	—	4	3	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼14		
	外国語（初修外国語）	ドイツ語Ⅰ ※	1前		2			○							兼2	週2回 クラス別
		ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼3	クラス別
		フランス語Ⅰ ※	1前		2			○							兼2	週2回
		フランス語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼2	
		中国語Ⅰ ※	1前		2			○							兼3	週2回 クラス別
		中国語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼3	クラス別
		韓国・朝鮮語Ⅰ ※	1前		2			○							兼3	週2回 クラス別
	韓国・朝鮮語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼3	クラス別	
	小計（8科目）	—	0	12	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼10		
	健康・スポーツ／文化・芸術	健康スポーツ ※	1前	2				○							兼1	
		スポーツ実習	1・2・3・4前後		1				○						兼1	
		芸術文化Ⅰ（音楽） ※	1・2・3・4前後	2			○								兼1	
		芸術文化Ⅰ（美術） ※	1・2・3・4後	2			○								兼1	
芸術文化Ⅰ（島根の祭りと芸能） ※		1・2・3・4前後	2			○								兼1		
小計（5科目）	—	8	1	0	—	—	—						兼5			
情報科学	情報科学	1前	2			○	※				1	1		兼1	講義11 演習3	
	小計（1科目）	—	2	0	0	—	—	—			1	1		兼1		
入門科目（人文社会科学分野）	論理学	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	行為と価値	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	自己と世界	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	心の世界	1・2・3・4前		2		○			1							
	心の不思議	1・2・3・4前		2		○				1						
	日本人の宗教と死生観	1・2・3・4前		2		○			1						地域志向科目	
	異文化との出会い	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	東アジアの歴史と文化	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	ユーラシアの歴史と民族	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	人類史と考古学	1・2・3・4後		2		○								兼1	地域志向科目	
	小説の構造	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	日本語のしくみ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	王朝の文学	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	生成文法入門	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	日常生活と犯罪学	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	教養としての政治	1・2・3・4前		2		○								兼1		
日本経済を見る眼	1・2・3・4後		2		○								兼1			
世界経済を見る眼	1・2・3・4前		2		○								兼1			
国際農村開発概論	1・2・3・4後		2		○								兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																
法文学部法経学科																
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学共通 教育科目	入門科目 (人文社会科学分野)	現代経済へのアプローチ		2		○									兼1	
		地図の歴史	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		基礎社会学 I	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		知ることと生きること	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		心の形成	1・2・3・4前	2		○				1		1			兼1	オムニバス
		現代芸術の世界	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		現代芸術の思想	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		歴史と文芸	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		東アジアのこことばと文学	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		古代出雲の考古学	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		山陰の歴史-古代・中世-	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		山陰の歴史-近世・近現代-	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		考古学からみた古代山陰の世界	1・2・3・4後	2		○									兼1	地域志向科目
		企業と法	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		現代社会と法・人権	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		情報化社会と経済	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		国際化のなかの地域経済	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		魚と日本人	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		基礎社会学 II	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		地域開発と環境	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		フランスの社会と文化	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		考古学からみた韓半島の先史・古代文化	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		山と日本人	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		山陰のこことば	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		大学教育論 -島根大学と社会-	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		小計 (44科目)		—	0	88	0	—			3	1	1	0	0	兼37
全学共通 教育科目	入門科目 (自然科学分野)	初級微分積分学 I	1・2・3・4前	2		○								兼1		
		初級線形代数学 I	1・2・3・4前	2		○								兼1		
		実用微分積分学 I A	3・4前	2		○								兼1		
		実用微分積分学 I	1・2前	2		○								兼1		
		実用微分積分学 II A	3・4後	2		○								兼1		
		実用微分積分学 II	1・2後	2		○								兼1		
		実用線形代数学 I A	3・4前	2		○								兼1		
		実用線形代数学 I	1・2前	2		○								兼1		
		実用線形代数学 II A	3・4後	2		○								兼1		
		実用線形代数学 II	1・2後	2		○								兼1		
		実験データ解析入門	1・2・3・4後	2		○								兼1		
		物理学で見る自然界の仕組み -力学・電磁気学と熱力学	1・2・3・4前	2		○								兼1		
		電気と磁気の物理学	1・2・3・4前	2		○								兼1		
		物理のための数学入門	1・2・3・4前	2		○								兼1		
		反応の化学	1・2・3・4後	2		○								兼1		
		環境の化学	1・2・3・4前	2		○								兼1		
		高分子と有機分子の化学	1・2・3・4前	2		○								兼1		
		プレートテクトニクス	1・2・3・4後	2		○								兼1		
		地球と人間生活	1・2・3・4前	2		○								兼1		
		計測のはなし	1・2・3・4後	2		○								兼1		
住まいの科学	1・2・3・4後	2		○								兼1				
エレクトロニクスのはなし	1・2・3・4前	2		○								兼1				
動物の世界	1・2・3後	2		○								兼1				

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																
法文学部法経学科																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学共通教育科目	入門科目 (自然科学分野)	植物の世界	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		動物の行動	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		物質と生命	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		数の世界	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		ヒトと栄養と生命	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		生体分子の世界	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		生命情報の科学	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		細胞生物学	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		地域開発と水環境	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		光環境と生物	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		生物多様性と環境保全	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		機械の歴史	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		電気・通信技術の歩み	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		生態学入門	1・2・3・4前	2			○								兼1	
	統計検定セミナー初級	1・2・3・4後	2			○								兼1		
	小計 (38科目)	—	0	76	0	—				0	0	0	0	0	兼31	
	入門科目 (学際分野)	スタートアップセミナー	1前		2			○							兼1	地域志向科目
		グローバルイシュー：国際社会が抱える課題と対応	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		グローバル・チャレンジ：海外留学・インターン・ボランティアへの道筋	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	小計 (3科目)	—	0	6	0	—				0	0	0	0	0	兼2	
	発展科目 (人文社会科学分野)	芸術学セミナー	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		歴史の中の日本とアジア	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		日本語の表現	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		英米の文学	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		アメリカ短篇小説を読む	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		ヨーロッパの言語文化Ⅰ	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		ヨーロッパの言語文化Ⅱ	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		中国文学における風土と人間	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		生涯発達の心理学	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		アカデミック・リスニングA	2・3・4前		2					○					兼1	
		アカデミック・リスニングB	2・3・4後		2					○					兼1	
		アカデミック・リーディングA	2・3・4前		2					○					兼1	
		アカデミック・リーディングB	2・3・4後		2					○					兼1	
アカデミック・スピーキングA		2・3・4前		2					○					兼1		
アカデミック・スピーキングB		2・3・4後		2					○					兼1		
アカデミック・ライティングA		2・3・4前		2					○					兼1		
アカデミック・ライティングB		2・3・4後		2					○					兼1		
国際文化情報A (英語圏)		1・2・3・4前		2					○					兼1		
国際文化情報B (英語圏)		1・2・3・4後		2					○					兼1		
国際文化情報C (英語圏)		2・3・4前		2					○					兼1		
国際文化情報D (英語圏)		2・3・4後		2					○					兼1		
グローバルビジネスコミュニケーションA		1・2・3・4前		2					○					兼1		
グローバルビジネスコミュニケーションB		1・2・3・4後		2					○					兼1		
上級TOEFLセミナーA	2・3・4前		2					○					兼1			
上級TOEFLセミナーB	2・3・4後		2					○					兼1			
中級英会話A	1・2・3・4前		2					○					兼1			
中級英会話B	1・2・3・4後		2					○					兼1			
異文化コミュニケーション入門A	1・2・3・4前		2					○					兼1			
異文化コミュニケーション入門B	1・2・3・4後		2					○					兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																
法文学部法経学科																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 教育 科目	教養 育成 科目 (人文 社会 科学 分野)	グローバルリテラシーセミナーⅠ	3・4前		2				○						兼1	
		グローバルリテラシーセミナーⅡ	3・4後		2				○						兼1	
		上級TOEICセミナーⅠ	2・3・4前		2				○						兼1	
		上級TOEICセミナーⅡ	2・3・4後		2				○						兼1	
		初級英会話A	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		初級英会話B	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		グローバルアンダースタンディングA	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		グローバルアンダースタンディングB	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		クロスカルチュラルアンダースタンディングA	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		クロスカルチュラルアンダースタンディングB	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		グローバルインタラクシオンA	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		グローバルインタラクシオンB	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		グローバル・パースペクティブ	2・3・4前		2				○						兼1	
		グローバル・リーダーシップ	3・4前		2				○						兼1	
		国際文化情報A(ドイツ語圏)	1・2・3・4前		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報B(ドイツ語圏)	1・2・3・4後		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報C(ドイツ語圏)	1・2・3・4前		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報D(ドイツ語圏)	1・2・3・4後		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報A(フランス語圏)	1・2・3・4前		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報B(フランス語圏)	1・2・3・4後		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報C(フランス語圏)	1・2・3・4前		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報D(フランス語圏)	1・2・3・4後		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報A(中国語圏)	1・2・3・4前後		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報B(中国語圏)	1・2・3・4前後		2				○						兼1	隔年
		中級中国語会話	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		中国語音声セミナー	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		中国留学セミナー	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		中国語検定セミナー	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		中級中国語表現法	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		現代中国語セミナーA	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		現代中国語セミナーB	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		中国語スキルアップセミナーA	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		中国語スキルアップセミナーB	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		ビジネス中国語A	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		ビジネス中国語B	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		国際文化情報A(韓国・朝鮮語圏)	1・2・3・4前		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報B(韓国・朝鮮語圏)	1・2・3・4後		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報C(韓国・朝鮮語圏)	1・2・3・4前		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報D(韓国・朝鮮語圏)	1・2・3・4後		2				○						兼1	隔年
		グローバル・アクティビティ	1・2・3・4通		2				○						兼1	
		英語海外研修A	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		英語海外研修B	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		英語海外研修F	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		英語海外研修G	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		英語海外研修H	1・2・3・4後		2				○						兼1	
異文化理解入門	1・2・3・4後		2				○						兼1			
留学のための英語による教養基礎(理系文系別)	1・2・3・4後		2				○						兼1			
ビジネス英語海外研修	1・2・3・4後		2				○						兼1			
フランス短期海外研修	1・2・3・4後		2				○						兼1			
大学で学ぶ世界史	1・2・3・4後		2				○						兼1			
アカデミック・ライティング	1・2前		2				○						兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																
法文学部法経学科																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 教育 科目	発展科目 (人文社会科学分野)	人間と教育	3・4前		2		○								兼1	地域志向科目 隔年
		むら興し・まち興し	3・4後		2		○								兼1	
		中国語海外研修A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		中国語海外研修C	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		中国語圏の歴史と文化	1・2・3・4通		2			○							兼1	
		韓国の文化と風土	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		現代中国を読む	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		漢文史料を読む	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		平和学	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		働く人の法知識	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		株式会社の経営と法	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		知的財産から見た法の世界	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		医療から見た法の世界	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		弁護士が語る大学生のための法律問題	1・2・3・4前後		2			○							兼1	
	消費生活と法	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	小計 (95科目)	—		0	190	0	—			0	0	0	0	0	兼35	
	発展科目 (自然科学分野)	物理学入門セミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1	地域志向科目
		エレクトロニクスセミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		物理学の世界	1後		2			○							兼1	
		遺伝子を考える	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		山陰の自然史	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		自然環境の復元	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		自然と語ろう	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		データ解析の数理	3・4前		2			○							兼1	
		物性科学のフロンティア	2・3・4後		2			○							兼1	
		たたらと現代製鋼	1・2・3・4通		2			○							兼1	
		生命現象	3・4前		2			○							兼1	
		生命科学の世界	3・4前		2			○							兼1	
		汽水域の科学 (入門編)	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		情報と地域—オープンソースと地域振興	2・3・4後		2			○							兼1	
	R u b yプログラミング	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	開発フレームワーク	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	山陰地域の自然災害	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	小計 (17科目)	—		0	34	0	—			0	0	0	0	0	兼11	
	発展科目 (学際分野)	くらしの中の製作技術	1・2・3・4前		2			○							兼1	地域志向科目
長寿社会の健康なくらし		1・2・3・4後		2			○							兼1		
人と職業		2・3・4後		2			○							兼1		
中山間地域フィールド演習		2・3・4通		3			○							兼1		
酒—一杯の酒から覗く学問の世界		3・4後		2			○							兼1		
死と人間		3・4前		2			○							兼1		
フィールドで学ぶ「斐伊川百科」		1・2・3・4前		2			○							兼1		
生活と健康		3・4前		2			○							兼1		
地域博物館へのいざない		1後		2			○							兼1		
島根学		1・2・3・4前		2			○							兼1		
環境問題通論		1・2・3・4前後		2			○							兼1		
環境教育フィールド科学		1・2・3・4前		2			○							兼1		
教育研究のための統計法		1・2・3・4前		2			○							兼1		
ジオパーク学入門		1・2・3・4前		2			○							兼1		
ジオパーク学各論	1・2・3・4後		2			○							兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																	
法文学部法経学科																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
全学 共通 教育 科目	発展 科目 (学際 分野)	ジオパーク学演習	2・3・4前	2				○							兼1		
		ワークショップスキル入門	1・2・3・4後	2				○							兼1		
		ものづくりと創造性	1・2・3・4前	2					○						兼1		
		教育から地域を魅せる	1・2・3・4前	2					○						兼1		
		グローバル課題解決型研修	1・2・3・4前	2						○					兼1		
		数理・データサイエンス入門	1・2・3・4前後	2											兼1		
		イノベーション創成基礎セミナーⅠ	1・2・3・4前後	2											兼1	地域志向科目	
		イノベーション創成基礎セミナーⅡ	1・2・3・4後	2											兼1	地域志向科目	
		グローバルイシュー実践海外研修	1・2・3・4後	2											兼1		
		海外課題解決型就業体験プログラム	1・2・3・4通	2											兼1		
	小計(25科目)	—	—	0	50	0			—		0	0	0	0	0	兼17	
	社会 人力 養成 科目	日本国憲法	1・2・3・4前	2					○							兼1	
		大学生の就職とキャリア	1・2・3・4前後	2					○							兼1	
		ジェンダー - 性を科学する -	1・2・3・4後	2					○							兼1	
		地域社会の生活と安全	1・2・3・4前	2					○							兼1	
		ジャーナリズムと地域社会	1・2・3・4後	2					○							兼1	
		ボランティアと障がい者支援	1・2・3・4前	2					○							兼1	地域志向科目
		障がい者支援の実際	1・2・3・4後	2					○							兼1	
		地域未来論	1・2・3・4後	2					○							兼1	
		地域課題解決プロジェクトA	2・3・4後	2					○							兼1	
		地域課題解決プロジェクトB	2・3・4後	2					○							兼1	
		地域協創インターンシップA	2・3・4後	2							○					兼1	
		地域協創インターンシップB	2・3・4後	2							○					兼1	
		地域協創インターンシップC	2・3・4後	2							○					兼1	
		地域社会と法Ⅰ：知識編	1・2・3・4前	2					○							兼1	
地域社会と法Ⅱ：実践編		1・2・3・4後	2					○							兼1		
困基で学ぶ考える力	1・2・3・4後	2					○							兼1			
事例ビジネス開発論 -社会構造の変化に対応する新しい価値の共創-	1・2・3・4後	2							○					兼1			
キャリアデザイン	1・2・3・4前後	2							○					兼1			
ビジネススキル入門	1・2前	2							○					兼1			
課題解決人材入門：東京圏と島根県の学生の対流・対話による未来の共創	1・2・3・4前後	2												兼1			
小計(20科目)	—	—	0	40	0			—		0	0	0	0	0	兼11	-	
学 科 共 通	法学入門	1前	2					○									
	政治・行政学入門	1前	2					○			1						
	経済学入門	1前	2					○			1						
	入門演習	1通	4						○								
	基礎演習	2前・後	2						○		3	2	1				
	専門演習Ⅰ	3通	4						○		4	5	3				
	専門演習Ⅱ	4通	4						○		4	5	4				
	キャリアプランニング	2前	1					○			4	3				兼6	
	小計(8科目)	-	-	21	0	0			-		4	6	4			兼6	-
法哲学	1後	2					○								兼1	集中	
法制史Ⅰ	3前	2					○							兼1	集中		
法制史Ⅱ	3後	2					○							兼1	集中		
憲法Ⅰ	1後	2					○			1							
憲法Ⅱ	1後	2					○			1							
憲法Ⅲ	3後	2					○			1							

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要														
法文学部法経学科														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
コース基礎 / 応用科目 (法学)	民法Ⅰ	1前		2		○					1			
	民法Ⅱ	1後		2		○					1			
	民法Ⅲ	2前		2		○							兼1	
	民法Ⅳ	3前		2		○					1			
	民法Ⅴ	3後		2		○								兼1
	民法Ⅵ	3後		2		○								兼1
	刑事法Ⅰ	1後		2		○					1			
	刑事法Ⅱ	2前		2		○					1			
	刑事法Ⅲ	2後		2		○					1			
	行政法Ⅰ	2前		2		○				1				
	行政法Ⅱ	2後		2		○				1				
	行政法Ⅲ	3後		2		○				1				
	企業法Ⅰ	2後		2		○				1				
	企業法Ⅱ	3前		2		○				1				
	企業法Ⅲ	3後		2		○								兼1
	民事手続法Ⅰ	3前		2		○								兼1 集中
	民事手続法Ⅱ	3後		2		○								兼1 集中
	民事保全・執行法	3後		2		○								兼1 集中
	刑事手続法Ⅰ	3前		2		○					1			
	刑事手続法Ⅱ	3後		2		○					1			
	労働法Ⅰ	3前		2		○								兼1
	労働法Ⅱ	3後		2		○								兼1
	社会保障法	3前		2		○				1				
	税財政法Ⅰ	3前		2		○						1		
	税財政法Ⅱ	3後		2		○						1		
	地方自治法	3後		2		○					1			
	経済法	3前		2		○								兼1
	知的財産法	3後		2		○								兼1 集中
	国際法	2前		2		○								兼1 集中
	政治学	1		2		○								兼1 集中
	行政学	2前		2		○				1				
	国際政治Ⅰ	3前		2		○								兼1 集中
国際政治Ⅱ	3後		2		○								兼1 集中	
NPO論	2後		2		○				1					
公共経営論	3後		2		○				1					
小計 (41科目)		-	0	82	0				-	1	5	4		兼9 -
専門教育	経済学概論	1後		2		○				1				
	ミクロ経済学	2前		2		○				1				
	マクロ経済学	2後		2		○				1				
	財政学Ⅰ	2前		2		○				1				
	財政学Ⅱ	2前		2		○				1				集中
	金融論Ⅰ	2前		2		○					1			
	金融論Ⅱ	2後		2		○					1			
	経済政策論Ⅰ	2前		2		○				1				
	経済政策論Ⅱ	2後		2		○				1				
	国際経済論Ⅰ	2前		2		○				1				

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要														
法文学部法経学科														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
コース基礎 / 応用科目 (経済学)	国際経済論Ⅱ	2後		2		○				1				
	経済システム論Ⅰ	3前		2		○			1					
	経済システム論Ⅱ	3後		2		○			1					
	情報経済論	2後		2		○			1					
	情報産業論	2前		2		○			1					
	地域経済論Ⅰ	3前		2		○				1				
	地域経済論Ⅱ	3後		2		○				1				
	環境経済論Ⅰ	3前		2		○								兼1 集中
	環境経済論Ⅱ	3後		2		○								兼1 集中
	福祉経済論Ⅰ	3前		2		○			1					
	福祉経済論Ⅱ	3後		2		○			1					
	地方財政論	3後		2		○			1					
	経済政策各論	3後		2		○				1				
	国際経済各論	3後		2		○				1				
	地域経済各論	3前		2		○				1				
	福祉経済各論	3前		2		○			1					
	経営学	2後		2		○					1			
	経済統計処理論	2後		2		○			1					
	証券論	2後		2		○				1				兼7 集中
	保険論	2前		2		○				1				兼6
小計 (30科目)	-		0	60	0				4	3	1			兼8 -
特殊講義	2・3前/後			2		○				1	1			兼8 ※履修資格2年次及び3年次の科目あり
公法総合演習	3前			2			○		1					兼1
民事法総合演習	3前			2			○		1	1				兼1
刑事法総合演習	3後			2			○							兼1
法律総合演習	3後			2			○		1	1				兼3
法実務実習	3前			2				○	1					兼3
異文化交流Ⅰ	1前			2				○	1	4	4			
異文化交流Ⅱ	1後			2				○	1					
異文化交流Ⅲ	1後			2				○	2					
異文化交流Ⅳ	1前			2				○	1					
就業体験	2前・後			1				○						兼1 集中
小計 (11科目)	-		0	0	21				4	6	5			兼12 -
合計 (353科目)	-		35	642	21				5	8	5			兼209 -
学位又は称号	学士 (法経)		学位又は学科の分野				法学関係 経済学関係							

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要														
法文学部法経学科														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>1. 卒業要件</p> <p>132単位を修得し、かつ、各科目区分ごとの卒業所要単位数を修得した者に学位を与える。 各科目区分ごとの卒業要件は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全学共通教育 44単位 <ul style="list-style-type: none"> 内訳 外国語（英語） 4単位 外国語（初修外国語） 4単位 健康・スポーツ/文化・芸術 2単位 情報科学 2単位 教養育成科目 10単位 選択 22単位 ●専門教育科目 <ul style="list-style-type: none"> 内訳 学科共通科目【必修】 21単位 コース基礎科目（法学） コース基礎科目（経済学） コース応用科目（法学） コース応用科目（経済学） コース演習科目（法学） <p style="text-align: right;">【選択】 50単位</p> <p>専門教育科目のうち選択（50単位）の内訳は、コースごとに異なる。 法学コースでは、基礎科目（法学）から18単位、基礎科目（経済学）から10単位、上記の基礎科目（法学）から応用科目（経済学）までの間で22単位履修する（ただし、法学科目を30単位以上修得することとする）。 経済学コースでは、基礎科目（経済学）から18単位、基礎科目（法学）から10単位、上記の基礎科目（法学）から応用科目（経済学）までの間で22単位履修する（ただし、経済学科目を30単位以上修得することとする）。 司法特別コースでは、基礎科目（法学）から20単位、基礎科目（経済学）から6単位、コース演習科目（法学）から6単位、上記の基礎科目（法学）からコース演習科目（法学）までの間で18単位履修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自由選択科目 <ul style="list-style-type: none"> 法経学科で開講する専門教育科目、異文化交流Ⅰ～異文化交流Ⅳ、就業体験、法文学部で開設する専門教育科目及び放送大学、島根県立大学又は琉球大学法文学部で開設する科目のうち法文学部が単位互換科目15単位と認めた科目並びに教育学部・人間科学部・医学部・総合理工学部・生物資源科学部が全学に開放する専門教育科目 ●全学共通教育科目、専門教育科目を通しての選択 6単位 <p>2. 履修登録上限制</p> <p>学生に対する教育の質を保証するため、各学期において履修登録できる単位数の上限を25単位とする。なお、成績優秀学生に対しては上限の25単位を緩和し、履修登録することができる。</p>						1 学年の学期区分		2 期						
						1 学期の授業期間		1 4 週						
						1 時限の授業時間		1 0 0 分						

基礎となる学部の教育課程等の概要

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要																
法文学部社会文化学科																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	外国語（英語）	英語ⅠA	1前	1			○								兼7	クラス別
		英語ⅠB	1後	1			○								兼6	クラス別
		英語ⅡA	1後	1			○								兼8	クラス別
		英語ⅡB	2前	1			○								兼7	クラス別
		英語ⅢA	1・2・3・4前		1			○							兼1	
		英語ⅢB	1・2・3・4後		1			○							兼1	
		英語Ⅳ	1・2・3・4前後		1			○							兼2	クラス別
	小計（7科目）	—	4	3	0		—		0	0	0	0	0	0	兼14	
	外国語（初修外国語）	ドイツ語Ⅰ ※	1前		2			○							兼2	週2回 クラス別
		ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼3	クラス別
		フランス語Ⅰ ※	1前		2			○							兼2	週2回
		フランス語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼2	
		中国語Ⅰ ※	1前		2			○							兼3	週2回 クラス別
		中国語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼3	クラス別
		韓国・朝鮮語Ⅰ ※	1前		2			○							兼3	週2回 クラス別
	韓国・朝鮮語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼3	クラス別	
	小計（8科目）	—	0	12	0		—		0	0	0	0	0	0	兼10	
	健康・スポーツ／文化・芸術	健康スポーツ ※	1前	2				○							兼1	
		スポーツ実習	1・2・3・4前後		1				○						兼1	
		芸術文化Ⅰ（音楽） ※	1・2・3・4前後	2			○								兼1	
		芸術文化Ⅰ（美術） ※	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		芸術文化Ⅰ（島根の祭りと芸能） ※	1・2・3・4前後	2			○								兼1	
	小計（5科目）	—	8	1	0		—								兼5	
	情報科学	情報科学	1前	2			○	※				1	1		兼1	講義11 演習3
		小計（1科目）	—	2	0	0		—				1	1		兼1	
	入門科目（人文社会科学分野）	論理学	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		行為と価値	1・2・3・4後		2			○							兼1	
自己と世界		1・2・3・4後		2			○							兼1		
心の世界		1・2・3・4前		2			○			1						
心の不思議		1・2・3・4前		2			○				1					
日本人の宗教と死生観		1・2・3・4前		2			○			1					地域志向科目	
異文化との出会い		1・2・3・4後		2			○							兼1		
東アジアの歴史と文化		1・2・3・4前		2			○							兼1		
ユーラシアの歴史と民族		1・2・3・4前		2			○							兼1		
人類史と考古学		1・2・3・4後		2			○							兼1	地域志向科目	
小説の構造		1・2・3・4前		2			○							兼1		
日本語のしくみ		1・2・3・4後		2			○							兼1		
王朝の文学		1・2・3・4前		2			○							兼1		
生成文法入門		1・2・3・4前		2			○							兼1		
日常生活と犯罪学		1・2・3・4前		2			○							兼1		
教養としての政治		1・2・3・4前		2			○							兼1		
日本経済を見る眼		1・2・3・4後		2			○							兼1		
世界経済を見る眼	1・2・3・4前		2			○							兼1			
国際農村開発概論	1・2・3・4後		2			○							兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																
法文学部社会文化学科																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	入門科目 (人文社会科学分野)	現代経済へのアプローチ		2		○									兼1	
		地図の歴史	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		基礎社会学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		知ることと生きること	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		心の形成	1・2・3・4前	2		○				1	1				兼1	オムニバス
		現代芸術の世界	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		現代芸術の思想	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		歴史と文芸	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		東アジアのことばと文学	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		古代出雲の考古学	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		山陰の歴史-古代・中世-	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		山陰の歴史-近世・近現代-	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		考古学からみた古代山陰の世界	1・2・3・4後	2		○									兼1	地域志向科目
		企業と法	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		現代社会と法・人権	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		情報化社会と経済	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		国際化のなかの地域経済	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		魚と日本人	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		基礎社会学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		地域開発と環境	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		フランスの社会と文化	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		考古学からみた韓半島の先史・古代文化	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		山と日本人	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		山陰のことば	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		大学教育論 -島根大学と社会-	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		小計 (44科目)		—	0	88	0	—			3	1	1	0	0	兼37
		全学共通教育科目	入門科目 (自然科学分野)	初級微分積分学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○								兼1
				初級線形代数学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○								兼1
				実用微分積分学ⅠA	3・4前	2		○								兼1
				実用微分積分学Ⅰ	1・2前	2		○								兼1
				実用微分積分学ⅡA	3・4後	2		○								兼1
				実用微分積分学Ⅱ	1・2後	2		○								兼1
				実用線形代数学ⅠA	3・4前	2		○								兼1
				実用線形代数学Ⅰ	1・2前	2		○								兼1
				実用線形代数学ⅡA	3・4後	2		○								兼1
				実用線形代数学Ⅱ	1・2後	2		○								兼1
				実験データ解析入門	1・2・3・4後	2		○								兼1
				物理学で見る自然界の仕組み -力学・電磁気学と熱力学	1・2・3・4前	2		○								兼1
				電気と磁気の物理学	1・2・3・4前	2		○								兼1
				物理のための数学入門	1・2・3・4前	2		○								兼1
				反応の化学	1・2・3・4後	2		○								兼1
				環境の化学	1・2・3・4前	2		○								兼1
				高分子と有機分子の化学	1・2・3・4前	2		○								兼1
				プレートテクトニクス	1・2・3・4後	2		○								兼1
				地球と人間生活	1・2・3・4前	2		○								兼1
	計測のはなし			1・2・3・4後	2		○								兼1	
住まいの科学	1・2・3・4後			2		○								兼1		
エレクトロニクスのはなし	1・2・3・4前			2		○								兼1		
動物の世界	1・2・3後	2		○								兼1				

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																
法文学部社会文化学科																
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	入門科目 (自然科学分野)	植物の世界		2		○									兼1	
		動物の行動		2		○									兼1	
		物質と生命		2		○									兼1	
		数の世界		2		○									兼1	
		ヒトと栄養と生命		2		○									兼1	
		生体分子の世界		2		○									兼1	
		生命情報の科学		2		○									兼1	
		細胞生物学		2		○									兼1	
		地域開発と水環境		2		○									兼1	
		光環境と生物		2		○									兼1	
		生物多様性と環境保全		2		○									兼1	
		機械の歴史		2		○									兼1	
		電気・通信技術の歩み		2		○									兼1	
		生態学入門		2		○									兼1	
	統計検定セミナー初級		2		○									兼1		
	小計 (38科目)	—	0	76	0	—			0	0	0	0	0	兼31		
	入門科目 (学際分野)	スタートアップセミナー	1前		2			○							兼1	地域志向科目
		グローバルイシュー：国際社会が抱える課題と対応	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		グローバル・チャレンジ：海外留学・インターン・ボランティアへの道筋	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	小計 (3科目)	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼2		
	発展科目 (人文社会科学分野)	芸術学セミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		歴史の中の日本とアジア	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		日本語の表現	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		英米の文学	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		アメリカ短篇小説を読む	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		ヨーロッパの言語文化Ⅰ	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		ヨーロッパの言語文化Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		中国文学における風土と人間	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		生涯発達の心理学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		アカデミック・リスニングA	2・3・4前		2			○							兼1	
		アカデミック・リスニングB	2・3・4後		2			○							兼1	
		アカデミック・リーディングA	2・3・4前		2			○							兼1	
		アカデミック・リーディングB	2・3・4後		2			○							兼1	
アカデミック・スピーキングA		2・3・4前		2			○							兼1		
アカデミック・スピーキングB		2・3・4後		2			○							兼1		
アカデミック・ライティングA		2・3・4前		2			○							兼1		
アカデミック・ライティングB		2・3・4後		2			○							兼1		
国際文化情報A (英語圏)		1・2・3・4前		2			○							兼1		
国際文化情報B (英語圏)		1・2・3・4後		2			○							兼1		
国際文化情報C (英語圏)		2・3・4前		2			○							兼1		
国際文化情報D (英語圏)		2・3・4後		2			○							兼1		
グローバルビジネスコミュニケーションA		1・2・3・4前		2			○							兼1		
グローバルビジネスコミュニケーションB		1・2・3・4後		2			○							兼1		
上級TOEFLセミナーA	2・3・4前		2			○							兼1			
上級TOEFLセミナーB	2・3・4後		2			○							兼1			
中級英会話A	1・2・3・4前		2			○							兼1			
中級英会話B	1・2・3・4後		2			○							兼1			
異文化コミュニケーション入門A	1・2・3・4前		2			○							兼1			
異文化コミュニケーション入門B	1・2・3・4後		2			○							兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																
法文学部社会文化学科																
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 教育 科目	教養 育成 科目 (人文 社会 科学 分野)	グローバルリテラシーセミナーⅠ	3・4前		2				○						兼1	
		グローバルリテラシーセミナーⅡ	3・4後		2				○						兼1	
		上級TOEICセミナーⅠ	2・3・4前		2				○						兼1	
		上級TOEICセミナーⅡ	2・3・4後		2				○						兼1	
		初級英会話A	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		初級英会話B	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		グローバルアンダースタンディングA	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		グローバルアンダースタンディングB	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		クロスカルチュラルアンダースタンディングA	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		クロスカルチュラルアンダースタンディングB	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		グローバルインタラクションA	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		グローバルインタラクションB	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		グローバル・パースペクティブ	2・3・4前		2				○						兼1	
		グローバル・リーダーシップ	3・4前		2				○						兼1	
		国際文化情報A(ドイツ語圏)	1・2・3・4前		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報B(ドイツ語圏)	1・2・3・4後		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報C(ドイツ語圏)	1・2・3・4前		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報D(ドイツ語圏)	1・2・3・4後		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報A(フランス語圏)	1・2・3・4前		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報B(フランス語圏)	1・2・3・4後		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報C(フランス語圏)	1・2・3・4前		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報D(フランス語圏)	1・2・3・4後		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報A(中国語圏)	1・2・3・4前後		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報B(中国語圏)	1・2・3・4前後		2				○						兼1	隔年
		中級中国語会話	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		中国語音声セミナー	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		中国留学セミナー	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		中国語検定セミナー	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		中級中国語表現法	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		現代中国語セミナーA	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		現代中国語セミナーB	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		中国語スキルアップセミナーA	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		中国語スキルアップセミナーB	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		ビジネス中国語A	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		ビジネス中国語B	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		国際文化情報A(韓国・朝鮮語圏)	1・2・3・4前		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報B(韓国・朝鮮語圏)	1・2・3・4後		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報C(韓国・朝鮮語圏)	1・2・3・4前		2				○						兼1	隔年
		国際文化情報D(韓国・朝鮮語圏)	1・2・3・4後		2				○						兼1	隔年
		グローバル・アクティビティ	1・2・3・4通		2				○						兼1	
		英語海外研修A	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		英語海外研修B	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		英語海外研修F	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		英語海外研修G	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		英語海外研修H	1・2・3・4後		2				○						兼1	
異文化理解入門	1・2・3・4後		2				○						兼1			
留学のための英語による教養基礎(理系文系別)	1・2・3・4後		2				○						兼1			
ビジネス英語海外研修	1・2・3・4後		2				○						兼1			
フランス短期海外研修	1・2・3・4後		2				○						兼1			
大学で学ぶ世界史	1・2・3・4後		2				○						兼1			
アカデミック・ライティング	1・2前		2				○						兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																
法文学部社会文化学科																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 教育 科目	発展科目 (人文社会科学分野)	人間と教育	3・4前		2		○								兼1	地域志向科目 隔年
		むら興し・まち興し	3・4後		2		○								兼1	
		中国語海外研修A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		中国語海外研修C	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		中国語圏の歴史と文化	1・2・3・4通		2			○							兼1	
		韓国の文化と風土	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		現代中国を読む	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		漢文史料を読む	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		平和学	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		働く人の法知識	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		株式会社の経営と法	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		知的財産から見た法の世界	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		医療から見た法の世界	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	弁護士が語る大学生のための法律問題	1・2・3・4前後		2			○							兼1		
	消費生活と法	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	小計 (95科目)	—		0	190	0	—			0	0	0	0	0	兼35	
	発展科目 (自然科学分野)	物理学入門セミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1	地域志向科目
		エレクトロニクスセミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		物理学の世界	1後		2			○							兼1	
		遺伝子を考える	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		山陰の自然史	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		自然環境の復元	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		自然と語ろう	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		データ解析の数理	3・4前		2			○							兼1	
		物性科学のフロンティア	2・3・4後		2			○							兼1	
		たたらと現代製鋼	1・2・3・4通		2			○							兼1	
		生命現象	3・4前		2			○							兼1	
		生命科学の世界	3・4前		2			○							兼1	
		汽水域の科学 (入門編)	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	情報と地域—オープンソースと地域振興	2・3・4後		2			○							兼1		
	R u b yプログラミング	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	開発フレームワーク	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	山陰地域の自然災害	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	小計 (17科目)	—		0	34	0	—			0	0	0	0	0	兼11	
	発展科目 (学際分野)	くらしの中の製作技術	1・2・3・4前		2			○							兼1	地域志向科目
長寿社会の健康なくらし		1・2・3・4後		2			○							兼1		
人と職業		2・3・4後		2			○							兼1		
中山間地域フィールド演習		2・3・4通		3			○							兼1		
酒—一杯の酒から覗く学問の世界		3・4後		2			○							兼1		
死と人間		3・4前		2			○							兼1		
フィールドで学ぶ「斐伊川百科」		1・2・3・4前		2			○							兼1		
生活と健康		3・4前		2			○							兼1		
地域博物館へのいざない		1後		2			○							兼1		
島根学		1・2・3・4前		2			○							兼1		
環境問題通論		1・2・3・4前後		2			○							兼1		
環境教育フィールド科学	1・2・3・4前		2			○							兼1			
教育研究のための統計法	1・2・3・4前		2			○							兼1			
ジオパーク学入門	1・2・3・4前		2			○							兼1			
ジオパーク学各論	1・2・3・4後		2			○							兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																
法文学部社会文化学科																
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 教育 科目	発展 科目 (学際 分野)	ジオパーク学演習	2・3・4前		2			○							兼1	
		ワークショップスキル入門	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		ものづくりと創造性	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		教育から地域を魅せる	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		グローバル課題解決型研修	1・2・3・4前		2					○					兼1	
		数理・データサイエンス入門	1・2・3・4前後		2										兼1	
		イノベーション創成基礎セミナーⅠ	1・2・3・4前後		2										兼1	地域志向科目
		イノベーション創成基礎セミナーⅡ	1・2・3・4後		2										兼1	地域志向科目
		グローバルイシュー実践海外研修	1・2・3・4後		2										兼1	
		海外課題解決型就業体験プログラム	1・2・3・4通		2										兼1	
	小計(25科目)	—	0	50	0			—		0	0	0	0	0	兼17	
	社会 人力 養成 科目	日本国憲法	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		大学生の就職とキャリア	1・2・3・4前後		2				○						兼1	
		ジェンダー - 性を科学する -	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		地域社会の生活と安全	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		ジャーナリズムと地域社会	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		ボランティアと障がい者支援	1・2・3・4前		2				○						兼1	地域志向科目
		障がい者支援の実際	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		地域未来論	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		地域課題解決プロジェクトA	2・3・4後		2				○						兼1	
		地域課題解決プロジェクトB	2・3・4後		2				○						兼1	
		地域協創インターンシップA	2・3・4後		2						○				兼1	
		地域協創インターンシップB	2・3・4後		2						○				兼1	
		地域協創インターンシップC	2・3・4後		2						○				兼1	
		地域社会と法Ⅰ：知識編	1・2・3・4前		2				○						兼1	
地域社会と法Ⅱ：実践編		1・2・3・4後		2				○						兼1		
困基で学ぶ考える力	1・2・3・4後		2				○						兼1			
事例ビジネス開発論 -社会構造の変化に対応する新しい価値の共創-	1・2・3・4後		2						○				兼1			
キャリアデザイン	1・2・3・4前後		2						○				兼1			
ビジネススキル入門	1・2前		2						○				兼1			
課題解決人材入門：東京圏と島根県の学生の対流・対話による未来の共創	1・2・3・4前後		2										兼1			
小計(20科目)	—	0	40	0			—		0	0	0	0	0	兼11	-	
学 科 共 通	特別研究	4通	8					○			8	5	1			
	キャリアプランニング	2前	1					○			3	3			兼6	
	社会文化入門セミナー	1前		2				○	○	○	3	2				
	地域資料総合演習	3後		2					○		1					
	社会学概論Ⅰ	1後		2				○			1					
	地理学入門	1前		2				○				1				
	文化人類学入門	1前		2				○			1	1				
	歴史学概論	1前		2				○			2					
	考古学概論Ⅰ	1前		2				○			1					
	アーカイブズ学概論	2前/後		2				○				1				
小計(10科目)	-	9	16	0			-			8	4				-	
	社会学概論Ⅱ	2前		2				○			1					
	社会学史	2前		2				○				1				
	社会学講読	2後		2				○			1		1			
	社会調査Ⅰ	2前		2				○			1					

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要														
法文学部社会文化学科														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
社会学	社会調査Ⅱ	2後		2		○			1					
	社会学方法論	2後		2		○					1			
	社会学A	3前		2		○					1			
	社会学B	3前		2		○			1					
	社会学C	3後		2		○					1			
	社会学D	3後		2		○			1					
	社会学応用A	3後		2		○			1					
	社会学応用B	3前		2		○			1					
	社会学実習	2通		2				○	2		1			
	社会学特論A	2前/後		2		○								兼1 集中
	社会学特論B	2前		2		○								兼1 集中
	社会学特論C	2前		2		○								兼1 集中
地理学	地理学原論	1後		2		○				1				
	自然地理学概論	2後		2		○								兼1
	自然地理学特論	2後		2		○								兼1
	経済地理学	2後		2		○				1				
	歴史地理学	2前		2		○				1				
	地理学調査法	2通		2		○	○	○		1				
	地誌学Ⅰ	2後		2		○				1				
	地誌学Ⅱ	2前		2		○				1				
	地理情報システム	2前		2		○		○		1				
	地図学	2後		2		○				1				
	地理学実習Ⅰ	2通		2				○		2				
	地理学実習Ⅱ	3通		2				○		2				
	地理学講読	3前		2		○				1				
地理学特論	2前		2		○								兼1 集中	
文化人類学	文化人類学入門演習	1後		2			○		1	1				
	文化人類学概論Ⅰ	2前		2		○				1				
	文化人類学概論Ⅱ	2後		2		○			1					
	文化人類学基礎講読	2前		2		○			1					
	文化人類学調査法	2後		2			○			1				
	文化人類学実習	3通		2				○		1				
	文化人類学講読Ⅰ	3前		2		○			1					
	文化人類学講読Ⅱ	3後		2		○			1					
	民族誌A	2前		2		○			1					
	民族誌B	2後		2		○				1				
	文化人類学特論A	2前		2		○			1					
	文化人類学特論B	2後		2		○				1				
	社会人類学A	2		2		○								兼1 集中
社会人類学B	2		2		○								兼1 集中	
現代社会演習	社会学演習	4通		4			○		2		1			
	地理学演習	4通		4			○			2				
	文化人類学演習A	4通		4			○		1					
	文化人類学演習B	4通		4			○			1				
専門	心理学概論	1後		2		○			1					
	人間行動情報論A	2後		2		○								兼1

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要														
法文学部社会文化学科														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
門 教 育	人間行動情報論B	2後		2		○								兼1
	人間行動情報論C	2後		2		○								兼1
	生命倫理概論	1後		2		○								兼1
	比較宗教学	2前		2		○								兼1
	宗教文化論	2後		2		○								兼1
歴 史 と 考 古 コ ー ス	歴史と考古入門セミナー	1後		2			○		6	4				
	日本史概説A	2前		2		○			1					
	日本史概説B	2後		2		○			1					
	東洋史概説A	2前		2		○			1					
	東洋史概説B	2後		2		○			1					
	西洋史概説A	2前		2		○			1					
	西洋史概説B	2前		2		○								兼1 集中
	現代史概説	2前		2		○				1				
	日本史特論A	2後		2		○			1					
	日本史特論B	2前		2		○			1					
	日本史特論C	2		2		○								兼1 集中
	東洋史特論A	2後		2		○			1					
	東洋史特論B	2後		2		○			1					
	東洋史特論C	2		2		○								兼1 集中
	西洋史特論A	2後		2		○			1					
	西洋史特論B	2前/後		2		○								兼1 集中
	西洋史特論C	2前		2		○								兼1 集中
	現代史特論A	2後		2		○				1				
	現代史特論B	2前		2		○								兼1 集中
	歴史学史料演習A	2前・後		2			○		1					
	歴史学史料演習B	2前・後		2			○		1					
	歴史学史料演習C	2前・後		2			○		1					
	歴史学史料演習D	2前・後		2			○		1					
	歴史学史料演習E	2前・後		2			○		1					
	歴史学史料演習F	2前・後		2			○			1				
	歴史学史料演習G	2前・後		2			○			1				
	歴史学専修演習	2前・後		2			○		5	1				
	日本史演習I	3前・後		2			○		2					
	東洋史演習I	3前・後		2			○		2					
	西洋史演習I	3前・後		2			○		1	1				
	現代史演習I	3前・後		2			○			1				
	日本史演習II	4前・後		2			○		2					
	東洋史演習II	4前・後		2			○		2					
西洋史演習II	4前・後		2			○		1	1					
現代史演習II	4前・後		2			○			1					
考古学概論II	1後		2			○		1						
考古学特論A	2後		2			○							兼1 集中	
考古学特論B	2後		2			○			1					
考古学特論C	2後		2			○		1						
考古学特論D	2前		2			○			1					

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要															
法文学部社会文化学科															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	考古学特論E	2後		2		○									兼1 集中
	考古学実習 I	2通		2				○	1	2					
	考古学実習 II	3通		2				○	1	2					
	考古学技術実習 I	2通		2				○	1	2					
	考古学技術実習 II	3通		2				○	1	2					
	考古学演習 I	2通		2			○		1	2					
	考古学演習 II	3通		2			○		1	2					
	考古学演習 III	4通		2			○		1	2					
	古文書学実習 I	3前		1				○	1						集中
	古文書学実習 II	3		1				○							集中
	異文化交流 I	1前			2			○	1	4	4				
	異文化交流 II	1後			2			○	1						
	異文化交流 III	1後			2			○	2						
	異文化交流 IV	1前			2			○		1					
	就業体験	2前・後			1			○							兼1 集中
	小計 (110科目)	-	9	216	9	-	-	-	9	7	1				兼19 -
	合計 (383科目)	-	23	732	9	-	-	-	9	7	1				兼193 -
学位又は称号	学士 (社会科学)		学位又は学科の分野			文学関係 社会学・社会福祉学関係									

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要														
法文学部社会文化学科														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
1. 卒業要件 128単位を修得し、かつ、各科目区分ごとの卒業所要単位数を修得した者に学位を与える。 各科目区分ごとの卒業要件は次の通りである。 ●全学共通教育 44単位 内訳 外国語（英語） 4単位 外国語（初修外国語） 4単位 健康・スポーツ/文化・芸術 2単位 情報科学 2単位 教養育成科目 10単位 選択 22単位 ●専門教育科目 内訳 必修（特別研究、キャリアプランニング） 9単位 学科共通 8単位 《現代社会コース》 社会学、地理学、文化人類学から 28単位 現代社会演習から 4単位 現代社会コース全体から 14単位 《歴史と考古コース》 ・歴史学に重点を置く者 日本史概説Aから現代史演習Ⅱまで 28単位 考古学概論Ⅱから古文書学実習Ⅱまで 2単位 歴史と考古コース全体から 16単位 ・考古学に重点を置く者 日本史概説Aから現代史演習Ⅱまで 4単位 考古学概論Ⅱから古文書学実習Ⅱまで 30単位 歴史と考古コース全体から 12単位 ●自由選択科目 異文化交流Ⅰ～異文化交流Ⅳ、就業体験、法文学部で開設する専門教育科目及び放送大学、島根県立大学又は琉球大学法文学部で開設する科目のうち法文学部が単位互換科目と認めた科目並びに教育学部・人間科学部・医学部・総合理工学部・生物資源科学部が全学に開放する専門教育科目 15単位 ●全学共通教育科目、専門教育科目を通しての選択 6単位 2. 履修登録上制限 学生に対する教育の質を保証するため、各学期において履修登録できる単位数の上限を25単位とする。なお、成績優秀学生に対しては上限の25単位を緩和し、履修登録することができる。						1学年の学期区分				2期				
						1学期の授業期間				14週				
						1時限の授業時間				100分				

基礎となる学部の教育課程等の概要

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要																
法文学部言語文化学科																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	外国語（英語）	英語ⅠA	1前	1			○								兼7	クラス別
		英語ⅠB	1後	1			○								兼6	クラス別
		英語ⅡA	1後	1			○								兼8	クラス別
		英語ⅡB	2前	1			○								兼7	クラス別
		英語ⅢA	1・2・3・4前	1			○								兼1	
		英語ⅢB	1・2・3・4後	1			○								兼1	
		英語Ⅳ	1・2・3・4前後	1			○								兼2	クラス別
	小計（7科目）	—	4	3	0	—			0	0	0	0	0	兼14		
	外国語（初修外国語）	ドイツ語Ⅰ ※	1前		2			○							兼2	週2回 クラス別
		ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼3	クラス別
		フランス語Ⅰ ※	1前		2			○							兼2	週2回
		フランス語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼2	
		中国語Ⅰ ※	1前		2			○							兼3	週2回 クラス別
		中国語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼3	クラス別
		韓国・朝鮮語Ⅰ ※	1前		2			○							兼3	週2回 クラス別
	韓国・朝鮮語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼3	クラス別	
	小計（8科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼10		
	健康・スポーツ／文化・芸術	健康スポーツ ※	1前	2				○							兼1	
		スポーツ実習	1・2・3・4前後	1					○						兼1	
		芸術文化Ⅰ（音楽） ※	1・2・3・4前後	2			○								兼1	
		芸術文化Ⅰ（美術） ※	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		芸術文化Ⅰ（島根の祭りと芸能） ※	1・2・3・4前後	2			○								兼1	
	小計（5科目）	—	8	1	0	—								兼5		
	情報科学	情報科学	1前	2			○	※				1	1		兼1	講義11 演習3
		小計（1科目）	—	2	0	0	—					1	1		兼1	
	入門科目（人文社会科学分野）	論理学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		行為と価値	1・2・3・4後		2		○								兼1	
自己と世界		1・2・3・4後		2		○								兼1		
心の世界		1・2・3・4前		2		○			1							
心の不思議		1・2・3・4前		2		○				1						
日本人の宗教と死生観		1・2・3・4前		2		○			1						地域志向科目	
異文化との出会い		1・2・3・4後		2		○								兼1		
東アジアの歴史と文化		1・2・3・4前		2		○								兼1		
ユーラシアの歴史と民族		1・2・3・4前		2		○								兼1		
人類史と考古学		1・2・3・4後		2		○								兼1	地域志向科目	
小説の構造		1・2・3・4前		2		○								兼1		
日本語のしくみ		1・2・3・4後		2		○								兼1		
王朝の文学		1・2・3・4前		2		○								兼1		
生成文法入門		1・2・3・4前		2		○								兼1		
日常生活と犯罪学		1・2・3・4前		2		○								兼1		
教養としての政治		1・2・3・4前		2		○								兼1		
日本経済を見る眼		1・2・3・4後		2		○								兼1		
世界経済を見る眼	1・2・3・4前		2		○								兼1			
国際農村開発概論	1・2・3・4後		2		○								兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要															
法文学部言語文化学科															
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	入門科目 (人文社会科学分野)	現代経済へのアプローチ		2		○								兼1	
		地図の歴史	1・2・3・4前	2		○								兼1	地域志向科目
		基礎社会学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		知ることと生きること	1・2・3・4後	2		○								兼1	
		心の形成	1・2・3・4前	2		○				1	1			兼1	オムニバス
		現代芸術の世界	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		現代芸術の思想	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		歴史と文芸	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		東アジアのことばと文学	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		古代出雲の考古学	1・2・3・4前	2		○								兼1	地域志向科目
		山陰の歴史-古代・中世-	1・2・3・4前	2		○								兼1	地域志向科目
		山陰の歴史-近世・近現代-	1・2・3・4前	2		○								兼1	地域志向科目
		考古学からみた古代山陰の世界	1・2・3・4後	2		○								兼1	地域志向科目
		企業と法	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		現代社会と法・人権	1・2・3・4後	2		○								兼1	
		情報化社会と経済	1・2・3・4前	2		○								兼1	地域志向科目
		国際化のなかの地域経済	1・2・3・4後	2		○								兼1	
		魚と日本人	1・2・3・4前	2		○								兼1	地域志向科目
		基礎社会学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		地域開発と環境	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		フランスの社会と文化	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		考古学からみた韓半島の先史・古代文化	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		山と日本人	1・2・3・4前	2		○								兼1	地域志向科目
		山陰のことば	1・2・3・4前	2		○								兼1	
	大学教育論 -島根大学と社会-	1・2・3・4後	2		○								兼1		
	小計 (44科目)	—	—	0	88	0	—	—	—	3	1	1	0	0	兼37
	入門科目 (自然科学分野)	初級微分積分学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		初級線形代数学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		実用微分積分学ⅠA	3・4前		2		○								兼1
		実用微分積分学Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
		実用微分積分学ⅡA	3・4後		2		○								兼1
		実用微分積分学Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
		実用線形代数学ⅠA	3・4前		2		○								兼1
		実用線形代数学Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
		実用線形代数学ⅡA	3・4後		2		○								兼1
		実用線形代数学Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
		実験データ解析入門	1・2・3・4後		2		○								兼1
		物理学で見る自然界の仕組み -力学・電磁気学と熱力学	1・2・3・4前		2		○								兼1
		電気と磁気の物理学	1・2・3・4前		2		○								兼1
		物理のための数学入門	1・2・3・4前		2		○								兼1
		反応の化学	1・2・3・4後		2		○								兼1
		環境の化学	1・2・3・4前		2		○								兼1
		高分子と有機分子の化学	1・2・3・4前		2		○								兼1
		プレートテクトニクス	1・2・3・4後		2		○								兼1
地球と人間生活		1・2・3・4前		2		○								兼1	
計測のはなし		1・2・3・4後		2		○								兼1	
住まいの科学	1・2・3・4後		2		○								兼1		
エレクトロニクスのはなし	1・2・3・4前		2		○								兼1		
動物の世界	1・2・3後		2		○								兼1		

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																
法文学部言語文化学科																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学共通 教育科目	入門科目 (自然科学分野)	植物の世界	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		動物の行動	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		物質と生命	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		数の世界	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		ヒトと栄養と生命	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		生体分子の世界	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		生命情報の科学	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		細胞生物学	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		地域開発と水環境	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		光環境と生物	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		生物多様性と環境保全	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		機械の歴史	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		電気・通信技術の歩み	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		生態学入門	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	統計検定セミナー初級	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	小計 (38科目)	—	0	76	0	—			0	0	0	0	0	兼31		
	入門科目 (学際分野)	スタートアップセミナー	1前		2			○							兼1	地域志向科目
		グローバルイシュー：国際社会が抱える課題と対応	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		グローバル・チャレンジ：海外留学・インターン・ボランティアへの道筋	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	小計 (3科目)	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼2		
	教養育成科目 発展科目 (人文社会科学分野)	芸術学セミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		歴史の中の日本とアジア	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		日本語の表現	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		英米の文学	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		アメリカ短篇小説を読む	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		ヨーロッパの言語文化Ⅰ	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		ヨーロッパの言語文化Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		中国文学における風土と人間	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		生涯発達の心理学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		アカデミック・リスニングA	2・3・4前		2			○							兼1	
		アカデミック・リスニングB	2・3・4後		2			○							兼1	
		アカデミック・リーディングA	2・3・4前		2			○							兼1	
		アカデミック・リーディングB	2・3・4後		2			○							兼1	
アカデミック・スピーキングA		2・3・4前		2			○							兼1		
アカデミック・スピーキングB		2・3・4後		2			○							兼1		
アカデミック・ライティングA		2・3・4前		2			○							兼1		
アカデミック・ライティングB		2・3・4後		2			○							兼1		
国際文化情報A (英語圏)		1・2・3・4前		2			○							兼1		
国際文化情報B (英語圏)		1・2・3・4後		2			○							兼1		
国際文化情報C (英語圏)		2・3・4前		2			○							兼1		
国際文化情報D (英語圏)		2・3・4後		2			○							兼1		
グローバルビジネスコミュニケーションA		1・2・3・4前		2			○							兼1		
グローバルビジネスコミュニケーションB		1・2・3・4後		2			○							兼1		
上級TOEFLセミナーA	2・3・4前		2			○							兼1			
上級TOEFLセミナーB	2・3・4後		2			○							兼1			
中級英会話A	1・2・3・4前		2			○							兼1			
中級英会話B	1・2・3・4後		2			○							兼1			
異文化コミュニケーション入門A	1・2・3・4前		2			○							兼1			
異文化コミュニケーション入門B	1・2・3・4後		2			○							兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																
法文学部言語文化学科																
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 教育 科目	教養 育成 科目 (人文 社会 科学 分野)	グローバルリテラシーセミナーⅠ	3・4前		2			○							兼1	
		グローバルリテラシーセミナーⅡ	3・4後		2			○							兼1	
		上級TOEICセミナーⅠ	2・3・4前		2			○							兼1	
		上級TOEICセミナーⅡ	2・3・4後		2			○							兼1	
		初級英会話A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		初級英会話B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		グローバルアンダースタンディングA	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		グローバルアンダースタンディングB	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		クロスカルチュラルアンダースタンディングA	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		クロスカルチュラルアンダースタンディングB	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		グローバルインタラクションA	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		グローバルインタラクションB	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		グローバル・パースペクティブ	2・3・4前		2			○							兼1	
		グローバル・リーダーシップ	3・4前		2			○							兼1	
		国際文化情報A(ドイツ語圏)	1・2・3・4前		2			○							兼1	隔年
		国際文化情報B(ドイツ語圏)	1・2・3・4後		2			○							兼1	隔年
		国際文化情報C(ドイツ語圏)	1・2・3・4前		2			○							兼1	隔年
		国際文化情報D(ドイツ語圏)	1・2・3・4後		2			○							兼1	隔年
		国際文化情報A(フランス語圏)	1・2・3・4前		2			○							兼1	隔年
		国際文化情報B(フランス語圏)	1・2・3・4後		2			○							兼1	隔年
		国際文化情報C(フランス語圏)	1・2・3・4前		2			○							兼1	隔年
		国際文化情報D(フランス語圏)	1・2・3・4後		2			○							兼1	隔年
		国際文化情報A(中国語圏)	1・2・3・4前後		2			○							兼1	隔年
		国際文化情報B(中国語圏)	1・2・3・4前後		2			○							兼1	隔年
		中級中国語会話	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		中国語音声セミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		中国留学セミナー	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		中国語検定セミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		中級中国語表現法	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		現代中国語セミナーA	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		現代中国語セミナーB	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		中国語スキルアップセミナーA	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		中国語スキルアップセミナーB	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		ビジネス中国語A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		ビジネス中国語B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		国際文化情報A(韓国・朝鮮語圏)	1・2・3・4前		2			○							兼1	隔年
		国際文化情報B(韓国・朝鮮語圏)	1・2・3・4後		2			○							兼1	隔年
		国際文化情報C(韓国・朝鮮語圏)	1・2・3・4前		2			○							兼1	隔年
		国際文化情報D(韓国・朝鮮語圏)	1・2・3・4後		2			○							兼1	隔年
		グローバル・アクティビティ	1・2・3・4通		2			○							兼1	
		英語海外研修A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		英語海外研修B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		英語海外研修F	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		英語海外研修G	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		英語海外研修H	1・2・3・4後		2			○							兼1	
異文化理解入門	1・2・3・4後		2			○							兼1			
留学のための英語による教養基礎(理系文系別)	1・2・3・4後		2			○							兼1			
ビジネス英語海外研修	1・2・3・4後		2			○							兼1			
フランス短期海外研修	1・2・3・4後		2			○							兼1			
大学で学ぶ世界史	1・2・3・4後		2			○							兼1			
アカデミック・ライティング	1・2前		2					○					兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																
法文学部言語文化学科																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 教育 科目	発展科目 (人文社会科学分野)	人間と教育	3・4前		2		○								兼1	地域志向科目 隔年
		むら興し・まち興し	3・4後		2		○								兼1	
		中国語海外研修A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		中国語海外研修C	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		中国語圏の歴史と文化	1・2・3・4通		2			○							兼1	
		韓国の文化と風土	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		現代中国を読む	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		漢文史料を読む	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		平和学	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		働く人の法知識	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		株式会社の経営と法	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		知的財産から見た法の世界	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		医療から見た法の世界	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		弁護士が語る大学生のための法律問題	1・2・3・4前後		2			○							兼1	
	消費生活と法	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	小計 (95科目)	—		0	190	0	—			0	0	0	0	0	兼35	
	発展科目 (自然科学分野)	物理学入門セミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1	地域志向科目
		エレクトロニクスセミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		物理学の世界	1後		2			○							兼1	
		遺伝子を考える	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		山陰の自然史	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		自然環境の復元	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		自然と語ろう	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		データ解析の数理	3・4前		2			○							兼1	
		物性科学のフロンティア	2・3・4後		2			○							兼1	
		たたらと現代製鋼	1・2・3・4通		2			○							兼1	
		生命現象	3・4前		2			○							兼1	
		生命科学の世界	3・4前		2			○							兼1	
		汽水域の科学 (入門編)	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		情報と地域—オープンソースと地域振興	2・3・4後		2			○							兼1	
	R u b yプログラミング	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	開発フレームワーク	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	山陰地域の自然災害	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	小計 (17科目)	—		0	34	0	—			0	0	0	0	0	兼11	
	発展科目 (学際分野)	くらしの中の製作技術	1・2・3・4前		2			○							兼1	地域志向科目
長寿社会の健康なくらし		1・2・3・4後		2			○							兼1		
人と職業		2・3・4後		2			○							兼1		
中山間地域フィールド演習		2・3・4通		3			○							兼1		
酒—一杯の酒から覗く学問の世界		3・4後		2			○							兼1		
死と人間		3・4前		2			○							兼1		
フィールドで学ぶ「斐伊川百科」		1・2・3・4前		2			○							兼1		
生活と健康		3・4前		2			○							兼1		
地域博物館へのいざない		1後		2			○							兼1		
島根学		1・2・3・4前		2			○							兼1		
環境問題通論		1・2・3・4前後		2			○							兼1		
環境教育フィールド科学		1・2・3・4前		2			○							兼1		
教育研究のための統計法		1・2・3・4前		2			○							兼1		
ジオパーク学入門		1・2・3・4前		2			○							兼1		
ジオパーク学各論	1・2・3・4後		2			○							兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要															
法文学部言語文化学科															
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
全学 共通 教育 科目	発展 科目 (学際 分野)	ジオパーク学演習	2・3・4前		2			○							兼1
		ワークショップスキル入門	1・2・3・4後		2			○							兼1
		ものづくりと創造性	1・2・3・4前		2				○						兼1
		教育から地域を魅せる	1・2・3・4前		2				○						兼1
		グローバル課題解決型研修	1・2・3・4前		2					○					兼1
		数理・データサイエンス入門	1・2・3・4前後		2										兼1
		イノベーション創成基礎セミナーⅠ	1・2・3・4前後		2										兼1 地域志向科目
		イノベーション創成基礎セミナーⅡ	1・2・3・4後		2										兼1 地域志向科目
		グローバルイシュー実践海外研修	1・2・3・4後		2										兼1
		海外課題解決型就業体験プログラム	1・2・3・4通		2										兼1
	小計 (25科目)	—	0	50	0			—		0	0	0	0	0	兼17
	社会 人力 養成 科目	日本国憲法	1・2・3・4前		2				○						兼1
		大学生の就職とキャリア	1・2・3・4前後		2				○						兼1
		ジェンダー - 性を科学する -	1・2・3・4後		2				○						兼1
		地域社会の生活と安全	1・2・3・4前		2				○						兼1
		ジャーナリズムと地域社会	1・2・3・4後		2				○						兼1
		ボランティアと障がい者支援	1・2・3・4前		2				○						兼1 地域志向科目
		障がい者支援の実際	1・2・3・4後		2				○						兼1
		地域未来論	1・2・3・4後		2				○						兼1
		地域課題解決プロジェクトA	2・3・4後		2				○						兼1
		地域課題解決プロジェクトB	2・3・4後		2				○						兼1
		地域協創インターンシップA	2・3・4後		2						○				兼1
		地域協創インターンシップB	2・3・4後		2						○				兼1
		地域協創インターンシップC	2・3・4後		2						○				兼1
		地域社会と法Ⅰ：知識編	1・2・3・4前		2				○						兼1
地域社会と法Ⅱ：実践編		1・2・3・4後		2				○						兼1	
困基で学ぶ考える力	1・2・3・4後		2				○						兼1		
事例ビジネス開発論 -社会構造の変化に対応する新しい価値の共創-	1・2・3・4後		2						○				兼1		
キャリアデザイン	1・2・3・4前後		2						○				兼1		
ビジネススキル入門	1・2前		2						○				兼1		
課題解決人材入門：東京圏と島根県の学生の対流・対話による未来の共創	1・2・3・4前後		2										兼1		
小計 (20科目)	—	0	40	0			—		0	0	0	0	0	兼11	
概 論 科 目	言語文化入門Ⅰ	1前	2				○	○		2	4				
	言語文化入門Ⅱ	1後	2				○	○		2	4				
	言語文化セミナー	4通	2					○		7	12	3			
	特別研究	4通	6					○		7	12	3			
	キャリアプランニング	2前	1				○				3			兼6	
	日本文学概論	1前		2			○			1					
	日本語学概論	1後		2			○					1			
	中国言語文化概論	1後		2			○				1				
	英米文学概論	1後		2			○				1				
	英語学概論	1前		2			○				1				
ドイツ言語文化概論	1後		2			○				1					
フランス言語文化概論	1前		2			○			1						
哲学概論	1後		2			○				1					
芸術学概論	1後		2			○				1					
文化交流論概論	1後		2			○				2					

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要														
法文学部言語文化学科														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
学科 共通	共通演習Ⅰ	2前		2			○			1				
	共通演習Ⅱ	2前		2			○		1					
	共通演習Ⅲ	2前		2			○				1			
	共通演習Ⅳ	2前		2			○			1				
	共通演習Ⅴ	2後		2			○		1					
	共通演習Ⅵ	2前		2			○		1					
	共通演習Ⅶ	2後		2			○			1				
	共通演習Ⅷ	2後		2			○			1				
	共通演習Ⅸ	2後		2			○				1			
	共通演習Ⅹ	2前		2			○				1			
	共通演習Ⅺ	2後		2			○			1				
	共通演習Ⅻ	2後		2			○			1				
	小計(27科目)		-	13	44	0	-			7	12	3		
日本 言語 文化	日本文学史講義Ⅰ	2後		2			○			1				
	日本文学史講義Ⅱ	2後		2			○							兼1
	日本文学史講義Ⅲ	2後		2			○		1					
	日本文学史講義Ⅳ	2後		2			○		1					
	現代文学入門講義	1後		2			○		1					
	日本文学講義Ⅰ	2前・後		2			○							兼1 集中
	日本文学講義Ⅱ	2前		2			○							兼1
	日本文学講義Ⅲ	2後		2			○		1					
	日本文学講義Ⅳ	2後		2			○		1					
	日本文学講義Ⅴ	2前		2			○							兼1
	日本文学講義Ⅵ	2後		2			○		1					
	日本語史講義	2前		2			○		1					
	日本語音韻論講義	2後		2			○		1					
	日本語表記論講義	2前		2			○		1					
	日本語語彙論講義	2前		2			○		1					
	日本語文法論講義	2後		2			○				1			
	日本語方言論講義	2前		2			○				1			
	日本語各論講義	2後		2			○							兼1
	書道Ⅰ	2後		1					○					兼1
	書道Ⅱ	2後		1					○					兼1
	日本古典籍基礎演習	1前		2				○		1				
	日本文学基礎演習Ⅰ	2前		2				○			1			
	日本文学基礎演習Ⅱ	2前		2				○						兼1
	日本文学基礎演習Ⅲ	2前・後		2				○		1				
	日本文学基礎演習Ⅳ	2前		2				○		1				
	日本語学基礎演習	2前		2				○				1		
	日本文学応用演習Ⅰ	2前・後		2				○			1			
日本文学応用演習Ⅱ	2前		2				○						兼1	
日本文学応用演習Ⅲ	2前・後		2				○		1					
日本文学応用演習Ⅳ	2前・後		2				○		1					
日本語学応用演習Ⅰ	2前		2				○		1					
日本語学応用演習Ⅱ	2後		2				○		1					
日本語学応用演習Ⅲ	2前		2				○				1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要															
法文学部言語文化学科															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 教 育	中国語文化	日本語学応用演習Ⅳ	2後	2			○								
		地域資料総合演習	3後	2			○		1		1				
	中国 言語 文化	中国文学史講義	1前		2			○		1					
		中国文学講義	2前・後		2			○		1	1				
		中国言語文化論講義Ⅰ	2前		2			○			1				
		中国言語文化論講義Ⅱ	2後		2			○			1				
		中国言語文化論講義Ⅲ	2後		2			○							兼1
		中国語学講義Ⅰ	2前		2			○			1				
		中国語学講義Ⅱ	2後		2			○			1				
		漢文学基礎演習Ⅰ	2前		2				○	1					
		漢文学基礎演習Ⅱ	2後		2				○	1					
		中国文学基礎演習Ⅰ	2前		2				○	1					
		中国文学基礎演習Ⅱ	2後		2				○	1					
		中国語学基礎演習Ⅰ	2前		2				○	1					
		中国語学基礎演習Ⅱ	2後		2				○	1					
		中国文学応用演習Ⅰ	3前		2				○	1					
		中国文学応用演習Ⅱ	3後		2				○	1					
		中国文学応用演習Ⅲ	3前		2				○		1				
		中国文学応用演習Ⅳ	3後		2				○		1				
		中国語学応用演習Ⅰ	3前		2				○	1					
		中国語学応用演習Ⅱ	3後		2				○	1					
		英 米 言 語 文 化	イギリス文学講義Ⅰ	2後		2			○			1			
	イギリス文学講義Ⅱ		2前		2			○							兼1
	アメリカ文学講義Ⅰ		2前		2			○		1					
	アメリカ文学講義Ⅱ		3前		2			○		1					集中
	日米文化比較講義Ⅰ		3前		2			○			1				
	日米文化比較講義Ⅱ		3後		2			○		1					
	英語学講義Ⅰ		3前		2			○			1				
	英語学講義Ⅱ		3前		2			○		1					
	英語学講義Ⅲ		1後		2			○			1				
	イギリス文学基礎演習Ⅰ		2前		2				○		1				
	イギリス文学基礎演習Ⅱ		2前		2				○		1				
アメリカ文学基礎演習Ⅰ	2前			2				○			1				
アメリカ文学基礎演習Ⅱ	2後			2				○			1				
英語学基礎演習Ⅰ	2後			2				○		1					
英語学基礎演習Ⅱ	2後			2				○		1					
イギリス文学応用演習Ⅰ	3前			2				○		1					
イギリス文学応用演習Ⅱ	3後			2				○		1					
アメリカ文学応用演習Ⅰ	3前			2				○		1					
アメリカ文学応用演習Ⅱ	3後		2				○		1						
日米文化比較応用演習Ⅰ	3前		2				○		1						
日米文化比較応用演習Ⅱ	3後		2				○			1					
英語学応用演習Ⅰ	3後		2				○		1						
英語学応用演習Ⅱ	3後		2				○		1						
英語学応用演習Ⅲ	2後		2				○		1						

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要														
法文学部言語文化学科														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
学科 専門 科目	英語学応用演習IV	3後		2			○		1					
	英語運用演習（音声）I	2前		2			○			1				
	英語運用演習（音声）II	2後		2			○			1				
	英語運用演習（表現）I	2前		2			○			1				
	英語運用演習（表現）II	2前		2			○			1				
	英語運用演習（表現）III	2後		2			○			1				
	英語運用演習（表現）IV	2後		2			○			1				
	英語運用演習（会話）I	2前		2			○		1					
	英語運用演習（会話）II	2後		2			○		1					
	英語運用演習（会話）III	2前		2			○		1					
	英語運用演習（会話）IV	2後		2			○		1					
ドイ ツ 言 語 文 化	ドイツ文化論講義I	2後		2			○		2	3				
	ドイツ文化論講義II	2後		2			○							兼1
	日独文化比較講義I	2前		2			○			1				
	日独文化比較講義II	2後		2			○			1				
	現代ドイツ語基礎演習I	2前		2			○			1				
	現代ドイツ語基礎演習II	2後		2			○			1				
	ドイツ語運用演習I	2前		2			○							兼1
	ドイツ語運用演習II	2後		2			○							兼1
	ドイツ語運用演習III	2前		2			○							兼1
	ドイツ語運用演習IV	2後		2			○							兼1
	ドイツ文化応用演習I	3前		2			○			1				
ドイツ文化応用演習II	3後		2			○			1					
ドイツ文化応用演習III	3前		2			○			1					
ドイツ文化応用演習IV	3後		2			○			1					
フ ラ ン ス 言 語 文 化	フランス文化論講義I	2後		2			○		1					
	フランス文化論講義II	2後		2			○		1					
	日仏文化比較講義I	2前		2			○							兼1
	日仏文化比較講義II	2後		2			○							兼1
	フランス語学講義I	2前		2			○			1				
	フランス語学講義II	2後		2			○			1				
	現代フランス語基礎演習I	2前		2			○		1					
	現代フランス語基礎演習II	2後		2			○		1					
	フランス語運用演習I	2前		2			○			1				
	フランス語運用演習II	2後		2			○			1				
	フランス語運用演習III	3前		2			○		1					
フランス語運用演習IV	3後		2			○		1						
フランス文化応用演習I	3前		2			○			1					
フランス文化応用演習II	3後		2			○			1					
フランス文化応用演習III	3後		2			○		1						
フランス文化応用演習IV	3後		2			○		1						
	哲学講義I	2後		2			○					1		
	哲学講義II	2後		2			○					1		
	哲学講義III	2後		2			○							兼1
	哲学講義IV	2前		2			○					1		

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要														
法文学部言語文化学科														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
哲学・ 芸術・ 文化交流	哲学講義V	2後		2		○				1				
	倫理学講義I	2前		2		○				1				
	倫理学講義II	2後		2		○				1				兼1
	芸術学講義I	2前		2		○								
	芸術学講義II	2前		2		○				1				
	芸術学講義III	2後		2		○				1				
	芸術学講義IV	2前		2		○				1				
	芸術学講義V	2後		2		○				1				
	芸術学講義VI	1		2		○								兼1 集中
	芸術学講義VII	2後		2		○				1				
	文化交流論講義I	2後		2		○				1				
	文化交流論講義II	2前		2		○				1				
	文化交流論講義III	2前		2		○								兼1 集中
	文化交流論講義IV	2前		2		○				1				
	文化交流論講義V	2後		2		○				1				
	哲学基礎演習I	1前		2			○			2		1		
	哲学基礎演習II	1後		2			○							
	芸術学基礎演習I	1前		2			○			2				
	芸術学基礎演習II	2前		2			○			1				
	芸術学基礎演習III	1後		2			○			1				
	文化交流論基礎演習I	1後		2			○			1				
	文化交流論基礎演習II	2前		2			○			1				
	文化交流論基礎演習III	2前		2			○			1				
	ラテン語基礎演習I	1後		2			○							兼1
	ラテン語基礎演習II	1後		2			○							兼1
	哲学応用演習I	2前・後		2			○				1			
	哲学応用演習II	2後		2			○				1			
	哲学応用演習III	2前		2			○			1				
	哲学応用演習IV	2後		2			○			1				
	芸術学応用演習I	2後		2			○			1				
	芸術学応用演習II	1前		2			○			1				
	芸術学応用演習III	2前		2			○							兼1
	芸術学応用演習IV	2後		2			○			1				
文化交流論応用演習I	2前		2			○			1					
文化交流論応用演習II	2後		2			○			1					
文化交流論応用演習III	2前		2			○			1					
文化交流論応用演習IV	2後		2			○			1					
異文化交流I	1前			2				○	1	4	4			
異文化交流II	1後			2				○	1					
異文化交流III	1後			2				○	2					
異文化交流IV	1前			2				○	1					
就業体験	2前・後			1				○						兼1 集中
小計(165科目)		-	0	318	9			-	7	12	3			兼17 -
合計(455科目)		-	27	818	9			-	7	12	3			兼191 -
学位又は称号	学士(文学)		学位又は学科の分野			文学関係								

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要														
法文学部言語文化学科														
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>1. 卒業要件</p> <p>128単位を修得し、かつ、各科目区分ごとの卒業所要単位数を修得した者に学位を与える。 各科目区分ごとの卒業要件は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全学共通教育 44単位 <ul style="list-style-type: none"> 内訳 外国語（英語） 4単位 外国語（初修外国語） 4単位 健康・スポーツ/文化・芸術 2単位 情報科学 2単位 教養育成科目 10単位 選択 22単位 ●専門教育科目 <ul style="list-style-type: none"> 内訳 必修（言語文化入門Ⅰ～キャリアプランニング） 13単位 学科共通科目のうち概論科目から 6単位 〃 共通演習科目から 6単位 学科専門科目から 38単位 ●自由選択科目 <ul style="list-style-type: none"> 異文化交流Ⅰ～異文化交流Ⅳ、就業体験、法文学部で開設する専門教育科目及び放送大学、島根県立大学又は琉球大学法文学部で開設する科目のうち法文学部が単位互換科目と認めた科目並びに教育学部・人間科学部・医学部・総合理工学部・生物資源科学部が全学に開放する専門教育科目 ●全学共通教育科目、専門教育科目を通しての選択 6単位 						1学年の学期区分				2期				
<p>2. 履修登録上制限</p> <p>学生に対する教育の質を保証するため、各学期において履修登録できる単位数の上限を25単位とする。なお、成績優秀学生に対しては上限の25単位を緩和し、履修登録することができる。</p>						1学期の授業期間				14週				
						1時限の授業時間				100分				

基礎となる学部の教育課程等の概要

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要																
(人間科学部人間科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	外国語（英語）	英語ⅠA	1前	1			○								兼7	クラス別
		英語ⅠB	1後	1			○								兼6	クラス別
		英語ⅡA	1後	1			○								兼8	クラス別
		英語ⅡB	2前	1			○								兼7	クラス別
		英語ⅢA	1・2・3・4前		1			○							兼1	
		英語ⅢB	1・2・3・4後		1			○							兼1	
		英語Ⅳ	1・2・3・4前後		1			○							兼2	クラス別
	小計（7科目）	—	4	3	0		—		0	0	0	0	0	兼14		
	外国語（初修外国語）	ドイツ語Ⅰ ※	1前		2			○							兼2	週2回 クラス別
		ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼3	クラス別
		フランス語Ⅰ ※	1前		2			○							兼2	週2回
		フランス語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼2	
		中国語Ⅰ ※	1前		2			○							兼3	週2回 クラス別
		中国語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼3	クラス別
		韓国・朝鮮語Ⅰ ※	1前		2			○							兼3	週2回 クラス別
	韓国・朝鮮語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼3	クラス別	
	小計（8科目）	—	0	12	0		—		0	0	0	0	0	兼10		
	健康・スポーツ／文化・芸術	健康スポーツ ※	1前	2				○							兼1	
		スポーツ実習	1・2・3・4前後		1				○						兼1	
		芸術文化Ⅰ（音楽） ※	1・2・3・4前後	2			○								兼1	
		芸術文化Ⅰ（美術） ※	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		芸術文化Ⅰ（島根の祭りと芸能） ※	1・2・3・4前後	2			○								兼1	
	小計（5科目）	—	8	1	0		—							兼5		
	情報科学	情報科学	1前	2			○	※				1	1		兼1	講義11 演習3
小計（1科目）		—	2	0	0		—				1	1		兼1		
入門科目（人文社会科学分野）	論理学	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	行為と価値	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	自己と世界	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	心の世界	1・2・3・4前		2			○			1						
	心の不思議	1・2・3・4前		2			○				1					
	日本人の宗教と死生観	1・2・3・4前		2			○			1					地域志向科目	
	異文化との出会い	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	東アジアの歴史と文化	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	ユーラシアの歴史と民族	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	人類史と考古学	1・2・3・4後		2			○							兼1	地域志向科目	
	小説の構造	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	日本語のしくみ	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	王朝の文学	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	生成文法入門	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	日常生活と犯罪学	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	教養としての政治	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	日本経済を見る眼	1・2・3・4後		2			○							兼1		
世界経済を見る眼	1・2・3・4前		2			○							兼1			
国際農村開発概論	1・2・3・4後		2			○							兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教育課程等の概要																
(人間科学部人間科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	入門科目 (人文社会科学分野)	現代経済へのアプローチ		2		○									兼1	
		地図の歴史	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		基礎社会学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		知ることと生きること	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		心の形成	1・2・3・4前	2		○				1	1				兼1	オムニバス
		現代芸術の世界	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		現代芸術の思想	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		歴史と文芸	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		東アジアのことばと文学	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		古代出雲の考古学	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		山陰の歴史-古代・中世-	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		山陰の歴史-近世・近現代-	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		考古学からみた古代山陰の世界	1・2・3・4後	2		○									兼1	地域志向科目
		企業と法	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		現代社会と法・人権	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		情報化社会と経済	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		国際化のなかの地域経済	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		魚と日本人	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		基礎社会学Ⅱ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		地域開発と環境	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		フランスの社会と文化	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		考古学からみた韓半島の先史・古代文化	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		山と日本人	1・2・3・4前	2		○									兼1	地域志向科目
		山陰のことば	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	大学教育論 -島根大学と社会-	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	小計(44科目)		—	0	88	0	—			3	1	1	0	0	兼37	
	入門科目 (自然科学分野)	初級微分積分学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		初級線形代数学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		実用微分積分学ⅠA	3・4前		2		○								兼1	
		実用微分積分学Ⅰ	1・2前		2		○								兼1	
		実用微分積分学ⅡA	3・4後		2		○								兼1	
		実用微分積分学Ⅱ	1・2後		2		○								兼1	
		実用線形代数学ⅠA	3・4前		2		○								兼1	
		実用線形代数学Ⅰ	1・2前		2		○								兼1	
		実用線形代数学ⅡA	3・4後		2		○								兼1	
		実用線形代数学Ⅱ	1・2後		2		○								兼1	
		実験データ解析入門	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		物理学で見る自然界の仕組み -力学・電磁気学と熱力学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		電気と磁気の物理学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		物理のための数学入門	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		反応の化学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		環境の化学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		高分子と有機分子の化学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		プレートテクトニクス	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		地球と人間生活	1・2・3・4前		2		○								兼1	
計測のはなし		1・2・3・4後		2		○								兼1		
住まいの科学		1・2・3・4後		2		○								兼1		
エレクトロニクスのはなし	1・2・3・4前		2		○								兼1			
動物の世界	1・2・3後		2		○								兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教育課程等の概要																
(人間科学部人間科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	入門科目 (自然科学分野)	植物の世界		2		○									兼1	
		動物の行動		2		○									兼1	
		物質と生命		2		○									兼1	
		数の世界		2		○									兼1	
		ヒトと栄養と生命		2		○									兼1	
		生体分子の世界		2		○									兼1	
		生命情報の科学		2		○									兼1	
		細胞生物学		2		○									兼1	
		地域開発と水環境		2		○									兼1	
		光環境と生物		2		○									兼1	
		生物多様性と環境保全		2		○									兼1	
		機械の歴史		2		○									兼1	
		電気・通信技術の歩み		2		○									兼1	
		生態学入門		2		○									兼1	
	統計検定セミナー初級		2		○									兼1		
	小計 (38科目)	—	0	76	0	—			0	0	0	0	0	兼31		
	入門科目 (学際分野)	スタートアップセミナー	1前		2			○							兼1	地域志向科目
		グローバルイシュー：国際社会が抱える課題と対応	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		グローバル・チャレンジ：海外留学・インターン・ボランティアへの道筋	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	小計 (3科目)	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼2		
	発展科目 (人文社会科学分野)	芸術学セミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		歴史の中の日本とアジア	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		日本語の表現	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		英米の文学	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		アメリカ短篇小説を読む	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		ヨーロッパの言語文化Ⅰ	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		ヨーロッパの言語文化Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		中国文学における風土と人間	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		生涯発達の心理学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		アカデミック・リスニングA	2・3・4前		2			○							兼1	
		アカデミック・リスニングB	2・3・4後		2			○							兼1	
		アカデミック・リーディングA	2・3・4前		2			○							兼1	
		アカデミック・リーディングB	2・3・4後		2			○							兼1	
アカデミック・スピーキングA		2・3・4前		2			○							兼1		
アカデミック・スピーキングB		2・3・4後		2			○							兼1		
アカデミック・ライティングA		2・3・4前		2			○							兼1		
アカデミック・ライティングB		2・3・4後		2			○							兼1		
国際文化情報A (英語圏)		1・2・3・4前		2			○							兼1		
国際文化情報B (英語圏)		1・2・3・4後		2			○							兼1		
国際文化情報C (英語圏)		2・3・4前		2			○							兼1		
国際文化情報D (英語圏)		2・3・4後		2			○							兼1		
グローバルビジネスコミュニケーションA		1・2・3・4前		2			○							兼1		
グローバルビジネスコミュニケーションB		1・2・3・4後		2			○							兼1		
上級TOEFLセミナーA	2・3・4前		2			○							兼1			
上級TOEFLセミナーB	2・3・4後		2			○							兼1			
中級英会話A	1・2・3・4前		2			○							兼1			
中級英会話B	1・2・3・4後		2			○							兼1			
異文化コミュニケーション入門A	1・2・3・4前		2			○							兼1			
異文化コミュニケーション入門B	1・2・3・4後		2			○							兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教育課程等の概要																
(人間科学部人間科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	教養育成科目 発展科目（人文社会科学分野）	グローバルリテラシーセミナーⅠ	3・4前	2				○							兼1	
		グローバルリテラシーセミナーⅡ	3・4後	2				○							兼1	
		上級TOEICセミナーⅠ	2・3・4前	2					○						兼1	
		上級TOEICセミナーⅡ	2・3・4後	2					○						兼1	
		初級英会話A	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		初級英会話B	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		グローバルアンダースタンディングA	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		グローバルアンダースタンディングB	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		クロスカルチュラルアンダースタンディングA	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		クロスカルチュラルアンダースタンディングB	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		グローバルインタラクションA	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		グローバルインタラクションB	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		グローバル・パースペクティブ	2・3・4前	2					○						兼1	
		グローバル・リーダーシップ	3・4前	2					○						兼1	
		国際文化情報A（ドイツ語圏）	1・2・3・4前	2					○						兼1	隔年
		国際文化情報B（ドイツ語圏）	1・2・3・4後	2					○						兼1	隔年
		国際文化情報C（ドイツ語圏）	1・2・3・4前	2					○						兼1	隔年
		国際文化情報D（ドイツ語圏）	1・2・3・4後	2					○						兼1	隔年
		国際文化情報A（フランス語圏）	1・2・3・4前	2					○						兼1	隔年
		国際文化情報B（フランス語圏）	1・2・3・4後	2					○						兼1	隔年
		国際文化情報C（フランス語圏）	1・2・3・4前	2					○						兼1	隔年
		国際文化情報D（フランス語圏）	1・2・3・4後	2					○						兼1	隔年
		国際文化情報A（中国語圏）	1・2・3・4前後	2					○						兼1	隔年
		国際文化情報B（中国語圏）	1・2・3・4前後	2					○						兼1	隔年
		中級中国語会話	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		中国語音声セミナー	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		中国留学セミナー	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		中国語検定セミナー	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		中級中国語表現法	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		現代中国語セミナーA	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		現代中国語セミナーB	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		中国語スキルアップセミナーA	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		中国語スキルアップセミナーB	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		ビジネス中国語A	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		ビジネス中国語B	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		国際文化情報A（韓国・朝鮮語圏）	1・2・3・4前	2					○						兼1	隔年
		国際文化情報B（韓国・朝鮮語圏）	1・2・3・4後	2					○						兼1	隔年
		国際文化情報C（韓国・朝鮮語圏）	1・2・3・4前	2					○						兼1	隔年
		国際文化情報D（韓国・朝鮮語圏）	1・2・3・4後	2					○						兼1	隔年
		グローバル・アクティビティ	1・2・3・4通	2					○						兼1	
		英語海外研修A	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		英語海外研修B	1・2・3・4後	2					○						兼1	
英語海外研修F	1・2・3・4前	2					○						兼1			
英語海外研修G	1・2・3・4前	2					○						兼1			
英語海外研修H	1・2・3・4後	2					○						兼1			
異文化理解入門	1・2・3・4後	2				○							兼1			
留学のための英語による教養基礎（理系文系別）	1・2・3・4後	2					○						兼1			
ビジネス英語海外研修	1・2・3・4後	2					○						兼1			
フランス短期海外研修	1・2・3・4後	2					○						兼1			
大学で学ぶ世界史	1・2・3・4後	2				○							兼1			
アカデミック・ライティング	1・2前	2					○						兼1			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教育課程等の概要															
(人間科学部人間科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	発展科目 (人文社会科学分野)	人間と教育	3・4前		2		○								兼1
		むら興し・まち興し	3・4後		2		○								兼1
		中国語海外研修A	1・2・3・4前		2			○							兼1
		中国語海外研修C	1・2・3・4後		2			○							兼1
		中国語圏の歴史と文化	1・2・3・4通		2			○							兼1
		韓国の文化と風土	1・2・3・4前		2			○							兼1
		現代中国を読む	1・2・3・4後		2				○						兼1
		漢文史料を読む	1・2・3・4後		2				○						兼1
		平和学	1・2・3・4後		2				○						兼1
		働く人の法知識	1・2・3・4後		2				○						兼1
		株式会社の経営と法	1・2・3・4前		2				○						兼1
		知的財産から見た法の世界	1・2・3・4後		2				○						兼1
		医療から見た法の世界	1・2・3・4前		2				○						兼1
		弁護士が語る大学生のための法律問題	1・2・3・4前後		2				○						兼1
	消費生活と法	1・2・3・4後		2				○						兼1	
	小計 (95科目)	—	0	190	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼35
	発展科目 (自然科学分野)	物理学入門セミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1
		エレクトロニクスセミナー	1・2・3・4前		2			○							兼1
		物理学の世界	1後		2			○							兼1
		遺伝子を考える	1・2・3・4後		2				○						兼1
		山陰の自然史	1・2・3・4前		2				○						兼1
		自然環境の復元	1・2・3・4後		2				○						兼1
		自然と語ろう	1・2・3・4前		2				○						兼1
		データ解析の数理	3・4前		2					○					兼1
		物性科学のフロンティア	2・3・4後		2					○					兼1
		たたらと現代製鋼	1・2・3・4通		2					○					兼1
		生命現象	3・4前		2					○					兼1
		生命科学の世界	3・4前		2					○					兼1
		汽水域の科学 (入門編)	1・2・3・4前		2					○					兼1
		情報と地域—オープンソースと地域振興	2・3・4後		2					○					兼1
	R u b yプログラミング	1・2・3・4前		2					○					兼1	
	開発フレームワーク	1・2・3・4前		2					○					兼1	
	山陰地域の自然災害	1・2・3・4前		2					○					兼1	
小計 (17科目)	—	0	34	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼11	
発展科目 (学際分野)	くらしの中の製作技術	1・2・3・4前		2				○						兼1	
	長寿社会の健康なくらし	1・2・3・4後		2				○						兼1	
	人と職業	2・3・4後		2				○						兼1	
	中山間地域フィールド演習	2・3・4通		3					○					兼1	
	酒—一杯の酒から覗く学問の世界	3・4後		2					○					兼1	
	死と人間	3・4前		2					○					兼1	
	フィールドで学ぶ「斐伊川百科」	1・2・3・4前		2					○					兼1	
	生活と健康	3・4前		2					○					兼1	
	地域博物館へのいざない	1後		2					○					兼1	
	島根学	1・2・3・4前		2					○					兼1	
	環境問題通論	1・2・3・4前後		2					○					兼1	
	環境教育フィールド科学	1・2・3・4前		2					○					兼1	
教育研究のための統計法	1・2・3・4前		2					○					兼1		
ジオパーク学入門	1・2・3・4前		2					○					兼1		
ジオパーク学各論	1・2・3・4後		2					○					兼1		

基礎となる学部の教育課程等の概要

教育課程等の概要															
(人間科学部人間科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	発展科目(学際分野)	ジオパーク学演習	2・3・4前	2				○							兼1
		ワークショップスキル入門	1・2・3・4後	2			○								兼1
		ものづくりと創造性	1・2・3・4前	2			○								兼1
		教育から地域を魅せる	1・2・3・4前	2			○								兼1
		グローバル課題解決型研修	1・2・3・4前	2				○							兼1
		数理・データサイエンス入門	1・2・3・4前後	2											兼1
		イノベーション創成基礎セミナーⅠ	1・2・3・4前後	2											兼1 地域志向科目
		イノベーション創成基礎セミナーⅡ	1・2・3・4後	2											兼1 地域志向科目
		グローバルイシュー実践海外研修	1・2・3・4後	2											兼1
		海外課題解決型就業体験プログラム	1・2・3・4通	2											兼1
	小計(25科目)	—	0	50	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼17
	社会人力養成科目	日本国憲法	1・2・3・4前	2			○								兼1
		大学生の就職とキャリア	1・2・3・4前後	2			○								兼1
		ジェンダー - 性を科学する -	1・2・3・4後	2			○								兼1
		地域社会の生活と安全	1・2・3・4前	2			○								兼1
		ジャーナリズムと地域社会	1・2・3・4後	2			○								兼1
		ボランティアと障がい者支援	1・2・3・4前	2			○								兼1 地域志向科目
		障がい者支援の実際	1・2・3・4後	2			○								兼1
		地域未来論	1・2・3・4後	2			○								兼1
		地域課題解決プロジェクトA	2・3・4後	2			○								兼1
		地域課題解決プロジェクトB	2・3・4後	2			○								兼1
		地域協創インターンシップA	2・3・4後	2					○						兼1
		地域協創インターンシップB	2・3・4後	2					○						兼1
		地域協創インターンシップC	2・3・4後	2					○						兼1
		地域社会と法Ⅰ：知識編	1・2・3・4前	2			○								兼1
地域社会と法Ⅱ：実践編		1・2・3・4後	2			○								兼1	
困基で学ぶ考える力	1・2・3・4後	2			○								兼1		
事例ビジネス開発論 -社会構造の変化に対応する新しい価値の共創-	1・2・3・4後	2					○						兼1		
キャリアデザイン	1・2・3・4前後	2					○						兼1		
ビジネススキル入門	1・2前	2					○						兼1		
課題解決人材入門：東京圏と島根県の学生の対流・対話による未来の共創	1・2・3・4前後	2											兼1		
小計(20科目)	—	0	40	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼11	
専門教育科目	地域実践基盤	人間科学入門セミナー	1前	2				○		8	11	5	3		共同
		人間科学地域実践入門	1後	1			※	※	○	8	11	5	2		オムニバス 講義12、演習 8、実習12
		インタラクティブプレゼンテーションミーティングⅠ	2後	1					○	8	11	5	2		共同
		インタラクティブプレゼンテーションミーティングⅡ	3後	1					○	8	11	5	2		共同
		インタラクティブプレゼンテーションミーティングⅢ	4後	1					○	8	11	5	2		共同
	小計(5科目)		6	0	0					8	11	5	3		
	共通基盤	人間科学概論	1前	2			○			8	11	5	2		共同、オムニバス
		人間科学研究法	2前	2			○			1					
		心理学概論	1後	2			○			1					
		臨床心理学概論	2前	2			○			1					
社会福祉原論Ⅰ		1前	2			○			1		1			オムニバス	
社会福祉原論Ⅱ	1後	2			○			1							
健康科学概論	1前	2			○			1	1				オムニバス		
小計(7科目)		2	12	0					8	11	5	2			

基礎となる学部の教育課程等の概要

教育課程等の概要																
(人間科学部人間科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	学部共通科目	地域社会	地域包括ケア概論	1後	2		○				1					兼1 兼1 集中 隔年 兼1 兼1 兼1 兼1
			社会学概論	1後		2		○								
			コミュニティ心理学	3前		2		○								
			地域福祉論 I	2前		2		○			1					
			地域文化論	3後		2		○								
			行政学	2前		2		○								
			NPO論	2後		2		○								
			中山間地域論	3前		2		○								
			地域産業論	3後		2		○								
			小計(9科目)			2	16	0				1	2			
	人間理解	生命倫理概論	1後		2		○			1						兼1 兼1 兼1 兼3 オムニバス 兼3 オムニバス 兼1 メディア 兼2 メディア
		文化人類学	2前		2		○									
		芸術学	2後		2		○									
		比較宗教学	2前		2		○			1						
		人間と法	1前		2		○									
		人間と工学	2後		2		○			1						
		医学概論	2前		2		○				1					
		生命科学の歴史と倫理	2前		2		○									
		看護学原論	2前		2		○									
		遺伝医学	2後		2		○			1						
	小計(10科目)			0	20	0				3	1				兼12	
	心理学基礎	心理学研究法 I	2後		2		○				1	1				オムニバス グループ別開講、演習2、実験8 グループ別開講、演習2、実験8 グループ別開講、演習22、実験8 グループ別開講 兼3 オムニバス
		心理学研究法 II	2後		2		○				1					
		心理学統計法 I	2前	2				○				1				
		心理学統計法 II	3前		2			○				1				
		心理学実験演習 I	1後	2				○	※		1	2				
		心理学実験演習 I (心理学実験)	1後	2				○	※		1	2				
心理学実験演習 II		2前		2			○	※			2					
グループアプローチ概論		2前	2				○				2					
人体の構造と機能及び疾病		2前		2			○				1					
小計(9科目)				8	10	0					5	2			兼3	
臨床心理学	人格心理学概論	1後		2		○						1			兼3 共同 兼3 オムニバス・隔年 兼3 オムニバス・隔年 兼3 共同・隔年 オムニバス	
	感情・人格心理学概論	1後		2		○						1				
	生涯発達心理学概論	1後		2		○				1						
	発達心理学概論	1後		2		○						1				
	障害者・障害児心理学概論	2前		2		○						1				
	思春期・青年期心理学概論	2前		2		○			1							
	児童生徒人間関係論(教育・学校心理学 I)	2前		2		○								兼3		
	人間関係論	2後		2		○					1					
	不登校の心理臨床(教育・学校心理学 II)	3後		2		○								兼3		
	子育て支援の心理臨床(福祉心理学 II)	3後		2		○								兼3		
児童相談所の心理臨床(福祉心理学 I)	3前		2		○								兼3			
心理的アセスメント	2後		2				○			2	1			オムニバス		
心理学的支援法	3後		2			○				1						

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間科学部人間科学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	臨床心理学	芸術療法論	3前		2		○								兼2 共同
		健康・医療心理学	2後		2		○								兼9
		関係行政論	1前		2		○								兼1
		精神疾患とその治療	2前		2		○			1					
		心理演習	3前		2		※	○		1	4	1			兼2 共同
		臨床心理事例研究	4前		2			○		1	4	1			兼2 共同
		臨床心理文献講読	3後		2			○		1	3	1			オムニバス
		臨床心理学研究Ⅰ	3前		2			○		1	4	1			共同
		臨床心理学研究Ⅱ	3後		2			○		1	4	1			共同
		小計(22科目)			0	44	0				1	5	1		
	実験心理学	知覚・認知心理学Ⅱ	2後		2			○			1				
		認知心理学	1後		2			○			1				
		知覚・認知心理学Ⅰ	1後		2			○			1				
		学習・言語心理学	2後		2		○			1	1				共同
		家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅱ)	2後		2		○					1			
		認知発達心理学	2後		2		○			1					
		社会心理学(社会・集団・家族心理学Ⅰ)	2後		2		○					1			
		司法・犯罪心理学	3後		2		○								兼3
		産業・組織心理学	3前		2		○								兼1
		神経・生理心理学	2前		2		○				1				
		家族心理学基礎研究	2前		2			○				1			
		認知心理学研究	3後		2			○			1				
学習心理学研究		3後		2			○		1	1				共同	
発達心理学研究		3後		2			○		1						
小計(18科目)				0	36	0				1	2	2			兼4
心理学演習	心理学総合演習	4通	4				○		2	6	3			グループ別開講	
	小計(1科目)		4	0	0				2	6	3				
地域実践展開	風土心理研究	3前		2			○			1					
	心理臨床・実践職能論(公認心理師の職責)	3前		2		○			1	4	1			兼2 オムニバス(一部共同)	
	地域臨床実践実習Ⅰ(心理実習Ⅰ)	2後		1				○	2	4	2			兼3 共同	
	地域臨床実践実習Ⅱ(心理実習Ⅱ)	3後		1				○	1	4	1			兼2 共同	
	地域臨床実践実習Ⅲ	4前		1				○	1	4	1			兼2 共同	
	地域臨床実践研究Ⅰ	3後		2			○		1	4	1			兼2 共同	
	地域臨床実践研究Ⅱ	4前		2			○		1	4	1			兼2 共同	
	応用心理学研究Ⅰ	3前		2			○				1				
	応用心理学研究Ⅱ	4前		2			○		1	1				共同	
	インターンシップ(就業体験)	3通		1				○	2	6	3			共同	
小計(10科目)			0	16	0				2	6	3			兼3	

基礎となる学部の教育課程等の概要

教育課程等の概要																
(人間科学部人間科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	福祉社会学コース専門	福祉社会学理論	公的扶助論	2後	2		○								兼1 集中	
			社会調査	2前	2		○						1			
			地域福祉論Ⅱ	2後	2		○					1				
			高齢者福祉論	1後	2		○				1					
			障害者福祉論	2前	2		○					1				
			児童福祉論	2前	2		○						1			
			社会保障論Ⅰ	3前	2		○									兼1
			社会保障論Ⅱ	3後	2		○									兼1 集中
			介護概論	1前	2		○									兼1 集中
			福祉行政財・福祉計画論	4前	2		○									兼1
			社会福祉運営管理論	2後	2		○				1					
			保健医療サービス論	2後	2		○				1					
			就労支援と更生保護	3前	2		○									兼3 オムニバス
			権利擁護と成年後見	3後	2		○									兼1
			精神医学Ⅰ	2前	2		○					1				
			精神医学Ⅱ	2後	2		○					1				
			精神保健学Ⅰ	3前	2		○					1				
			精神保健学Ⅱ	3後	2		○					1			1	オムニバス
			精神保健福祉制度論Ⅰ	2前	2		○								1	
			精神保健福祉制度論Ⅱ	2後	2		○								1	
			精神保健福祉論	3前	2		○								1	
			国際社会福祉論	4前	2		○				1		1			オムニバス
			福祉社会学理論研究	2後	2		○				2	1	1			共同
			専門演習	3通	4						3	3	1	2		共同
小計(24科目)				8	42	0			3	3	1	2		兼7		
福祉社会学文化論	福祉人間論	2後	2			○			1							
	福祉人間論研究	4前	2			○			1							
	福祉経済論Ⅰ	3前	2			○								兼1		
	福祉経済論Ⅱ	3後	2			○								兼1		
	福祉人類学Ⅰ	2前	2			○								兼2 共同		
	福祉人類学Ⅱ	2後	2			○								兼2 共同		
	共生社会史	2前	2			○								兼1		
	文化共生論	2後	2			○								兼1		
	現代社会論	3前	2			○								兼1		
小計(9科目)				2	16	0			1					兼6		
福祉社会学臨床	社会福祉援助技術論Ⅱ	2後	2			○			2					共同		
	ソーシャルワーク論Ⅰ	2前	2			○			1							
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2後	2			○				1						
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2後	2			○			1							
	ソーシャルワーク論Ⅳ	3前	2			○				1						
	社会福祉援助技術演習Ⅱ	3前	2				○							兼2		
	社会福祉援助技術演習Ⅲ	3後	2				○				1					
	社会福祉援助技術演習Ⅳ	4前	2				○		1							
	社会福祉援助技術演習Ⅴ	4後	2				○							兼3		
	精神科ソーシャルワーク論	2後	2				○					1		オムニバス		

基礎となる学部の教育課程等の概要

教育課程等の概要																
(人間科学部人間科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	福祉社会臨床	精神科リハビリテーション学Ⅰ	3前		2		○				1				オムニバス	
		精神科リハビリテーション学Ⅱ	3後		2		○				1		1			
		精神科リハビリテーション学Ⅲ	3後		2		○						1			
		精神科リハビリテーション学Ⅳ	4前		2		○						1			
		精神保健福祉援助技術演習Ⅰ	4前		2			○					1			
		精神保健福祉援助技術演習Ⅱ	4後		2			○					1			
		スクールソーシャルワーク論	4前		2		○						1			
	小計(17科目)			4	30	0				2	2		2		兼5	
	福祉社会コース専門	地域実践展開	地域連携論	3後		2		○			1					共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同
			社会福祉援助技術論Ⅰ	2前		2		○			1					
			社会福祉援助技術演習Ⅰ	2後	2				○			1		1		
			社会福祉実習指導Ⅰ	3通		1			○		3	2	1			
			社会福祉実習指導Ⅱ	3通		1			○		3	2	1			
			社会福祉実習指導Ⅲ	3通		2			○		3	2				
			社会福祉実習Ⅰ	3通		2				○	3	2	1			
			社会福祉実習Ⅱ	3通		2				○	3	2	1			
			社会福祉実習Ⅲ	3通		4				○	3	2				
			精神保健福祉実習指導	4通		2			○			1		2		
			精神保健福祉実習	4通		4				○		1		2		
	インターンシップ(就業体験)	3通		1				○	3	3	1	2				
	小計(12科目)			2	23	0				3	3	1	2			
身体活動・健康科学コース専門	健康身体科学	解剖学Ⅰ	1後		2		○			1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		解剖学Ⅱ	2前		2		○			1						
		バイオメカニクス	2前		2		○						1			
		バイオメカニクス演習	2後		2			○					1			
		バイオメカニクス実験	3後		1				○				1			
		生理学	1後		2		○			1						
		運動生理学	1後	2			○				1					
		応用運動生理学	2前		2			○			1					
		運動生理学実験	3後		1				○		1					
		発育発達学	2後		2		○									
		老齢学	2後	2			○				1					
		病理学	2前	2			○			1						
		病態治療学	3前		2		○									
		運動指導における安全管理	4前		2		○				1					
		栄養学	2前		2		○									
		スポーツ心理学	3前		2		○									
		被服生理学	2後		2		○			1						
健康衣料素材学	2前	2			○			1								
スポーツウェア設計工学	3前		2		○			1								
運動障害者衣料学	3後		2		○			1								
テニス・卓球・バドミントン	3前		1				○									
小計(21科目)			8	31	0				2	2		1				

基礎となる学部の教育課程等の概要

教育課程等の概要															
(人間科学部人間科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	健康社会科学 身体活動・健康科学	スポーツ文化論	1後	2		○									兼1
		スポーツ経営学	2前	2		○									兼1
		スポーツマーケティング論	3前	2		○									兼1
		次世代ヘルスケアビジネス論	4前	2		○			2						共同
		地域健康産業論	3前	2		○			1	1					共同
		機能性食品産業論	2後	2		○			1						
		地域資源活用論	3後	2		○			1						
		環境保健学	2前	2		○				1					
		労働と健康	3前	2		○				1					
		レクリエーション論	3前	2		○					1				
		疫学・統計学	2後	2		○				1			1		オムニバス
		疫学・統計学演習	4後	2				○		1			1		オムニバス
	小計 (12科目)			2	22	0			2	1	1	1		兼3	
	地域実践展開	運動処方論	2前		2		○					1			
		運動処方実習	2後		1				○	1	1				オムニバス
		スポーツ指導実習Ⅰ	2後		1				○	1					
		スポーツ指導実習Ⅱ	3前		1				○	1	1				オムニバス
		社会スポーツ施設実習	3前		1				○	2	2	1			共同
		社会保健施設実習	2後		1				○	2	2	1			共同
	インターンシップ (就業体験)	3通		1				○	3	2	1			共同	
	小計 (7科目)			0	8	0			3	2	1				
	アドバンス	リサーチ・インターンシップ	3通		2				○	8	11	5	3		グループ別
		オーナード論文	4通		4				○	8	11	3	1		グループ別
海外研修		3通		2				○	8	11	5	2		共同	
小計 (3科目)				0	8	0			8	11	5	3			
他コース開講専門科目															
卒業研究		4通	4					○	8	11	3	1			
合計 (460科目)			—	66	834	0		—	8	11	5	3		兼200	

基礎となる学部の教育課程等の概要

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(人間科学部人間科学科)																				
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手							
学位又は称号		人間科学		学位又は学科の分野			学際領域													
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法							授 業 期 間 等													
<p>1. 卒業要件</p> <p>130単位を修得し、かつ、各科目区分ごとの卒業所要単位数を修得した者に学位を与える。</p> <p>各科目区分ごとの卒業要件は次の通りである。</p> <p>全学共通教育 30単位</p> <p>内訳 外国語（英語） 4単位</p> <p>外国語（初修外国語） 4単位</p> <p>健康・スポーツ/文化・芸術 2単位</p> <p>情報科学 2単位</p> <p>教養育成科目 10単位</p> <p>選択 8単位</p> <p>専門教育科目</p> <p>内訳 学部共通科目 地域実践基盤（必修） 6単位</p> <p>共通基盤 8単位</p> <p>（人間科学概論は必修2単位）</p> <p>地域社会 6単位</p> <p>（地域包括ケア概論は必修2単位）</p> <p>人間理解 4単位</p> <p>コース専門科目 50単位</p> <p>地域実践展開 4単位</p> <p>卒業研究 4単位</p> <p>選択 12単位</p> <p>全学共通教育科目、専門教育科目を通しての選択 6単位</p> <p>コース専門科目50単位の内訳は、コースごとに異なる。</p> <p>心理学コースでは、教育科目としての心理学基礎、臨床心理学、実験心理学の各授業題目群から50単位、履修することとし、福祉社会コースでは、教育科目としての福祉社会理論、福祉社会文化論、福祉社会臨床の各授業題目群から50単位履修することとし、身体活動・健康科学コースでは、教育科目としての健康身体科学、健康社会科学の各授業題目群から50単位履修するようにする。</p> <p>心理学コースでは、教育科目の心理学基礎の「心理学研究法Ⅰ」を実験心理学に重点を置く学生の必修、「心理学研究法Ⅱ」を臨床心理学に重点を置く学生の必修とする。</p>							1 学年の学期区分							2 期						
<p>2. 履修登録上制限</p> <p>学生に対する教育の質を保証するため、各学期において履修登録できる単位数の上限を24単位とする。なお、成績優秀学生に対しては上限の24単位を緩和し、履修登録できる単位数を28単位まで認める。</p>							1 学期の授業期間							1 4 週						
							1 時限の授業時間							1 0 0 分						

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学研究科社会創成専攻/研究科共通科目・社会実践科目)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目	人間社会科学特論	<p>一人一人が心身ともに健康でその人らしく生きることができ、多様な人間がその多様性を尊重されて共生する社会を創成するための基盤として、人間社会科学研究科における学問分野全体を学際的に学ぶ。社会の中の人間、人間の活動で構成される社会を理解するために、人間に焦点をあてたアプローチ、社会に焦点をあてたアプローチ双方の強みと相補的な関係に気付けるようにする。また、多数の事例に共通する法則を見出す量的分析と個々の事例の独自性を踏まえて多くの側面を総合的にとらえる質的分析双方の強みと相補的關係も理解できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (⑩浅田健太郎/3回) ガイダンス, 言語の観点から人間と社会を量的に分析する, まとめ。(⑨黒澤修一郎/3回) ガイダンス, 法の観点から社会を質的に分析する, まとめ。(⑫関耕平/4回) ガイダンス, 経済・財政の観点から社会を質的に分析する, 経済・財政の観点から社会を量的に分析する, まとめ。(⑫北村直彰/3回) ガイダンス, 哲学の観点から人間を質的に分析する, まとめ。(⑪山崎泰孝/3回) ガイダンス, 文学の観点から人間を質的に分析する, まとめ。(①吹野卓/3回) ガイダンス, 社会学の観点から社会を量的に分析する, まとめ。(⑧佐々木愛/3回) ガイダンス, 歴史の観点から人間と社会を質的に分析する, まとめ。(②西崎緑・③佐藤桃子/3回) ガイダンス, 福祉の観点から社会を質的に分析する, まとめ。(④村瀬俊樹/3回) ガイダンス, 人間の心を量的に分析する, まとめ。(⑩鶴永陽子/3回) ガイダンス, 食の観点から人間の健康を量的に分析する, まとめ。(83石原宏/3回) ガイダンス, 人間の心を質的に分析する, まとめ。</p>	オムニバス方式
	公共政策実践演習	<p>本演習では、地域の主要なアクターの協力を得ながら(あるいは実際に「連携」しながら)、公共政策にかかる「実践」について学ぶ(もしくは自ら「実践」する)。到達目標は以下の三点。第一に、社会問題の発見・解決に関心を持ち、自分なりに実践せんとすること、第二に、公共政策や市民社会等を論じるにあたって必要な知識を身に付けること、第三に、公共に関わる課題や解決策につき、実証的かつ実践的に分析できること。進め方としては、基礎的な知識を参加者間で共有したうえで、各テーマに応じたアクティブラーニング手法を用いる。例えば、「まちドック」ワークショップ、NPO調査での関係者ヒアリング、模擬事業仕分けなるロールプレイング、公共政策プレゼンとディスカッションなど。なお、ときに、地域の公共政策アクターに本演習に参画してもらうこともある。</p>	
	経済政策実践演習	<p>人口減少が本格化するなか、まちづくりの面では、これまで拡散してきたまちのコンパクト化が一層求められるようになっている。人口増加時代に広げたまちの全域を維持するには、インフラや公共施設の維持更新費の負担が重くなりすぎている。本講義では、今後の縮小まちづくりの中で身近な公共施設の削減を手掛かりに、持続可能なまちづくりに求められる公的資産の管理方法について検討する。</p>	
	福祉経済実践演習	<p>バブル経済崩壊後、雇用・失業・不安定雇用などの労働問題が深刻化するとともに、若者の雇用形態の多様化が進んだ。ここでは、「働き方の多様化」「柔軟な雇用」という評価を受けて拡大してきた若者の非正規雇用にも焦点を当てながら、その上に成り立つ社会保障システムについて講義する。若者の貧困について文献の輪読を行い、それをもとに学生自らが資料収集、統計や施策の分析などを行い自分の意見発表を行うことができるよう指導する。</p>	

地域資料実践演習 I	<p>地域には未発掘未整理の文学関係資料が多く存在する。これらを調査し解読した上で、その意義をわかりやすく発信することは、学術による社会貢献の重要課題の一つである。このことに必要な知識技能を習得することを目標に、近世の日本文学資料に即して、古典籍の書誌調査、解読法等に関する実習を行う。</p> <p>最初に、地域に伝存する古典籍資料の実態、調査の必要性について、出雲・石見地方の例に即して説明する。これに基づき、版本・写本の実物に即して、書誌的調査の実習を行う。また地域的特性の顕著に認められる和歌資料、散文（読本・実録）資料について調査を行う。資料の内容を理解するために、解読法を習得する実習を行うが、この時、紙焼き資料とともにデジタル資料も活用する。以上を踏まえ、調査研究の成果を社会との連携のもとで広く公開するため、目録作成、デジタルアーカイブ、展示の実例に学びながら、その的確な方法について探究する。</p>	
地域資料実践演習 II	<p>山陰における漢文学関係資料を、調査、解読し、その意義をわかりやすく発信する。漢詩や草書体の基本を学んだ上で、書誌調査、解読法等に関する実習を行う。失われつつある、漢文学資料を調査公開することが地域社会さらには日本社会にいかにより必要であるかを考察し、デジタルアーカイブ、展示の実例を紹介した上で、インターネットを用いた公開の仕方を試行錯誤しながら学ぶ。</p>	
日本史学実践演習	<p>本演習では、山陰地域に残された歴史資料を用いた実践的な活用手法を学ぶ。とりわけ中山間地において大学・行政・住民の三者連携を重視した簡易展示作成を通して、専門家としての基本的な考え方や能力を養うことを目的としている。具体的には、「近代国家の政治空間」、「近代的社会基盤の形成」、「近代の災害と戦争」、「伯耆地域の生活慣習」などのテーマに合わせて史料を解読、解釈して歴史的背景の説明文を作成する。それをもとに展示キャプションを作り、全体の展示ストーリーやデザインを含めてパネルを構成する手法を実践的に学ぶ。最後に、各受講学生は中山間地における歴史資料展示の今日的意義をテーマとしたレポートを課題としてまとめ、演習を通して体験的に学んだことの定着を図る。</p>	
都市問題実践演習	<p>本講義は都市地理学の視点を通して、都市という場が抱えている様々な課題を把握し、その解決策を議論することを目的とする。都市地理学の基礎的な文献を課題図書とし、都市における人口減少、高齢化、中心市街地の衰退といった問題に関する地理学の立場からの分析事例や課題解決方法などを理解する。授業の後半では、前半で習得した見方や考え方をベースに受講者の興味・関心に基づいた学術論文を複数選定し、受講者による論文内容の発表と、発表内容に対するディスカッションを中心に行い、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を育成することを目指す。</p>	
英語実践演習 I	<p>現代社会に存在する課題には国を超えて共通するものがある。この授業では、同じ課題に対する、様々な文化背景の人々の見解を通して、多角的な視点を学び、それぞれの文化背景をより深く理解することを目指す。また、英語が第一言語である人、第一言語でない人を含め、様々な文化背景を持つ人々と諸課題に関して議論ができるようになることを目指す。高度な議論をするためには、自分の専門以外の知識も必要になるが、この授業では、様々な課題に対する情報を英文資料から読み解き、資料を基に事前に考えた疑問点を授業の場で議論することにより、理解を深める。</p>	

英語実践演習 II	<p>現代社会に存在する課題には国を超えて共通するものがある。この授業では、同じ課題に対する、様々な文化背景の人々の見解を通して、多角的な視点を学び、それぞれの文化背景をより深く理解することを目指す。また、英語が第一言語である人、第一言語でない人を含め、様々な文化背景を持つ人々と諸課題に関して議論ができるようになることを目指す。高度な議論をするためには、自分の専門以外の知識も必要になるが、この授業では、様々な課題に対する情報を英文資料から読み解き、資料を基に事前に考えた疑問点を授業の場で議論することにより、理解を深る。</p>	
フランス語実践演習 I	<p>フランス語は多くの国際機関、産業界、文芸界で幅広く使われており、その習得によって卒業後の進路の選択肢が広がる言語である。この授業では、フランスを中心に世界に広がるフランス語圏の文化や社会に関するエッセー、ニュースを原文（フランス語）で読み、フランス語の中級以上の知識（文法・語彙・表現）を学ぶとともに、インタビュー、映画などの映像（音声）資料を使った実践的な会話練習からディスカッションの方法を学び、総合的かつ実践的な外国語運用能力を身につける。さらに、アジア言語文化圏、英米言語文化圏との比較を通して、異なる言語・文化を理解できる豊かな感性を養い、多文化共生社会への対応力を身につける。</p>	
フランス語実践演習 II	<p>毎回、シャドーイング（聞き取る力と話す力のトレーニング）と文章読解（読む力と作文のトレーニング）の二部で構成するフランス語の演習授業。フランス語運用能力の向上を目指すことはもちろん、時事フランス語の文章をテキストとして用いることにより、コミュニケーション力の素地となる異文化理解力も養う。受講生のフランス語の理解度に応じて、適宜新聞や雑誌等の記事も紹介し、当該資料の講読を通して、現代社会の様々な課題に主体的に向き合う姿勢を育てる。</p>	
ドイツ語実践演習 I	<p>ドイツ語学習者向けのサイト（Deutsche Welle）から教材となるテキストを選び、リスニングと書き取りを中心に授業を進め、実践的コミュニケーションの前提となるリスニング能力の向上をめざす。また、この教材のなかではドイツ語独自の表現が多く見出されるので、そのような独自の言い回しの背景にある文化的特徴や、日本語との文化的差異についても授業で考察することで、多文化共生社会に必要な異文化理解の力を高めることを目標とする。</p>	
ドイツ語実践演習 II	<p>実践的な聞き取りの能力を高めるには、多くのインプットが必要となるので、前期に引き続き、後期においてもドイツ語学習者向けのサイト（Deutsche Welle）の教材をもちいて、リスニングと書き取りによって授業を進めてゆく。また後期でも語学的なトレーニングだけではなく、言葉から見えてくる文化の違いなどにも注意を向け、異なる文化への関心を高めることで、様々な文化が共存する社会において求められる異文化理解力の向上をめざす。</p>	

社会実践 科目	中国語実践演習 I	『人民日報』など中国語新聞の閲読，CCTVニュースの視聴を通じて生の中国語に触れ，あわせて現代中国の諸事情について理解を深めます。さらに並行して，ビジネスレター・電子メールなど実用的な文章作成の練習をします。最終的には，東アジア，とりわけ中国語圏の人々との文化・学術交流に従事することができる能力の養成を目指します。	
	中国語実践演習 II	『人民文学』誌上の最新作品を読むことによってより高度な中国語読解力を身に付け，さらに近年好評を博した映画やドラマを見ることを通じて聞き取り能力及び発話能力を向上させます。こうした文芸作品の鑑賞を通じて中国の現代文化に関する知見を深めます。また，中国語を用いたパワーポイントファイル作成および発表を通じてプレゼンテーション能力の獲得を目指します。最終的には東アジア，とりわけ中国語圏の人々との文化・学術交流に従事することができる能力の養成を目指します。	
	東洋史学実践演習 I	中国南方（浙江/福建）現地に赴いて史跡や景観のフィールド調査を行い，歴史学としての史跡調査方法を習得し，中国南方の社会と文化を理解することを目的とする。調査する史跡は古墓・祠堂・記念碑等である。また現地調査前には，調査対象に関する文献の輪読を行って現地への理解を深め，帰国後は調査の成果を整理してまとめ，報告書を執筆，公表することを通し，アカデミックリーディング/ライティングの実践的な力も養成する。	
	東洋史学実践演習 II	中国北方（洛陽/西安）現地に赴いて，史跡や景観のフィールド調査を行い，歴史学としての史跡調査方法を習得し，中国北方の社会と文化を理解することを目的とする。調査する史跡は古墓・祠堂・記念碑等である。また現地調査前には，調査対象に関する文献の輪読を行って現地への理解を深め，帰国後は調査の成果を整理してまとめ，報告書を執筆，公表することを通し，アカデミックリーディング/ライティングの実践的な力も養成する。	
	異文化交流 I	本学と交流協定を締結する山東大学法学院の協力のもと，受講生を中国山東省に派遣し，中国の法制度の実際の運用およびその背景にある文化に接する。日本とは社会構造が異なる中国法について学ぶことで，社会構造と法とのつながりを理解できる。日本には中国人が数多く暮らしており，彼らと共生するためにはお互いの文化について社会構造や法に対する意識の面にまで踏み込んで理解することが重要である。また，中国法と比較することによって日本法の特徴や問題点を把握することも，日本の法制度のあり方を探ることに資する。 （オムニバス方式・一部共同/全14回） ②大庭沙織/3回）イントロを担当し，中国法総論について講義する。（⑩高橋正太郎/3回） 中国の裁判制度や比較法等について講義する。（⑧嘉村雄司/3回） 中国の経済活動と法について講義しディスカッションを担当する。 （担当教員全員/5回）フィールドワークを担当する。	オムニバス方式
	異文化交流 II	中国人民大学・寧夏大学の在学学生を相手にした学術討論会および現地調査を合同で実施する。こうした学術討論会と現地調査に先立って，日本での事前の学習および地域調査を行い，日中の農山村の実態・政策について国際比較の観点から分析する。	
	異文化交流 III	本学と交流協定を締結するフロリダ大学の協力のもと，米国フロリダに数週間滞在し現地フィールドワークを行なうことを通して，英語によるコミュニケーション力や表現力，および課題解決策を考えるための調査を自ら企画・実施する力を養う。国境を越え，多様な人びとと相互作用しながら自らの問題意識に基づいた調査活動を進めていくなかで，グローバルに活躍する社会人にとって必要な，協働する力と応用実践力を高めることをめざす。	

異文化交流IV	<p>本学と交流協定を締結するトリーア大学の協力のもと、受講生をドイツ・トリーアに派遣し、実践的言語能力を高めるとともに、異文化に接して多角的・批判的な視点から考察する力を養う。そのために、ドイツと日本との間の文化的な違いの理解を深める事前学習を実施し、また研修後には異文化比較という観点から報告の場を設ける。</p>	
対人支援実践演習	<p>主に、対人支援に関わる現場で働く社会人学生を対象に、実際の現場で得られた経験から知識を発展させるケーススタディを行う授業である。対人支援サービスの現場においては、複数の領域をにまたがった課題が多く存在する。さまざまな立場の専門職と意見を交わし、実践と研究における発展的な理解を得る。</p>	
臨床心理地域援助実践演習 I (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	<p>産業労働分野におけるメンタルヘルスの基礎的な知識と介入実践力を養うことを目的とする。労働法規、セルフケア、ラインケアの基礎を学んだ後、ストレスチェックや復職判定などに必要な心理アセスメントを事例を通して実践的に学ぶ。心理アセスメントについては、質問紙法、描画法、ロールシャッハテストを取り上げて、事例検討を行う。</p>	
臨床心理地域援助実践演習 II	<p>臨床心理学専攻のみならず、社会創生専攻のさまざまな学問分野の受講生とともに、それぞれの専門分野から見た山陰地域の課題を共有しながら、山陰地域の臨床心理地域援助の実践について理解を深めることを目的とした演習を行う。 (オムニバス方式/全14回) (92長谷川 千紘/2回) 教育分野、とりわけ大学生の学生相談における臨床心理地域援助の課題と実践について (83石原 宏/2回) 司法・犯罪分野、とりわけ非行少年に対する臨床心理地域援助の課題と実践について (86野口 寿一/2回) 産業・労働分野における臨床心理地域援助の課題と実践について (89高野 由美子/1回) 保健医療分野における臨床心理地域援助の課題と実践について (88田中 美樹/1回) 教育分野、とりわけ公立教育センターにおける臨床心理地域援助の課題と実践について (90三鴨 朋子/1回) 教育分野、とりわけ高等学校・専門学校における臨床心理地域援助の課題と実践について (82高見 友理/1回) 司法・犯罪分野、とりわけ被害者支援の課題と実践について (80高橋 悟/2回) 教育分野、とりわけ専門学校における臨床心理地域援助の課題と実践について、および福祉分野、とりわけ児童養護施設における臨床心理地域援助の課題と実践について (75岩宮 恵子/1回) 教育分野、とりわけ公立学校における臨床心理地域援助の課題と実践について (91西嶋 雅樹/1回) 教育分野、とりわけ小・中学校における臨床心理地域援助の課題と実践について</p>	オムニバス方式
社会統計学実践演習	<p>社会的なデータを分析するために用いる多変量解析法について、その仕組みを理解し、実際に使いこなせるよう学んでいく。具体的には重回帰分析・主成分分析・因子分析・分散分析・数量化I類、数量化II類、数量化III類、多次元尺度法などである。</p>	

言語データ分析実践演習	<p>ことばを計量的なデータとして扱い、その特徴を分析する方法について、理論と実践の両面から学習する。なお、授業はコンピュータに習熟していない文系の学生を対象とし、ことばをデータとして扱う際の基本的な考え方や、データ解釈の方法を身につけることを目標とする。言語事象を一般的な規則として把握するためには、多くの言語データを処理し、分析する必要がある。この授業では、言語データの収集の仕方、コーパスの利用、テキストファイルの処理、エクセルを使ったデータの整理・分析などを通して、言語を計量的に扱い、特徴を抽出する過程を学ぶ。</p>	
人間科学データサイエンス実践演習	<p>データの取得方法、取り扱い方、分析方法（統計的手法）について理解することを第一の目的とし、さらに実験手法やデータの種類に応じた適切なデータハンドリング・統計解析ができることまで目指す。そのために、取得したデータの入力、整理、変換、可視化、モデル化のそれぞれについて詳しく学び、講義だけでなくコンピューター上で実際にデータに触れながら体験的に学んでいくこととする。</p>	
人間社会科学データサイエンス実践演習	<p>情報科学の発展とともにクラウド上に大量のデータが集積されるようになり、これらのデータをAIで機械学習させることで、新しい価値をマイニング出来るようになった。第三次AIブームの火付け役となったディープラーニングも機械学習のひとつである。ビッグデータの解析は、経営・医療系の分野だけではなくあらゆる分野で活用されている。この授業では、機械学習の重要な考え方のひとつであるベイズ統計を中心に学ぶことで、客観的なデータが集まらない場合の統計的手法を学ぶことを目的とする。また、この考えた方が「学習」や実データの取り扱いにどのように相性がよいかを知る。さらに、実際に社会実装されている事例を通して、これらの技術がどのように活用できるのかをユーザー側の視点で理解することも目的とする。</p>	
インターンシップ	<p>第1回において、この授業の趣旨目的について確認した後、計画の策定を開始する。この授業は単なる就業体験ではなく、研究と社会実践と関連づけることを目的としていることから、この観点に沿って、授業担当教員の指導のもと、自身の研究テーマと実地研修における課題の関連性について探究する。活動計画書を作成し、事前指導を経て、実地研修を行う（1.5日分相当の研修を想定）。事後指導を経て、この授業での全活動を総括し、自身において、研究と社会実践とをどのように関連づけることができたかを確認する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学研究科社会創成専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース間 連携科目	インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅠ	社会創成専攻全学生が一堂に集まり、互いの研究を発表し、質疑応答を行う。この授業では、自分と同じ専門を学ぶ学生だけでなく、他の専門を学ぶ学生に対しても理解可能なように伝える力、他の専門を学ぶ学生の話も自分の領域との関連性を考えながら聞く力を育成する。学生は主指導教員・副指導教員のアドバイスを受けながら、他者の視点を意識しながら発表の準備をし、授業の場で多様な聞き手に対して発表を行う実践をする。また、授業の場ではファシリテーターの役割を学生にとらせ、積極的な聞き手として、様々な領域の話をも自分の学んでいる領域と関連付けていく力を養う。	共同
	インターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションⅡ	1年次のインターディシプリナリー・コミュニケーション・セッションの経験を踏まえ、自分の発表を多様な聞き手に発表する力、多様な領域の発表者の話を自分の領域と関連付けて聞く力、能動的に質疑応答を行う力をさらにスキルアップできるようにする。そのことを通して、自分の専門領域で、他の専門領域とどのような関係にあるかを認識し、自分の専門領域の独自性と、他の専門領域との相補性を認識できるようにする。そして、人間の社会の両面から、また、質的に人間や社会を捉えるアプローチと量的に人間や社会を捉えるアプローチの違いと相補性を認識できるようにする。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学部研究科社会創成専攻法政コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	法政演習	<p>本科目は、以下の三点を到達目標として、修士論文指導を行う。第一に、自発的な研究態度を身につける。第二に、自分のテーマに関する調査・分析から問題点を的確に把握し、それに自分なりの考察を加えて一つの結論に導く。第三に、それを論理的で説得力のある論文として完成する。以上のため、まず、学生が設定したテーマをベースとして、研究論文を作成するために必要な技術や理論を学ぶ。加えて、リサーチや分析の後で、自分の考察及び結論をさまざまな資料を駆使して論理的かつ説得力のある文章で表現する方法を学ぶ。</p> <p>(23毎熊浩一)</p> <p>専門領域：行政学、研究テーマの概要：行政や地方自治等に関する学術的トピックにつき、理論研究・社会科学方法論・政策実践に基づく行政研究の指導を行う。</p> <p>(25永松正則)</p> <p>専門領域：行政法、研究テーマの概要：行政救済制度における損失補償制度を中心に、損失補償の内容、補償の要否(規制の取用)について研究指導を行う。</p> <p>(18嘉村雄司)</p> <p>専門領域：企業法、研究テーマの概要：企業法、とりわけ商法、会社法、金融商品取引法および保険法に関する学術的問題について研究指導を行う。</p> <p>(19黒澤修一郎)</p> <p>専門領域：憲法、研究テーマの概要：憲法(基本的人権および統治機構)に関する理論、制度、および運用のあり方に関する研究について指導を行う。</p> <p>(20高橋正太郎)</p> <p>専門領域：刑事訴訟法、研究テーマの概要：刑事手続に関する学術的トピックにつき、理論研究を重視しつつ、実務への反映を如何に実現すべきかの検討について指導を行う。</p> <p>(21大庭沙織)</p> <p>専門領域：刑法学、研究テーマの概要：犯罪と刑罰に関する学術的トピックにつき、判例研究・文献研究・比較法研究に基づく刑法学研究の指導を行う。</p>	
コース基盤科目	法政基礎論	<p>本授業の形態は講義及び演習である。受講者が、指定テキストを精読したうえで、論点についてのレジュメを作成し報告する。その報告を基礎として、論点を正確に理解するよう授業を展開する。本授業の目標は、法学および政治学・行政学に関する基礎知識を身につけることとともに、実際の紛争がいかにか解決されているかを学ぶことにある。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (23毎熊浩一/2回) 政治学及び行政学について講義する。(25永松正則/2回) 行政法および地方自治法について講義する。行政法について講義する。(18嘉村雄司/2回) 商法および会社法について講義する。(19黒澤修一郎/1回) 憲法について講義する。(20高橋正太郎/3回) 導入担当の他、法と裁判および刑事訴訟法について講義する。(21大庭沙織/2回) 刑法総論および刑法各論について講義する。</p> <p>[江渕武彦/2回] 民法民法総則と物権法および債権法と家族法について講義する。</p>	オムニバス方式
	憲法特殊講義 I A	<p>この授業のテーマは、基本的人権保障の現代的課題である。この授業では、現代における人権保障の実践的および理論的課題について検討を行う。また、基本的人権に関する判例・制度・理論の形成要因を理解するために、それらを取りまく政治的・社会的文脈に着目する。毎回の授業は、導入のための教員による講義(30分)と、受講者による報告と討論(70分)で構成される。受講者には、テキストと関連資料を理解した上で、報告と討論を適切に行うことが求められる。</p>	隔年
	憲法特殊講義 I B	<p>この授業のテーマは比較憲法である。諸外国の憲法(基本的人権および統治機構)に関連する判例、制度、および理論について、それぞれの問題領域における現代的課題を意識しながら検討を行う。比較法の視座を導入することを通じて、日本の憲法の特徴を明らかにすることを狙いとする。毎回の授業は、導入のための教員による講義(30分)と、受講者による報告と討論(70分)で構成される。受講者には、テキストと関連資料を理解した上で、報告と討論を適切に行うことが求められる。</p>	隔年

憲法特殊講義 II A	この授業のテーマは、統治機構論の現代的課題である。議会、行政権、裁判所、違憲審査制、地方自治などといった問題領域における実践のおよび理論的論点について、現代的課題を特に念頭に置きながら考察を進める。アプローチの方法として、制度や理論の形成要因を理解するために、それらを取りまく政治的・社会的文脈に着目する。毎回の授業は、導入のための教員による講義（30分）と、受講者による報告と討論（70分）で構成される。受講者には、テキストと関連資料を理解した上で、報告と討論を適切に行うことが求められる。	隔年
憲法特殊講義 II B	この授業のテーマは、日本の憲法判例の現在である。近年に下された重要な憲法判例を扱い、判例法理の展開について検討するとともに、判例を取りまく政治的・社会的文脈との連関についても考察する。近時の憲法判例の動向を理解することを通じて、違憲審査制の運用に関する応用的な知識を修得することが目標となる。毎回の授業は、導入のための教員による講義（30分）と、受講者による報告と討論（70分）で構成される。受講者には、テキストと関連資料を理解した上で、報告と討論を適切に行うことが求められる。	隔年
行政法特殊講義 I A	本科目では、主として行政法の基礎理論と行政作用法に関する内容を扱う。行政機関が行政活動を行うにあたっては、さまざまな手法があり、これらの行政手法の特色を確認しながら、その特徴を押さえていく。 具体的には、まず法治主義、法律による行政の原理の内容について理解する。続いて行政法理論を理解するために伝統的行政官庁法理を紹介する。また行政立法、行政行為、行政調査について、それぞれの特徴を理解する。 とりわけ本授業では、行政行為に多くの時間を割き、公定力、執行力他特殊な効力、行政裁量論、行政裁量に対する司法審査のあり方、附款論、瑕疵論、取消撤回論を扱っていくなかで、法律による行政の原理を深く理解する。	隔年
行政法特殊講義 I B	本科目では、主として行政法の基礎理論と行政作用法に関する内容を扱う。行政機関が行政活動を行うにあたっては、さまざまな手法があり、これらの行政手法の特色を確認しながら、その特徴を押さえていく。本授業では、行政目的達成手段と非権力的行政作用を中心に学習する。 具体的には、行政上の強制過程として直接的強制過程である行政代執行制度、直接強制、強制徴収等を扱い、代執行制度の機能不全や空家特措法に基づく自治体の代執行の実情なども紹介する。また間接的強制過程である行政刑罰、秩序罰、そしてその他の手段である氏名の公表制度などを学習しながら、行政目的達成手段が複数の手段の組み合わせによって有効に機能することを理解する。また非権力的行政作用として、行政契約や行政指導についても、その有用性と限界について検討する。公文書管理法、情報公開制度、個人情報保護制度についても学習し、行政文書主義の意義を理解する。	隔年
行政法特殊講義 II A	本科目では、行政救済制度のうち、主として行政争訟制度について扱う。すなわち、行政活動に不服がある市民がその行政活動自体の効力を争うことによって権利救済を図る方法について授業を行う。具体的には、行政不服審査制度、行政事件訴訟制度と関連する諸判例を詳細に見ていく。 まず行政不服審査制度においては、不服申立の種類、要件等を学習し、判例理論を理解する。つづいて不服申立審理の特徴について、職権主義、書面審理主義、執行不停止制度、審理員制度、行政不服審査法制度について自治体の例も参考にしながら学習する。 つづいて不服申立制度と比較して行政事件訴訟制度の特徴である当事者主義、弁論主義等について学習する。とくに主観訴訟である取消訴訟の訴訟要件論を中心に学習しながら、判例の処分性、当事者適格、狭義の訴えの利益論など最近の判例動向を理解する。	隔年
行政法特殊講義 II B	本科目では、行政救済制度のうち、主として国家補償制度について扱う。すなわち、行政活動に不服がある市民がその行政活動によって生じた損害や損失を金銭によって補填することによって権利救済を図る方法について授業を行う。具体的には、国家賠償制度、損失補償制度と関連する諸判例を詳細に見ていく。 国家賠償制度については、国賠法1条の要件論を中心に、特に職務行為、公務員の定義、故意過失、違法性、因果関係などを、具体的な判例を検討しながら学習する。続いて国賠法2条の要件論を中心に、特に無過失責任主義、公物概念などを、具体的な判例を検討しながら学習する。 損失補償制度については、収用条項の意味内容、補償の要否（特別犠牲性説）、補償の時期などを中心に、具体的な判例を検討しながら学習する。	隔年

民事法特殊講義 I A	民法総則分野の裁判例研究を課題とする。よく知られた同裁判例14件（いわゆる宇奈月温泉事件、八幡製鉄政治献金事件、前借金無効判決事件など）を対象とする。受講生には、予め、判例データベースで所定裁判例を入手させる。その上で、授業前に、要件事実、当事者の主張、判旨、当該判旨の判例としての位置づけを試みさせ、それを資料として持参、講義に臨ませることとする。	隔年
民事法特殊講義 I B	民法における物権法分野の裁判例研究を課題とする。よく知られた同裁判例14件（いわゆる登記推定力事件、不動産賃借人第三者事件、民法177条の第三者における背信的悪意者排除事件など）を対象とする。受講生には、予め、判例データベースで対象裁判例を入手させ、要件事実、当事者の主張、判旨、当該判旨の判例としての位置づけを試みさせて講義に臨ませることとする	隔年
民事法特殊講義 II A	民法における債権総論分野の裁判例研究を課題とする。よく知られた同裁判例14件（種類債権特定事件、賃借権にもとづく妨害排除請求事件、指名債権差押通知と譲渡通知先後不分明事件など）を対象とする。受講生には、予め、判例データベースで対象裁判例を入手させ、要件事実、当事者の主張、判旨、当該判旨の判例としての位置づけを試みさせて講義に臨ませることとする。	隔年
民事法特殊講義 II B	民法における債権各論分野の裁判例研究を課題とする。よく知られた同裁判例14件（約款の拘束力事件、他人物売買と相続事件、大阪アルカリ事件など）を対象とする。受講生には、予め、判例データベースで所定裁判例を入手させ、要件事実、当事者の主張、判旨、当該判旨の判例としての位置づけを試みさせて講義に臨ませることとする。	隔年
政治学特殊講義 I A	本講義では、政治学の基本概念に関する最新の学説を紹介する。具体的には、国家、権力、自由、デモクラシーといった古典的概念から、政治教育、テロリズム、ジェンダーといった比較的新しい概念まで幅広く取り上げる。そうした基礎知識の習得を通して、政治学的なものの見方を涵養し、一人ひとりの個人と政治とのかかわり方について再考することをめざす。	隔年
政治学特殊講義 I B	本講義では、敗戦・占領から高度成長を経て1980年代に「国際国家」へと発展していく戦後日本のあゆみを振り返ったのちに、政治過程に登場するさまざまなアクターの動態について概説する。具体的には、議会・政党の役割、行政府・官僚制と政治のかかわり、地方政府と中央政府の関係などを取り上げる。そうした日本政治のダイナミズムを踏まえて、憲法改正や歴史認識、領土問題といった近年の日本政治が直面する課題について考察する。	隔年
政治学特殊講義 II A	本講義では、国際政治に関する基本的な理論や概念について概説する。具体的には、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムなどの国際関係理論、安全保障や国際政治経済の仕組み、人道的介入や核開発、地球環境問題といった最近の国際政治上の課題について検討し、これからの国際社会における日本の立ち位置がどのようなものであるべきかを考察する。	隔年
政治学特殊講義 II B	本講義では、国際政治の基本的アクターである主権国家がどのような生成・発展・変容のプロセスを経て、現在の国際システムを形成するに至ったのかを概説する。30年戦争、ナポレオン戦争、20世紀における二度の世界大戦と冷戦を経験した人類は、その都度、戦争を抑止するためのさまざまな方策を探求し、新たな国際システムを模索してきた。そうした歴史的知見を踏まえて、21世紀における国際政治の諸問題を捉えなおす。	隔年
行政学特殊講義 I A	本科目は、以下の三点を到達目標として、行政学「総論」を扱う。第一に、行政学の各種トピックに関する学術的関心を深めていること、第二に、学術的議論を展開するに必要な知識や理論を身に付けていること、第三に、行政学的な研究課題を設定し、独自の視座・方法からアプローチできること。進め方としては、担当教員から概説的な講義を行ったうえで、担当学生に予め指定した論点についての報告をさせ、全参加者で議論を行う。具体的なテーマは、例えば、三つの学としての行政学、行政学史、行政組織論、公務員制論、政策過程論、行政統制論、行政責任論などである。	隔年

法政 コース コース 専門 科目	行政学特殊講義ⅠB	本科目は、以下の三点を到達目標として、行政学「各論」を扱う。第一に、行政学全般に関する学術的関心を深めていること、第二に、学術的議論を展開するために必要な知識や理論を身に付けていること、第三に、行政学「各論」的な研究課題を設定し、独自の視座・方法からアプローチできること。進め方としては、担当教員から概説的な講義を行ったうえで、担当学生に予め指定した論点についての報告をさせ、全参加者で議論を行う。具体的なトピックは、例えば、行政改革、財政再建、公務員制度改革、地方分権改革、自治体行政改革、自治体議会改革、人口問題、防災、情報、経済、環境など。などである。	隔年
	行政学特殊講義ⅡA	本科目は、以下の三点を到達目標として、公共経営論（いわばNPM以降の行政学）の「総論」を扱う。第一に、公共経営論全般に関する学術的関心を深めていること、第二に、学術的議論を展開するために必要な知識や理論を身に付けていること、第三に、公共経営論的な研究課題を設定し、独自の視座・方法からアプローチできること。進め方としては、担当教員から概説的な講義を行ったうえで、担当学生に予め指定した論点についての報告をさせ、全参加者で議論を行う。具体的なテーマは、ガバナンスとメタガバナンス、官僚制論（その生理と病理）、NPMの理論と事例、行政評価、NPOの理論と事例、市民参加、超NPM論など。	隔年
	行政学特殊講義ⅡB	本科目は、以下の三点を到達目標として、公共経営論（いわばNPM以降の行政学）の「各論」を扱う。第一に、公共経営論「各論」に関する学術的関心を深めていること、第二に、学術的議論を展開するために必要な知識や理論を身に付けていること、第三に、公共経営の各論的な研究課題を設定し、独自の視座・方法からアプローチできること。進め方としては、担当教員から概説的な講義を行ったうえで、担当学生に予め指定した論点についての報告をさせ、全参加者で議論を行う。具体的なテーマは、自治基本条例、議会基本条例、市民活動・協働推進条例、マニフェストと行政経営、総合計画・総合戦略、公共施設の適正化、自治体行政評価、地域コミュニティ、NPO経営、市民参加、政治参加など。など。	隔年
	社会法特殊講義ⅠA	労働者保護法をテーマとして、我が国の現行労働法制について講義する。具体的には労働基準法、労働契約法、男女雇用機会均等法、育児介護休業法ならびに労働者派遣法の理論的課題について学説、判例を取り上げて、検討する。	隔年
	社会法特殊講義ⅠB	労使関係法をテーマとして、我が国の現行労働法制について講義する。具体的には労働組合法、労働関係調整法の理論的課題について学説、判例を取り上げて、検討する。	隔年
	社会法特殊講義ⅡA	社会保障法をテーマとして、社会保障法総論について講義する。具体的には生存権論、社会保障争訟論の理論的課題について学説、判例を取り上げて検討する。	隔年
	社会法特殊講義ⅡB	社会保障法をテーマとして、我が国の現行社会保障法制について講義する。具体的には社会保険法、公的扶助法、社会福祉法ならびに社会扶助法の理論的課題について学説、判例を取り上げて検討する。	隔年
	企業法特殊講義ⅠA	本講義のテーマは、商法総則・商行為法の内容について、発展的な知識を習得することである。本講義では、商法総則・商行為法の判例・裁判例および先行研究の検討を通じて、最新の動向を理解することを目的とする。具体的には、商業登記、商号、営業譲渡などの商法総則における基本的項目、および、仲立、取次、場屋などの商行為法における基本的項目について、最新の判例・裁判例および先行研究の検討を行う。以上の内容について、受講生にプレゼンテーションを行ってもらったうえで、受講生全員でディスカッションを行い、理解の深化を図る。	隔年
	企業法特殊講義ⅠB	本講義のテーマは、保険法の内容について、発展的な知識を習得することである。本講義では、保険法の判例・裁判例および先行研究の検討を通じて、最新の動向を理解することを目的とする。具体的には、被保険利益、告知義務、保険代位、免責事由などの保険法における基本的事項について、最新の判例・裁判例および先行研究の検討を行う。以上の内容について、受講生にプレゼンテーションを行ってもらったうえで、受講生全員でディスカッションを行い、理解の深化を図る。	隔年

企業法特殊講義ⅡA	本講義のテーマは、会社法の内容について、発展的な知識を習得することである。本講義では、会社法の判例・裁判例および先行研究の検討を通じて、最新の動向を理解することを目的とする。具体的には、営利社団法人性、法人格、株主の地位、取締役の責任などの会社法における基本的項目について、最新の判例・裁判例および先行研究の検討を行う。以上の内容について、受講生にプレゼンテーションを行ってもらったうえで、受講生全員でディスカッションを行い、理解の深化を図る。	隔年
企業法特殊講義ⅡB	本講義のテーマは、会社法の内容について、発展的な知識を習得することである。本講義では、会社法の判例・裁判例および先行研究の検討を通じて、最新の動向を理解することを目的とする。具体的には、計算書類、剰余金、募集株式発行、組織再編、設立などの会社法における基本的項目について、最新の判例・裁判例および先行研究の検討を行う。以上の内容について、受講生にプレゼンテーションを行ってもらったうえで、受講生全員でディスカッションを行い、理解の深化を図る。	隔年
刑事法特殊講義ⅠA	刑法総論の中の刑罰論、行為論、因果関係論、違法論、責任論を扱う。刑罰論では、歴史の中で刑罰が有していた意義および現代的における意義を学ぶ。そして次に、刑罰を科す前提となる犯罪の成立について学ぶ。行為論から責任論までを理解し、犯罪成立の基本的な流れを理解することを目的とする。	隔年
刑事法特殊講義ⅠB	刑法総論の中の未遂犯論、共犯論、罪数論を扱う。 刑事法特殊講義ⅠAに続いてこの講義を履修することで、刑法総論の主要論点を学習することができる。特に共犯論は難解で論点も豊富であるため、できるかぎり多くの裁判例や学説を扱い理解を深める。さらに、発展的内容として現在議論が盛んな刑法的問題や裁判例を扱う回を設ける。判例の傾向および学説からの評価や問題点、学説の議論状況を紹介し、刑法理論の理解を深める。	隔年
刑事法特殊講義ⅡA	刑法各論の中の個人的法益に対する罪を扱う。 個人的法益といっても、生命、自由、名誉、財産と、問題になる法益は多様であり、論点は多岐にわたる。そこで、判例の傾向および学説からの評価や問題点、学説の議論状況を紹介し、刑法理論の理解を深める。また、現代特に社会問題となっている犯罪については時事的な内容も含める。	隔年
刑事法特殊講義ⅡB	刑法各論の中の社会的法益に対する罪および国家的法益に対する罪である。さらに、特別法の中でもとりわけ主要論点であり、社会的にも問題になることが多い、道路交通法違反の罪、特別背任罪、インサイダー取引の罪、脱税の罪を扱う。判例の傾向および学説からの評価や問題点、学説の議論状況を紹介し、刑法理論の理解を深める。また、現代特に社会問題となっている犯罪については時事的な内容も含める。	隔年
刑事訴訟法特殊講義ⅠA	本講義では、刑事手続における「捜査・公訴」の部分を中心に、授業を進める。テキストを参照しながら、できるだけ具体的な事例を引き合いに出し、基礎的な論点を概説する。刑事手続が果たすべき機能という視点を重視しながら、捜査・公訴部分の全体像を理解できるよう、説明する。授業の目標は、刑事手続における「捜査・公訴」部分の基本的な論点について、検討することができ、また、それを支える考え方を理解できるようになることである。具体的には、当該論点が存在する手続を概観し、何故そのような手続が必要で、どうしてそれを前提とする当該論点が生じるのかを理解する、ということが中心となる。	隔年
刑事訴訟法特殊講義ⅠB	本講義では、刑事手続における「公判・上訴」の部分を中心に、授業を進める。テキストを参照しながら、できるだけ具体的な事例を引き合いに出し、基礎的な論点を概説する。刑事手続が果たすべき機能という視点を重視しながら、公判・上訴部分の全体像を理解できるよう、説明する。授業の目標は、刑事手続における「公判・上訴」部分の基本的な論点について、検討することができ、また、それを支える考え方を理解できるようになることである。具体的には、当該論点が存在する手続を概観し、何故そのような手続が必要で、どうしてそれを前提とする当該論点が生じるのかを理解する、ということが中心となる。	隔年
刑事訴訟法特殊講義ⅡA	本講義では、刑事手続における「捜査・公訴」の部分を中心に、授業を進める。テキストを参照しながら、できるだけ具体的な事例を引き合いに出し、応用的な論点を概説する。刑事手続が果たすべき機能という視点を重視しながら、捜査・公訴部分の全体像を踏まえ、現代的な論点を理解できるよう、説明する。授業の目標は、刑事手続における「捜査・公訴」部分の応用的な論点について、検討することができ、また、それを支える考え方を理解できるようになることである。具体的には、当該論点が存在する手続を土台に、何故そのような論点が生じ、それを解決するために必要な検討事項は何かを理解する、ということが中心となる。	隔年

刑事訴訟法特殊講義ⅡB	本講義では、刑事手続における「公判・上訴」の部分を中心に、授業を進める。テキストを参照しながら、できるだけ具体的な事例を引き合いに出し、応用的な論点を概説する。刑事手続が果たすべき機能という視点を重視しながら、公判・上訴部分の全体像を踏まえ、現代的な論点を理解できるよう、説明する。授業の目標は、刑事手続における「公判・上訴」部分の応用的な論点について、検討することができ、また、それを支える考え方を理解できるようになることである。具体的には、当該論点が存在する手続を土台に、何故そのような論点が生じ、それを解決するために必要な検討事項は何かを理解する、ということが中心となる。	隔年
税財政法特殊講義ⅠA	本授業の形態は講義及び演習である。受講者が、テキストを精読したうえで、論点についてのレジュメを作成し報告する。その報告を基礎として、論点を正確に理解するとともに、学界における議論の水準に到達するように授業を展開する。本授業の目標は、修士論文作成に必要不可欠である租税法の基礎理論を練成するとともに、最近の重要裁判例の検討を通して、納税者の権利利益の保護の視点から、いかに問題解決が図られるべきかを明らかにすることにある。租税法体系のうち租税法序説を授業範囲とするが、具体的には、租税法の研究手法と判例の読み方、租税法の意義と特質、租税制度の歴史的沿革、租税法の基本原則である租税法主義と租税公平主義の基礎理論と憲法訴訟、租税法主義と租税公平主義の関係、自主財政主義、租税法の法源、租税法の効力、租税法と私法の関係、租税回避とその否認、信義則の適用を講義する。	隔年
税財政法特殊講義ⅠB	本授業の形態は講義及び演習である。受講者が、テキストを精読したうえで、論点についてのレジュメを作成し報告する。その報告を基礎として、論点を正確に理解するとともに、学界における議論の水準に到達するように授業を展開する。本授業の目標は、修士論文作成に必要不可欠である租税法の基礎理論を練成するとともに、最近の重要裁判例の検討を通して、納税者の権利利益の保護の視点から、いかに問題解決が図られるべきかを明らかにすることにある。租税法体系のうち租税実税法を授業範囲とするが、具体的には、課税要件、税理士の職務と責任、所得税、法人税、相続税及び消費税という主要国税の構造と仕組み、重要論点の整理及び判例研究を講義する。	隔年
税財政法特殊講義ⅡA	本授業の形態は講義及び演習である。受講者が、テキストを精読したうえで、論点についてのレジュメを作成し報告する。その報告を基礎として、論点を正確に理解するとともに、学界における議論の水準に到達するように授業を展開する。本授業の目標は、修士論文作成に必要不可欠である租税法の基礎理論を練成するとともに、最近の重要裁判例の検討を通して、納税者の権利利益の保護の視点から、いかに問題解決が図られるべきかを明らかにすることにある。租税法体系のうち租税手続法を授業範囲とするが、具体的には、租税手続法とは何か、租税実税法と租税手続法の関係、租税確定の方式、青色申告と白色申告、更正の請求、更正・決定、推計課税、質問検査権の歴史的展開、行使の要件及び手続、国税通則法改正と納税者の権利保護、租税の納付と徴収、滞納処分を講義する。	隔年
税財政法特殊講義ⅡB	本授業の形態は講義及び演習である。受講者が、テキストを精読したうえで、論点についてのレジュメを作成し報告する。その報告を基礎として、論点を正確に理解するとともに、学界における議論の水準に到達するように授業を展開する。本授業の目標は、修士論文作成に必要不可欠である租税法の基礎理論を練成するとともに、最近の重要裁判例の検討を通して、納税者の権利利益の保護の視点から、いかに問題解決が図られるべきかを明らかにすることにある。租税法体系のうち租税争訟法と租税処罰法を授業範囲とするが、具体的には、租税争訟法については、租税争訟制度、総額主義と争点主義、不服申立、再調査の請求、審査請求、租税訴訟の要件、租税訴訟と立証責任、租税処罰法については、租税処罰法の意義、租税犯、租税犯則調査、通告処分を講義する。租税法理論を実務に活かすうえで必要不可欠である租税正義の考え方、紛争予防税法の考え方を講義する。	隔年

	<p>国際租税法特殊講義A</p>	<p>本授業の形態は講義及び演習である。受講者が、テキストを精読したうえで、論点についてのレジュメを作成し報告する。その報告を基礎として、論点を正確に理解するとともに、学界における議論の水準に到達するように授業を展開する。本授業の目標は、国際租税法の基礎理論を練成するとともに、課税の国際的側面をめぐる主要論点を理解することにある。複雑かつ多様な国際取引に対応するために、租税法理論がいかに構築されてきたか、そして、国際課税の特有の問題に対していかなる問題解決が図られるべきかを明らかにする。本授業では、国際租税法とは何か、国際課税の歴史的沿革、国際租税法の基本原則、国際租税法の法源、二重課税の排除と租税条約に関する基礎理論、論点整理及び判例研究、移転価格税制に関する基礎理論、論点整理、判例研究及び諸外国とOECDの動向を講義する。</p>	<p>隔年</p>
	<p>国際租税法特殊講義B</p>	<p>本授業の形態は講義及び演習である。受講者が、テキストを精読したうえで、論点についてのレジュメを作成し報告する。その報告を基礎として、論点を正確に理解するとともに、学界における議論の水準に到達するように授業を展開する。本授業の目標は、国際租税法の基礎理論を練成するとともに、課税の国際的側面をめぐる主要論点を理解することにある。複雑かつ多様な国際取引に対応するために、租税法理論がいかに構築されてきたか、そして、国際課税の特有の問題に対していかなる問題解決が図られるべきかを明らかにする。また、法学の専門外国書の講読能力の練成を図る。本授業では、過小資本税制に関する基礎理論と論点整理、過大支払利子税制に関する基礎理論と論点整理、タックス・ヘイブン対策税制に関する基礎理論、論点整理及び判例研究、企業組織再編と国際的租税回避に関する基礎理論と論点整理を講義する。アメリカ内国歳入法典の法構造、租税実体法、租税手続法、OECDの最新議論に関する専門外国書を講読する。</p>	<p>隔年</p>
	<p>情報法制論</p>	<p>情報法制論のテーマは、情報に関する法、政策、および行政実務について、基礎的な知識を習得することである。この授業の到達目標は、情報に関する法制度や政策の概要を理解すること、および情報の適切な取り扱いについて実務的な視点から理解することである。この授業は、憲法・行政法・行政学の3名の教員による講義の形態をとる。 (オムニバス方式/全14回) (黒澤修一郎/7回) 憲法の観点から情報法制について講義する。(永松正則/4回) 行政法の観点から情報法制について講義する。(毎熊浩一/3回) 政策・実務の観点から情報法制について講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学部研究科社会創成専攻地域経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	地域経済演習	<p>本演習では、自発的な研究態度を身につけること、自分のテーマに関する調査・分析から問題点を的確に把握し、それに自分なりの考察を加えて一つの結論に導くこと、それを論理的で説得力のある論文として完成する。このような学生が設定したテーマや課題を探究・分析し、多角的に検討を重ね、最終的に修士論文として完成することができるよう指導を行う。</p> <p>(⑤野田 哲夫) 専門領域：情報経済論 研究テーマの概要：IT=情報通信技術が地域経済に与える影響について理論的・計量経済学的に分析を行うための研究指導を行う。</p> <p>(13宮本 恭子) 専門領域：福祉経済論 社会政策：研究テーマ：人口減少時代の社会保障制度、福祉国家の在り方について研究指導を行う</p> <p>(⑥石川 健) 専門領域：経済理論 研究テーマの概要：ホジソンの制度経済学アプローチ、並びに比較制度分析アプローチに依拠して、経済諸制度とその進化に関する理論についての研究指導を行う。</p> <p>(⑫関耕平) 専門領域：財政学・地方財政論 研究テーマ：過疎地や農山村地域における地方財政・地域政策における課題を、各人の関心に即してテーマ設定し、指導を行う。</p> <p>(28飯野公央) 専門領域：経済政策 研究テーマ：人口減少時代の地域政策に求められる都市のコンパクト化と公民連携の在り方について研究指導を行う。</p> <p>(⑮藤本 晴久) 専門領域：地域経済学・農業経済学 研究テーマの概要：フィールド調査や統計分析を用いて、地域産業の動態、中山間地域の経済構造、及び地域経済社会の発展モデルに関する研究指導を行う。</p> <p>(46渡邊 英俊) 専門領域：国際経済論 研究テーマ：国際貿易、海外直接投資、グローバル生産ネットワークの分析を中心に、世界経済の歴史および現状についての研究指導を行う。</p>	
コース基礎科目	地域政策基礎論	<p>授業の到達目標は、日本資本主義における地方財政と地域経済の観点を中心に、地域政策について歴史的・経済学的知識を獲得することである。この講義では、地域社会の経済的基盤である地方財政と地域経済の戦後日本における動態を学習し、戦後日本資本主義における地域経済社会の在り方や地方財政を中心として地域政策の変容過程を理解する。特に戦後における推移を、戦後改革・復興期、高度成長期、低成長期、バブル期とその後の停滞期、さらには直近の人口減少を伴う時期に区分したうえで、それぞれの地域経済および地方財政の実態の理解とそれぞれの局面で採られた地域政策を立体的に理解できることを目指す。</p>	
	経済理論特殊講義 I	<p>大学院における基礎レベルのマクロ経済学を学ぶ(M1前期)。テキストを用いた講義と輪読形式(担当者による解説・発表)で実施する。学部レベルとは異なり、大学院のマクロ経済学はミクロ的基礎づけと長期理論を重視した内容である。第1回と第2回は、ミクロ的基礎部分、即ち家計の消費・貯蓄行動と企業の投資行動、第3回と第4回は金融市場、第5回から第7回は長期のモデルと成長モデル、第8回は労働市場、第9回は短期分析、第10回から第14回は最近の経済政策の考え方と理論の応用について取り上げる。</p>	

<p>国際経済特殊講義 I</p>	<p>授業は半期14回の演習形態で行う。授業の到達目標は、受講者が産業革命以後の資本主義経済とグローバリゼーションの歴史的展開を理解し、そのうえで現代グローバリゼーションの特徴を生産技術や国際分業の構造に着目して把握できるようになることである。受講者は毎回のテーマに関連するテキストや論文等を読んで内容をまとめ、演習内で発表と討論を行うことにより、専門的知識を深めるとともに理論的枠組みや研究上の主要な論点についても学ぶことができる。</p>	
<p>財政学特殊講義 I</p>	<p>財政学の基礎的なテキストを用いながら、受講者とともに財政学の基本的な視角および考え方について習得する。さらにテキストの演習問題についての討議を通じて、具体的な日本の財政をめぐる社会問題に関する分析・応用・思考能力が習得できるように指導する。</p>	
<p>経済政策特殊講義 I</p>	<p>人口減少が本格化する中、まちづくりの面ではこれまでの拡散型のまちづくりからコンパクトなまちへ政策の舵が切られた。しかし、過度にクルマ依存した現在のまちをコンパクト化するには公共交通の整備や公共施設の立地適正化など、クリアすべき課題も多い。本講義では、日本におけるコンパクトシティの流れを追いながら政策を推進するポイントを明らかにするとともに、諸外国の事例なども参考にこれからの進め方を検討する。</p>	
<p>地域経済特殊講義 I</p>	<p>授業の到達目標は、(1) 地域経済学の学説史、(2) 地域経済学の基礎理論、(3) 地域経済活性化の考え方・理論、を説明・理解する力を身に付けることである。授業の前半は、地域経済学の学説史を参照しながら、主に都市農村関係論、地域経済発展論、地域的不均衡発展論、産業立地・集積論等について理解する。その際、理論内容や理論的到達だけでなく、学問的系譜や理論的背景についても学ぶ。授業の後半は、グローバル経済時代の地域経済活性化の考え方や理論(特に地域経済主体形成論、地域内経済循環論、地域経済マネジメント論等)について理解する。その際、これらの考え方・理論が実際の経済政策の中でどのように位置付けられているのかについても学ぶ。授業レベルは基礎レベル(大学院修士課程1年)を想定している。</p>	
<p>情報経済特殊講義 I</p>	<p>情報経済・知識経済に関する経済理論の先行研究のサーベイを行った後に、IT技術革新が最も顕著に表れた1990年代のアメリカ経済とその中で登場した「ニューエコノミー」論の分析・検討を通じて、技術進歩を内生化した経済理論およびIT投資と経済成長の関係について計量経済分析によって解く手法について学ぶ。さらに2000年代に入って登場したSNS、ビッグデータ、IoT、AI等の最新のIT技術の現状とIT投資等の経済統計データを基に、日本のITを中心とした産業政策とマクロ経済の動向、ITと雇用と労働の課題についてオープンデータやRESAS(地域経済分析システム)等のデータ等の統計データを活用して数理計量経済分析を行う。</p>	
<p>福祉経済特殊講義 I</p>	<p>我が国の社会保障制度は、人口増加と家族機能を前提とし、安定的な雇用システムと強く結びついている。今日、家族が大きく変容し、人口減少と安定的な雇用システムが見直されるなど社会保障の前提が大きく揺らぐことにより、持続可能性が問題となっている。本講義では、社会保障の前提が揺らいでいる、その上に成り立つ年金、医療、介護、福祉などの社会保障システムの理論的枠組みと諸問題を取り上げる。それをもとに制度の施策のあり方について論じる。</p>	

<p>経済理論特殊講義Ⅱ</p>	<p>大学院における応用レベルのミクロ経済理論を学ぶ（M1後期）。経済活動が空間的に不均等に分布するメカニズムについてミクロ経済学的モデルによって分析を行う空間経済学の理論について学習する。これにより、ミクロ経済学に基づく地域経済分析の基礎的能力を養う。第1回から第4回は空間と立地のミクロ・モデルの基礎的理論の展開過程を、国際学術誌掲載論文・著作等でたどり、第5回以降はテキストの輪読と討議によって現代的空間経済学について学習する。</p>	
<p>国際経済特殊講義Ⅱ</p>	<p>授業は半期14回の演習形態で行う。授業の到達目標は、受講者が生産過程のフラグメンテーション化による国際的な工程間分業の広がりや国際生産ネットワークの形成について、グローバル・バリューチェーン分析や付加価値貿易貿易分析の研究動向レビューを中心に、理論的枠組みや研究方法を理解できるようになることである。受講者は毎回のテーマに関連するテキストや論文等を読んで内容をまとめ、演習内で発表と討論を行うことにより、専門的知識を深めるとともに理論的枠組みや研究上の主要な論点についても学ぶことができる。</p>	
<p>情報経済特殊講義Ⅱ</p>	<p>情報と市場（規模の経済および範囲の経済）に関する理論的知識、行動経済学・実験経済学の基礎知識を基に、デジタルプラットフォームを中心としたIT企業戦略、ビッグデータ、IoT、AI、ブロックチェーン等の最新のIT技術動向の現状やオープンデータ、シェアリングエコノミーに関する実践的知識を身につけながら、それぞれの市場における人間の行動、企業戦略について、事例データと統計データ及びオンライン上におけるゲーム実験環境（明治大学・後藤晶准教授開発のオンラインアプリケーション）を使ってシミュレーションを行い、情報通信技術による市場構造や人間行動の変化が経済に与える影響を数理経済学的な分析を行う。</p>	
<p>経済理論特別演習</p>	<p>現代古典派制度経済学について、シカゴ学派・オーストリア学派と比較しつつ理解することを目標とする。各回のテーマにつきテキスト、参考書・論文を利用して担当者が発表・解説し、全体で討議を行う。第1回のイントロダクションの後、第2回から第4回までをシカゴ学派・オーストリア学派の制度理論にあて、第5回以降を現代古典派制度経済学にあてる。第5回から第8回で現代古典派制度理論の構成要素について取り上げ、第9回から第14回で制度と市場の関係について取り上げる。</p>	
<p>経済政策特別演習</p>	<p>持続可能な地域社会を実現するために、自治体・市民（企業等を含む）がどのように連携することが求められているかをテーマに、政府・自治体の政策について検討する。とりわけ人口減少と自治体財政が悪化する中でとられる縮小まちづくり戦略に焦点をあてていく。本演習では、このようなテーマに関連した課題についての現状分析、多面的評価、解決策の提示といった一連の検討を経て最終的に修士論文の完成を目指す。</p>	
<p>財政学特別演習</p>	<p>「日本財政はどのような歴史的変遷をたどったのか。現代日本の財政課題とは何か、その解決の方向性はどうか」をメインテーマにして、本演習では、経済理論と結び付いた財政学の仕組みを考察する。また、我が国の財政の前提である租税、経費、予算についても取り上げながら、財政の諸問題、制度のあり方を考察する。このような演習課題に関連した実態的な研究テーマを設定し、履修者自らが設定した研究テーマに対して、研究を進め、最終的に修士論文を完成できるよう指導する。</p>	

国際経済特別演習	<p>授業は通年28回の演習形態で行う。授業の到達目標は、受講者が国際経済分野に関わる研究課題を設定したうえで、先行研究の整理、理論的枠組みの検討、研究資料の収集と分析について指導を受けることにより、実証研究のための知識と方法を修得できることである。また本演習で修得した研究能力を用いて、受講者が国際経済分野の修士論文を完成できることである。</p>	
情報経済特別演習	<p>情報経済の分野でテーマを設定し（IT投資と経済成長、オープンデータ、シェアリングエコノミー、地域情報化等）の先行研究をサーベイしまとめる。設定したテーマにおける事例調査、また統計データを使って数理経済的な分析を進める。情報経済の分野での学会に投稿・発表を通じてレビューを受けながら論文としてまとめる。最終的に設定したテーマで修士論文として完成させる。</p>	
地域経済特別演習	<p>授業の到達目標は、地域経済学や地域づくり論に関する国内外の研究を学びながら、修士論文作成のための研究力量を獲得することである。前期の授業では、修士論文のテーマ設定に必要な地域経済や地域づくりに関する基礎理論を国内外の研究動向を意識しつつ学習していく。また修士論文の中間報告を実施し、修士論文のテーマや修士論文作成に向けたスケジュールを確定していく。後期の授業では、修士論文の研究報告を通して、修士論文の内容を深化させていくと同時に、修士論文執筆に必要な不可欠な知識・技術（研究倫理・論文の書き方・データの扱い方）等についても学んでいく。修士論文完成後は、模擬プレゼンを実施し、プレゼンテーションの技量も獲得していく。</p>	
福祉経済特別演習	<p>「持続可能な社会保障とは如何なるシステムか」をメインテーマにして、本演習では、経済理論と結び付いた社会保障の仕組みを考察する。また、我が国の社会保障の前提である家族、人口減少、雇用システムの変遷についても取り上げながら、社会保障の諸問題、制度のあり方を考察する。このような演習課題に関連した実態的な研究テーマを設定し、履修者自らが設定した研究テーマに対して、研究を進め、最終的に修士論文を完成できるよう指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学部社会創生専攻人文社会コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>学生が設定したテーマをベースとして、研究論文を作成するために必要な技術や理論を学ぶ。また、リサーチや分析の後で、自分の考察及び結論をさまざまな資料を駆使して、論理的かつ説得力のある文章で表現する方法を学ぶ。 (共同/全28回)</p> <p>(①吹野 卓) 専門領域: 社会学 研究テーマ: 過疎高齢化など地域や社会が抱える問題について、社会学の知見を踏まえ、自らの量的または質的な調査を実施して究明していくための研究指導を行う。 (3大日方克己) 専門領域: 日本史学 研究テーマ: 日本の古代・中世前期を中心に、政治・社会・文化について、史料をもとに史実を解明し歴史像を構築するための研究指導を行う。 (②西崎 緑) 専門領域: 社会福祉学 研究テーマ: 人間社会におけるマイノリティの生成過程を実証的に把握したうえで、そのエンパワメントと社会変革への働きかけを理論的に考察する研究について指導する。 (③武田信明) 専門領域: 日本文学 研究テーマ: 日本文学における明治以降現代にいたるまでの近現代文学を対象として、文献や先行研究をもとに、小説や詩などの文学作品の研究に関する指導を行う。 (8大橋泰夫) 専門領域: 日本考古学 研究テーマ: 日本の飛鳥時代の7世紀から現代に至るまで、考古資料をもとにして古代日本の社会・文化および生産と流通を解明するための研究指導を行う。 (9金山富美) 専門領域: フランス文学 研究テーマ: フランス文学(特に小説)について、文学表現はもとより、作家とその時代、また作品の舞台背景となる政治・社会・経済・思想等の問題を踏まえた文化的側面からアプローチし、分析していくための研究指導を行う。 (10杉崎千洋) 専門領域: 社会福祉学 研究テーマ: 病院・診療所において、ソーシャルワーカーによるマイクロ、メゾ、マクロレベルの実践の指針を、実証的な方法で分析する研究についての指導を行う。 (12要木純一) 専門領域: 中国近世文学 研究テーマ: 中国の宋、元、明、清代を中心として、詩文、戯曲、小説などの文芸について、原文に基づいて分析し、日本文化との比較等の方法を用いて、世界文学における位置づけを考察する研究に対して、指導を行う。 (14渋谷 聡) 専門領域: 西洋史学 研究テーマ: 西洋史の15, 16世紀以降現代に至る時期を中心に、西洋の政治・社会・文化・思想について、史料をもとに史実を解明し歴史像を構築するための研究指導を行う。 (15田中則雄) 専門領域: 日本文学 研究テーマ: 日本近世文学の小説・俳諧・演劇等の諸資料に関して、文献学的方法に立脚して分析を行い、文学史的意義や特質を明らかにする研究についての指導を行う。 (⑦メンキン スコット ランドール) 専門領域: 社会言語学 研究テーマ: 異文化理解や、複数の言語や文化とのコミュニケーションに焦点を当てた研究、また国際理解と言語教育の将来に関する批判的な分析の指導を行う。 (⑧佐々木 愛) 専門領域: 東洋史学 研究テーマ: 中国史の10世紀以降現代に至る時期を中心に、中国の社会・文化・思想について、史料をもとに史実を解明し歴史像を構築するための研究指導を行う。 (20丸橋充拓) 専門領域: 東洋史学 研究テーマ: 中国史の10世紀以前の時期を中心に、中国の制度・経済・社会について、史料をもとに史実を解明し歴史像を構築するための研究指導を行う。</p>	

(21小林准士) 専門領域：日本史学 研究テーマ：日本近世史（17～19世紀半ば）を中心に、日本の社会・文化・思想について、史料をもとに史実を解明し歴史像を構築するための研究指導を行う。

(22片岡佳美) 専門領域：社会学 研究テーマ：現代社会における家族や地域、ジェンダーなどの諸現象について、量的・質的調査のデータをもとに議論するための研究指導を行う

(23浅田健太郎) 専門領域：日本語学 研究テーマ：日本語の歴史的研究を中心に、音韻、語彙等の言語的特徴、また表記上の特徴について、文献学的方法を主に用いて分析する研究についての指導を行う。

(24西田 兼) 専門領域：芸術史 研究テーマ：19世紀末のヨーロッパの芸術の諸動向と社会変化の関係について、美学・美術史の方法を主に用いて分析する研究についての指導を行う。

(25田中一馬) 専門領域：哲学 研究テーマ：哲学的な倫理学研究の一つであるメタ倫理学を

中心に、道徳に関する相対主義の形態や成立可能性について、より幅広い哲学的知見を参照しながら研究を進めるための指導をおこなう。

(26伊集院敬行) 専門領域：芸術学、映像論 研究テーマ：映画の物語とその表現、視聴形態について、精神分析的理論を主に用いて分析する研究についての指導を行う。

(27船杉力修) 専門領域：歴史地理学 研究テーマ：絵図、古地図、海図などの資料を用いた過去の地表現象の検討から、地表それ自体や地表に展開する諸事象の本質を理解するという歴史地理学の基本的な考え方に基づいた研究指導を行う。

(28内藤忠和) 専門領域 中国文学 研究テーマ：中国近現代文学について、当時の歴史的社会的背景を視野に入れた物語論の方法を用いたテキスト分析について研究指導を行う。

(29小原真子) 専門領域：英語学 研究テーマ：英語の語彙、意味、語法等の言語的特徴について、日本語との違いを念頭に置きながら、コーパスなどを用いてデータを収集し、分析するための研究指導を行う。

(30小林亜希子) 専門領域：英語学、理論言語学 研究テーマ：英語を始めとする諸言語の統語的特徴について、主に生成文法理論を用いて分析する研究についての指導を行う。

(31福井栄二郎) 専門領域：文化人類学 研究テーマ：オセアニア地域を中心とした土地保有制度、観光、高齢者ケアの研究。現代オセアニア地域の諸文化の動態について、実証的調査に基づいた研究指導を行う。

(32チェイニ ビーター) 専門領域：イギリス文学と文化 研究テーマ：ロマン主義時代から現在までの英国文学、知的歴史、文化。歴史のおよび理論的な方法を使用して、文学作品や文化現象に関する研究のガイダンスを提供する。

(33加川充浩) 専門領域：社会福祉学 研究テーマ：地域福祉領域における住民活動および自治体福祉行政・計画を実証的に把握したうえで、それらに関わる社会福祉援助方法論を考察するための研究指導を行う。

(34岩本 崇) 専門領域：考古学 研究テーマ：日本列島の弥生時代と古墳時代を対象とし、集団構造と集団関係の復元をふまえて古代国家形成に至る過程と特質を明らかにするための研究指導を行う。

(35安齋有紀) 専門領域：フランス語学 研究テーマ：フランス語の談話研究を中心に、口語資料の分析、日本語との対照、発話理論に関する研究の指導を行う。

(36京 俊輔) 専門領域：社会福祉学 研究テーマ：障害者福祉の分野における当事者や家族等の生活もしくは施設職員の支援等を中心に、その構造やプロセスを定性的（質的）に明らかにするための研究について指導を行う。

(37菊池慶之) 専門領域：経済地理学 研究テーマ：人文的な現象の分布状況や地域差を、経済 地理学的な視点から分析し、地域の特徴を系統的に把握するための研究指導を行う。

(38平郡達哉) 専門領域：考古学 研究テーマ：朝鮮半島における紀元前1000年紀の考古資料を用いて、朝鮮半島の社会・文化の変遷とその特質を明らかにするための研究指導を行う。

(39前田しほ) 専門領域：ロシア文学・文化研究 研究テーマ：海外・特に欧米を中心に、近代以降の文化・文学について、多分野を横断する学際的手法を用いて、分析考察する研究を指導する。

(40板垣貴志) 専門領域：日本近現代史 研究テーマ：明治時代以降の日本社会の近代化の特質を、現代に至るまでの展開過程を含めて史料をもとに具体的に考察していく研究指導を行う。

(41山崎泰孝) 専門領域：ドイツ文学 研究テーマ：1900年前後の世紀転換期のドイツ語圏を中心に、ドイツ語で書かれた文学作品について、その作品の言語的な特徴や思想的な背景を読み解き分析するための研究指導を行う。

(42野本瑠美) 専門領域：日本文学 研究テーマ：12世紀前後を中心とした日本中古・中世の和歌文学を中心に、表現の特徴や作品が生み出される史的背景、様式が作品に与える影響を文献学的手法により分析する研究について指導を行う。

		<p>(56浜田幸絵) 専門領域：文化交流論 研究テーマ：近現代の国境を越えて展開するメディア、文化、コミュニケーションを、新聞雑誌・放送・映像資料の分析や社会調査といった手法を主に用いて明らかにしようとする研究について、研究対象を理論・実証の両面から捉えることができるよう指導を行う。</p> <p>(58清原和之) 専門領域：アーカイブズ学 研究テーマ：記録の作成から管理、保存、利用、処分までの諸側面に関わるアーカイブズ学の理論と実践に関連した諸課題について、具体的な事例をもとに分析・考察し、新たな方法論の提示や問題に対する解決法を導くための研究指導を行う。</p> <p>(59宮澤文雄) 専門領域：アメリカ文学 研究テーマ：世紀転換期のアメリカ文学・文化を主な対象領域として、都市、消費文化、近代自我の観点からアメリカ小説の変容を捉えていくための研究指導を行う。</p> <p>(64猿渡 壮) 専門領域：社会学 研究テーマ：学生が設定したテーマに基づき、社会学の研究論文を作成するために必要な知識・技術を教授する。既存の研究資料や社会調査データを適切に使用し、実証的な研究を進めるための指導を行う。</p> <p>(㊸北村直彰) 専門領域：哲学 研究テーマ：現代の分析哲学（英語圏の哲学）を中心に、形而上学・認識論・科学哲学・心の哲学などの領域に属する諸問題について、理論的手法を用いて研究するための指導を行う。</p> <p>(㊹佐藤桃子) 専門領域：社会福祉学 研究テーマ：日本と北欧の子ども家庭福祉分野を対象に、インタビュー調査などの手法を用いて社会的課題を考察する実証的研究の指導を行う。</p> <p>(68野間純平) 専門領域：日本語学 研究テーマ：諸方言を含む現代日本語を主な対象として、音韻、語彙、文法等の言語的特徴を記述する研究についての指導を行う。</p> <p>(70山口倫子) 専門領域：社会福祉学 研究テーマ：スクールソーシャルワークを中心に、従来のソーシャルワークの理論枠組みを整理したうえで、問題解決に向けた援助の方法や技術の開発等を実証的に検証する研究について指導を行う。</p>	
コース 基盤 科目	人文社会基礎論	<p>地域や国際的な場において、新たな共生社会を切り開いていく創造力を培うことを目的とし、人文科学と社会科学の諸学問を融合させ、創造性の基盤となる多様な視点を獲得し、実践に移す方法を習得します。この授業は文学・芸術学・歴史学・考古学・文化人類学・地理学・社会福祉学の9人の教員による講義形式をとり、講義全体を貫くテーマは「異と同」です。各学問分野に立脚して「異なるもの」と同一のもの」「異なるものとの接触」など「異と同」について分析していきます。(オムニバス方式/全14回) (㊸西崎緑・㊹佐藤桃子/2回) 社会福祉学から「異と同」を分析します。(14渋谷聡/1回 西洋史学から「異と同」を分析します。(㊸佐々木愛/2回) 本講義のガイダンスとまとめを担当します。(30伊集院敬行/3回) 芸術学の立場から「異と同」を分析します。(37福井栄二郎/1回) 文化人類学の立場から「異と同」を分析します。(47菊池慶之/1回) 地理学の立場から「異と同」を分析します。(48平郡達哉/1回) 考古学の立場から「異と同」を分析します。(59 宮澤文雄/3回) 文学の立場から「異と同」を分析します。</p>	オムニバス
	日本文学特殊講義 I A	<p>平安時代の作品（勅撰集、物語、歌合、家集、仮名記録、歌書書等）の講義を通して、中古文学に関わる知識と基本的な文献の調査方法、研究方法を習得することを目指します。</p> <p>具体的には、(1) 中古文学に関する調査・研究の技能を習得すること、(2) 中古文学に関する文献の内容を的確に把握すること、(3) 調査結果を論理的に説明することができること、の3点の力を身につけることを目標とします。初回から第4回までは、調査方法に関する講義を行い、第5回から講義内容を踏まえた実践と講義を進めていきます。</p>	
	日本文学特殊講義 I B	<p>『古今和歌集』序文により、島根県（出雲国）は和歌発祥の地として広く知られており、様々な和歌作品との縁が深い土地でもあります。第1回から9回では、上代から中世初頭までの和歌史の流れを、島根県に関連する作品を中心に学んでいきます。11回から14回では、いくつかのトピックに沿って現在の和歌文学研究について説明します。講義を通して、(1) 上代から中世初頭までの和歌史の展開を把握し、各作品の特徴を説明できること、(2) 和歌文学研究に関する基礎的な知識を身につけること、(3) 作品を適切に分析することによって、論理的に結論を導くことができること、の3点の力を身につけることを目指します。</p>	

<p>日本文学特殊講義ⅡA</p>	<p>日本近世文学史上の代表的な作品について、文献を読解しつつ、その特色・意義を探究する方法について学ぶこと、同時に古典籍に関して、書誌学的観点による理解力を習得することを目標とする。 近世前半（1600年頃～1700年代前半）の文学史の中から、『清水物語』『祇園物語』等の仮名草子を取り上げ、また近世初期の文学と深い関連を持つ出版の問題について論じる。次に、芭蕉自筆本『奥の細道』や俳論に即して芭蕉俳諧を、中国小説や実在事件との関係などの問題を中心に西鶴の浮世草子を取り上げる。近松門左衛門の浄瑠璃と全盛期の浄瑠璃については、近松の作劇論（『難波土産』所収）と関連づけて論じる。 また、古典籍の実物とデジタル資料の文学研究への活用に関しても、写本・版本に関わる諸問題、書籍の形態と作品内容との関連性の問題に即して論及する。</p>	
<p>日本文学特殊講義ⅡB</p>	<p>日本近世文学史上の代表的な作品について、文献を読解しつつ、その特色・意義を探究する方法について学ぶこと、同時に古典籍に関して、書誌学的観点による理解力を習得することを目標とする。 近世後半（1700年代後半以降）の文学史の中から、都賀庭鐘・上田秋成・伊丹椿園の初期読本に関して、特に中国白話小説からの影響の問題を中心に論じる。浄瑠璃『妹背山婦女庭訓』等について、歴史を素材にして作劇する方法について考察する。山東京伝等の黄表紙に関して、寛政の改革との関係を中心に論じる。後期読本については、山東京伝・小枝繁・曲亭馬琴の作を取り上げ、読本独特の長編構成の方法に関して述べる。 また、古典籍の実物とデジタル資料の文学研究への活用に関しても、特に出版の営みが後期読本の隆盛に重要な役割を果たしたという問題に関連づけて論及する。</p>	
<p>日本文学特殊講義ⅢA</p>	<p>太宰治・井伏鱒二・牧野信一らの諸作品をテキストとし、講義形式で個々の作品を解説していく。この授業では戦前の文学作品を集中的に取り上げる。それを通じて以下の4点を授業の目標とする。1. 具体的な作品読解を通じて、昭和文学史（戦前）を理解することができる。2. 太宰治・井伏鱒二・坂口安吾などの作家に関して豊かな知見を有することができる。3. 個々の文学作品に関して、学部で得た知見に基づき、さらに高度な読解ができる。4. 文学作品や文学史に関する論理的な文章を書くことができる。上記4点が修得できたかどうかは複数回のレポート提出によって確認する。</p>	
<p>日本文学特殊講義ⅢB</p>	<p>太宰治・坂口安吾・石川淳らの諸作品をテキストとし、講義形式で個々の作品を解説していく。この授業では戦中から戦後の文学作品を集中的に取り上げる。授業内容は日本文学特殊講義ⅢAと連続しているが、必ずしもⅢAを受講しておくことを必要とはしない。以下の4点を授業の目標とする。1. 具体的な作品読解を通じて、戦後文学の様相を理解することができる。2. 太宰治・福永武彦・坂口安吾などの作家に関して豊かな知見を有することができる。3. 個々の文学作品に関して、学部で得た知見に基づき、さらに高度な読解ができる。4. 文学作品や文学史に関する論理的な文章を書くことができる。上記4点が修得できたかどうかは複数回のレポート提出によって確認する。</p>	
<p>日本文学特別演習ⅠA</p>	<p>修士論文で取り組む課題をテーマとし、作品や関連する文献の講読、研究経過に関する報告と議論を通して、平安時代の文学に関する理解を深め、修士論文の作成に必要な知識と技能を習得することを目指します。具体的には、（1）古典文学に関する調査・研究の技能を習得すること、（2）専門分野に関する文献の内容を的確に把握し、他者に説明することができる能力、（3）資料調査、研究報告などの実践を通して、修士論文の構想を練り、研究計画を立案したうえで具体的な研究に取り組むことができる能力、以上の3つの力を身につけることを目指します。</p>	
<p>日本文学特別演習ⅠB</p>	<p>修士論文で取り組む課題をテーマとし、作品や関連する文献の講読、研究経過に関する報告と議論を通して、平安時代の文学に関する理解を深め、修士論文の作成に必要な知識と技能を習得することを目指します。具体的には、（1）古典文学に関する調査・研究の技能を習得すること、（2）専門分野に関する文献の内容を的確に把握し、他者に説明することができる能力、（3）資料調査、研究報告などの実践を通して、修士論文の構想を練り、研究計画を立案したうえで具体的な研究に取り組むことができる能力、以上の3つの力を身につけることを目指します。</p>	

日本文学特別演習ⅡA	<p>日本近世文学史上の作品について、調査に基づいて文献を読解し、その特色・意義を探究する方法について学ぶこと、同時に古典籍やデジタル資料を文学研究に活用する能力を習得することを目標とする。</p> <p>近世前期半（1600年頃～1700年代前半）の文学史の中から、軍記の文学、浮世草子、浄瑠璃を取り上げる。まず、大坂の陣を材にした『大坂物語』と『厭蝕太平楽記』を対比しながら講読し、それぞれの描写の特色や構成の方法について把握する。次に、西鶴の浮世草子2作について、原拠となった作品との対比も行いながら、描写方法の特色を捉える。近松門左衛門の浄瑠璃2作を、調査に基づいて読解し、現代の上演の映像も参照しながら、近松の作劇法の特色を把握する。</p> <p>また、『厭蝕太平楽記』の写本や近松浄瑠璃の版本など、附属図書館や研究室の所蔵する実物に拠りながら、写本・版本の形態的特徴などについて考察する。</p>	
日本文学特別演習ⅡB	<p>日本近世文学史上の作品について、調査に基づいて文献を読解し、その特色・意義を探究する方法について学ぶこと、同時に古典籍やデジタル資料を文学研究に活用する能力を習得することを目標とする。</p> <p>近世後半（1700年代後半以降）の文学史の中から、読本を年代順に取り上げる。まず初期読本の祖である都賀庭鐘の作から『繁野話』『莠句冊』『義経磐石伝』を取り上げ、中国白話小説との関係等について調査しつつ講読する。次に、速水春暁齋の絵本もの読本2作について、原拠となった実録との異同の問題を考察する。最後に山東京伝の読本について、演劇との関係を中心に調査しつつその特色を考察する。併せて、特に後期読本の読者への普及という点で重要な役割を果たした出版、貸本屋の問題について、版本の実物や本学附属図書館の蔵する近世貸本屋旧蔵書を通じて探究する。</p>	
日本文学特別演習ⅢA	<p>夏目漱石の初期作品と漱石関連作家の作品を対象として演習形式で行う。数回の講義をはさみながら、学生がレジュメを作成し模擬授業形式で発表を行い、他の学生が質問者として参加する形態をとる。授業の目的は、1. 明治期の文学状況を、とりわけ漱石や写生文関連の文学状況が正確に理解できる。2. 学部専門教育での知見を踏まえ、小説作品の高度な読み方を習得できる。3. レジュメによって自己の知見を論文化することができる。4. 他者の発表を聴き、それに対して適切な質問・批評を行うことができる。以上4点である。成績は1回の発表と、毎回の意見シートの提出で評価する。</p>	
日本文学特別演習ⅢB	<p>明治期の自然主義作品や夏目漱石作品を対象として演習形式で行う。授業内容は日本文学特別演習ⅢAに連続するものであるが、ⅢBのみの受講も可能である。数回の講義をはさみながら、学生がレジュメを作成し模擬授業形式で発表を行い、他の学生が質問者として参加する形態をとる。授業の目的は、1. 明治期の文学状況が正確に理解できる。2. 学部専門教育での知見を踏まえ、小説作品の高度な読み方ができる。3. レジュメによって自己の知見を論文化することができる。4. 他者の発表を聴き、それに対して適切な質問・批評を行うことができる。以上4点である。成績は1回の発表と、毎回の意見シートの提出で評価する。</p>	
日本語学特殊講義ⅠA	<p>日本語学の基礎的な研究論文の精読を通して、修士論文執筆のための研究技術を修得するとともに、専門的な知識を身につける。指定した論文について、多角的な視点から論文を批判的に検討し、資料選択やデータ収集、分析、考察の妥当性について考察する。論文の概要及び問題点について講義を行い、受講者も含めて内容を検討する。なお論文の選定にあたっては、受講者の専門や関心を考慮する。</p>	
日本語学特殊講義ⅠB	<p>日本語学の基礎的な研究論文の精読を通して、修士論文執筆のための研究技術を修得するとともに、専門的な知識を身につける。指定した論文について、多角的な視点から論文を批判的に検討し、資料選択やデータ収集、分析、考察の妥当性について考察する。論文の概要及び問題点について講義を行い、受講者も含めて内容を検討する。後期は受講者の関心に応じて、受講者自身が論文を選定する。</p>	
日本語学特殊講義ⅡA	<p>言語類型論の観点から見た日本語の文法的な特徴について講義する。日本語を言語類型論の観点から記述した参考文献を読みながら、語順・格・他動性といったトピックについて議論する。</p>	
日本語学特殊講義ⅡB	<p>言語類型論の専門書を読みながら、そこで扱われるトピックについて講義する。Aと同じく日本語が主な対象だが、日本語を対象とした内容ではない。形態論やテンス・アスペクトといった幅広いトピックを扱う。</p>	

日本語学特別演習 I A	日本語学のうち、通時的研究において取られる方法論を理解するため、異なる時代の言語を比較し、言語事象の歴史的变化を分析する演習を行う。資料の解説、用例の収集・整理、分析方法、論文執筆の注意点などについて理解を深め、修士論文作成のために必要な基礎的な力を身につける。天草版平家物語とその原拠本との対応部分を比較することを通して、古代語から近代語への過渡期における言語事象の変遷を観察、分析し、発表を行う。前期に設定された本授業では、資料の解説と用例の収集を重点に置いた発表を行った上で、受講者全員で議論する。	
日本語学特別演習 I B	日本語学のうち、通時的研究において取られる方法論を理解するため、異なる時代の言語を比較し、言語事象の歴史的变化を分析する演習を行う。資料の解説、用例の収集・整理、分析方法、論文執筆の注意点などについて理解を深め、修士論文作成のために必要な基礎的な力を身につける。天草版平家物語とその原拠本との対応部分を比較することを通して、古代語から近代語への過渡期における言語事象の変遷を観察、分析し、発表を行う。後期に設定された本授業では、自ら問題を設定したうえで、用例の分析に重点を置いた発表を行い、受講者全員で議論する。	
日本語学特別演習 II A	方言を含む現代日本語に関する研究論文を講読し、当該分野の研究トピックに関する知識を深めつつ、その問題点をめぐって議論を行う。講読する論文は受講者の関心に従って各自で決める。	
日本語学特別演習 II B	受講者の母方言や関心のある言語・方言を対象として、文法記述を行う。記述に際しては、対象となる言語・方言と文法項目を決めたうえで、先行研究の調査項目を参考にし、受講者は各自の記述の進捗状況を報告し、それをもとに全員で議論する。	
中国文学特殊講義 I A	漢文・漢詩に代表される古典的中国文化と、現代中国文化とは、あまりに異質な印象を与えるが、その変化を理解するために、近世（元、明、清）の文学の有り様を考察する。中国近世の文化自体を把握することはもちろん、視野を更に古代から現代に到る三千年の歴史にまで広げ、日本文化の特質についても考える糸口が得られるようにする。	
中国文学特殊講義 I B	漢文・漢詩に代表される古典的中国文化と、現代中国文化とは、あまりに異質な印象を与えるが、その変化を理解するために、近世（元、明、清）の文学の有り様を考察する。中国近世の文化自体を把握することはもちろん、視野を更に古代から現代に到る三千年の歴史にまで広げ、日本文化の特質についても考える糸口が得られるようにする。IAとは、ちがう文学者・作品を扱う。	
中国文学特殊講義 II A	「100年の中国文学」と題して、二〇世紀中国文学の歩みを概観し、中国近代、現代文学に対する理解を深めます。中国近代、現代文学への知見を高めるため、背景となる20世紀中国への理解を深めることも目指します。同時に難易度の高い中国語テキストを読みこなせるような指導を心がけます。本講義では主として20世紀前半の文学に重点を置いてお話しする予定です。	
中国文学特殊講義 II B	「100年の中国文学」と題して、二〇世紀中国文学の歩みを概観し、中国近代、現代文学に対する理解を深めます。中国近代、現代文学への知見を高めるため、背景となる20世紀中国への理解を深めることも目指します。同時に難易度の高い中国語テキストを読みこなせるような指導を心がけます。本講義では主として20世紀後半の文学に重点を置いてお話しする予定です。	
中国文学特別演習 A	張愛玲の作品を読んでいきます、20世紀中国文学を代表する女性作家の筆になるオールド上海の雰囲気を楽しみましょう。 演習の進め方は、前半は精読を通じて精確な読解力の養成を目指し、後半は発表を通じて作品の分析、先行研究の利用法、レジュメ作成の方法などに習熟していただきます。	

中国文学特別演習B	80年代から90年代の中国を代表する作家莫言の作品を読んでいます。現実・非現実の境界を突き破るパワーに酔いしれてください。演習の進め方は、前半は精読を通じて精確な読解力の養成を目指し、後半は発表を通じて作品の分析、先行研究の利用法、レジュメ作成の方法などに習熟していただきます。	
中国語学特別演習A	『説文解字注』講読。『説文解字』は後漢の許慎が編纂した、史上初めての本格的な字書である。この書に清の段玉裁が加えた注釈を精読することによって、漢字学はもとより、漢語音韻学、経学、考証学など、広く奥深い中国の学問の世界にふれる。漢字の形・音・義の成り立ち、音韻学初歩を把握し、古代漢語をある程度のスピードで読めるようになるように、訓練する。	
中国語学特別演習B	『説文解字注』講読。『説文解字』は後漢の許慎が編纂した、史上初めての本格的な字書である。この書に清の段玉裁が加えた注釈を精読することによって、漢字学はもとより、漢語音韻学、経学、考証学など、広く奥深い中国の学問の世界にふれる。特別演習Aの目標に加えて、考証学の論理を把握し、自らも運用できること、経学の歴史を知ること等を目標とする。	
イギリス文学特殊講義A	イギリス・ロマン派の詩人（コウルリッジ、ワーズワース、キーツ）を取り上げ、それぞれの詩人についての特徴を学ぶとともに、彼らの作品を原文で精読することを通して用いられている表現や技巧、扱われているテーマやイメージなどについて理解し、説明できるようになることを目的とします。授業の進め方としては、毎回いくつかの作品を精読し、学生のコメントを基に解説を加えながら、作品のテーマや特徴などについて理解を深めます。 参考文献：『イギリス文学辞典』/『文学要語辞典』 研究社	
イギリス文学特殊講義B	イギリス・ロマン派の詩人（ブレイク、ワーズワース、シェリー）を取り上げ、それぞれの詩人についての特徴を学ぶとともに、彼らの作品を原文で精読することを通して用いられている表現や技巧、扱われているテーマやイメージなどについて理解し、説明できるようになることを目的とします。授業の進め方としては、毎回いくつかの作品を精読し、学生のコメントを基に解説を加えながら、作品のテーマや特徴などについて理解を深めます。 参考文献：『イギリス文学辞典』/『文学要語辞典』 研究社	
アメリカ文学特殊講義A	Lafcadio HearnのKwaidan を毎回1作品ずつ取り上げ、原文で読み進めながら、作品に対する受講生の関心を糸口に、Hearnの文学について討議していく。Kwaidan は日本滞在時に執筆されているが、Hearnはすべて英語で書いてきたこと、そして来日以前はアメリカに20年間滞在し様々な文筆活動をしていたことを考慮するならば、Hearn（の文学）はアメリカ（文学）と接続可能であると同時にアメリカ（文学）を相対化していくものでもある。こうしたことを念頭に置きながら、英語作家としてのHearnの可能性についても検討していく。	
アメリカ文学特殊講義B	コロンブスによるアメリカ大陸発見400年を記念して1893年に開催されたシカゴ万国博覧会がアメリカ作家に与えた文学的影響について、文学作品や自伝の考察を通して検討していく。アメリカに限らず、従来の万博研究や文学研究において、万博と文学の影響関係はほとんど見過ごされてきた。本講義では、主にシカゴ万博とアメリカ文学の関係を中心に扱っていくが、現代文学から見るシカゴ万博、あるいは日本文学に描かれた万博といったように、より広い視野から万博と文学の関係を探ることも予定している。	
アメリカ文化特殊講義A	Eric AvilaのAmerican Cultural History(2018)を受講生による報告という形式で読み進める。アメリカ文化と一口に言っても、その実態は多様かつ流動的である。そのため、この授業ではテキストにならなくて、人種・大衆性・都市・郊外化・WWWの5つの観点からアメリカ文化の実相を探っていく。授業では常に自由な活発な意見交換が求められるだけでなく、参加する際はテーマに関連した情報を収集し、自身の関心を広げつつ、話題提供を心がけてもらう。	

アメリカ文化特殊講義B	この授業は、アメリカという国に対して映画が果たしてきた役割を批判的に検討していく。アメリカは実験国家であるがゆえに、絶え間ない変容を余儀なくされ、分裂と統合の問題に何度も直面してきた。こうした危機的状況を乗り越えられた要因のひとつに映画がある。アメリカにおいて映画が国民的娯楽として愛されている理由を上記の観点から検討していくのが本授業の目的である。受講生にはこちらが指定する映画作品を事前に観てもらい、担当者の報告を糸口に討議していく形で授業は進行する。テーマは毎回変わるため、受講生からリクエストがあれば、柔軟に変えていくことも可能であり、積極的な参加が求められる。	
英語学特殊講義ⅠA	英語で書かれた理論言語学の入門書をテキストに使い、理論言語学の主要な理論分野を概観します。受講者の発表は求めませんが、授業までにテキストの当該範囲の練習問題を解いておくことを宿題とします。授業ではテキストに書かれてある内容と練習問題の確認を主に行います。テキストを読んでいて抱いた疑問があればそれについてディスカッションを行います。また、学んだ理論は日本語にも正しく適用できるかなど、理論の適用や限界についても考えていきます。	
英語学特殊講義ⅠB	英語で書かれた生成文法理論の入門書をテキストに使い、生成文法が何を目指しているのか、何を前提に理論を構築しているのか、具体的にどんな理論があるのかを概観します。受講者の発表は求めませんが、授業までにテキストの当該範囲の練習問題を解いておくことを宿題とします。授業ではテキストに書かれてある内容と練習問題の確認を主に行います。テキストを読んでいて抱いた疑問があればそれについてディスカッションを行います。また、学んだ理論は日本語にも正しく適用できるかなど、理論の適用や限界についても考えていきます。	
英語学特殊講義ⅡA	英語の使用実態を調査するための手段の一つとして、急速に整備が進んでいるものにコーパスがあります。コーパスは、実際に使用された英語のデータを言語分析のために収集したものです。この授業では、研究を進める際に英語コーパスが使えるようになることを目的とします。授業の進め方としては、まず英語コーパスの基本的事項を参考文献を中心に学んだ上で、テキストを用い、コーパスを活用した英文法研究（複合語分析、語彙意味論研究など）について輪読形式で読み進めます。担当者は簡単な要約を作成した上で内容を発表します。適宜課題に取り組み、理解を深めます。	
英語学特殊講義ⅡB	言葉を使用する際には、外界の世界を客観的に写しとっているのではなく、人間がどのように出来事を捉えたかということに基づいて表現が選ばれています。たとえば、「車窓を街の景色が流れていった」という表現では、客観的に動いているのは乗り物に乗っている話者ですが、「街の景色」が動くものとして表現されています。この授業では、上記のような人間の認知と言葉との関わりを扱う認知言語学の基本的事項を理解することを目的とします。また、英語のテキストを読むことで、英語で専門的な文献を読み、内容を自分の言葉で説明することができるようになることを目指します。授業の進め方としては、教科書の内容を輪読形式で読み進めます。担当者は簡単な要約を作成した上で内容を発表します。適宜課題に取り組み、理解を深めます。	
イギリス文学特別演習A	イギリス文学の中で重要なジャンルの一つである演劇から、シェイクスピアの有名な悲劇『リア王』を取り上げ、原書でじっくり鑑賞するとともに、読解力および分析力を養成します。この授業を通して、シェイクスピアとその時代の社会事情や特徴（特に演劇）について、基本的な事項を理解した上で、辞書や注を利用して原文を読むこと、また作品のテーマ、イメージや表現、文体的特徴や技巧等について説明できるようになることを目的とします。授業の進め方としては、テキストの指定した箇所を学生が音読し、重要な表現やイメージなどについてコメントした後、補足的な説明や解説を加える形で進めます。	

イギリス文学特別演習B	イギリス文学の中で重要なジャンルの一つである演劇から、シェイクスピアの有名な悲劇『リア王』を取り上げ、原書でじっくり鑑賞するとともに、読解力および分析力を養成します。この授業を通して、シェイクスピアとその時代の社会事情や特徴（特に演劇）について、基本的な事項を理解した上で、辞書や注を利用して原文を読むこと、また作品のテーマ、イメージや表現、文体的特徴や技巧等について説明できるようになることを目的とします。授業の進め方としては、テキストの指定した箇所を学生が音読し、重要な表現やイメージなどについてコメントした後、補足的な説明や解説を加える形で進めます。	
アメリカ文学特別演習A	新批評、精神分析批評、マルクス主義批評、フェミニズム批評、ポストコロニアル批評などの文学理論について学ぶ。ただ理論についての知識を身につけるだけでなく、応用を通じて小説の読解方法を磨いていく。具体的には、最初に分析対象となる文学テキスト（主に短篇小説）を原文で読み、次に理論について学び、そして作品読解に応用していくというサイクルで授業は進行する。	
アメリカ文学特別演習B	アメリカ文学分野で修士論文を作成する学生を対象に、論文執筆に必要な専門分野の知識と論文作成の技能の習得を目的とする。具体的には、研究課題に基づいた研究計画を立て、関連文献の調査と読解の作業を進め、2回の進捗状況報告を行う。特に読解パートの文献については、受講者の研究対象に関連するものを扱うため、受講者はどのような研究をしていくかある程度具体化しておく必要がある。	
アメリカ文化特別演習A	これまで多くの作家が幽霊を描いてきたことに注目し、代表的な幽霊譚の読解を通じて、文学と幽霊の関係性を考察する。授業では、アメリカ小説だけでなく、日本小説を一部扱うことになるが、これはアメリカ小説における幽霊の機能を考察するうえでの補助線と捉えてもらいたい。また、映画作品についても受講生からリクエストがあれば、そちらを優先して取り上げていくことも可能である。	
アメリカ文化特別演習B	アメリカ文化分野で修士論文を作成する学生を対象に、論文執筆に必要な専門分野の知識と論文作成の技能の習得を目的とする。具体的には、研究課題に基づいた研究計画を立て、関連文献の調査と読解の作業を進め、2回の進捗状況報告を行う。特に読解パートの文献については、受講者の研究対象に関連するものを扱うため、受講者はどのような研究をしていくかある程度具体化しておく必要がある。	
英語学特別演習A	日本語で書かれた英文法の概説書をまず読み、その記述の根拠となるデータや学説を英語学の文献で探し、読み込んでいきます。発表担当者はつぎのことをまとめて授業で発表します。①概説書の記述を支えるデータの提示、②概説書では扱っていない事例や問題点、③より新しい研究の動向、④概説書の記述に変更が必要かどうか。この発表をふまえて授業参加者の間でディスカッションを行いながら、よりよい英文法記述や文法規則の背後にある要因を探ります。	
英語学特別演習B	日本語で書かれた英文法の概説書をまず読み、その記述の根拠となるデータや学説を英語学の文献で探し、読み込んでいきます。発表担当者はつぎのことをまとめて授業で発表します。①概説書の記述を支えるデータの提示、②概説書では扱っていない事例や問題点、③より新しい研究の動向、④概説書の記述に変更が必要かどうか。この発表をふまえて授業参加者の間でディスカッションを行いながら、よりよい英文法記述や文法規則の背後にある要因を探ります。	
フランス文化特殊講義A	フランス語学の研究分野と基礎的な言語理論について知識を深め、人文科学の一分野としての「言語学」とはどのような学問か認識する。また、具体的な事例について先行研究の考察を行い、言語分析の概念と専門的な方法を習得する。さらに、フランス語以外の言語（英語・日本語など）との対照から各言語が示す特徴を導き出し、対照言語研究において様々な視点で分析・考察を行う意義について理解を深める。それにより、言語および言語活動の本質にせまる。	

フランス文化特殊講義B	フランス19世紀の作家フロベールが同時代を舞台として描いた小説『ボヴァリー夫人』『感情教育』『純な心』『ブヴァールとベキュシェ』について講述する。各作品の分析はもとより、それぞれがフロベールの文学世界においてどのような位置にあるのか、また作家固有の文学言語について考察していく。さらに、文学的流派として『レアリスム』の首領格ともされるフロベールが、いかなる点で現代文学の先駆者と称されるのかについても考えていく。	
フランス文化特別演習A	豊富なフランス文学の世界の中から抽出した、もっともフランス的かつ革新的な13の作品(詩、随筆、小説)について、毎回1作品ずつ(フランス語原文抜粋)を読解することによって、個々の作品の世界を探るとともに、文学思潮を把握する。様々な形態の作品に触れることを通して、読解力の醸成はもとより、各作家の文体や固有のテーマ、また文学と社会あるいは歴史について考察する力を養い、さらに個々の作家が創造した文学世界の発見から、言語表現そのものについて新しいヴィジョンを得る。	
フランス文化特別演習B	フランス語圏を中心に、個別の言語文化圏の社会において言語がどのように使用されているのか、音声、表記、表現など具体的な事例を各自収集・分析・考察し、発表する。発表と議論を通して、言語と社会の関係について考え、さらに言語研究のアプローチを自らで専門とする人文科学の研究テーマ(言語学、文学、文化比較、社会学、歴史学など)にどのように応用できるか考える。それにより、自らの研究を多様性および独創性のある内容に発展させる。	
ドイツ文化特殊講義A	さまざまな作家の作品を分析し、関連する先行文献を読解することで、専門研究を行うために必要な技能の習得や知識の深化をめざす。1) 文学作品を精読する能力を身につける。2) 先行研究を読み、正しく把握することができる。3) 先行研究と比較しながら、みずからの論を展開することができる。以上の3点をこの授業の目標とする。また授業中には作品を解読するための鍵となるような課題を出し、学生が能動的に参加し議論することを求める。	
ドイツ文化特殊講義B	さまざまな作家の作品を分析し、関連する先行文献を読解することで、専門研究を行うために必要な技能の習得や知識の深化をめざす。1) 文学作品を精読する能力を身につける。2) 先行研究を読み、正しく把握することができる。3) 先行研究と比較しながら、みずからの論を展開することができる。以上の3点をこの授業の目標とする。また授業中には作品を解読するための鍵となるような課題を出し、学生が能動的に参加し議論することを求める。	
ドイツ文化特別演習A	これまでに習得したドイツ語、ドイツ文化に関する知識をさらに深め、専門研究に必要な読解力、思考力の向上をめざす。1) ドイツ語で書かれた作品を原文で読むことができる。2) 専門的で高度な内容を理解し、説明することができる。3) テキストの内容を吟味し、批判的な考察を行うことができる。以上の3点が目標となる。授業では毎回、指定のテキストを、ドイツ語の文法的な説明を加えつつ、内容についても議論をしながら読み進めていく。	
ドイツ文化特別演習B	これまでに習得したドイツ語、ドイツ文化に関する知識をさらに深め、専門研究に必要な読解力、思考力の向上をめざす。1) ドイツ語で書かれた作品を原文で読むことができる。2) 専門的で高度な内容を理解し、説明することができる。3) テキストの内容を吟味し、批判的な考察を行うことができる。以上の3点が目標となる。授業では毎回、指定のテキストを、ドイツ語の文法的な説明を加えつつ、内容についても議論をしながら読み進めていく。	
哲学特殊講義 I A	形而上学の諸問題に関する講義をおこなう。取り上げるトピックについての理解を深め、自己と世界の基本的なあり方をめぐって哲学的な議論の蓄積があることを知るとともに、哲学に特有の論理的思考力を事柄に即して展開できるようになることを目標とする。その詳細としては、まず形而上学の主題と方法について基本的な点を確認した上で、○個別者と普遍者、○全体と部分、○時間と変化、○同一性と本質、○原因と結果、○可能性と必然性、○存在と無、のそれぞれに関する代表的なトピックについて、先行研究に即して問題の所在やそれに関わる重要な議論の関連を紹介し、説明する。	

哲学特殊講義 I B	<p>価値論の諸問題、とりわけ生と死の価値に関する講義をおこなう。取り上げるトピックについての理解を深め、生と死の価値をめぐって哲学的な議論の蓄積があることを知るとともに、哲学に特有の論理的思考力を事柄に即して展開できるようになることを目標とする。その詳細としては、まず価値論の主題と問いの特徴を確認した上で、○幸福の本性、○不死の望ましき、○死の害悪、○誕生の価値、○人生の意味、のそれぞれに関する代表的なトピックについて、先行研究に即して問題の所在やそれに関わる重要な議論の関連を紹介し、説明する。</p>	
哲学特殊講義 II A	<p>主に規範倫理学の諸問題に関する講義をおこなう。取り上げるトピックについての理解を深め、実生活において倫理学の知見が力を発揮する場があることを知るとともに、哲学に特有の論理的思考力を事柄に即して展開できるようになることを目標とする。その詳細としては、まず規範倫理学の基本的枠組み（帰結主義と非帰結主義、功利主義・義務論・徳倫理学）を確認した上で、○功利主義における幸福観の諸相、○義務論における義務の衝突への対処の仕方、○徳倫理学における徳の教授可能性、のそれぞれについて、先行研究に即して問題の所在やそれに関わる重要な議論の関連を紹介し、説明する。また、現代の正義論（リベラリズム・リパタリアニズム・コミュニタリアニズム）についても、その理論的な中軸となる哲学者の議論を詳述する。</p>	
哲学特殊講義 II B	<p>主にメタ倫理学の諸問題、とりわけ道徳的相対主義に関する講義をおこなう。取り上げるトピックについての理解を深め、実生活において倫理学の知見が力を発揮する場があることを知るとともに、哲学に特有の論理的思考力を事柄に即して展開できるようになることを目標とする。その詳細としては、まず道徳的な正しさが有する形式的特徴および従来の倫理学理論（特に功利主義とカント倫理学）が主張する正しさの基本原則について説明する。その上で、○道徳的相対主義の区分（記述的相対主義・メタ倫理的相対主義・規範的相対主義）、○相対主義と類似する別の立場（特に主観主義）との相違と関連、○相対主義に対する懸念とその当否、○相対主義の妥当性、のそれぞれについて、先行研究に即して問題の所在やそれに関わる重要な議論の関連を紹介し、説明する。</p>	
哲学特別演習 I A	<p>形而上学の諸問題を論じた先行研究を取り上げ、その内容に関する演習をおこなう。形而上学の主要研究領域、とりわけ存在論、時間論、因果論、自由意志論、様相論における基本的な論争状況を把握し、またそれらが含む問題点を理解することにより、哲学を専攻する院生の修論作成（テーマ選択）へとつなげるとともに、哲学における多様な議論を実地に体験してもらうことで、修士に求められる論理的思考力を養成することを目標とする。その詳細としては、上記の各研究領域の代表的論者たち（クワイン、アームストロング、マクタガート、ブライア、ルイス、オルソン、ツィーマー、ヒューム、アンスコム、ファン・インワールゲン、フランクファート、クリプキ）の研究を一回の授業につき一つ取り上げ、あらかじめそれらを読み内容をまとめてきた受講者とともに、議論を展開する。</p>	
哲学特別演習 I B	<p>価値論の諸問題を論じた先行研究を取り上げ、その内容に関する演習をおこなう。価値論の主要研究領域、とりわけ生と死の価値（幸福の本性、不死の望ましき、死の害悪、誕生の価値、人生の意味）についての探究における基本的な論争状況を把握し、またそれらが含む問題点を理解することにより、哲学を専攻する院生の修論作成（テーマ選択）へとつなげるとともに、哲学における多様な議論を実地に体験してもらうことで、修士に求められる論理的思考力を養成することを目標とする。その詳細としては、上記の各研究領域の代表的論者たち（ムーア、クリスプ、ヒースウッド、ライス、ウィリアムズ、フィッシャー、ローゼンバウム、フェルドマン、カウフマン、パーフィット、ベネター、テイラー、ヘア、ノージック）の研究を一回の授業につき一つ取り上げ、あらかじめそれらを読み内容をまとめてきた受講者とともに、議論を展開する。</p>	

哲学特別演習ⅡA	<p>主に規範倫理学の諸問題を論じた先行研究を取り上げ、その内容に関する演習をおこなう。</p> <p>規範倫理学の諸理論（功利主義・義務論・徳倫理学）および現代の正義論（リベラリズム・リバタリアニズム・コミュニタリアニズム）の基本的な議論構造を把握し、またそれらが含む問題点を理解することにより、倫理学を専攻する院生の修論作成（テーマ選択）へとつなげるとともに、哲学・倫理学における多様な議論を実地に体験してもらうことで、修士に求められる論理的思考力を養成することを目標とする。</p> <p>その詳細としては、規範倫理学を代表する論者（ミル、ロス、アリストテレス）やその擁護者や批判者（スマート、ウィリアムズ、ブランド、フィニス、スロート、ハーストハウス）、あるいは正義論の論者（ロールズ、ノージック、マッキンタイア）の研究を一回の授業につき一つ取り上げ、あらかじめそれらを読み内容をまとめてきた受講者とともに、議論を展開する。</p>	
哲学特別演習ⅡB	<p>主にメタ倫理学の諸問題を論じた先行研究を取り上げ、その内容に関する演習をおこなう。</p> <p>メタ倫理学の諸理論（とりわけ道徳的相対主義、主観主義、および行為の理由に関する理論）の基本的な議論構造を把握し、またそれらが含む問題点を理解することにより、倫理学を専攻する院生の修論作成（テーマ選択）へとつなげるとともに、哲学・倫理学における多様な議論を実地に体験してもらうことで、修士に求められる論理的思考力を養成することを目標とする。</p> <p>その詳細としては、道徳的相対主義・主観主義や関連する立場の論者（ベネディクト、ハーマン、ウィリアムズ、ヒューム）やその批判者（ゲンスラー、ネーゲル）、また行為の理由についての議論を展開する論者（ウィリアムズ、スミス、コースガード、マクダウェル）の研究を一回の授業につき一つ取り上げ、あらかじめそれらを読み内容をまとめてきた受講者とともに、議論を展開する。</p>	
芸術学特殊講義ⅠA	<p>芸術作品の研究には解釈が不可欠であることは言うまでもないが、解釈を述べる際、われわれは必ず言葉によってそれを表明するだろう。しかし色と形という言葉以外の表現方法を用いて作られた絵画や音楽作品を言葉に置き換えようとする、言葉を言葉で置き換える文学作品の解釈などは違って、そこにはさまざまな問題が潜んでいることに気づくはずだ。そこでこの講義では、そういったイメージと言葉の問題点について、これまでイメージを言葉に置き換える際に用いられてきた代表的な作品記述の方法を歴史的に振り返りながら、批判的に考察していくことを目指したい。</p>	
芸術学特殊講義ⅠB	<p>芸術作品には、それがどのような時代のどのような作品であれ、必ず形式と意味という二つの側面があり、一般的に言って、古典絵画は後者、近現代絵画は前者に重きを置くものが多い。そこでこの講義では、古典絵画を研究する際に必要となる、意味・内容・主題の分析方法であるイコノグラフィとイコノロジーという二つの研究方法を紹介し、それによってどういった結果が得られるのか、そしてその際どのような問題があるのかということについて実際の作品を用いた具体例とともに検証する。</p>	
芸術学特殊講義ⅡA	<p>この授業では、ヴァルター・ベンヤミン『写真小史』（1931）と『複製技術の時代における芸術作品』、ロラン・バルト『明るい部屋』（1980）、ミシェル・テヴォー『不実なる鏡』といった重要な論文を読みこむことで、写真についての理解を深めます。写真は絵画とどうちがうのか、写真と映画はどう違うのか、時代ごとに変わっていくその理解をいくつかの論文を手掛かりにして把握することを試みます。</p>	
芸術学特殊講義ⅡB	<p>この授業では精神分析的な視点から、映画作品の分析と映画を見るという行為の双方について考察します。そしてそうすることで、作品を分析する力を養うとともに、鑑賞することそれ自体を反省することを目指します。また、この授業ではこれらの作品を題材にして、フロイトやラカンの精神分析理論それ自体の説明と、これまでなされたその映画解釈への応用の様々な試みを紹介します。</p>	
芸術学特別演習ⅠA	<p>西洋美術作品を研究する際、外国語の文献に接することは何よりも重要であるが、だからといって、ただ単にやみくもに読むだけでは、望ましい結果は得られない。そこでこの演習では、外国語の文献を読む際に必要な知識や技術を身につけるために、まず受講者全員が日本語訳を作り、それらの訳文を互いに検討したのち、内容を理解するうえでポイントとなる個々の細かい点について解説する。外国語の文献を要む際に必要となる知識といえば、ふつうは語学的なものが思い浮かぶだろうが、この演習では、それに加えて、読み取った内容を論文作成に生かすための方法を紹介します。</p>	

<p>芸術学特別演習ⅠB</p>	<p>どんな学問分野であれ、そこで用いられる方法論に関しては、つねに批判的な検討が加えられ、次々と従来の欠点を克服した新しいアプローチが生み出されている。美術史学の分野でも、1960年代後半あたりから、従来の美術史学とは方法論的に大きく異なった新しい美術史学が提唱されてきた。そこでこの演習では、新しい美術史学が用いる代表的な方法論を、それが実際に使われている論文を読みながら理解し、自分でも使いこなせるようになることを目指す。授業で取り上げる論文は、すべて一枚の同じ有名な作品、ベラスケスの「女官たち」を扱ったものなので、個々の論法の違いがよりいっそう明確になるはずだ。</p>	
<p>芸術学特別演習ⅡA</p>	<p>現代美術とデザイン、メディアについて考察するために重要な芸術動向と作品について学びます。また、芸術と呼ばれるものがどう変化してきたかを捉えることで、芸術というジャンルそれ自体を問うことも試みます。そしてこれらのことを通し、今日のメディア社会とどう向き合うかについて考える糸口を探り、今日のテクノロジー環境の可能性について考察します。</p>	
<p>芸術学特別演習ⅡB</p>	<p>美術はその時代の視覚メディアに大きな影響を受けます。そのため、様々なメディアの原理を知ることは、作品をより深く理解することに役立ちます。そこでこの授業では遠近法から現在のデジタルメディアまでの代表的なメディアの原理を実習を通して理解することを旨とします。具体的には遠近法の装置を再現し、実際に使ってみたり、動く映像を生み出す装置を自作したり、写真の現像や映画の編集といった演習を行います。</p>	
<p>文化交流論特殊講義ⅠA</p>	<p>講義と演習。文学ないし文化に関する高度な専門内容を理解し、それらを援用した作品分析の方法を習得する。またプレゼン、ディスカッション、レポート作成を通じて、討論やアカデミック・ライティングの作法を習得する。前半で、学術論文・著書を購読し、専門知識、理論、アプローチを学ぶ。特定の話題について、異なる立場から論じた複数のテキストを購読する。後半では、これらの理論を援用して作品（映画・小説など）の分析及び考察を行うことで、論理的思考や批判的思考を実践的に身につける。それぞれの考えを口頭発表し、全体で討論を行い、これを反映して、最終成果として学術的な形式を備えたレポートとしてまとめ、学期末に提出する。</p>	<p>隔年 講義 2時間 演習 26時間</p>
<p>文化交流論特殊講義ⅠB</p>	<p>講義と演習。文学ないし文化に関する高度な専門内容を理解し、それらを援用した作品分析の方法を習得する。分析作品、購読テキストの選定、分析アプローチを考えることによって、修士論文に取り組み、考察する能力を養う。またプレゼン、ディスカッション、レポート作成を通じて、討論やアカデミック・ライティングの作法を習得する。序盤で作品を鑑賞し、物語構造を抽出する。受講者間で分析のポイントとアプローチを話し合い、教員の助言を受けながら、適切なテキストを選定する。要約やポイント、批判すべき点、疑問点を口頭で発表する。終盤では、学んだ理論を援用したり、批判しながら、作品分析及び考察を行うことで、論理的思考や批判的思考を実践的に身につける。それぞれの考えを口頭発表し、全体で討論を行い、これを反映して、最終成果として学術的な形式を備えたレポートとしてまとめ、学期末に提出する。</p>	<p>隔年 講義 2時間 演習 26時間</p>
<p>文化交流論特殊講義ⅡA</p>	<p>アクティブラーニングを取り入れた講義形式の授業。文化交流論の主要理論と方法について理解し、特に文化のグローバリゼーションに関する諸問題について具体的な事例をあげながら説明できるようになることを目指す。前半（2-7回）はグローバリゼーション、後半（8-13回）は「他者」の表象のあり方に関して取り上げる。前半・後半とも、各テーマに関してこれまでどのような議論が展開してきたかを、複数の文献を取り上げながら把握する。そのうえで、受講生各自が、興味を抱いたテーマに関して教員の助言を受けながらさらに探求し、その成果を発表する。</p>	
<p>文化交流論特殊講義ⅡB</p>	<p>アクティブラーニングを取り入れた講義形式の授業。文化交流論の主要理論と方法について理解し、特にナショナリズムに関する諸問題について、具体的な事例をあげながら説明できるようになることを目指す。前半（2-7回）はナショナリズムに関する理論、後半（8-13回）は特定の切り口からのナショナリズムを取り上げる。前半・後半とも、各テーマに関してこれまでどのような議論が展開してきたかを、複数の文献を取り上げながら把握する。そのうえで、受講生各自が、興味を抱いたテーマに関して教員の助言を受けながらさらに探求し、その成果を発表する。</p>	

コース 専門 科目	文化交流論特別演習 I A	演習。修士論文の課題に取り組むことを目的とし、授業内容は三段階に分ける。第一に、専門知識・アプローチの習得を目的として高度な学術書・論文（欧文の場合は1本、和文の場合は2-3本を目安とする）を購読し、要約の報告を行う。第二に、研究の立案・構想や研究過程の口頭報告を行うことで、自分の研究内容を他者に説明する能力を培う。第三に、先行研究の検討と討論を行いながら、修士論文に関するテーマについての考察を深める。これも人前で発表したり、討議することで、思考と議論の力を身につける。これらの学習内容を反映したレポートをまとめ、学期末に提出する。	
	文化交流論特別演習 I B	演習。修士論文の課題に取り組むことを目的とし、授業内容は三段階に分ける。第一に、専門知識・アプローチの習得を目的として高度な学術書・論文（欧文の場合は1本、和文の場合は2-3本を目安とする）を購読し、要約の報告を行う。第二に、研究の立案・構想や研究過程の口頭報告を行うことで、自分の研究内容を他者に説明する能力を培う。第三に、先行研究の検討と討論を行いながら、修士論文に関するテーマについての考察を深める。これも人前で発表したり、討議することで、思考と議論の力を身につける。これらの学習内容を反映したレポートをまとめ、学期末に提出する。	
	文化交流論特別演習 II A	演習形式の授業。次年度文化交流論の中でもメディア・コミュニケーション研究、異文化コミュニケーション研究、グローバリゼーション研究、カルチュラル・スタディーズ等の領域で修士論文を作成することを念頭に、(1) 先行研究の探し方・批判的な読み方、(2) レジュメ作成やプレゼンテーションの基礎、を身につけ、(3) 学術的な文章を書けるようになることを目指す。3つの文献に関して、講読（内容理解）、批判的検討、全体を総括してのプレゼンテーションを丁寧に行っていく。各文献について学期末までにブックレポートを作成し提出、提出されたレポートは教員が添削して返却する。	
	文化交流論特別演習 II B	演習形式の授業。文化交流論特別演習IIAの応用編。次年度修士論文を作成することを念頭に、(1) 自ら設定した研究テーマに関係する先行研究の内容を理解し整理すること、(2) 修士論文で取り上げる研究テーマ・分析対象や方法を明確にすること、(3) 学術的な文章を書けるようになることを目指す。前半は、修士論文で取り組もうと考えている研究テーマに関して、先行研究の収集と内容紹介を行い、分析対象・方法に関する計画も立てる。後半は、研究計画書の練り直しを行い、自らの研究の問題意識や研究史上の位置づけを明確にしていく。	
	社会学特殊講義A	これまで社会学が打ち出してきた理論・命題について再考することにより、それぞれの理論・命題がいかなる今日的意味をもつのか、現代社会のさまざまな現象から問い直す。クラシックな理論・命題が、今なお学問的にもおそらく意義深いことを確認しつつ、それらを批判的に捉える視点も重視し、理論の発展に寄与する議論を展開することを旨とする。	
	社会学特殊講義B	この講義では、「社会」あるいは「秩序」が成立し得る原理について、社会学が積み上げてきた規範・役割・社会化・準拠集団などなどの諸概念を批判的に整理しなおし、その体系化を試みる。なお、必要に応じて近接領域である社会心理学、文化人類学、経済学からの概念も紹介する。これを通じて参加学生が、自分自身でも社会学の基本的な概念を批判的に再考することができる力を養う。	
	社会学特別演習 I A	この授業では、社会調査のうち、インタビュー、フォーカス・グループ、参与観察など、質的なアプローチの実践について修得することをねらいとする。家族・ジェンダー・子どもについて、質的調査によって実証的に議論を展開した研究論文をいくつか取り上げ、それらを精読することにより、調査方法や分析方法などの理解を深めていく。また、受講生自身が自らの研究テーマを追究する際に、質的調査をどのように用いることができるか、その応用・実践についても議論する。	
	社会学特別演習 I B	近年に発行された国内の学術雑誌（『家族社会学研究』など）や海外の学術雑誌（Journal of marriage and familyなど）から、家族・ジェンダー・子どもに関する論文を集め、それらを解読し、いま家族に何が起きているのか、それを論ずるためにどのようなアプローチが有効か、ジェンダーや子どもといった視点からはどのような研究課題が存在するのかといった点について、最近の研究動向をおさえる。また、先行研究での知見を整理するだけでなく、それらをもとにして具体的な事例の検討も行なう。このように本授業では、新しい理論構築をめざすうえで必要な最初のステップを実演しながら議論することを目的とする。	

社会学特別演習ⅡA	社会運動、ボランティア活動、民間非営利組織（NPO）に関する文献や論文を精読し、研究の背景、問題設定、研究方法、分析のアイデアなどについて解説・議論を行う。現代市民社会の動向を社会的に研究するための知識やアイデアを身につけることを目的とする。	
社会学特別演習ⅡB	社会調査の歴史、調査倫理、種々の調査方法の特徴、調査データの分析方法など、社会調査に関する基礎的な知識や技術を学ぶとともに、受講者自身が関心をもつ問題について実証的な研究を行うため、調査の企画・設計、データの分析方法などに関して発表と議論を行う。	
社会学特別演習ⅢA	日常生活・ジェンダー・仕事・地域社会・格差・家族・環境問題など、我々をとりまく様々な社会の側面を、適切な道具(社会学的概念枠組みや統計資料)を使いつつ分析し、その本質を見通す姿勢を養う。そのために、毎回、与えられたテーマについて情報を持ち寄り、どのような視点からみると何が見えるのかを議論していく。この過程を通じて批判的思考力と社会学的感覚を涵養していく。	
社会学特別演習ⅢB	社会学というものの見方を方法論的角度から捉え直す。より具体的には、社会的ジレンマ研究・国際比較研究・地域課題研究などの研究の実際を、モデル構築・時系列分析・質的データの数量化・介入実験などさまざまなアプローチ方法という視点から捉え直し、社会学的研究における実証と概念枠組み構築について深く考える。そのために可能な範囲での一次資料に触れながら、共に考えることによって受講者自身の創造性を引き出す。	
地理学特殊講義Ⅰ	経済地理学は経済的事象の空間的な分布の特徴やパターンを明らかにするとともに、その特徴やパターンが生じた背景と要因を明らかにしていく学問分野である。本講義では経済地理学における最新の研究動向と調査手法を既存研究から把握し、修士論文の作成に必要な研究手法を身につけることを目的とする。前半の授業では主に農林漁業における生産や流通、工業の立地や産業政策、小売業や観光などのサービス産業の変容などに関する長い研究蓄積がある分野を概観し、その研究手法を概説する。授業の後半では経済のサービス化や金融資本主義の拡大などに関する地理学の近時の研究動向を理解することを目指す。	
地理学特殊講義ⅡA	歴史地理学に関する国内外の最新の研究動向を踏まえ、修士論文の作成に必要な研究手法を体系的に理解することを目指す。具体的には、歴史地理学の概念、歴史地理学の方法論について講義を行い、次に、環境と歴史地理、人口の歴史地理、村落・開発の歴史地理、文化・民俗の歴史地理、都市の歴史地理、生産の歴史地理、流通の歴史地理、商業の歴史地理、交通の歴史地理、政治の歴史地理、近代の歴史地理について文献講読を行い、最後に、受講者の研究テーマに関する文献講読を行う。	
地理学特殊講義ⅡB	世界の文化圏ごとの都市景観の差異を把握することにより、世界の諸地域における都市形成とその背景を理解することを目的とする。また都市景観と人間活動の関係性から地域の特徴を読み解く力を身につけることを目指す。前半の授業では文化圏によって都市景観に差異が生ずる要因を、自然、社会経済的背景から概説するとともに、主にヨーロッパの都市を事例に景観の形成過程、歴史的な遺産と都市開発に対する考え方、観光課や移民流入者などの社会的変化が景観に与える影響を検討する。後半の授業ではアジアの都市景観を事例に、景観の歴史の変遷や大規模都市開発による景観変化から景観と人間活動の関係を理解することを目指す。	
地理学特別演習A	修士論文の完成を目指し、各自が修士論文で取り組む課題を深めるため、地理学の観点から、地理学の国内の学術論文・専門書及び研究経過に関する相互の報告と議論を通して、地理学の理解を深めるとともに、幅広い素養の滋養を目標とする。具体的には、地理学における国内の各分野の文献（地理学概論、自然と文化、人種、言語、宗教、政治、文化、農業、工業、商業、農村、都市）を輪講し、次に、研究分野に関連する論文を紹介するための原稿及び配付資料（レジュメ）を作成し、最後にプレゼンテーション形式で発表を行う。	
地理学特別演習B	修士論文の完成を目指し、各自が修士論文で取り組む課題を深めるため、地理学の観点から、地理学の諸外国の学術論文・専門書及び研究経過に関する相互の報告と議論を通して、地理学の理解を深めるとともに、幅広い素養の滋養を目標とする。具体的には、地理学における諸外国の各分野の文献（地理学概論、自然と文化、人種、言語、宗教、政治、文化、農業、工業、商業、農村、都市）を輪講し、次に、研究分野に関連する論文を紹介するための原稿及び配付資料（レジュメ）を作成し、最後にプレゼンテーション形式で発表を行う。	

地理情報システム特別実習	地理情報システムの概念と仕組みを理解するとともに、地理学と関連分野における修士論文の作成に向けた空間データの処理、空間分析、図版作成の方法を習得することを目的とするものである。前半までの授業では様々な空間データの概念や利用方法、空間データを扱う上での注意点、基礎的なデータの編集方法を学ぶ。後半の授業では、研究におけるGIS利用の状況を概観したうえで、実際の空間分析の手法、分析結果の読み取りと図示の仕方などを学ぶ。	
文化人類学特殊講義 I A	イギリスの人文主義的な社会人類学とフランスの構造主義的人类学の思想と理論を中心に文化人類学の学説の流れを再検討し、現代社会に文化人類学がどのような意義を持つかを学ぶ。まずイギリスのエヴァンズ-プリチャードの古典的民族誌『アザンデ人の世界』と『ヌア族の宗教』の読解を通じて、先住民の社会の思考様式を非論理的とみなしたそれまでの文化人類学の考え方をエヴァンズ-プリチャードがどのように批判しようとしたかを学ぶ。ついでフランスのレヴィ=ストロースの『神話論理』を読解しながら、エヴァンズ-プリチャードとは異なる角度からではあるが、西洋の科学的思考とは異なる論理性が先住民の「野生の思考」にはあるのをレヴィ=ストロースが主張したことを学ぶ。こうした作業を通じて他者理解・異文化理解のための柔軟な姿勢を身につけることができるようにする。	
文化人類学特殊講義 I B	国際養子縁組や配偶子提供などを通じて生物学的核家族が大きく変容している現状を、特に北欧の事例を出発点として検討して、遺伝的關係に拘泥せず核的でない親戚関係が形成されている家族のあり方について学ぶ。まずアメリカの人類学者マードックの核家族という概念が、いかに現代欧米の家族の実情からかけ離れているかを北欧の養子縁組家族の事例を通じて学ぶ。養子縁組家族では親と子の間に遺伝的繋がりはないが、配偶子(精子・卵子)提供や代理出産を通じて家族が形成された場合にも子どもは両親のどちらかと遺伝的繋がりをもたない。こういう場合にはアイデンティティの問題が生じるが、それに対して北欧社会がどのように対処しているかを学ぶ。また先住民社会で親子家族関係がどのように考えられているか様々な民族誌の読解を通じて学びながら、家族のあり方について柔軟な姿勢でのぞむことができるようにする。	
文化人類学特別演習A	文化人類学を基盤としたより高度な演習を行う。具体的には『歴史の島々』(M. サーリンズ)、『野生の思考』(C. レヴィ=ストロース)、『無文字社会の歴史』(川田順造)など歴史人類学の文献を精読し、文化人類学と歴史の関係性について学ぶ。またオセアニア地域を中心とした実証研究にも焦点を当て、西洋近代との接触以降の歴史認識、歴史表出のあり方(伝統の創造、ナショナリズムと伝統文化)について、受講生全員でディスカッションを行う。そして今後の研究の方向性として、「歴史と物語」論を手掛かりに、歴史の通文化比較の可能性を模索する。	
文化人類学特別演習B	文化人類学を基盤としたより高度な演習を行う。現代社会の抱える諸問題を取り上げ、文化人類学的に思考することで、その隘路からの脱却を試みる。具体的には「観光」「医療」「ジェンダー／つながり」という場で生じつつある問題群を「グローバリゼーション／コンタクトゾーン」という視点から捉えなおす。とくにオセアニア・北欧地域の民族誌を手掛かりとして、受講生全員でディスカッションを行い、今後のグローバル社会における人類学的思考の有用性を考えていく。	
考古学特殊講義 I	弥生・古墳時代研究の諸課題を明らかにすることを目的に、教員が現在とりくんでいる研究内容について講義をおこなう。とくに、考古遺物の製作・流通・使用・廃棄といったライフヒストリーに着目した論点をとりあげ、それらが弥生・古墳時代研究においていかなる影響をおよぼすのか研究史上に相対化を図ることをとおして、沈黙資料である考古資料によって過去の社会を復元する方法論を解説する。さらに、弥生・古墳時代を通じて一貫した分析を試みることで、日本列島における古代国家形成に至るまでのプロセスとその歴史的な特質に言及し、歴史学としての考古学の可能性についても議論を紹介する。また、講義を通して、論文執筆において必要となる、課題設定、資料収集・分析、解釈に至る過程を実践的に提示し、論文作成のテクニックを習得することもねらいとする。	

考古学特殊講義Ⅱ	<p>古代の窯業生産について、考古学の視点から検討し、その実態を把握する。古代の官衙遺跡や寺院跡から出土する瓦・土器について、先行研究を踏まえて検討し、これまでの研究成果を整理し、今後の研究方向を考える。土器については須恵器、土師器、施釉陶器を扱う。講義の進め方は、まずイントロダクションとして講義の全体概要を説明する。その後、これまでの官衙遺跡および寺院から出土した瓦の研究事例・研究史について講義する。その上で、詳しく軒瓦と平丸瓦の分析を行い、生産と供給関係を把握し、屋根景観の復元、寺院と官衙（国府・郡衙）出土の瓦の比較検討、駅家出土瓦の研究について講義する。次に、官衙遺跡と寺院出土の土器について、これまでの研究事例・研究史と概要を整理し、生産と供給の諸問題について講義する。最後に、古代における窯業生産と流通についてまとめる。なお、講義を基本とするが、適宜受講生に質問し、対話形式も用いる。</p>	
考古学特殊講義Ⅲ	<p>韓半島青銅器時代を対象にして、過去の墓制に対する考古学的研究の方法論、資料提示・操作の具体例を把握し、先史時代社会復元の方法を習得します。具体的には①韓半島青銅器時代墓制に関する研究史について講義し、研究動向と課題を把握します。②墓制の多様性を理解するために、支石墓、石棺墓、土壌墓といった墓の類型ごとの特徴とそれを基にした墓地構造の変遷とその意味について講義します。③副葬遺物の種類とその特徴について述べた後、それを基にした葬送儀礼プロセスの復元ならびに葬送儀礼の共有を通じた地域間交流網の形成について講義します。最後に①から③までの内容を基に、墓制研究を通じた韓半島青銅器時代社会の変遷と特徴について学生が発表します。</p>	
考古学特別実習	<p>遺跡の発掘調査を通して、学生が考古学研究に必要な研究資料獲得のための諸技術・知識を習得することを目的とする。山陰地域を中心として、野外で遺跡の発掘調査を行う形式で授業を進める。2週間ほどのフィールドワークにおいて発掘調査に関わる基本的な技術を駆使し、調査の段取りを適宜設定し、調査計画を遂行する。具体的には、①発掘調査区域の適切な設定と表土剥ぎといった遺構検出前段階の準備作業、②遺構・遺物検出作業、③写真・実測図の作成といった記録作業、④発掘調査区域の埋め戻しといった一連の発掘調査の流れを実践し体得する。</p>	
考古学特別演習Ⅰ	<p>受講生が関心をもつテーマについて、受講生自身が先行研究を批判的に検討することからはじめ、明確な目的意識のもと考古学資料に即した検討を実践する。その過程で、受講生自身が今後の研究の方向性を見定め、的確な課題の設定とその解決方法を習得することをめざす。そのため、受講生自身が主体的に関心をもつテーマに取り組み、それを教員がその都度の状況に応じて必要な助言・指導することで授業を進める。具体的には、受講生が関心をもつテーマについて研究史を概観し、論点の整理をおこなう。そして、検討対象資料の選定と論点にみあった分析方法を検討しつつ、検討対象資料と関連文献の集成をおこなう。そのうえで、考古資料のライフヒストリー（製作・流通）・使用・廃棄）のそれぞれの局面に着目して、受講生自身が口頭発表をおこない、論文作成の基礎的な手続きを身につけるようにする。</p>	
考古学特別演習Ⅱ	<p>飛鳥時代（7世紀）から平安時代後半（12世紀）までの歴史考古学に関わる先行研究の論文分析を通して、歴史考古学の研究方法や特質を習得する。まず、歴史考古学に関わる遺構の論文については、受講生が文化庁が作成した発掘調査とその整理作業、報告書作成のマニュアルである、「発掘調査のてびき」の古代の「寺院」と「官衙」部分を精読し、内容の把握に努め、要旨を発表します。遺物についても、「発掘調査のてびき」の遺物の分析部分を扱い、内容の把握に努め、発表します。その次に、受講生各自が歴史考古学に関わる官衙遺跡、寺院跡、集落遺跡、生産遺跡とそれに付随する遺構や遺物（土器、瓦、金属製品など）の研究史の整理、問題点の把握に努め、その上で、資料の収集、検討、分析、考察という流れで、研究発表を行います。その後、全員でその発表内容について検討します。</p>	
考古学特別演習Ⅲ	<p>海外の先史時代、特に韓半島青銅器時代文化に関する韓国語論文の精読、論評・討論を通して、当該分野の研究成果・課題について理解を深め、現時点における韓半島先史考古学の方法論の習得とその実践を目標とします。具体的には受講生が主体となって、①考古学研究の基礎となる編年・年代研究の成果を把握するための論文の精読、論評・討論を行います。②遺物研究の動向を把握するため、土器・磨製石器・青銅器研究と関連した論文の精読、論評・討論を行います。③遺構研究の動向を把握するため、集落・農耕・墓制・社会性格と関連した論文の精読、論評・討論を行います。最後にまとめとして韓半島青銅器時代文化研究の課題と方向性について講義します。本科目では韓国語論文の講読を通して韓国語の習得ができるようにします。</p>	

日本史学特殊講義 I-1	<p>日本古代と関連する時代や地域を扱った最近の論文をとりあげながら、日本史上の重要な研究課題について、これまでの研究の流れを把握し、研究の現状について理解を深め、課題を考える力を養う。具体的には(1)日本古代史研究の概要を把握した後、(2)律令国家と王権・天皇をめぐる研究をとりあげ考える。ついで、(3)国郡制などから古代の地域支配と地域支配論をとりあげる。さらに(4)仏教や神祇信仰など、古代国家と宗教の問題を考える。そして、視点を広げて(5)七～八世紀の東アジア世界の中の古代日本の位置を考える。日本の国家形成が東アジア世界のなかでどのようになされたか、日本と唐、新羅、渤海など個別の諸国間関係を取り扱った論文を読み、さらに、東アジア世界論、東部ユーラシア世界論などの大きな理論的枠組みを提示した論文を検討し、東アジア世界、ユーラシア世界のなかの古代日本の位置づけを考えていく。</p>	
日本史学特殊講義 I-2	<p>日本中世を中心に、それに関連する時代や地域を扱った最近の論文をとりあげて、研究の現状と課題について考える。まず日本中世研究の全体を概観した後、大きく次の2点を中心にする。(1)古代から中世への移行期の諸問題をとりあげる。平安期の国家をどのように捉えるか、摂関政治、院政という政治形態と国家組織に関する論点への理解を深めていく。また武士や家の成立、荘園公領制の成立、寺社勢力の特徴など、古代から中世社会への展開に関する研究の状況と論点への理解を深めたいうで、権門体制論など中世国家論の大きな枠組みの捉え方を考える。(2)鎌倉幕府を中心とした問題を考える。鎌倉幕府の成立や特質に関する論、元寇に象徴されるような東アジア世界の中の鎌倉幕府と中世国家についての論、鎌倉幕府の終焉となる後醍醐王権と南北朝期への転換の論をとりあげ、大きな視野から中世の日本の国家と社会、およびその本質を考えていく。</p>	
日本史学特殊講義 II-1	<p>宗教・思想からみた日本近世社会の特質について講義する。地域における寺社と宗教者の役割について押さえたうで、宗教論争や宗教的異端(キリシタン、日蓮宗不受不施派、浄土真宗の異安心など)の事例を取り上げて分析を示すことを通じて、日本近世における神道と仏教との関係や、仏教諸宗派の共通性と差異などについて論じる。</p>	
日本史学特殊講義 II-2	<p>日本近世史の展開に即して山陰の地域的特徴について講義する。まず、鳥取藩、松江藩、浜田藩、津和野藩といった山陰の諸藩の藩政の基本的事項を押さえたうで、各領域における政治支配の特質について論ずる。また、たたら製鉄、木綿、和紙などの近世の山陰地域における代表的産物を取り上げ、山陰地域の産業史的観点からみた特徴を明らかにする。さらに神道や仏教などの展開を取り上げて、宗教と文化からみた特徴などについて論ずる。</p>	
日本史学特殊講義 III-1	<p>本授業では、日本近現代の農業史研究を素材として、学術論文の作成手法を講義する。史料収集から内容分析、関連する研究史の検討から論文作成に至るまで、日本近現代史研究に必須な一連の研究能力を修得することを目的としている。具体的には、「歴史資料調査および整理の方法」、「先行研究整理の方法」、「研究課題の設定」、「対象の限定と立論の方法」、「史料批判の方法」、「実証の方法」、「歴史叙述の手法」といった研究プロセス順に講義を進めていく。講義全体を通して、歴史研究者と歴史学の営みを学ぶことを目的としている。最後に、各受講学生は歴史学の営みに関するレポートを課題としてまとめ、講義を通して学んだことの定着を図る。</p>	
日本史学特殊講義 III-2	<p>本授業では、現在進行形で生成および収集されている現代資料について講義する。戦争や戦災、災害、公害などの現代資料に関する考え方や分析手法を学び、現代史研究に必須な一連の研究能力を修得することを目的としている。具体的には、「兵士に関する戦争資料」、「銃後体験に関する戦争資料」、「被災体験に関する災害資料」、「復興過程に関する災害資料」、「訴訟に関する公害資料」を用いて現代資料をめぐる課題を講義する。最後に、各受講学生は現代資料に関するレポートを課題としてまとめ、講義を通して学んだことの定着を図る。</p>	
日本史学特別演習 IA-1	<p>歴史学の基本である歴史史料を調査、読解し、そこから歴史的事実や歴史像を考えることを受講生が習得する授業である。ここでは主として日本古代の国家によって編纂された正史『続日本紀』を中心に読み進める。あわせて関連する律令格式、正倉院文書や中国古典籍などの史料を受講生が調査、収集しながら読解を進め、歴史史料の読解、分析の方法を習得するとともに、史料からどのような歴史像が構築できるかを考えていく。天平期(729-749ころ)の『続日本紀』の記事のなかから、重要な歴史的事象を記録した部分を取り出して読解し、関連史料とあわせて、派生するさまざまな歴史的問題を見出し、古代の歴史像を描き考えていく。この時期には、とくに光明皇后や阿部内親王(孝謙女帝)、恭仁京遷都、藤原広嗣の乱など古代王権の本質にせまる問題、遣唐使と遣唐留学生をめぐる問題、疫病の大流行などの危機への対応問題、古代史上の重要な問題を見出すことができる。そうした問題を史料の調査と読解を通じて考えていく。</p>	

日本史学特別演習ⅠA-2	<p>歴史学の基本である歴史史料を調査、読解し、そこから歴史的事実や歴史像を考えることを受講生が習得する授業である。ここでは平安後期の貴族で、摂政関白を勤めた藤原忠実の日記『殿暦』をテキストとして読む。あわせて、藤原宗忠の日記『中右記』の同じ日の記事も読んで比較したり、儀式書・年中行事書、大日本史料や古記録データベースも使いながら関係する史料の調査、収集も行い、一日の記事を多角的分析して、歴史的事実の全体像を引き出すことを行う。またそのなかで日記のもつ史料の特質も考える。長期間にわたる『殿暦』の記録のなかでも12世紀初頭の時期を中心に読む。それは忠実が父関白師通や大殿師実の死去の後、摂関家を継承していく時期であり、同時に白河上皇による院政が成立していく時期でもある。この講読を通じて、当事者の史料から院政の成立、さらには中世社会と政治体制の成立という歴史上の重要な問題を考えていくことにもなる。史料から政治、社会の転換を読み取ることをめざす授業である。</p>	
日本史学特別演習ⅠB-1	<p>歴史学の基本である歴史史料を調査、読解し、そこから歴史的事実や歴史像を考えることを受講生が習得する授業である。ここでは平安時代の国家と社会を律する儀式の作法を記した儀式書『北山抄』を読解し、古代・中世の政治と社会の特質を考えていく。『北山抄』なかでも特に巻十二「吏途指南」を講読する。「吏途指南」は、平安期の地方支配を担った受領の政務や文書作成、各種儀式のマニュアルともいえるべきものである。難解な史料であるが、この「吏途指南」を読むことを通じて、高度な史料読解能力を身につけるとともに、受領の実態や特質、地方行政、租税徴収、各種租税・行政文書、政務とその手続き、儀式などのあり様を理解し、平安期の国家や社会の特質全体への考察につなげていく。読解に際しては、すでに出版されている『北山抄註解』などの研究成果を参考に用いる。またそれらを手がかりに関連史料を調査し、多角的に問題を見ることができるようになる。</p>	
日本史学特別演習ⅠB-2	<p>歴史学の基本である歴史史料を調査、読解し、そこから歴史的事実や歴史像を考えることを受講生が習得する授業である。ここでは平安時代の国家と社会を律する儀式の作法を記した儀式書『西宮記』を講読する。平安中期に編さんされた『西宮記』の内容は多岐にわたるが、この授業では最初の宮廷年中行事の部分を読んでいく。国家儀礼としての年中行事には、天皇を中心とした国家や社会の秩序が表現されており、読み進めていくことによって、個々の行事の特徴だけでなく、平安時代の王権や国家のあり様を考えることにつなげていく。また同時期の日記等の史料から年中行事の実例を調査して、具体像をより明らかにしていくとともに、『西宮記』の記述とあわせることによって、理念と実態の関係を考えることにも発展させていく。史料の調査、読解、考察の方法を身につけることになる。</p>	
日本史学特別演習ⅡA-1	<p>日本近世史の各分野、すなわち政治史、経済史、民衆運動史、宗教史、思想史などに関わる代表的な研究文献（論文、著書）を、近世史の通史的展開にも配慮しながらテキストとして取り上げ、講読する。受講生は予めテキストを読み、その内容の要約、疑問点などについて報告し、全員で議論して理解を深める。</p>	
日本史学特別演習ⅡA-2	<p>日本近世史の各分野、すなわち政治史、経済史、宗教史、社会史、思想史に関わる重要な史料（くずし字、活字）を、近世史の通史的展開にも配慮しながらテキストとして取り上げ、講読する。受講生は予めテキストとした史料を読んできたうえで、解読、書き下し文の作成、現代語訳などについて発表し、史料の理解を深める。</p>	
日本史学特別演習ⅡB-1	<p>山陰地域の近世史の各分野、すなわち政治史、経済史、民衆運動史、宗教史、思想史などに関わる代表的な研究文献（論文、著書）を、鳥取藩、松江藩や幕領などの領域ごとの違いにも配慮しながらテキストとして取り上げ、講読する。受講生は予めテキストを読み、その内容の要約、疑問点などについて報告し、全員で議論して理解を深める。</p>	
日本史学特別演習ⅡB-2	<p>山陰地域の近世史の各分野、すなわち政治史、経済史、宗教史、社会史、思想史に関わる重要な史料（くずし字、活字）を、鳥取藩、松江藩や幕領などの領域ごとの違いにも配慮しながらテキストとして取り上げ、講読する。受講生は予めテキストとした史料を読んできたうえで、解読、書き下し文の作成、現代語訳などについて発表し、史料の理解を深める。</p>	
日本史学特別演習ⅢA-1	<p>本授業では、日本近現代史、歴史認識論、歴史資料論、歴史実践論などに関する最新の研究論文を講読して、基盤となる考え方を学び、歴史研究および歴史資料の専門家としての能力を養うことを目的としている。具体的には、明治時代以降の近代歴史学の歩みをテキストを使って輪読し議論ながら学ぶ。戦前の歴史学史においては、「近代実証主義歴史学の誕生」や「戦争と超国家主義歴史観」などが主要テーマとなる。戦後の歴史学史においては、「マルクス歴史学」や「近代批判と社会史研究」、「現代歴史学の展開」などが主要なテーマとなる。</p>	

日本史学特別演習ⅢA-2	本授業では、日本近現代史、歴史認識論、歴史資料論、歴史実践論などに関する最新の研究論文を講読して、基盤となる考え方を学び、歴史研究および歴史資料の専門家としての能力を養うことを目的としている。具体的には、歴史学の方法論を史学概論のテキストを論読、議論することを通して学ぶ。「歴史学の目的」、「歴史学の効用」、「歴史学の対象とその認識」、「事実認識の可能性と限界」、「歴史学の境界」、「歴史学と文学」、「歴史学の主観性と客観性」、「歴史学の社会的責任」などが主要なテーマとなる。	
日本史学特別演習ⅢB-1	本演習では、日本近現代史に関する歴史資料を読解する。その内容解釈や分析能力を養うとともに、日本近現代史をめぐる歴史像の形成手法を学ぶことを目的としている。具体的には、近現代史に関する資料集をテキストに用いて、「元老院文書」、「軍令機関文書」、「大日本帝国議会文書」、「外務省文書」、「内務省文書」、「大蔵省文書」などの近現代公文書を体系的に解読しながらその特徴を学ぶ。	
日本史学特別演習ⅢB-2	本演習では、日本近現代史に関する歴史資料を読解する。その内容解釈や分析能力を養うとともに、日本近現代史をめぐる歴史像の形成手法を具体的に学ぶことを目的としている。具体的には、近現代史に関する資料集をテキストに用いて、「商工省文書」、「通信省文書」、「厚生省文書」、「朝鮮総督府文書」、「関東都督府文書」、「府県庁文書」、「郡役所文書」、「市町村役場文書」などの近現代公文書を体系的に解読しながらその特徴を学ぶ。	
東洋史学特殊講義Ⅰ-1	学部時代に学んだ中国史の基礎的知識を、より専門的な水準で理解し、各自の研究の出発点にしてもらうことを目的とする。具体的には、モンゴル帝国以前の中国史を、先秦・秦漢・魏晉南北朝・隋唐・南宋に時期区分し、各時期について、①最新の概説書（岩波新書『中国の歴史シリーズのうち、丸橋充拓『江南の発展 南宋まで』を軸に、渡辺信一郎『中華の成立 唐まで』および古松崇志『草原の制覇 モンゴル帝国まで』を併用）の講読を通じて各時期の基礎的事実を確認し、②そうした基礎的事実の理解がどのような研究蓄積を通じて生まれたものなのかを学ぶ。この作業を、各時期ごとに反復しながら、進めていく。	
東洋史学特殊講義Ⅰ-2	日本における歴史教育の現状について、「日本人の中国に対する理解の動向」を題材として把握することを目的とする。具体的には、まず担当教員が近年における歴史教育改革の現状と展望について講義し、次に大学教養課程向けテキスト（大阪大学歴史教育研究会編『市民のための世界史』）や高校世界史教科書、および『高等学校学習指導要領解説（地理歴史篇）』を用い、これらの記載内容を検討して、前期（東洋史学特殊講義Ⅰ-1）において学んだ中国史学の先端的な研究成果が、どのような方法で市民に提供されているのかについて、その現状と課題を読み解いていく。	
東洋史学特殊講義Ⅱ-1	中国の家族史・ジェンダー史について、最新の研究状況が反映されたテキストを読みながら通史的に講義を行います。論点となるのは、家族構造と家族原理の歴史的变化、儒教礼制と現実社会との関係、ジェンダーをめぐる心性の歴史的变化です。これらの論点についての考察を通して、中国社会の歴史的特質を理解するとともに、研究動向を整理・理解し、課題を考える力を養います。	
東洋史学特殊講義Ⅱ-2	儒教史について最新の研究状況が反映されたテキストを読み、儒教思想についてより深い理解を導くとともに、特に儒教と政治・社会との関係に着目しつつ、研究動向を整理しながら通史的に講義を行う。特に論点になるのは儒教の徳治・礼治という概念と現実の国制や社会との関係である。これらの論点についての考察を通して、儒教と社会という視点から中国史の特性を理解するとともに、研究動向を整理・理解し、課題を考える力を養う。	
東洋史学特別演習ⅠA-1	本演習は、古典漢文史料の読解力を向上させ、各自の研究において活用していくための基礎を学ぶことを目的とする「特別演習」の第1段階に位置する。使用するテキストは、最も基礎的なレベル＝句読点付きの古典テキストとして南宋・袁枢撰『通鑑紀事本末』の中華書局本を使用する。受講生は各回講読箇所を事前に予習を行って授業に臨み、担当教員の解説を通じて原案を修正する。その過程を毎回反復することを通じて、史料の「量を読みこなす」力の向上を図っていく。	
東洋史学特別演習ⅠA-2	本演習は、古典漢文史料の読解力を向上させ、各自の研究において活用していくための基礎を学ぶことを目的とする「特別演習」の第2段階に位置する。使用するテキストは、第1段階に引きつづき、最も基礎的なレベル＝句読点付きの古典テキストとして南宋・袁枢撰『通鑑紀事本末』の中華書局本を使用する。受講生は前期に課された各回講読箇所の訓読・解釈に加え、各記載の出典調べを行って授業に臨み、担当教員の解説を通じて原案を修正する。その過程を毎回反復することを通じて、古典読解に必須である「出典探索」力の向上を図っていく。	

東洋史学特別演習 I B-1	本演習は、古典漢文史料の読解力を向上させ、各自の研究において活用していくための基礎を学ぶことを目的とする「特別演習」の第3段階に位置する。使用するテキストは、句読点のない白文テキストとして詔勅や上奏文（『文苑英華』中華書局本を使用）や論説文（『文献通考』自序）を読んでいく。受講生は各回講読箇所の訓読・解釈・出典調べの予習を行って授業に臨み、担当教員の解説を通じて原案を修正する。その過程を毎回反復することを通じて、白文史料の読解力向上を図っていく。	
東洋史学特別演習 I B-2	本演習は、古典漢文史料の読解力を向上させ、各自の研究において活用していくための基礎を学ぶことを目的とする「特別演習」の第4段階に位置する。使用するテキストは、応用レベルのテキストとして墓誌や碑などの石刻史料（清・王昶撰『金石萃編』や各種拓本類を使用）を読んでいく。受講生は各回講読箇所の訓読・解釈・出典調べの予習を行って授業に臨み、担当教員の解説を通じて原案を修正する。その過程を毎回反復することを通じて、白文史料の読解力向上を図っていく。	
東洋史学特別演習 II A-1	宋代以後の中国史に関する著書、論文などを輪読し、当該研究分野に関する基礎知識をより専門的な水準まで深めるとともに、現在における新たな研究史の動向―国史観の相対化とグローバルヒストリーの進展や社会史・ジェンダー史への着目等―について理解を深め、課題を考える力を養います。また、受講生による文献の要約と報告を通して、プレゼンテーション力も養成します。	
東洋史学特別演習 II A-2	漢文史料の訓読と解釈を繰り返し、修士論文作成に必要な漢文史料の読解力を獲得することを主目的としています。テキストとして用いるのは、中国宋代の裁判史料『名公書判清明集』です。この史料は、宋代にどのような裁判事案が起こり、どのような判決が当時評価されていたのかを伝えるものです。本史料を正確に読み取っていくことを通じて、中国社会の歴史的特質を理解していくことができます。	
西洋史学特殊講義 I-1	西洋近世の国制史に関する研究動向について講義する。地域性と政治文化の2つの論点に着目し、これら2つの論点に即して、現在における国制史に関する研究状況について理解するとともに、関連する史料についても知見を広げる。合わせて、関連する著書、論文などの輪読も行う。講義に際しては、受講生の関心に配慮して進める。	
西洋史学特殊講義 I-2	西洋近世の社会史に関する研究動向について講義する。地域性と政治文化の2つの論点に着目し、これら2つの論点に即して、現在における社会史に関する研究状況について理解するとともに、関連する史料についても知見を広げる。合わせて、関連する著書、論文などの輪読も行う。講義に際しては、受講生の関心に配慮して進める。	
西洋史学特別演習 I A-1	国制史の方法について討論する。はじめに教員より、地域性と政治文化の2つの論点に関する情報提供を行う。後者との関連では、議会、裁判、都市、農村の4要素に着目してもらう。これらを参考にしつつ、関連する史料と基礎的な方法論に配慮して、報告を行ってもらう。演習を進めるに際し、受講生の専攻領域と関連させる。リサーチや分析を通じて、自分の考察及び結論を、論理的かつ説得力のある文章で表現する方法を学ぶ。	
西洋史学特別演習 I A-2	修士課程1年次前期で得た知見も援用して、国制史の方法について討論する。はじめに教員より、西欧と東中欧の類似性と相違に関する情報提供を行う。この点に加えて、議会の4要素に着目してもらう。これらを参考にしつつ、関連する史料と基礎的な方法論に配慮して、報告を行ってもらう。演習を進めるに際し、受講生の専攻領域と関連させる。リサーチや分析を通じて、自分の考察及び結論を、論理的かつ説得力のある文章で表現する方法を学ぶ。	
西洋史学特別演習 I B-1	社会史の方法について討論する。はじめに教員より、地域性と政治文化の2つの論点に関する情報提供を行う。後者との関連では、コミュニケーション、言論活動、出版文化、識字率の4要素に着目してもらう。これらを参考にしつつ、関連する史料と基礎的な方法論に配慮して、報告を行ってもらう。演習を進めるに際し、受講生の専攻領域と関連させる。リサーチや分析を通じて、自分の考察及び結論を、論理的かつ説得力のある文章で表現する方法を学ぶ。	
西洋史学特別演習 I B-2	修士課程1年次前期で得た知見も援用して、社会史の方法を討論する。受講生の専攻領域との関連に配慮する。はじめに教員より、西欧と東中欧の類似性と相違に関する情報提供を行う。この点に加えて、コミュニケーション、言論活動、出版文化、識字率の4要素に着目してもらう。これらを参考にしつつ、関連する史料と基礎的な方法論に配慮して、報告を行ってもらう。演習を進めるに際し、受講生の専攻領域と関連させる。リサーチや分析を通じて、自分の考察及び結論を、論理的かつ説得力のある文章で表現する方法を学ぶ。	

西洋史学特別演習ⅡA-1	政治文化論の方法について討論する。はじめに教員より、地域性と政治文化の関連に関する情報提供を行う。後者との関連では、宮廷集会、反乱、政略結婚、官職売買の4要素に着目してもらおう。これらを参考にしつつ、関連する史料と基礎的な方法論に配慮して、報告を行ってもらおう。演習を進めるに際し、受講生の専攻領域と関連させる。リサーチや分析を通じて、自分の考察及び結論を、論理的かつ説得力のある文章で表現する方法を学ぶ。	
西洋史学特別演習ⅡA-2	修士課程1年次前期で得た知見も援用して、政治文化論を討論する。はじめに教員より、西欧と東中欧の類似性と相違に関する情報提供を行う。この点に加えて、宮廷集会、反乱、政略結婚、官職売買の4要素に着目してもらおう。これらを参考にしつつ、関連する史料と基礎的な方法論に配慮して、報告を行ってもらおう。演習を進めるに際し、受講生の専攻領域と関連させる。リサーチや分析を通じて、自分の考察及び結論を、論理的かつ説得力のある文章で表現する方法を学ぶ。	
記録史料学特殊講義Ⅰ	日本の近世における藩政資料、武家文書、商家文書、町方役人文書、村方文書、寺社家の文書などの文書群に即して、各組織体あるいは経営体における文書管理のあり方について講義する。文書群の具体例としては、山陰地域に所蔵される文書群を主に取り上げて、地域的な特徴に即した理解が得られるようにする。また文書群の整理方法と目録編成等についても扱う。	
記録史料学特殊講義Ⅱ	本講義では、近現代の記録史料に関する管理・保存・公開のあり方について講義する。具体的には、近現代文書の保存・管理・公開に関する総論から講義して、「公文書の保存・管理」、「民間所在の近現代文書」、「自治体史の編纂と近現代文書」、「戦争と近現代資料」、「人口減少社会と地域資料」、「大規模自然災害と資料保存」、「音声資料と映像資料」などが主要な講義テーマとなる。最後に、各受講生は近現代の記録史料に関するレポートを課題としてまとめ、講義を通して学んだことの定着を図る。	
アーカイブズ管理論特殊講義Ⅰ	この授業は、アーカイブズ学の理論と原則を前提に、アーカイブズ資料を管理・保存し、利用可能にするための方法論についての知識を習得し、アーカイブズ管理のための諸業務や施設運営の仕方について理解することを目標とする。具体的には、アーカイブズ・システムを立ち上げる際の構想と設計から、資料の移管と受入れ、編成と記述、保存と危機管理、公開と利用、展示・普及活動まで、アーカイブズ管理に関わる業務全般について講義する。また、それぞれの業務ごとに、受講生には関連する具体的な事例について調査し、報告してもらおう。事例報告を通じた議論を行うことで、アーカイブズ管理の方法論が具体的な業務にどのように適用され、いかなる課題が生じているのかについて理解を深め、実践的に応用可能な知識を身につける。	
アーカイブズ管理論特殊講義Ⅱ	この授業は、記録管理に関わる理論と原則を前提に、組織の記録作成時からの管理・保存・処分に関わる方法論についての知識を習得し、記録管理のための諸業務や記録管理システムの運用の仕方について理解することを目標とする。具体的には、エリザベス・シェパード、ジェフリー・ヨー共著／森本祥子ほか訳『レコード・マネジメント・ハンドブック』（2016年）をテキストとして用いて、記録管理の目的から、機能分析、記録の分類スキームの設定、記録管理システムの構築、リテンション・処分スケジュールの設定、長期保存計画、検索手段とアクセス方針の策定まで、記録管理に関わる業務全般について講義する。また、それぞれの業務ごとに、受講生には記録管理のための関連法制や各種標準、マニュアル等について調査し、報告してもらおう。報告を通して具体的な標準等の理解を深め、実際の記録管理システムに適用する際の諸問題について議論することで、実践的に応用可能な知識を身につける。	
アーカイブズ学理論特殊講義Ⅰ	この授業では、アーカイブズ学の基礎的な理論や原則について理解し、その基礎理論を社会的変化に応じて問い直したり、現場での実践に応用するための批判的思考力を身につけることを目標とする。まず、アーカイブズの定義を理解し、資料を管理するための方法論である編成・記述論、評価選別論の基礎を把握する。その上で、電子記録の登場以来その必要性が唱道されてきた、記録の作成時点からの管理のためのポスト保管アプローチについて学び、このアプローチを支える新たな理論として登場したレコード・コンティニューム論について講義する。そして、ポスト保管時代に求められる記録管理のあり方について、アカウントビリティや情報ガバナンスとの関連から論じ、現代情報社会に求められる記録管理専門職の役割について考える。講義の後半では、欧米の研究文献を受講生とともに読み進め、理論の再考を促す問いの立て方や実際の諸課題への応用のされ方について学ぶ。	

アーカイブズ学理論特殊講義Ⅱ	<p>この授業では、アーカイブズ学の理論や方法論が現代社会の諸課題に直面して、どのように批判的検討が加えられ、欠点を克服する新たなアプローチが試みられているかを理解し、基礎理論を社会の多様な諸課題に応じて問い直したり、現場での実践に応用するための批判的思考力を身につけることを目標とする。特に、現代アーカイブズ学で中心的に議論されているアーカイブズと記憶の問題系、すなわち、資料を作成し、管理し、保存し、公開することがはらむ権力性と、社会的に周縁化された集団等による資料への新たな価値づけがもたらす意義と諸問題について論じる。また、抽象的な理論がなぜ必要とされ、いかに適用されているかについて、オーストラリア先住民とアーカイブズをめぐる問題やイギリスにおけるコミュニティ・アーカイブズの実践など、具体的事例を通して講義する。さらに、記憶論、資料記述論、コミュニティ・アーカイブズ論、ユーザー参加型アプローチ等、隔回で取り上げるテーマの理解をより深めるために、欧米の研究文献を受講生とともに読み進め、理論の適用・応用のされ方やその限界について考える。</p> <p>本講義の受講生は、「アーカイブズ学理論特殊講義Ⅰ」を受講していることが望ましい。</p>	
アーカイブズ学特殊講義	<p>アーカイブズ学は、フランス革命以降の近代ヨーロッパで成立し、20世紀後半に世界的に普及し、日本でも独自の展開をみせている。それゆえ、アーカイブズとは何か、アーカイブズ学とはどのような学問であるかをめぐっても、地域的多様性や時代状況の変化を伴いながら、さまざまに論じられてきた。そこで、本講義では、まず、西欧の前近代から近代にかけてのアーカイブズ管理のあり方を概観し、近代ヨーロッパにおいて、アーカイブズ学がいかに科学として成立してきたのかを論じる(第2回～第4回)。また、20世紀以降のイギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアにおけるアーカイブズ学の理論と実践の発展過程とその特徴について講義する(第5回～第8回)。次に、20世紀後半から現代にかけての日本におけるアーカイブズ学の展開をたどり、公的機関のアーカイブズから、大学、企業、コミュニティのアーカイブズまで、管理の対象や担い手が多様化しつつある現状を概観する(第9回～第13回)。最後に、専門職としてのアーキビストに求められるものとは何か、その役割と特性について考える(第14回)。以上のような世界と日本のアーカイブズの歴史から、アーカイブズの本質と資料を管理することの意義について理解する。</p>	
アーカイブズ学特別演習A	<p>アーカイブズ資料の構造やコンテキストを調査・検討し、適切な方法で整理・記述を行うための方法論を理解し、資料の編成・記述の演習を通じて、実践的な能力を身につけることを目標とする。具体的には、資料管理のための諸原則であるフォンド尊重原則、現秩序維持原則、出所原則について理解し、資料記述の国際標準であるISAD (G)等について講義する。また、電子記録管理のためのメタデータ標準についても論ずる。さらに、資料群の階層的把握に拠らない、より柔軟な記録と作成者、業務機能との関係を把握するシリーズ・システムに基づく編成・記述の方法論についても講義する。その上で、受講生各自の関心に沿って、階層構造に基づく編成・記述とシリーズ・システムに基づく編成・記述のそれぞれについて実際の資料を想定した演習を行い、実践に応用可能な能力を身につける。また、近年、新たに国際標準化の議論が進んでいるアーカイブズ記述標準Records in Context (Ric) についても論及する。</p>	
アーカイブズ学特別演習B	<p>この授業では、記録管理とアーカイブズ管理を統合するレコードキーピングの考え方にに基づき、組織の記録管理のためのシステム・デザインの基本的な考え方を理解する。また、実際の組織を想定したシステム設計のためのプロジェクトの実施プロセスの計画立案を経験することで、実務に応用可能な専門的能力を身につけ、専門職としての職務遂行に必要なマネジメント能力を養うことを目標とする。授業の前半では、記録管理に関わる法制、標準、指針について理解し、記録管理のための業務分類とメタデータ付与、リテンション・処分スケジュールの設定、アクセス制御と検索システムの構築、危機管理対策と業務継続性プランの策定、モニタリング、監査、リスク・マネジメントの計画と実施、電子記録の長期保存措置について講義する。授業後半では、レコードキーピング・システムを計画・実施するための演習を行う。具体的には、まず、システム・デザインのためのプロジェクト・マネジメントの技法を理解し、受講生が具体的に対象とする組織を定め、その組織のレコードキーピング・システム設計のための要件の整理、組織の機能と業務分類に関する調査、リテンション・スケジュールの設定のための課題整理、情報ガバナンス戦略の策定等を行い、最終的にシステム設計の仕様書を作成し、成果報告と総括討論を行う。受講生が実際にレコードキーピング・システムの設計の仕方を学ぶことで、組織を取り巻くステークホルダーに配慮したシステム運営の実践的方法を身につけることを目指す。</p>	

アーカイブズ特別実習	本実習は、授業での事前・事後学習と、島根県やその近隣各県のアーカイブズ機関等における実習によって構成する。事前学習では、実習の全体計画の策定、実習内容の計画と自己評価方法の策定を行い、実習施設に関する予備調査・研究を実施するとともに、資料の基本的な取り扱い、アーキビストとしての行動基準等を指導する。以上の事前指導を経て、実地研修を行う（10日分相当の研修を想定）。実習後には、成果報告を行い、現場で求められる能力や課題についての理解や考察を深める。実習体験を通じて、資料管理の現場で求められる技能や施設運営における課題を的確に把握する能力、また、アーキビストやレコード・マネジャー等の専門職としての自己評価、判断能力を身につける。	
資料保存論	博物館における資料保存の意義、博物館資料の適切な保存環境、IPM（総合的有害生物管理）などによる博物館資料の適切な保全・保存の方法について理解する。地域資源・文化財・自然環境の保護と博物館の役割について学ぶ。	
社会福祉学特殊講義Ⅰ	本授業の目的は、地域福祉の実践、基礎的概念、および研究方法の3点について学ぶことである。事例として、住民による地域福祉活動、市町村福祉行政・福祉計画、および地域福祉を担う専門職、の3つを取り上げる。住民・行政・専門職の三者が協働して福祉資源を開発する実践に着目する。その上で、地域を基盤とした福祉形成の到達点と現状の課題について考察する。	
社会福祉学特殊講義Ⅱ	この授業では、障害者福祉に関する学術論文及び専門書の精読、視覚的教材等の活用を通じて、障害者福祉の研究動向を概観する。最近の研究動向や研究課題の確認を通じて、障害者福祉に関連した社会問題が起こる背景や、問題の構造等を理解する。	
社会福祉学特殊講義Ⅲ	国内外における子どもと家庭に関する社会福祉・ソーシャルワークについて理解を深めることを目的とする。虐待や家族間の暴力など、子どもと家族をめぐる社会問題を中心に議論する中で、社会福祉の支援者やそのほかの専門職の役割などを考える。	
社会福祉学特殊講義Ⅳ	医療政策、なかでも医療提供体制の変化を理解したうえで、医療ソーシャルワーカー業務の現状と課題について理解する。医療ソーシャルワーカー業務については、社会・経済的格差、社会的孤立との関連が深い、経済的問題の解決・緩和、地域活動を主に取り上げる。	
社会福祉学特殊講義Ⅴ	本授業では、マイノリティの捉え方について深く考察することを目標とする。例えば人数的には決して少なくなくても、女性、アメリカの黒人やヒスパニックなど、社会の構造や意識によって著しく不利益を蒙っている人々、同性愛者、ロヒンギヤやクルドのように時には攻撃対象となる人々はなぜ生じるのか、それを生み出す社会そのものやマジョリティとの関係について考察する。	
社会福祉学特殊講義Ⅵ	学校という場において、児童・生徒が抱える問題をソーシャルワークの理念と方法に基づき、学校はもとより関係機関等と連携し、子どもたちが安心して教育を受けることができる条件を整備していく具体的実践の方法を知り、理解を深める。	
社会福祉学特別演習ⅠA	本授業の目的は、地域福祉の方法論を、住民の地域福祉活動を事例として学ぶことである。特に、住民主体の地域福祉活動とそれを支援する専門職の役割について考察する。コミュニティワークならびにコミュニティソーシャルワークの方法論を学ぶとも言える。これらに関連する論文を講読しながら、授業を進める。	
社会福祉学特別演習ⅠB	本授業の目的は、地域福祉の方法論を、市町村の福祉行政活動および福祉計画策定を事例として学ぶことである。特に、地域福祉計画の策定過程について考察する。また、市町村の地域福祉政策にも着目する。自治体政策の側面から地域福祉の方法論を学ぶとも言える。福祉計画・政策に関連する論文を講読しながら、授業を進める。	
社会福祉学特別演習ⅡA	この授業では、論文精読やディスカッション等を通じて、障害者福祉の分野で取り組まれている研究動向を概観するとともに、自らの関心のある研究課題を探求する。また定性的（質的）研究方法を中心に、調査方法、分析方法などの研究手法の理解を深める。	
社会福祉学特別演習ⅡB	この授業では、これまで学んだ知識とスキルを活用し、研究計画の作成、定性的（質的）研究方法を中心に、自らが用いる研究方法を検討し、障害者福祉の分野において調査研究を実施する力を習得する。定期的な研究発表やディスカッションを通じて、研究スキルやプレゼンテーションスキルを習得する。	
社会福祉学特別演習ⅢA	子ども家庭福祉に関する基礎的理論、近年の研究動向や事例などについて文献の精読を通して学ぶ。受講生の研究関心に沿った文献を選定し、講読する演習形式で授業を行う。社会福祉に関する基礎的な知識を身に着けた上で、自らの研究課題を設定しそれにあつた研究方法を模索する。	

社会福祉学特別演習ⅢB	子ども家庭福祉に関する基礎的理論、近年の研究動向や事例などについて文献の精読を通して学ぶ。受講生の研究関心に沿った文献を選定し、講読する演習形式で授業を行う。社会福祉に関する基礎的な知識を身に着けた上で、自らの研究課題を設定しそれにあった研究方法を模索する。	
社会福祉学特別演習ⅣA	日本、イギリス（イングランド）の医療ソーシャルワーク、なかでも入院支援に関する研究動向を把握・検討したうえで、日本の医療ソーシャルワークへの示唆を得る。また、近年の研究方法の特徴についても理解できるようにする。	
社会福祉学特別演習ⅣB	地域包括ケアのなかで、福祉主導の典型である見守りと、保健・医療主導の重要な構成要素である病院・診療所などのつながりの現状と課題を、先進事例分析を通して学ぶ。具体的には、住民組織などによる日常の見守りと、見守りの対象者が急病などになったときの関連機関・職種との連携・協働を中心に検討する。	
社会福祉学特別演習ⅤA	多文化的背景をもとにしたソーシャルワークのスーパービジョンについてケース研究を行う。またロールプレイによるスーパービジョンやソーシャルアクションのシミュレーションも行う。	
社会福祉学特別演習ⅤB	国際的NGO等で現地において実践するソーシャルワークや、日本国内への移民受け入れや定住支援におけるソーシャルワークについて実践事例を検討し、援助計画の立案や社会資源の活用について考察を深める。	
社会福祉学特別演習ⅥA	本演習は文献講読からスクールソーシャルワークの研究動向を概観し、その後、ディスカッションや自身の研究テーマについてのプレゼンテーションを行うことで、修士論文作成への足がかりを作る。	
社会福祉学特別演習ⅥB	本演習は社会福祉学特別演習ⅥAを踏まえ、これまで学んできた知識やスキルを活かしながら論文作成を進めて行く。また、定期的にプレゼンテーションとディスカッションを実施し、ブラッシュアップを図る。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学部社会創成専攻健康・行動科学コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	健康・行動科学演習	<p>健康・行動科学各分野に関する基礎から応用までの研究方法を理解し成果を表現する総合的な力を身につけることを目指す。そのため、我が国や諸外国の健康維持・増進や疾病予防・介護予防、およびその基礎的な心身のメカニズムに関する学術誌の論文の検索方法、研究テーマの精査、研究仮説の設定、研究計画書の修正、研究手順、統計処理の仕方、結果の論文形式へのまとめ方を修得できることを目標とする。</p> <p>(④村瀬 俊樹) 実験・調査・行動観察などの方法を用いて、言語発達・認知発達、および、それらと文化的環境との関係を明らかにする課題の研究指導を行う。</p> <p>(11高橋 哲也) 被服材料や人間工学の手法を用いて、ヘルスケアに関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(18磯村 実) ゲノム解析や分子疫学の手法を用いて、生活習慣病の予防に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(⑩鶴永 陽子) 栄養学や食品学の観点から、健康科学や食行動について研究する際に必要な考え方、方法、研究成果の発表の仕方について研究指導を行う。</p> <p>(40山崎 雅之) ポピュレーション・アプローチの手法を用いて、現在の地域健康課題の解決に向けた研究指導を行う。</p> <p>(43和氣 玲) 医学研究の手法を用いて、精神保健学の課題の研究指導を行う。</p> <p>(45宮崎 亮) 体力科学、応用健康科学、運動生理学などの手法を用いて、生理学及び体力科学の課題の研究指導を行う。</p> <p>(50蘭 悠久) 心理物理学的手法を用いて、知覚・認知心理学の課題の研究指導を行う。</p> <p>(53源 健宏) 学習心理学・認知神経科学の手法を用いて、人間の高度な認知・行動を支える心と脳の仕組みに関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(60佐藤 鮎美) 実験心理学的な手法で、家族心理学に関連する課題について研究指導を行う。</p> <p>(62川上 直秋) 社会心理学の手法を用いて、人間の社会的行動および社会的認知に関わる課題の研究指導を行う。</p> <p>(63辻本 健彦) 運動疫学的(特に観察研究や介入研究)な研究手法を用いて、人間の健康とそれに関わる身体行動に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(69足立 孝子) ソーシャルワークの問題解決の手法を用いて、人間の精神の健康とその人らしい生活について研究指導を行う。</p> <p>(71清水 悠) バイオメカニクスの手法を用いて、スポーツ科学の課題の研究指導を行う。</p>	

<p>コース 基盤 科目</p>	<p>健康・行動科学基礎論</p>	<p>健康・行動科学の学問領域を理解し、基本的な意欲・態度を身につけることを目的とする。各専門分野の教員がオムニバス形式により、それぞれの分野の研究内容や文献を紹介し、現状や課題等について講義する。</p> <p>(4)村瀬俊樹/1回) 発達科学を基盤として、行動科学的な観点から人間の発達と健康を考える視点を学ぶ。</p> <p>(11)高橋哲也/1回) 被服科学・人間工学を基盤として、健康科学的な観点から人間の健康とそれを取り巻く環境について考える視点を学ぶ。</p> <p>(18)磯村実/1回) 生活習慣病の病態を理解し、疫学的な視点からその予防への戦略を学ぶ。</p> <p>(21)鶴永陽子/1回) 栄養学や食品学を基盤として、健康科学的な観点から人間の食習慣と健康を考える視点を学ぶ。</p> <p>(40)山崎雅之/1回) 最新の健康リスクに対するポピュレーションストラテジーの具体的方法論とその政策的応用について学ぶ。</p> <p>(43)和氣玲/1回) 精神医学を基盤として、保健科学的な観点から人間の心身の発達と健康を考える視点を学ぶ。</p> <p>(45)宮崎亮/1回) 運動生理学・体力科学を基盤として、身体健康科学的な観点から健康増進・健康長寿を考える視点を学ぶ。</p> <p>(50)蘭悠久/1回) 知覚・認知心理現象やそれらの情報処理過程について学ぶ。</p> <p>(53)源健宏/1回) 行動・認知神経科学分野における主要な知見を紹介することで、人間の行動を生み出す心と脳の仕組みを理解する。</p> <p>(62)川上直秋/1回) 社会心理学を基盤として、行動科学的な観点から人間の社会的認知を考える視点を学ぶ。</p> <p>(60)佐藤鮎美/1回) 家族・発達心理学を基盤として、行動科学的な観点から環境と人間のコミュニケーションや成長との関係について考える視点を学ぶ。</p> <p>(63)辻本健彦/1回) 運動処方学や運動疫学を基盤として、健康科学的な観点から人間の健康とそれに関わる行動を考える視点を学ぶ。</p> <p>(69)足立孝子/1回) 精神保健学を基盤として、保健科学的な観点から人間の精神の発達と健康を考える視点を学ぶ。</p> <p>(71)清水悠/1回) バイオメカニクスを基盤として、行動科学的な観点から人間の身体の動かし方を考える視点を学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>健康科学特論I</p>	<p>日常生活活動や運動・スポーツ（総じて身体活動）の実践は健康へ良い影響をもたらすことがわかっている。健康の保持増進のための身体活動の在り方について、ヒトの動きの特性や生理的反応、行動変容等の視点から、国内外の知見を紹介しつつ理解させ、未解決の課題について議論する力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(45)宮崎亮/5回) 体力が介護予防や健康長寿などに及ぼす効果に関する最新の動向を理解し、未解決の課題について議論する。</p> <p>(63)辻本健彦/5回) 疾病の予防・改善を企図した運動処方に関する研究や運動・スポーツの疫学研究に関する研究について議論し、未解決の課題について理解する。</p> <p>(71)清水悠/4回) バイオメカニクスを基盤として、スポーツ科学やヒトの動きについての最新の動向を議論しつつ、今後の課題について理解する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>健康科学特論II</p>	<p>本授業では現代社会を生きる人々が抱える健康課題について概観する。現代社会で多く見られる様々な病気について身体や精神面さらには社会面からアプローチし、疾病構造とその基となる生活習慣を理解するとともに病気を予防する方策を理解する。さらには病気を抱える人々をサポートする社会基盤を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(11)高橋哲也/3回) 被服素材の機能や役割を掘り下げて学ぶとともに、健康生活を維持するために規な機能性を有する健康衣料素材について深く学ぶ。</p> <p>(18)磯村実/3回) 高齢者に多く見られる病気として高血圧、糖尿病、がんを取り上げ、それらの病態について病理学的かつ分子生物学的な観点から深く学ぶ。</p> <p>(40)山崎雅之/2回) 基礎的な公衆衛生学、衛生学、環境保健学にとどまらず、社会面側面からの実践的な健康課題に対するアプローチを学ぶ。</p> <p>(43)和氣玲/3回) 変化する保健医療制度の中で、主に精神面の健康課題についてアプローチし、疾病構造と予防策を学ぶ。</p> <p>(69)足立孝子/3回) 主に精神面の健康課題を取り巻く環境・情勢を学び、精神保健の役割と機能、社会的基盤、取り巻く環境に働きかけるプロセスを学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p>

食品機能・加工学特論	<p>健康志向が高まる中、食品の機能性が注目されている。特に食品が有している生体調節機能については、健康の維持・増進、そして疾病の予防と治療に役立つことから特に関心が高い。しかし、食品には生体調節機能の他にも栄養性、嗜好性の重要な機能がある。本授業では、それぞれの機能について理解させる。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(①鶴永陽子/3回) 穀類、芋類、豆類などの農産食品の加工方法と機能性との関連性について概説する。</p> <p>(池浦博美/6回) 食品が有する香りを中心とする嗜好性と機能性との関連性について概説する。</p> <p>(松本敏一/2回) アルコール飲料や発酵食品と機能性の関連性について概説する。</p> <p>(渋谷智暉/3回) 添加物の基礎知識と、機能性との関連性について概説する。</p>	オムニバス方式
臨床・社会・環境医学と高度情報学の接点	<p>医学の進歩を情報学の進歩と照らし合わせて理解することを目指します。病理学、環境保健、臨床検査、医療情報を主な視点として、情報との係わりを学びます。更に、人間の置かれる地球環境にまで視野を拡張、今後の情報社会を見通します。また、それぞれの取り組みを正しく理解するべく、情報技術についての基礎的な事項も併せて学びます。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(18磯村 実/1回) 生活習慣病の集団遺伝学について</p> <p>(45山崎 雅之/4回) 疫学、システムの活用について</p> <p>(平川 正人/3回) 情報処理技術について</p> <p>(廣富 哲也/2回) 情報通信技術について</p> <p>(石賀 裕明/1回) 環境情報と科学について</p> <p>(並河 徹/1回) 生活習慣病の集団遺伝学について</p> <p>(津本 周作/1回) データマイニングの基礎について</p> <p>(長井 篤/1回) 臨床検査情報学について</p>	オムニバス方式
心理学特論 I	<p>認知科学の立場から、人間の知覚、社会的認知、認知発達に関する心理学の最新のトピックについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(④村瀬俊樹/2回) 言語発達、認知発達、言語と認知の関係について、最新の知見を紹介し、認知発達研究の考え方と方法の基盤を養う。</p> <p>(50蘭 悠久/6回) 視覚・聴覚・時間知覚・感性・注意・情動・意思決定・記憶などの知覚・認知心理学についての最新のトピックについて学ぶ。</p> <p>(62川上直秋/6回) 人間の社会的情報処理過程における無意識と意識との関係について、最新の知見を紹介し、社会的認知の考え方と方法の理解を深める。</p>	オムニバス方式
心理学特論 II	<p>発達科学・学習科学の立場から、人間の発達・学習にまつわる諸現象、発達・学習に関連する諸要因について、心理学の最新の知見に基づいて講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(④村瀬俊樹/2回) 文化における発達をテーマとして、人間の発達における文化的諸要因、および文化では説明できない生得的な要因について、最新の知見に基づき講義し、行動科学的な観点から、人間の発達に関する諸要因を考える視点を養う。</p> <p>(53源 健宏/6回) 人間の知性的行動が、複雑な学習メカニズムを基盤としていることを、高度な学習心理学の理論や神経・生理心理学の最先端の知見を踏まえながら解説し、理解度を確認することで、人間の学習に関する諸要因を考察する姿勢を養う。</p> <p>(60佐藤結美/6回) 人間のコミュニケーションや発達に影響を与える環境要因についての最新知見を学び、理論と現実社会の接点から、人間がよりよく生きる社会の構築に心理学的知見を応用する力を身につける。</p>	オムニバス方式
健康科学特別演習 IA	<p>この授業では、身体活動科学、栄養学、衣服学、病理学、公衆衛生学など健康科学ならびに周辺領域に関する諸問題やその対策について、インターネット、図書、学術サイトなどを活用して最新の学術情報を入手して基盤となる考え方を学び、これまでの研究成果を把握し、未解決の問題を明らかにする力を養う。</p>	

健康科学特別演習IB	具体的な課題を設定して研究を進めながら、健康科学分野の研究の基礎となる知識や手法を獲得する。具体的には、研究に必要な機器や装置の操作や測定原理、分析方法、データの収集・解析方法など、実験・調査などの研究手法を学ぶ。	
健康科学特別演習IIA	修士課程1年目で得た知識および分析・測定スキルを土台として、研究課題、研究計画、研究方法について検討し、実際に健康科学分野の調査・実験等の研究計画を立て実施する力を身につける。周辺の研究領域も視野に入れて、高度な研究を計画し、実施する能力を養う。	
健康科学特別演習IIB	これまで修得した知識とスキルを活用し、自ら研究を実施する。得られたデータについて分析・解析し、ゼミ発表や専門分野単位での議論を通して、研究成果を公表する力を身につける。	
精神保健学特別演習IA	精神保健の基礎知識、疫学を理解し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健学の基礎および精神保健対策の科学的根拠を学ぶ。	
精神保健学特別演習IB	個人の行動特性と精神保健に関する問題を考え、精神の健康を維持するために必要な保健行動や社会資源を考える。対象との援助関係を成立させるために必要なプロセスを理解する。	
精神保健学特別演習IIA	精神保健に関する諸問題のリスクや介入等について、課題を明らかにし、その研究方法を検討する。科学的根拠に関連する国内外の学術文献に対する考察を行う。	
精神保健学特別演習IIB	メンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を活用し、自ら研究を実施する。得られたデータについて分析・解析し、ゼミ発表や専門分野単位での議論を通して、研究成果を公表する力を身につける。	
心理学特別演習IA	実証的な心理学の各分野について、最新の研究論文を講読して基礎となる考え方を学び、これまでの研究成果を把握し、未解決の問題を明らかにする力を養う。各受講生の関心に基づいて、受講生が研究論文を紹介し、現在の到達点と今後の展開の可能性を述べ、教員や他の受講生とディスカッションをするという形式で行う。自分の関心に合った研究論文を自分で探し、それを読みこなし、プレゼンを行うことが求められる。	
心理学特別演習IB	実証的な心理学の各分野について、実際の研究の補助を行いながら、実験プログラムの作成、コンピュータによる刺激制御、脳波計などを用いた生理学的指標の計測手法、アイトラッカーによる視線計測、乳幼児を対象としたデータ収集法、質問紙の作成法など、研究に必要な機器の操作・データ収集の方法など、実験・調査などの研究方法を学ぶ。	

	心理学特別演習ⅡA	<p>実証的な心理学の各分野について、自ら研究計画を立て、それを実施する力を身につける。これまでの研究成果を踏まえ、周辺の研究領域も視野に入れて、オリジナルで高度な研究を計画し、研究の実施に必要な技術や能力を身につけ、実際に研究を遂行していく能力を養う。</p>	
	心理学特別演習ⅡB	<p>実証的な心理学の各分野について、自ら研究を実施し、得られたデータを分析し、成果を公表する力を身につける。それぞれの研究に応じて適切な分析方法を考え、それを実行し、得られた分析結果を実験心理学的観点から考察し、その学術的価値を認識できるようにする。さらに、研究の成果を他者に対して明確に説明・発表できるようにする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学研究科社会創成専攻/大学院共通科目)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	研究力とキャリアデザイン	将来、研究、教育、医療および産業界での活躍が期待される島根大学の大学院生を対象とし、研究力とキャリアデザインの関係を理解し、自分自身の社会での役割を考えることのできる場を提供する。講義とワークショップを組み合わせ実施する。キャリアをデザインすることへの理解を深めるとともに、どのような場面においても対応できるようなスキル・考え方を身につける。	
	研究と倫理	国内外の諸学問分野において、研究活動におけるデータ捏造や剽窃、研究倫理違反等の不正行為が毎年のように起こっているという現実があります。この授業では、今後、大学院生として研究活動をおこなうに際して、科学的視野とともに研究倫理を身に付けることを目的としています。近代的学問分野の成立とその問題を整理しながら、知的財産権や被験者保護、利益相反、研究ノートとデータ管理等、研究活動に関連して予め知っておくべき事項について、講義や演習によって学習します。	
	学際プレゼンテーション入門	プレゼンテーションの基本的な構成要素とその方法を理解するとともに、異分野・一般の人に対してどうしたら解り易く研究の魅力的に伝えることができるかを考え、実践する。本授業を履修することで汎用性の高いコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。 (1) プレゼンテーションの構成要素を理解し、プレゼンテーションとは何かを説明できる。(知識) (2) プレゼンテーションの論理構築・データ整理・ストーリーの設計・ビジュアル作成の方法について説明ができる(知識) (3) プレゼンテーションを実施するスキルを身につけることができる。(技能) (4) 身につけたスキルを実践しようとする事ができる。(態度)	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学研究科臨床心理学専攻/研究科共通科目・社会実践科目)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目	人間社会科学特論	<p>一人一人が心身ともに健康でその人らしく生きることができ、多様な人間がその多様性を尊重されて共生する社会を創成するための基盤として、人間社会科学研究科における学問分野全体を学際的に学ぶ。社会の中の人間、人間の活動で構成される社会を理解するために、人間に焦点をあてたアプローチ、社会に焦点をあてたアプローチ双方の強みと相補的な関係に気付けるようにする。また、多数の事例に共通する法則を見出す量的分析と個々の事例の独自性を踏まえて多くの側面を総合的にとらえる質的分析双方の強みと相補的關係も理解できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (②石原宏/3回) ガイダンス、人間の心を質的に分析する、まとめ。(30浅田健太郎/3回) ガイダンス、言語の観点から人間と社会を量的に分析する、まとめ。(65黒澤修一郎/3回) ガイダンス、法の観点から社会を質的に分析する、まとめ。(26関耕平/4回) ガイダンス、経済・財政の観点から社会を質的に分析する、経済・財政の観点から社会を量的に分析する、まとめ。(78北村直彰/3回) ガイダンス、哲学の観点から人間を質的に分析する、まとめ。(60山崎泰孝/3回) ガイダンス、文学の観点から人間を質的に分析する、まとめ。(8吹野卓/3回) ガイダンス、社会学の観点から社会を量的に分析する、まとめ。(25佐々木愛/3回) ガイダンス、歴史の観点から人間と社会を質的に分析する、まとめ。(10西崎緑・79佐藤桃子/3回) ガイダンス、福祉の観点から社会を質的に分析する、まとめ。(12村瀬俊樹/3回) ガイダンス、人間の心を量的に分析する、まとめ。(31鶴永陽子/3回) ガイダンス、食の観点から人間の健康を量的に分析する、まとめ。</p>	オムニバス方式
	公共政策実践演習	<p>本演習では、地域の主要なアクターの協力を得ながら(あるいは実際に「連携」しながら)、公共政策にかかる「実践」について学ぶ(もしくは自ら「実践」する)。到達目標は以下の三点。第一に、社会問題の発見・解決に関心を持ち、自分なりに実践せんとすること、第二に、公共政策や市民社会等を論じるにあたって必要な知識を身に付けること、第三に、公共に関わる課題や解決策につき、実証的かつ実践的に分析できること。進め方としては、基礎的な知識を参加者間で共有したうえで、各テーマに応じたアクティブラーニング手法を用いる。例えば、「まちドック」ワークショップ、NPO調査での関係者ヒアリング、模擬事業仕分けなるロールプレイング、公共政策プレゼンとディスカッションなど。なお、ときに、地域の公共政策アクターに本演習に参画してもらうこともある。</p>	
	経済政策実践演習	<p>人口減少が本格化するなか、まちづくりの面では、これまで拡散してきたまちのコンパクト化が一層求められるようになっている。人口増加時代に広げたまちの全域を維持するには、インフラや公共施設の維持更新費の負担が重くなりすぎている。本講義では、今後の縮小まちづくりの中で身近な公共施設の削減を手掛かりに、持続可能なまちづくりに求められる公的資産の管理方法について検討する。</p>	
	福祉経済実践演習	<p>バブル経済崩壊後、雇用・失業・不安定雇用などの労働問題が深刻化するとともに、若者の雇用形態の多様化が進んだ。ここでは、「働き方の多様化」「柔軟な雇用」という評価を受けて拡大してきた若者の非正規雇用にも焦点を当てながら、その上に成り立つ社会保障システムについて講義する。若者の貧困について文献の輪読を行い、それをもとに学生自らが資料収集、統計や施策の分析などを行い自分の意見発表を行うことができるよう指導する。</p>	

社会実践 科目	中国語実践演習 I	『人民日報』など中国語新聞の閲読、CCTVニュースの視聴を通じて生の中国語に触れ、あわせて現代中国の諸事情について理解を深めます。さらに並行して、ビジネスレター・電子メールなど実用的な文章作成の練習をします。最終的には、東アジア、とりわけ中国語圏の人々との文化・学術交流に従事することができる能力の養成を目指します。	
	中国語実践演習 II	『人民文学』誌上の最新作品を読むことによってより高度な中国語読解力を身に付け、さらに近年好評を博した映画やドラマを見ることを通じて聞き取り能力及び発話能力を向上させます。こうした文芸作品の鑑賞を通じて中国の現代文化に関する知見を深めます。また、中国語を用いたパワーポイントファイル作成および発表を通じてプレゼンテーション能力の獲得を目指します。最終的には東アジア、とりわけ中国語圏の人々との文化・学術交流に従事することができる能力の養成を目指します。	
	東洋史学実践演習 I	中国南方（浙江/福建）現地に赴いて史跡や景観のフィールド調査を行い、歴史学としての史跡調査方法を習得し、中国南方の社会と文化を理解することを目的とする。調査する史跡は古墓・祠堂・記念碑等である。また現地調査前には、調査対象に関する文献の輪読を行って現地への理解を深め、帰国後は調査の成果を整理してまとめ、報告書を執筆、公表することを通し、アカデミックリーディング/ライティングの実践的な力も養成する。	
	東洋史学実践演習 II	中国北方（洛陽/西安）現地に赴いて、史跡や景観のフィールド調査を行い、歴史学としての史跡調査方法を習得し、中国北方の社会と文化を理解することを目的とする。調査する史跡は古墓・祠堂・記念碑等である。また現地調査前には、調査対象に関する文献の輪読を行って現地への理解を深め、帰国後は調査の成果を整理してまとめ、報告書を執筆、公表することを通し、アカデミックリーディング/ライティングの実践的な力も養成する。	
	異文化交流 I	本学と交流協定を締結する山東大学法学院の協力のもと、受講生を中国山東省に派遣し、中国の法制度の実際の運用およびその背景にある文化に接する。日本とは社会構造が異なる中国法について学ぶことで、社会構造と法とのつながりを理解できる。日本には中国人が数多く暮らしており、彼らと共生するためにはお互いの文化について社会構造や法に対する意識の面にまで踏み込んで理解することが重要である。また、中国法と比較することによって日本法の特徴や問題点を把握することも、日本の法制度のあり方を探ることに資する。 （オムニバス方式・一部共同/全14回）（77大庭沙織/3回）イントロを担当し、中国法総論について講義する。（73高橋正太郎/3回）中国の裁判制度や比較法等について講義する。（62嘉村雄司/3回）中国の経済活動と法について講義しディスカッションを担当する。（担当教員全員/5回）フィールドワークを担当する。	オムニバス方式
	異文化交流 II	中国人民大学・寧夏大学の在学学生を相手にした学術討論会および現地調査を合同で実施する。こうした学術討論会と現地調査に先立って、日本での事前の学習および地域調査を行い、日中の農山村の実態・政策について国際比較の観点から分析する。	
	異文化交流 III	本学と交流協定を締結するフロリダ大学の協力のもと、米国フロリダに数週間滞在し現地でフィールドワークを行なうことを通じて、英語によるコミュニケーション力や表現力、および課題解決策を考えるための調査を自ら企画・実施する力を養う。国境を越え、多様な人びとと相互作用しながら自らの問題意識に基づいた調査活動を進めていくなかで、グローバルに活躍する社会人にとって必要な、協働する力と応用実践力を高めることをめざす。	

地域資料実践演習 I	<p>地域には未発掘未整理の文学関係資料が多く存在する。これらを調査し解読した上で、その意義をわかりやすく発信することは、学術による社会貢献の重要課題の一つである。このことに必要な知識技能を習得することを目標に、近世の日本文学資料に即して、古典籍の書誌調査、解読法等に関する実習を行う。</p> <p>最初に、地域に伝存する古典籍資料の実態、調査の必要性について、出雲・石見地方の例に即して説明する。これに基づき、版本・写本の実物に即して、書誌的調査の実習を行う。また地域的特性の顕著に認められる和歌資料、散文（読本・実録）資料について調査を行う。資料の内容を理解するために、解読法を習得する実習を行うが、この時、紙焼き資料とともにデジタル資料も活用する。以上を踏まえ、調査研究の成果を社会との連携のもとで広く公開するため、目録作成、デジタルアーカイブ、展示の実例に学びながら、その的確な方法について探究する。</p>	
地域資料実践演習 II	<p>山陰における漢文学関係資料を、調査、解読し、その意義をわかりやすく発信する。漢詩や草書体の基本を学んだ上で、書誌調査、解読法等に関する実習を行う。失われつつある、漢文学資料を調査公開することが地域社会さらには日本社会にいかにも必要であるかを考察し、デジタルアーカイブ、展示の実例を紹介した上で、インターネットを用いた公開の仕方を試行錯誤しながら学ぶ。</p>	
日本史学実践演習	<p>本演習では、山陰地域に残された歴史資料を用いた実践的な活用手法を学ぶ。とりわけ中山間地において大学・行政・住民の三者連携を重視した簡易展示作成を通して、専門家としての基本的な考え方や能力を養うことを目的としている。具体的には、「近代国家の政治空間」、「近代的社会基盤の形成」、「近代の災害と戦争」、「伯耆地域の生活慣習」などのテーマに合わせて史料を解読、解釈して歴史的背景の説明文を作成する。それをもとに展示キャプションを作り、全体の展示ストーリーやデザインを含めてパネルを構成する手法を実践的に学ぶ。最後に、各受講学生は中山間地における歴史資料展示の今日的意義をテーマとしたレポートを課題としてまとめ、演習を通して体験的に学んだことの定着を図る。</p>	
都市問題実践演習	<p>本講義は都市地理学の視点を通して、都市という場が抱えている様々な課題を把握し、その解決策を議論することを目的とする。都市地理学の基礎的な文献を課題図書とし、都市における人口減少、高齢化、中心市街地の衰退といった問題に関する地理学の立場からの分析事例や課題解決方法などを理解する。授業の後半では、前半で習得した見方や考え方をベースに受講者の興味・関心に基づいた学術論文を複数選定し、受講者による論文内容の発表と、発表内容に対するディスカッションを中心に行い、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を育成することを目指す。</p>	
英語実践演習 I	<p>現代社会に存在する課題には国を超えて共通するものがある。この授業では、同じ課題に対する、様々な文化背景の人々の見解を通して、多角的な視点を学び、それぞれの文化背景をより深く理解することを目指す。また、英語が第一言語である人、第一言語でない人を含め、様々な文化背景を持つ人々と諸課題に関して議論ができるようになることを目指す。高度な議論をするためには、自分の専門以外の知識も必要になるが、この授業では、様々な課題に対する情報を英文資料から読み解き、資料を基に事前に考えた疑問点を授業の場で議論することにより、理解を深める。</p>	

英語実践演習 II	<p>現代社会に存在する課題には国を超えて共通するものがある。この授業では、同じ課題に対する、様々な文化背景の人々の見解を通して、多角的な視点を学び、それぞれの文化背景をより深く理解することを目指す。また、英語が第一言語である人、第一言語でない人を含め、様々な文化背景を持つ人々と諸課題に関して議論ができるようになることを目指す。高度な議論をするためには、自分の専門以外の知識も必要になるが、この授業では、様々な課題に対する情報を英文資料から読み解き、資料を基に事前に考えた疑問点を授業の場で議論することにより、理解を深る。</p>	
フランス語実践演習 I	<p>フランス語は多くの国際機関、産業界、文芸界で幅広く使われており、その習得によって卒業後の進路の選択肢が広がる言語である。この授業では、フランスを中心に世界に広がるフランス語圏の文化や社会に関するエッセー、ニュースを原文（フランス語）で読み、フランス語の中級以上の知識（文法・語彙・表現）を学ぶとともに、インタビュー、映画などの映像（音声）資料を使った実践的な会話練習からディスカッションの方法を学び、総合的かつ実践的な外国語運用能力を身につける。さらに、アジア言語文化圏、英米言語文化圏との比較を通して、異なる言語・文化を理解できる豊かな感性を養い、多文化共生社会への対応力を身につける。</p>	
フランス語実践演習 II	<p>毎回、シャドーイング（聞き取る力と話す力のトレーニング）と文章読解（読む力と作文のトレーニング）の二部で構成するフランス語の演習授業。フランス語運用能力の向上を目指すことはもちろん、時事フランス語の文章をテキストとして用いることにより、コミュニケーション力の素地となる異文化理解力も養う。受講生のフランス語の理解度に応じて、適宜新聞や雑誌等の記事も紹介し、当該資料の講読を通して、現代社会の様々な課題に主体的に向き合う姿勢を育てる。</p>	
ドイツ語実践演習 I	<p>ドイツ語学習者向けのサイト（Deutsche Welle）から教材となるテキストを選び、リスニングと書き取りを中心に授業を進め、実践的コミュニケーションの前提となるリスニング能力の向上をめざす。また、この教材のなかではドイツ語独自の表現が多く見出されるので、そのような独自の言い回しの背景にある文化的特徴や、日本語との文化的差異についても授業で考察することで、多文化共生社会に必要な異文化理解の力を高めることを目標とする。</p>	
ドイツ語実践演習 II	<p>実践的な聞き取りの能力を高めるには、多くのインプットが必要となるので、前期に引き続き、後期においてもドイツ語学習者向けのサイト（Deutsche Welle）の教材をもちいて、リスニングと書き取りによって授業を進めてゆく。また後期でも語学的なトレーニングだけではなく、言葉から見えてくる文化の違いなどにも注意を向け、異なる文化への関心を高めることで、様々な文化が共存する社会において求められる異文化理解力の向上をめざす。</p>	

社会実践 科目	中国語実践演習 I	『人民日報』など中国語新聞の閲読，CCTVニュースの視聴を通じて生の中国語に触れ，あわせて現代中国の諸事情について理解を深めます。さらに並行して，ビジネスレター・電子メールなど実用的な文章作成の練習をします。最終的には，東アジア，とりわけ中国語圏の人々との文化・学術交流に従事することができる能力の養成を目指します。	
	中国語実践演習 II	『人民文学』誌上の最新作品を読むことによってより高度な中国語読解力を身に付け，さらに近年好評を博した映画やドラマを見ることを通じて聞き取り能力及び発話能力を向上させます。こうした文芸作品の鑑賞を通じて中国の現代文化に関する知見を深めます。また，中国語を用いたパワーポイントファイル作成および発表を通じてプレゼンテーション能力の獲得を目指します。最終的には東アジア，とりわけ中国語圏の人々との文化・学術交流に従事することができる能力の養成を目指します。	
	東洋史学実践演習 I	中国南方（浙江/福建）現地に赴いて史跡や景観のフィールド調査を行い，歴史学としての史跡調査方法を習得し，中国南方の社会と文化を理解することを目的とする。調査する史跡は古墓・祠堂・記念碑等である。また現地調査前には，調査対象に関する文献の輪読を行って現地への理解を深め，帰国後は調査の成果を整理してまとめ，報告書を執筆，公表することを通し，アカデミックリーディング/ライティングの実践的な力も養成する。	
	東洋史学実践演習 II	中国北方（洛陽/西安）現地に赴いて，史跡や景観のフィールド調査を行い，歴史学としての史跡調査方法を習得し，中国北方の社会と文化を理解することを目的とする。調査する史跡は古墓・祠堂・記念碑等である。また現地調査前には，調査対象に関する文献の輪読を行って現地への理解を深め，帰国後は調査の成果を整理してまとめ，報告書を執筆，公表することを通し，アカデミックリーディング/ライティングの実践的な力も養成する。	
	異文化交流 I	本学と交流協定を締結する山東大学法学院の協力のもと，受講生を中国山東省に派遣し，中国の法制度の実際の運用およびその背景にある文化に接する。日本とは社会構造が異なる中国法について学ぶことで，社会構造と法とのつながりを理解できる。日本には中国人が数多く暮らしており，彼らと共生するためにはお互いの文化について社会構造や法に対する意識の面にまで踏み込んで理解することが重要である。また，中国法と比較することによって日本法の特徴や問題点を把握することも，日本の法制度のあり方を探ることに資する。 （オムニバス方式・一部共同/全14回）（㊸大庭沙織/3回）イントロを担当し，中国法総論について講義する。（㊹高橋正太郎/3回）中国の裁判制度や比較法等について講義する。（㊺嘉村雄司/3回）中国の経済活動と法について講義しディスカッションを担当する。（担当教員全員/5回）フィールドワークを担当する。	オムニバス方式
	異文化交流 II	中国人民大学・寧夏大学の在学学生を相手にした学術討論会および現地調査を合同で実施する。こうした学術討論会と現地調査に先立って，日本での事前の学習および地域調査を行い，日中の農山村の実態・政策について国際比較の観点から分析する。	
	異文化交流 III	本学と交流協定を締結するフロリダ大学の協力のもと，米国フロリダに数週間滞在し現地でフィールドワークを行なうことを通して，英語によるコミュニケーション力や表現力，および課題解決策を考えるための調査を自ら企画・実施する力を養う。国境を越え，多様な人びとと相互作用しながら自らの問題意識に基づいた調査活動を進めていくなかで，グローバルに活躍する社会人にとって必要な，協働する力と応用実践力を高めることをめざす。	

異文化交流IV	<p>本学と交流協定を締結するトリーア大学の協力のもと、受講生をドイツ・トリーアに派遣し、実践的言語能力を高めるとともに、異文化に接して多角的・批判的な視点から考察する力を養う。そのために、ドイツと日本との間の文化的な違いの理解を深める事前学習を実施し、また研修後には異文化比較という観点から報告の場を設ける。</p>	
対人支援実践演習	<p>主に、対人支援に関わる現場で働く社会人学生を対象に、実際の現場で得られた経験から知識を発展させるケーススタディを行う授業である。対人支援サービスの現場においては、複数の領域をにまたがった課題が多く存在する。さまざまな立場の専門職と意見を交わし、実践と研究における発展的な理解を得る。</p>	
臨床心理地域援助実践演習 I (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	<p>産業労働分野におけるメンタルヘルスの基礎的な知識と介入実践力を養うことを目的とする。労働法規、セルフケア、ラインケアの基礎を学んだ後、ストレスチェックや復職判定などに必要な心理アセスメントを事例を通して実践的に学ぶ。心理アセスメントについては、質問紙法、描画法、ロールシャッハテストを取り上げて、事例検討を行う。</p>	
臨床心理地域援助実践演習 II	<p>臨床心理学専攻のみならず、社会創生専攻のさまざまな学問分野の受講生とともに、それぞれの専門分野から見た山陰地域の課題を共有しながら、山陰地域の臨床心理地域援助の実践について理解を深めることを目的とした演習を行う。 (オムニバス方式/全14回) (6長谷川 千紘/2回) 教育分野、とりわけ大学生の学生相談における臨床心理地域援助の課題と実践について (②石原 宏/2回) 司法・犯罪分野、とりわけ非行少年に対する臨床心理地域援助の課題と実践について (5野口 寿一/2回) 産業・労働分野における臨床心理地域援助の課題と実践について (④高野 由美子/1回) 保健医療分野における臨床心理地域援助の課題と実践について (③田中 美樹/1回) 教育分野、とりわけ公立教育センターにおける臨床心理地域援助の課題と実践について (⑤三鴨 朋子/1回) 教育分野、とりわけ高等学校・専門学校における臨床心理地域援助の課題と実践について (①高見 友理/1回) 司法・犯罪分野、とりわけ被害者支援の課題と実践について (2高橋 悟/2回) 教育分野、とりわけ専門学校における臨床心理地域援助の課題と実践について、および福祉分野、とりわけ児童養護施設における臨床心理地域援助の課題と実践について (1岩宮 恵子/1回) 教育分野、とりわけ公立学校における臨床心理地域援助の課題と実践について (西嶋 雅樹/1回) 教育分野、とりわけ小・中学校における臨床心理地域援助の課題と実践について</p>	オムニバス方式
社会統計学実践演習	<p>社会的なデータを分析するために用いる多変量解析法について、その仕組みを理解し、実際に使いこなせるよう学んでいく。具体的には重回帰分析・主成分分析・因子分析・分散分析・数量化I類、数量化II類、数量化III類、多次元尺度法などである。</p>	

言語データ分析実践演習	<p>ことばを計量的なデータとして扱い、その特徴を分析する方法について、理論と実践の両面から学習する。なお、授業はコンピュータに習熟していない文系の学生を対象とし、ことばをデータとして扱う際の基本的な考え方や、データ解釈の方法を身につけることを目標とする。言語事象を一般的な規則として把握するためには、多くの言語データを処理し、分析する必要がある。この授業では、言語データの収集の仕方、コーパスの利用、テキストファイルの処理、エクセルを使ったデータの整理・分析などを通して、言語を計量的に扱い、特徴を抽出する過程を学ぶ。</p>	
人間科学データサイエンス実践演習	<p>データの取得方法、取り扱い方、分析方法（統計的手法）について理解することを第一の目的とし、さらに実験手法やデータの種類に応じた適切なデータハンドリング・統計解析ができることまで目指す。そのために、取得したデータの入力、整理、変換、可視化、モデル化のそれぞれについて詳しく学び、講義だけでなくコンピューター上で実際にデータに触れながら体験的に学んでいくこととする。</p>	
人間社会科学データサイエンス実践演習	<p>情報科学の発展とともにクラウド上に大量のデータが集積されるようになり、これらのデータをAIで機械学習させることで、新しい価値をマイニング出来るようになった。第三次AIブームの火付け役となったディープラーニングも機械学習のひとつである。ビッグデータの解析は、経営・医療系の分野だけではなくあらゆる分野で活用されている。この授業では、機械学習の重要な考え方のひとつであるベイズ統計を中心に学ぶことで、客観的なデータが集まらない場合の統計的手法を学ぶことを目的とする。また、この考えた方が「学習」や実データの取り扱いにどのように相性がよいかを知る。さらに、実際に社会実装されている事例を通して、これらの技術がどのように活用できるのかをユーザー側の視点で理解することも目的とする。</p>	
インターンシップ	<p>第1回において、この授業の趣旨目的について確認した後、計画の策定を開始する。この授業は単なる就業体験ではなく、研究と社会実践と関連づけることを目的としていることから、この観点に沿って、授業担当教員の指導のもと、自身の研究テーマと実地研修における課題の関連性について探究する。活動計画書を作成し、事前指導を経て、実地研修を行う（1.5日分相当の研修を想定）。事後指導を経て、この授業での全活動を総括し、自身において、研究と社会実践とをどのように関連づけることができたかを確認する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学研究所臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	臨床心理学課題研究 I	<p>臨床心理学の面接，査定，地域援助の実践を出発点として，質的・量的な手法を用いて行う研究の計画立案，データ収集，および分析，考察についての指導を行う。</p> <p>(1岩宮 恵子) 専門領域：臨床心理学 研究テーマ：臨床心理事例研究法を中心に，物語論の研究，イメージを使った心理療法の研究について指導を行う。</p> <p>(2高橋 悟) 専門領域：臨床心理学 研究テーマの概要：臨床心理事例研究法を中心に，自閉スペクトラム症へのプレイセラピー等心理療法的アプローチに関する研究，学生相談等の青年への心理支援に関する研究について指導を行う。</p> <p>(①高見 友理) 専門領域：臨床心理学 研究テーマの概要：臨床心理事例研究法を中心に，夢やイメージ表現における分析心理学的研究，スクールカウンセリングに関する研究指導を行う。</p> <p>(②石原 宏) 専門領域：臨床心理学 研究テーマの概要：箱庭療法をはじめとするイメージ技法の質的・量的基礎研究，および臨床心理実践に基づく臨床心理事例研究の指導を行う。</p> <p>(5野口 寿一) 専門領域：臨床心理学 研究テーマ：投影法を用いた量的・質的研究，および臨床心理実践に基づく臨床心理事例研究の指導を行う。</p> <p>(6長谷川 千紜) 専門領域：臨床心理学 研究テーマ：イメージ技法の質的・量的基礎研究，心身症に関する質的・量的基礎研究，および臨床心理実践に基づく臨床心理事例研究の指導を行う。</p> <p>(③田中 美樹) 専門領域：臨床心理学 研究テーマ：臨床心理事例研究法を中心に，イメージを使った心理療法の研究，教育相談，子育て支援に関する研究について指導を行う。</p> <p>(④高野 由美子) 専門領域：臨床心理学 研究テーマ：臨床心理事例研究を中心に，病院臨床における心理アセスメント，心理療法に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑤三嶋 朋子) 専門領域：臨床心理学 研究テーマ：臨床心理事例研究法を中心にイメージ表現を使った心理療法の研究，スクールカウンセリングに関する研究指導を行う。</p>	
	臨床心理学課題研究 II	<p>臨床心理学の面接，査定，地域援助の実践を出発点として，質的・量的な手法を用いて行う研究の計画立案，データ収集，および分析，考察についての指導を行う。</p> <p>(1岩宮 恵子) 専門領域：臨床心理学 研究テーマ：臨床心理事例研究法を中心に，物語論の研究，イメージを使った心理療法の研究について指導を行う。</p> <p>(2高橋 悟) 専門領域：臨床心理学 研究テーマの概要：臨床心理事例研究法を中心に，自閉スペクトラム症へのプレイセラピー等心理療法的アプローチに関する研究，学生相談等の青年への心理支援に関する研究について指導を行う。</p> <p>(①高見 友理) 専門領域：臨床心理学 研究テーマの概要：臨床心理事例研究法を中心に，夢やイメージ表現における分析心理学的研究，スクールカウンセリングに関する研究指導を行う。</p> <p>(②石原 宏) 専門領域：臨床心理学 研究テーマの概要：箱庭療法をはじめとするイメージ技法の質的・量的基礎研究，および臨床心理実践に基づく臨床心理事例研究の指導を行う。</p> <p>(5野口 寿一) 専門領域：臨床心理学 研究テーマ：投影法を用いた量的・質的研究，および臨床心理実践に基づく臨床心理事例研究の指導を行う。</p> <p>(6長谷川 千紜) 専門領域：臨床心理学 研究テーマ：イメージ技法の質的・量的基礎研究，心身症に関する質的・量的基礎研究，および臨床心理実践に基づく臨床心理事例研究の指導を行う。</p> <p>(③田中 美樹) 専門領域：臨床心理学 研究テーマ：臨床心理事例研究法を中心に，イメージを使った心理療法の研究，教育相談，子育て支援に関する研究について指導を行う。</p> <p>(④高野 由美子) 専門領域：臨床心理学 研究テーマ：臨床心理事例研究を中心に，病院臨床における心理アセスメント，心理療法に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑤三嶋 朋子) 専門領域：臨床心理学 研究テーマ：臨床心理事例研究法を中心にイメージ表現を使った心理療法の研究，スクールカウンセリングに関する研究指導を行う。</p>	

専攻基盤 科目	臨床心理学特論 I	臨床心理面接、臨床心理査定、および臨床心理学的地域援助を行うにあたって根幹となる、対象を臨床心理学的に理解するための視点を養う。さらに、臨床心理面接を実際に行うための具体的な事柄を取り上げ（初回面接、信頼関係、心理的変容、終結と引き継ぎ、プレイセラピーなど）、講義や演習を通じて学ぶ。	
臨床心理 学の理論 と実践科 目群	臨床心理学特論 II	臨床心理学についてのさまざまな方法論や理論について、自分の実践する臨床の論理的バックボーンを築くための基礎となる知識を得ることを目標とする。臨床心理学の理論について概説するとともに、その臨床的な適応の意義と課題をディスカッションしたのち、担当者の講義も加えていく。	
	臨床心理面接特論 I（心理支援に関する理論と実践）	さまざまな臨床現場で心理支援を行うときに、どのような見立てが必要になってくるのか、面接理論とともに実際の事例を通して具体的に学び、理解することを目的とする。学校、医療現場など、それぞれの現場での面接の在り方についてディスカッションしたのち、担当者の講義も加えていく。心理臨床家の行う面接の専門性、さまざまな技法によるアプローチの違い、各面接技法の効用や限界などについて、具体的な臨床像を踏まえて検討する。	
	臨床心理面接特論 II	臨床心理面接における見立てや対応及びそれによるクライアントの変化等、心理療法のプロセスを、実際の事例を通して学び、理解することを目的とする。担当者および受講者の実際の担当事例をもとにしたディスカッションと、担当者の講義により進めていく。	
	臨床心理査定演習 I（心理的アセスメントに関する理論と実践）	臨床心理査定の基礎的な考え方や、心理検査の実施、解釈、報告に必要な知識と技能を習得することを目指す。具体的にはY-G性格検査、MAS、MPI等の質問紙法と、SCTなどの投射法、および知能検査としてWAISIVおよびWISCIVを取り上げる。また、被検査者体験、検査者体験を通じて実践的に学ぶ。	
	臨床心理査定演習 II	種々の心理アセスメントを実施し、適切に解釈するための技術と視点を身につけることを目的とする。質問紙法、P-Fスタディ、描画法、その他の投影法を取り上げる。また、被検査者体験、検査者体験を通じて実践的に学ぶ。	
	臨床心理基礎実習 I	この実習は、初回面接を実践するために必要な基礎的な知識（関係の構築・面接構造の説明・見立て）について学ぶ。実際の場面を想定し、相談の受付から受理面接を経て、継続相談へといたる心理療法の基本的なプロセスをロールプレイしなどを行いながら学ぶ。また、芸術療法等を自ら体験的に学び、クライアントがどのような体験をするのかについても学ぶ。 （一部共同/全14回） ①高見友理/12回 心理臨床に関わる基本的事柄について、相談受理からインテーク面接、心理面接に至る実際の相談の流れを体験的に学ぶ。また、箱庭やフィンガーペインティングなどの実習を通じて、ノンバーバルな自己表現を体験する。 ①高見友理・西嶋雅樹/2回（共同） 箱庭制作実習における作品を元にグループ討議し、箱庭作品を味わい・理解するための視点を養う。	共同（一部）
	臨床心理基礎実習 II	臨床心理基礎実習 I で学んだ内容をもとに、学内実習施設で実際の相談ケースを担当する。担当した事例について、担当教員に個人スーパーヴィジョンを受け、クライアントの見立てや担当者の対応、セラピーのプロセスについて理解を深める。さらに、事例の経過を事例検討会で発表し、教員からのコメントを受けて、事例理解を深める。	
	臨床心理実習 I（心理実践実習）	臨床心理基礎実習 II に引き続き、学内実習施設で相談ケースを担当し、担当教員に個人スーパーヴィジョンを受け、事例検討会に出席し発表を行う。さらに、高等学校における実習と、医療機関における実習にも参加する。 1岩宮 恵子、2高橋 悟、②石原 宏、5野口 寿一、6長谷川 千紘、③田中 美樹、④高野 由美子、⑤三鴨 朋子	

専攻
専門科目

臨床心理実習Ⅱ	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）に引き続き、学内実習施設相談ケースを担当し、担当教員に個人スーパービジョンを受け、事例検討会に出席する。事例のプロセスとともに、それぞれの事例の終結や引継ぎについても検討を行う。 ①高見 友理、5野口 寿一、6長谷川 千紘、④高野 由美子、⑤三嶋 朋子	
投影法特論	心理検査の中でも投影法であるロールシャッハテストの知識と実践的活用法について学び、心理査定の実行・解釈に関する技能を習得することを目的とする。解釈においては反応に関する各種の分類やその意味づけについて理解を深めた上で、量的分析・継起分析の実際について学ぶ。	
心理療法特論	臨床心理面接の事例検討を通じて、ユング派心理療法の視点からケースを個別的に理解する力を養う。特にクライエントの夢やイメージ、プレイからクライエントのあり方を見通す視点を磨く。講義に加えて、受講者の担当事例をもとに、グループ討議を行いながら進めていく。	
臨床心理学研究法特論	臨床心理学は実践に根ざした学問であり、研究と臨床心理実践は表裏一体である。また、臨床心理学が社会の要請にこたえ、社会的に認知される存在となっていくためにも、研究は必須である。このような前提のもと、臨床心理事例研究法、研究倫理など、重要なテーマを含む臨床心理学における研究法について講義を行う。	
心理統計法特論	心理臨床にかかわる調査の具体的な進め方、得られたデータの基本的な分析方法を学ぶ。臨床心理学と統計的推論、臨床心理学における調査、調査の構成、データ収集、データ処理の基本、多変量解析の基本について、必要な事項に関する解説を講義形式で行うと同時に、表計算ソフト（Excel）や統計ソフト（SPSS）を操作しながら、演習・実習を進める。	
発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	生涯にわたるこころの発達について臨床心理学の視点から探求し、福祉領域を中心とした心理臨床の現場で求められる実践的な知を身につけることを目指す。心身の発達に関する基本的知識・理論的背景を習得することに加えて、心理療法や物語を題材として事例検討を行うことで、こころの発達について、見立て、支援することのできる能力を養う。	
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	心理職が学校という場で活動する上では、児童生徒や教員、保護者の言動だけでなく、それらがどのように生じてくるかに関する理解が重要である。本授業では、学校という場をめぐる幾つかの学校臨床心理学関係の研究・文献を用いながら、心理職の学校という場での活動を支える専門的視点を養うことを目的とする。授業の進め方は、①担当教員による講義、②受講生による文献講読、③受講生によるグループ討議の3つで構成する。（この授業は他研究科開放科目に該当する。）	
家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	現代において多様化する家族や地域社会について臨床心理学の視点から探求し、心理臨床の現場に生かす実践的な知を習得する。まず、家族の問題に関する基本的知識・理論的背景を理解する。心理療法・物語を素材に事例検討を行い、家族という視点から事例を見立て、心理支援することのできる能力を養う。また、「個」と「家族」、「地域社会や集団・組織」の関係を見ることによって、心理臨床のなかで生じる様々な現象について理解を深め、その心理学的援助に関する理論と方法を習得する。	
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	この授業では、司法・犯罪分野における臨床心理士の実践、および同分野に関わる公認心理師の実践について学ぶことを目的として講義を行う。講義の中で提示する臨床事例をもとに、グループ討議を行う。	

臨床心理地域援助の理論と実践科目群	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	精神科領域の基礎知識や、症例・診断の基準など、保健医療分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。精神医学の歴史を概観し、精神医学的的症状論、精神科治療について学んだ上で、各種の精神疾患について理解を深める。さらに、産業精神保健や学校精神保健、精神保健に関わる法律や、精神保健に関わるシステム、病跡学自殺問題についても触れる。	
	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	各種の障害の中でも自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症等の発達障害を中心に、彼らのこころのあり方の特性や本質について考察を深めよう。彼らへの心理支援について、個別の事例をもとに検討を行う。これらの講義・演習を通して、福祉分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。	
	心の健康教育に関する理論と実践	心理教育やグループアプローチをはじめとして、心の健康増進のためのアプローチを実践的に学び、実践に必要なスキルや視点を身につける。特に学校におけるアプローチに重点を置き、児童生徒を想定した心の健康教育に関するプログラムや、その年代に特有の心の問題に関する心理教育について、実践例をもとに理解を深めていく。また、病院における予防的アプローチ、受容し難い身体疾患を持つ患者の心理教育、クライアントや患者の家族に対する心理教育の理論と実践についても学ぶ。心の健康増進に寄与するための場作りや介入、メンタルダウン予防に関する知識と介入について学ぶ。	
	臨床心理地域実践実習Ⅰ（心理実践実習）	地域実践の入門実習として、地域に開かれた臨床心理相談機関における受付業務に携わり、必要な知識と技能を身につけるとともに、相談センターの運営の実践について学ぶ。さらに、地域の小中学校の保健室でメンタルフレンド活動に参加し、児童生徒に対するかかわり方や視点など、心理臨床的な姿勢や態度の基礎を学ぶ。 1岩宮 恵子、2高橋 悟、①高見 友理、②石原 宏、5野口 寿一、6長谷川 千紘、③田中 美樹、④高野 由美子、⑤三嶋 朋子	
	臨床心理地域実践実習Ⅱ（心理実践実習）	臨床心理地域実践実習Ⅰ（心理実践実習）に引き続き、地域に開かれた臨床心理相談機関における受付業務に携わるとともに、地域の小中学校の保健室でメンタルフレンド活動に携わる。さらに、司法矯正領域における心理臨床の実践についても、地域の施設に向いて学ぶ。 1岩宮 恵子、2高橋 悟、①高見 友理、②石原 宏、5野口 寿一、6長谷川 千紘、③田中 美樹、④高野 由美子、⑤三嶋 朋子	
	臨床心理地域実践実習Ⅲ（心理実践実習）	臨床心理地域実践実習Ⅱ（心理実践実習）に引き続き、地域に開かれた臨床心理相談機関における受付業務に携わるとともに、地域の高等学校で生徒と個別に関わる実習を行うとともに、医療機関でも実習を行い、地域における心理臨床の実践について学ぶ。 1岩宮 恵子、2高橋 悟、①高見 友理、②石原 宏、5野口 寿一、6長谷川 千紘、③田中 美樹、④高野 由美子、⑤三嶋 朋子	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学部研究科臨床心理学専攻/大学院共通科目)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	研究力とキャリアデザイン	将来、研究、教育、医療および産業界での活躍が期待される島根大学の大学院生を対象とし、研究力とキャリアデザインの関係を理解し、自分自身の社会での役割を考えることのできる場を提供する。講義とワークショップを組み合わせ実施する。キャリアをデザインすることへの理解を深めるとともに、どのような場面においても対応できるようなスキル・考え方を身につける。	
	研究と倫理	国内外の諸学問分野において、研究活動におけるデータ捏造や剽窃、研究倫理違反等の不正行為が毎年のように起こってしまっているという現実があります。この授業では、今後、大学院生として研究活動をおこなうに際して、科学的視野とともに研究倫理を身に付けることを目的としています。近代的学問分野の成立とその問題を整理しながら、知的財産権や被験者保護、利益相反、研究ノートとデータ管理等、研究活動に関連して予め知っておくべき事項について、講義や演習によって学習します。	
	学際プレゼンテーション入門	プレゼンテーションの基本的な構成要素とその方法を理解するとともに、異分野・一般の人に対してどうしたら解り易く研究の魅力的に伝えることができるかを考え、実践する。本授業を履修することで汎用性の高いコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。 (1) プレゼンテーションの構成要素を理解し、プレゼンテーションとは何かを説明できる。(知識) (2) プレゼンテーションの論理構築・データ整理・ストーリーの設計・ビジュアル作成の方法について説明ができる(知識) (3) プレゼンテーションを実施するスキルを身につけることができる。(技能) (4) 身につけたスキルを実践しようとすることができる。(態度)	